

栃木県埋蔵文化財調査報告第 397 集

平出城跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道宇都宮向田線平出板戸工区に伴う発掘調査—

2020.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

ひらいでじょうあと
平出城跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道宇都宮向田線平出板戸工区に伴う発掘調査—

2020.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

平出城跡は、栃木県の中央部、宇都宮市の郊外に位置しています。平出城跡は伝承によれば、承元3（1209）年に宇都宮氏の家臣鈴木八郎重貞が築いたとされている城館跡です。遺跡の周辺には「御城」、「中城」、「東門」、「馬場」などの屋号をもつ家がありますが、その歴史や規模などはほとんど分かっていませんでした。

この度、栃木県県土整備部による、主要地方道宇都宮向田線平出・板戸工区の建設に先立ち、路線内に所在する遺跡の取扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。

その結果、遺跡からは国内外の陶磁器片、内耳土器やかかわらけ等の土器類、さらには石臼類が出土しました。また城館の外堀と考えられる南北方向の大溝や、土塁を伴う東西方向の堀跡、さらには厩と考えられる掘立柱建物跡が見つかり、残された地名を裏付けるような館跡の姿が徐々に明らかになりつつあります。

本報告書は、平出城跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県県土整備部、宇都宮市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

令和2（2020）年3月

栃木県教育委員会
教育長 荒川 政利

例 言

- 1 本報告書は栃木県宇都宮市平出町地内に所在する平出城跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は県土整備部が行う「快適で安全な道づくり事業費(補助)主要地方道宇都宮向田線 平出板戸工区」の建設工事に伴うもので、栃木県教育委員会からの委託を受け、(公財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 本書の編集は(公財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターの亀田幸久が行った。編集・原稿執筆に当たっては栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会よりご教示をいただいた。また陶磁器の年代・産地分類などは、長佐古真也氏、山下峰司氏、水本和美氏、石井たま子氏にご教示を頂いた。総括においては茂木孝行氏にご教示を頂いた。石材は荒川善夫氏に鑑定を依頼した。
- 4 附編には石材鑑定の結果および株式会社火山灰考古学研究所による分析報告を掲載した。
- 5 本遺跡の測量座標は世界測地系を用いている。なお発掘調査時の基準点測量・遺構写真測量図化および調査区全体図編集作業については中央航業株式会社に委託した。平成23年度調査における写真測量図化については株式会社ニッコーに委託した。
- 6 本遺跡に関わる発掘調査および整理報告書作成作業は以下の担当者により実施された。

確認調査

平成20(2008)年度 10月 江原 英

発掘調査

1次調査 平成21(2009)年度 H21(2009)9/1～H22(2010)3/30 篠原祐一・長濱健一

2次調査 平成22(2010)年度 H22(2010)5/1～H23(2011)7/31 篠原祐一・植木茂雄

3次調査 平成23(2011)年度 H24(2012)2/1～H24(2012)3/27 篠原祐一・永井三郎

4次調査 平成29(2017)年度 H29(2017)6/1～H30(2018)3/29 津野 仁・大木丈夫

整理・報告書作成作業

令和元(2019)年度 H31(2019)4/1～R2(2020)3/29 亀田幸久

- 7 写真撮影は発掘調査時における遺構写真撮影は調査担当者が、遺物写真撮影は亀田幸久が行った。
- 8 発掘調査参加者 平成21(2009)年9月～から平成30(2018)年3月29日
阿久津妙子 磯崎恵子 岩淵敬一 印南洋造 上野広勝 上野礼子 白井 栄 宇塚悦美 宇塚ヒサ枝野 隆 海老澤典子 大登 昇 大西 實 大森カツ子 小川征男 亀田一六 菊地昭三 菊地裕之 菊地光子 清木正子 黒子一男 黒崎哲男 倉持 進 小島利三 児玉祐美子 小林健一 小林 恵 坂本勝信 坂本仁一 佐藤隆広 篠原信子 白井每春 鈴木和二 鈴木一次 鈴木幸一 黒野倉弘美 関 勝江 高橋麻佐美 高島典子 高橋洋子 高橋レイ子 高山文雄 高山尊成 武子郁子 田澤一二美 田中 香 寺崎千恵美 富田義弘 豊田裕美子 直井恵子 永島新市 中野 均 西村順雄 畑 章子 林 勝彦 日向野久藤 藤原美枝 古橋久幸 松本一夫 皆川和彦 皆川典男 皆川まさ子 棟方和子 森田幸江 森 秀昭 森 芳子 門馬丸巳 山内愛子 湯田仁淑 横山ナホ子 吉田 治 吉田 豊 吉葉里美
- 9 整理作業参加者 平成31(2019)年4月1日～令和2年3月31日
長 道子 尾澤 亘 岩井由香里 岩井かほり 塚田幸枝 佐藤 愛 杉山真理

凡 例

1 遺跡

- (1) 平出城跡の遺跡略号は UTHI (UTsunomiya-Hiraide) である。

2 遺構

- (1) 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所が用いる SB (掘立柱建物跡)・SD (溝)・SE (井戸)・SK (土坑) に準拠する。地下式墳・方形竪穴遺構については、発掘調査時の略号を踏襲し「SK」とする。
- (2) 遺構図の縮尺は原則として 1/80 を用いる。これ以外の縮尺を用いる場合は、その都度挿図中にスケールで示している。
- (3) 遺構実測図中のスクリーントーンは焼土もしくは炭化物を示す。
- (4) 遺構番号は基本的に調査時の発番を踏襲するが、報告の際に変更したものは観察表に付記した。
- (5) セクション図のポイント下の数値は標高を示す。
- (6) 方位は国土方眼座標に拠っている。
- (7) 土層断面図の土層番号は堆積の順序を示すものではない。
- (8) 本遺跡の発掘調査範囲は南からⅠ区～Ⅴ区に分けた。ただし調査Ⅰ区とⅢ区に関しては調査年度の都合により枝番号を付した。発掘調査区と調査年度は以下のとおりである。

平成 21(2009)年度(1次調査)Ⅰ-1区・Ⅰ-2区・Ⅰ-3区(Ⅰ区北部、Ⅱ区、Ⅴ区)。

平成 22(2010)年度(2次調査)Ⅲ-1区・Ⅲ-2区、Ⅳ区。

平成 23(2011)年度(3次調査)Ⅰ-2区、Ⅰ-3区、Ⅲ-3区。

平成 29(2017)年度(4次調査)Ⅰ-4区、Ⅰ-5区、Ⅰ-6区(Ⅰ区南部)。

報告書の遺構事実記載はⅠ区北部からⅤ区へ昇順で記載したのち、Ⅰ区南部を記述する。

- (9) 写真の縮尺は不統一である。

3 遺物

- (1) 実測図の縮尺は、銭・土製品(土鈴)・ガラス製品:2/3、土製品(土人形)・鉄製品・銅製品及びその他の金属製品:1/2、土師質土器小皿・陶磁器・中世土器・砥石・温石・縄文土器・縄文時代石器:1/3、内耳土器:1/4、石臼・石鉢・灯明具・五輪塔:1/6とした。
- (2) 挿図中の遺物番号は通し番号とし、遺構実測図中の出土番号及び遺物観察表ならびに写真図版に対応する。
- (3) 遺物実測図中のスクリーントーンは、赤化部分もしくは炭化物またはタールの付着を示すが、詳細はその都度図中に記載した。
- (5) 遺物実測図・拓影図で内外面を示したものは、基本的に左側を内面、右側を外面とした。
- (6) 縄文土器実測図・拓影図は、断面図を右側に表示した。
- (8) 図版・観察表及び本文の番号は一致する。
- (9) 遺物観察表中の()付き数値は残存値、[]付き数値は推定値を示したものである。
- 00 遺物観察表中の残存率の部位表示は、口縁部→口、胴部→胴、底部→底とする。
- 01 遺物観察表中の備考欄にある「掲」は掲載遺物の図版番号を示した。
- 02 胎土の色調は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修 1996年版)を参照した。
- 03 遺物写真の縮尺は不統一である。

目次

序文
例言
凡例

第1章 発掘調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	2
第3節 調査の経過	3
第2章 遺跡の立地と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	7
第3節 標準土層	11
第3章 調査の成果	12
第1節 遺跡の概観	12
第2節 確認された遺構と遺物	13
調査Ⅰ区北部（Ⅰ-1区、Ⅰ-2区、Ⅰ-3区）	15
調査Ⅱ区	36
調査Ⅲ区（Ⅲ-1区、Ⅲ-2区、Ⅲ-3区）	76
調査Ⅳ区	82
調査Ⅴ区	93
調査Ⅰ区南部（Ⅰ-4区、Ⅰ-5区、Ⅰ-6区）	111
平出城跡の遺物	127
遺構観察表	132
遺物実測図	150
遺物観察表	179
第4章 総括	208
附編	212
附編1 平出城跡出土遺物の石材分析	212
附編2 平出城跡発掘調査に係るテフラ分析	215

插图目次

第1図	平出城跡遺跡位置図	1	第37図	Ⅱ区 区別8	55
第2図	平出城跡 調査区配置	2	第38図	Ⅱ区 区別8断面図	56
第3図	橋本系の地形図	5	第39図	Ⅱ区 区別9	57
第4図	宇都宮市内の城館の位置	8	第40図	Ⅱ区 区別9断面図	58
第5図	宇都宮城と宇都宮一族の支城との結びつき	8	第41図	Ⅱ区 区別10	59
第6図	周辺の遺跡地図	9	第42図	Ⅱ区 区別11	60
第7図	標準土層と採取位置図	11	第43図	Ⅱ区 区別10・11断面図	61
第8図	平出城の推定範囲と発掘調査区	12	第44図	Ⅱ区 区別12	62
第9図	平出城跡遺跡全体図	13	第45図	Ⅱ区 区別13	63
第10図	1-1・2・3区 区別配置図	14	第46図	Ⅱ区 区別12・13断面図	64
第11図	1-1区 区別1	20	第47図	Ⅱ区 区別14	65
第12図	1-1区 区別2	21	第48図	Ⅱ区 区別14断面図	66
第13図	1-1区 区別2断面図	22	第49図	Ⅱ区 区別15	67
第14図	1-1区 区別3	23	第50図	Ⅱ区 区別15断面図	68
第15図	1-1区 区別4	24	第51図	Ⅱ区 区別16	69
第16図	1-1区 区別5	25	第52図	Ⅱ区 区別16断面図	70
第17図	1-1区 区別6	26	第53図	Ⅱ区 区別17	71
第18図	1-1区 区別7(井戸・墓域)	27	第54図	Ⅱ区 区別18	72
第19図	1-2・1-3区 区別8	28	第55図	Ⅱ区 区別17・18断面図	73
第20図	1-2・1-3区 区別8断面図	29	第56図	Ⅱ区 区別19(SB-422・423)	74
第21図	1-2・1-3区 区別9	30	第57図	Ⅱ区 区別20(SB-424・425)	75
第22図	1-2・1-3区 区別10	31	第58図	Ⅲ区(Ⅲ-1、Ⅲ-2、Ⅲ-3)全体図	77
第23図	1-2・1-3区 区別10断面図	32	第59図	Ⅲ区 遺構配置図	79
第24図	1-2・1-3区 区別11(井戸・地下式墳)	33	第60図	Ⅲ区 断面図(1)	80
第25図	1-2・1-3区 区別12(井戸)	34	第61図	Ⅲ区 断面図(2)	81
第26図	1-2・1-3区 区別13	35	第62図	Ⅳ区 区別配置図	83
第27図	Ⅱ区 区別配置図	45	第63図	Ⅳ区 区別1	84
第28図	Ⅱ区 区別1	46	第64図	Ⅳ区 区別2	85
第29図	Ⅱ区 区別2	47	第65図	Ⅳ区 区別3	86
第30図	Ⅱ区 区別3	48	第66図	Ⅳ区 区別4	87
第31図	Ⅱ区 区別4	49	第67図	Ⅳ区 区別4断面図	88
第32図	Ⅱ区 区別5	50	第68図	Ⅳ区 区別5	89
第33図	Ⅱ区 区別5断面図	51	第69図	Ⅳ区 区別6	90
第34図	Ⅱ区 区別6	52	第70図	Ⅳ区 区別5・6断面図	91
第35図	Ⅱ区 区別6断面図	53	第71図	Ⅳ区 区別7	92
第36図	Ⅱ区 区別7	54	第72図	Ⅳ区 区別7断面図	93

第73図	V区 区別配置図	95	第104図	内耳土器実測図(1)	68~72	153
第74図	V区 区別1	97	第105図	内耳土器実測図(2)	73~83	154
第75図	V区 区別2	98	第106図	内耳土器実測図(3)	84~86	155
第76図	V区 区別3	99	第107図	内耳土器実測図(4)	87~91	156
第77図	V区 区別4	100	第108図	内耳土器実測図(5)	92~96	157
第78図	V区 区別5	101	第109図	内耳土器実測図(6)	97~99	158
第79図	V区 区別6	102	第110図	陶磁器類実測図(1)	100~128	159
第80図	V区 区別7	103	第111図	陶磁器類実測図(2)	129~155	160
第81図	V区 区別8	104	第112図	陶磁器類実測図(3)	156~165	161
第82図	V区 区別7・8断面図	105	第113図	土器類実測図 166~169		162
第83図	V区 区別9	106	第114図	土製品(土鈴)実測図 170・171		162
第84図	V区 区別10 (SD)	107	第115図	土製品(土人形)実測図 172~179		163
第85図	V区 区別11 (SD)	108	第116図	鉄製品実測図(1)	180~196	164
第86図	V区 SK-364・365(墓墳)	109	第117図	鉄製品実測図(2)	197~212	165
第87図	V区 SK-366・367(墓墳)	110	第118図	銅製品・その他の金属製品実測図 213~216		166
第88図	I-4・I-5・I-6区 区別配置図	112	第119図	ガラス製品実測図 217		166
第89図	I-4区 区別1	115	第120図	古銭実測図 218~230		166
第90図	I-4区 区別2	116	第121図	紙石実測図(1)	231~238	167
第91図	I-4区 区別3	117	第122図	紙石実測図(2)	239~248	168
第92図	I-4区 区別4	118	第123図	温石・硯実測図 249~253		169
第93図	I-4区 区別5	119	第124図	石白実測図(1)	254~257	170
第94図	I-4区 区別6	120	第125図	石白実測図(2)	258~260	171
第95図	I-4区 区別7	121	第126図	石白・石鉢実測図 261~264		172
第96図	I-4区 区別8	122	第127図	石白・石製灯明具実測図 265~271		173
第97図	I-5区 区別9	123	第128図	石白実測図(3)	272~277	174
第98図	I-5区 区別10	124	第129図	石白・板碑・五輪塔実測図 278~282		175
第99図	I-6区 区別11	125	第130図	五輪塔実測図 283~286		176
第100図	I-4区 縄文時代遺物包含層 区別12	126	第131図	縄文土器実測図 287~327		177
第101図	土師質土器小皿実測図(1) 1~23	150	第132図	縄文時代石器実測図 328~334		178
第102図	土師質土器小皿実測図(2) 24~51	151	第133図	平出城跡の掘立柱建物跡と馬屋との比較		208
第103図	土師質土器小皿実測図(3) 52~67	152	第134図	平出城跡の東門(虎口)と外堀との関係		209

表 目 次

第1表	平出城周辺の遺跡一覧表	10	第23表	陶磁器類観察表(4)	193
第2表	I区北部(1-1区・1-2区・1-3区)遺構観察表	132	第24表	陶磁器類観察表(5)	194
第3表	II区 遺構観察表	135	第25表	土器類観察表	195
第4表	III区・IV区 遺構観察表	139	第26表	土製品観察表(土鈴)	195
第5表	V区 遺構観察表	140	第27表	土製品(土人形)観察表	196
第6表	1-4区 遺構観察表	141	第28表	鉄製品観察表(1)	197
第7表	1-5区 遺構観察表	146	第29表	鉄製品観察表(2)	198
第8表	1-6区 遺構観察表	148	第30表	銅製品・その他の金属製品観察表	199
第9表	土師質土器小皿観察表(1)	179	第31表	ガラス製品観察表	199
第10表	土師質土器小皿観察表(2)	180	第32表	古銭観察表	199
第11表	土師質土器小皿観察表(3)	181	第33表	紙石観察表(1)	200
第12表	土師質土器小皿観察表(4)	182	第34表	紙石観察表(2)	201
第13表	土師質土器小皿観察表(5)	183	第35表	温石観察表	201
第14表	土師質土器小皿観察表(6)	184	第36表	硯観察表	201
第15表	土師質土器小皿観察表(7)	185	第37表	石臼観察表(1)	202
第16表	内耳土器観察表(1)	186	第38表	石臼観察表(2)	203
第17表	内耳土器観察表(2)	187	第39表	石臼観察表(3)	204
第18表	内耳土器観察表(3)	188	第40表	石臼観察表(4)	205
第19表	内耳土器観察表(4)	189	第41表	石鉢・灯明具観察表	206
第20表	陶磁器類観察表(1)	190	第42表	五輪塔観察表	206
第21表	陶磁器類観察表(2)	191	第43表	板碑観察表	207
第22表	陶磁器類観察表(3)	192	第44表	縄文時代石器観察表	207

図 版 目 次

遺 構

図版一	遺構 遺跡遠景・近景 平出城跡遠景(東上空から) 平出城跡と発掘調査範囲(南上空から)	図版四	遺構 I-1区 I-1区・II区全景(西上空から) I-2区・I-3区全景(北西上空から)
図版二	遺構 モザイク写真 平出城跡モザイク写真		
図版三	遺構 I-1区・II区・I-2区・I-3区 全景		I-1区 SE-076 遺物出土状況(南東から) I-1区 SE-035 セクション(東から) I-1区 SK-071・074、SD-075 完掘(南から) I-1区 SK-074 完掘(南から) I-1区 SD-075 セクション(西から)

	I-1区 SD-094 北部セクション (南東から)		I-3区 SK-052・053 セクション (南から)
	I-1区 SD-094 完掘 (南東から)		II区 SB-423 確認 (南から)
	I-1区 SD-094 遺物出土状況 (南から)		II区中央部遺構確認 (北から)
図版五	遺構 I-1区	図版九	遺構 II区
	I-1区 SD-094 遺物 (かわらけ) 出土状況 (北から)		II区全費 (北上空から)
	I-1区 SK-064・065・066・096・097 完掘 (南から)		II区 SB-422・423 完掘 (上空から)
	I-1区 SK-015 ~ 020 完掘 (南から)	図版一〇	遺構 II区
	I-1区 SK-058・059 セクション (南から)		II区 SD-234 完掘 (南から)
	I-1区 SK-089 人骨出土状況 (南から)		II区 SD-101・121 完掘 (北東から)
	I-1区 SK-089 人骨出土状況アップ (東から)		II区 SD-175 完掘 (東から)
	I-1区 SK-041 炭化材出土状況 (北から)		II区 SD-218 セクション (南から)
	I-1区 SK-041 炭化材アップ (北東から)		II区 SD-218 完掘 (南東から)
図版六	遺構 I-1区・I-2区		II区 SD-170 完掘 (北西から)
	I-1区 SK-049 完掘 (南から)		II区 SD-410 完掘 人物入り (北から)
	I-1区 SK-006 東西セクション (南から)	図版一一	II区 SD-200 セクション東部 (西から)
	I-1区 SK-063 完掘 (南から)		遺構 II区
	I-1区 SK-008 完掘 (西から)		II区 SD-200 中央セクション (東から)
	I-1区 SK-013 東西セクション (北から)		II区 SK-115 セクション (南西から)
	I-2区 SE-001 セクション (南から)		II区 SK-151 セクション (南から)
	I-2区 SE-001 完掘 (北東から)		II区 SK-252 セクションアップ (南から)
	I-2区 SE-003 遺物出土状況 (南西から)		II区 SK-252 遺物出土状況 (西から)
図版七	遺構 I-2区		II区 SK-252 遺物出土状況アップ (北から)
	I-2区 SE-003 セクション (南から)		II区 SK-247・248 セクション (東から)
	I-2区 SE-003 完掘 (南西から)	図版一二	II区 SK-288 セクション (東から)
	I-2区 SE-006 セクション (南から)		遺構 II区
	I-2区 SE-006 完掘 (南から)		II区 SK-283 セクション (東から)
	I-2区 SK-007 セクション (南から)		II区 SK-289 遺物出土状況 (北から)
	I-2区 SK-007 完掘 (北東から)		II区 SK-400 セクション (東から)
	I-2区 SK-061 セクション (北から)		II区 SK-116 セクション (南から)
	I-2区 SE-068 完掘 (北から)		II区 SK-126 セクション及び礎出土状況 (南から)
図版八	遺構 I-3区・II区		II区 SK-146 セクション (南西から)
	I-3区 SE-013 セクション (南から)		II区 L-26 グリッド遺物出土状況 (南から)
	I-3区 SE-013 完掘 (南から)		II区 P-202 土器出土状況 (南から)
	I-3区 SD-049 セクション (東から)	図版一三	遺構 II区
	I-3区 SD-050 セクション (西から)		II区 P-445 土器出土状況 (東から)
	I-3区 SK-025 遺物出土状況 (南から)		II区 P-426 土器出土状況 (東から)

	Ⅱ区 P-056 砥石出土状況 (南から)		Ⅲ-1区 SD-421 完掘 (南東から)
	Ⅱ区 SK-162・163 完掘 (東から)		Ⅲ-1区 SD-421 完掘人物入り (北西から)
	Ⅱ区 SK-246 完掘 (東から)	図版一九	遺構 Ⅲ区
	Ⅱ区 SK-257 セクション (東から)		Ⅲ-2区 SD-421F-F セクション (南から)
	Ⅱ区 SK-272 完掘 (南から)		Ⅲ-2区 SD-421G-G' セクション (北東から)
	Ⅱ区 SK-108 完掘 (東から)		Ⅲ-3区 SD-001A-A' セクション (南から)
図版一四	遺構 Ⅱ区		Ⅲ-2区 SD-421 段差部分 (南から)
	Ⅱ区 SK-281 完掘 (東から)		Ⅲ-2・Ⅲ-3区 SD-421-001 全景 (南から)
	Ⅱ区 SK-281 セクション (南東から)	図版二〇	遺構 Ⅲ区・Ⅳ区・Ⅴ区全景
	Ⅱ区 SK-281 遺物出土状況アップ (東から)		Ⅲ-3区 SD-430a・430bD-D' セクション (南から)
	Ⅱ区 SK-122 セクション (西から)		Ⅳ区 SD-432 セクション (南から)
	Ⅱ区 SK-122 炭化物・遺物出土状況 (西から)		Ⅳ区 SD-433・SK-434 セクション (南から)
図版一五	遺構 Ⅱ区		Ⅳ区 SD-433・SK-447 セクション (東から)
	Ⅱ区 SK-122 完掘 (南から)		Ⅳ区全景 (北上空から)
	Ⅱ区 SK-122 遺物出土状況アップ (西から)	図版二一	遺構 Ⅳ区・Ⅴ区全景 Ⅳ区・Ⅴ区
	Ⅱ区 SK-133 東西セクション (南から)		Ⅳ区・Ⅴ区全景 (東から)
	Ⅱ区 SK-139・140 セクション (東から)		Ⅳ区 SD-433C-C' セクション (東から)
	Ⅱ区 SK-134 ~ 137 完掘 (南から)		Ⅳ区 SD-433D-D' 東壁セクション (西から)
図版一六	遺構 Ⅱ区・Ⅲ区		Ⅳ区 SD-433 完掘 (東から)
	Ⅱ区 SK-134 完掘 (西から)		Ⅴ区 SD-308b セクション (南から)
	Ⅱ区 SK-137 完掘 (西から)	図版二二	遺構 Ⅳ区・Ⅴ区
	Ⅱ区 SK-137 完掘 (北から)		Ⅳ区 SD-433 完掘 (西から)
	Ⅱ区 SK-169b 遺物出土状況 (南から)		Ⅴ区 SD-349 完掘 (西から)
	Ⅱ区 SK-241 完掘 (東から)		Ⅴ区 SD-390 セクション (西から)
	Ⅲ-3区 SE-466 セクション (南から)		Ⅴ区 SD-390 及び土坑群完掘 (北東から)
	Ⅲ-3区 SE-466 完掘 (西から)		Ⅴ区 SK-331 完掘 (南から)
	Ⅲ区 SD-421B-B' セクション (東から)	図版二三	遺構 Ⅴ区
図版一七	遺構 Ⅲ区全景・Ⅲ区		Ⅴ区 SK-330 完掘 (南から)
	Ⅲ区全景 (北上空から)		Ⅴ区 SK-345 セクション (東から)
	Ⅲ-1区 SD-421A-A' セクション (北から)		Ⅴ区 SK-345 セクション・遺物出土状況 (東から)
	Ⅲ-1区 SD-421C-C' セクション (南から)		Ⅴ区 SK-345 遺物出土状況アップ (東から)
	Ⅲ-2区 SD-420 完掘 (南東から)		Ⅴ区 SK-319 人骨出土状況 (東から)
	Ⅲ-1区 SD-420D-D' セクション (東から)		Ⅴ区 SK-319 人骨出土状況アップ (東から)
図版一八	遺構 Ⅲ区		Ⅴ区 SK-353a・b、356、357a・b、358 完掘 (南西から)
	Ⅲ-2区 SD-421E-E' セクション (北から)		Ⅴ区 SK-369 遺物出土状況 (南東から)
	Ⅲ-2区 SD-421 北部 (南から)		
	Ⅲ-1区 SD-421 壁面・床面人物入り (北西から)		

図版二四	遺構 V区 V区 SK-364 遺物出土状況 (東から) V区 SK-364 遺物出土状況 (北西から) V区 SK-364 北壁の状況 (南東から) V区 SK-365 遺物出土状況 (南東から) V区 SK-366・367 遺構確認状況 (東から)	図版二九	遺構 1-4区 1-4区 SB-227 完掘 (南から) 1-4区 SB-227 完掘 人物入り (南から) 1-4区 SB-227 P2 セクション (南から) 1-4区 SB-227 P9 セクション (南から) 1-4区 SB-263 完掘 (南から) 1-4区 SB-263 P4 セクション (南から) 1-4区 SB-269 完掘 (東から) 1-4区 SB-276 完掘 (東から)
図版二五	遺構 V区 V区 SK-364・365・366・367 断面及び遺物出土状況 (東から) V区 SK-365 遺物出土状況アップ (南東から) V区 SK-366 セクション (南東から) V区 SK-366 遺物出土状況 (東から) V区 SK-367 セクション (南東から)	図版三〇	遺構 1-4区 1-4区 SB-270 完掘 (北から) 1-4区 SB-270 P1 セクション (東から) 1-4区 SI-238 完掘 (南から) 1-4区 SD-229 東西セクション (南東から) 1-4区 SD-229 東西セクション (南西から) 1-4区 SD-229 南北セクション (西から) 1-4区 SK-237 遺物出土状況 (東から)
図版二六	遺構 V区 V区 SK-364・365・366・367 作業風景 (東から) V区 SK-367 遺物出土状況 (南東から) V区 SK-367 天保銭出土状況アップ (南東から) V区 SK-367 作業風景 (南東から) V区 SK-370 セクション (南から)	図版三一	遺構 1-4～1-6区 1-4区 SK-241 完掘 (東から) 1-4区縄文時代遺物包含層 出土状況 (南東から) 1-4区縄文時代遺物包含層アップ (南東から)
図版二七	遺構 1-4～1-6区モザイク写真 1-4区・1-5区・1-6区モザイク写真		
図版二八	遺構 1-4～1-6区全景・1-4区 1-4区・1-5区・1-6区全景 (南上空から) 1-4区 SB-226 完掘 (南から) 1-4区 SB-226 P1 セクション (南から) 1-4区 SB-226 P3 セクション (南から) 1-4区 SB-228 完掘 (西から)		1-5区 SK-007 セクション (西から) 1-5区 SK-007 完掘 (西から) 1-5区 SK-009 石皿出土状況 (南東から) 1-6区 SK-049 遺物出土状況 (西から) 1-6区 SK-050 遺物出土状況 (西から)

遺物

図版三二 遺物 土師質土器小皿一

1 1内面 4 4内面 6 6内面 7 8 9 9内面
10 10内面 11 11内面 12 13 14 15 16 17
17内面 22

図版三三 遺物 土師質土器小皿二

18 18内面 21 21内面 23内面 24 25 26
28 27 27内面 29 29内面 30 30内面 32 32
内面 33 33内面 34 35

図版三四 遺物 土師質土器小皿三

36 37 39 40 41 43 43内面 44 44内面
45 48 48内面 49 51 54内面 61 62 64 66
67 67内面 67底面

図版三五 遺物 内耳土器一

69 70 72 84 84内面 85 86 86アップ 87
87内面 88 89 90 91 93 95

図版三六 遺物 内耳土器二

68 68内面 74 75 76 78 81 82 83 92
92内面 94 94アップ 97 99

図版三七 遺物 陶磁器一

100 101 101内面 102 103 103底面 104
104内面 107内面 107外面 108内面 108外面
109内面 109外面 110 111 112底面 113 115

図版三八 遺物 陶磁器二

116 117 117底面 118 119 119内面 119底
面 120 121 122 122内面 123 123内面 123
底面 124 125 125内面 125上面

図版三九 遺物 陶磁器三

126 127 127内面 128 128底面 129外面
129内面 130 130内面 130底面 131 131内面
132 132内面 132底面 133 133内面

図版四〇 遺物 陶磁器四

134 134内面 134底面 135 135内面 136
137 137内面 138 138内面 139 139内面 140
141 141内面 141底面 142 143 143内面 143
底面 145

図版四一 遺物 陶磁器五

144 144内面 146 147 147内面 147上面
148 148内面 148上面 149 149内面 150 150
内面 151 152内面 153 153底面 154 156 156
内面 157

図版四二 遺物 陶磁器六・瓦質土器

157内面 158 158内面 158上面 159 160
161 162 163 164 165 165内面 166 167
168 168上面 169 169 169底面

図版四三 遺物 土製品(土鈴・土人形)

170 170側面 170裏 171 171側面 171裏
172 172裏 173 173裏 174 174裏 175 176
177 178 178裏 178右側面 179 179側面

図版四四 遺物 鉄製品・銅製品・ガラス製品

180 181 182 183 184 185 186 187
188 189 190 191 192 193 194 195 196
197 198 199 200 201 202 203 204 205
206 207 208 209 210 211 212 213 214
215 215裏 216 217 224

図版四五 遺物 古銭

218 219 220 221 221裏 222 223 224
225 225裏 226 226裏 227 228 228裏 229
229裏 230

図版四六 遺物 砥石

231 232 233 233側面 234 235 235側面
236 236側面 237 238 239 240 240左側面

240 右側面 241 242 242 側面 243 244 245

245 側面 246 247 248

図版四七 遺物 温石・硯・石臼一

249 250 250 側面 251 252 252 裏 253 254

254 上面 255 255 上面 256 257 上面 257 断面

258 258 下面 259 259 上面 260 260 下面

図版四八 遺物 石臼二・石鉢・灯明具

261 261 下面 262 262 下面 263 265 266

266 268 268 上面 269 270 271 271 下面 272

272 下面 273 273 断面 274 275 276

図版四九 遺物 石臼三・板碑・五輪塔

276 上面 277 278 279 279 上面 280 280 裏

281 282 282 上面 283 283 上面 284 284 上面

285 285 上面 286 286 下面

図版五〇 遺物 縄文土器

287 ~ 327

図版五一 遺物 縄文石器

328 329 329 裏 331 330 330 裏 332 332

右側 332 裏 333 334

第1章 発掘調査に至る経緯と経過

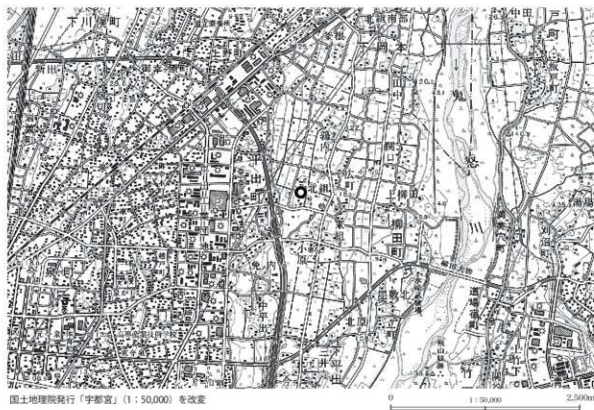
第1節 調査に至る経緯

主要地方道宇都宮向田線（県道 64 号線）は、宇都宮市と那須烏山市を連絡する幹線道路である。また、鬼怒川左岸地域に位置する大規模な工業団地である芳賀工業団地や芳賀・高根沢工業団地へのアクセス道路の役割も兼ねており、産業・経済活動を支える重要な幹線道路として使用されてきた。しかし、現道は朝夕を中心に、工業団地との間で深刻な交通渋滞が発生しており、バイパスの早期完成が強く望まれていた。

このため、宇都宮市の平出・板戸区は平成 14 年度から、大塚区は平成 18 年度からバイパス事業に着手し、整備を進めていた。芳賀台北から県道下岡本上三川線（県道 158 号線）の間は平成 20 年 3 月に開通していたが、新 4 号国道までには宇都宮市平出町地内と芳賀町大塚地内での供用が必要であった。特に渋滞緩和のため、平出・板戸区の道路は片側 2 車線とする規格であった。

工事区間のうち、平出・板戸区の事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地の「平出城跡」が所在することから、栃木県教育委員会事務局文化財課（以下、文化財課）と栃木県県土整備部（以下、県土整備部）において、その取扱いを協議した。平出城跡の部分については、平成 20（2008）年 10 月に確認調査を実施し、トレンチから遺物が出土したこともあり、埋蔵文化財の記録保存調査を実施することとなった。

平成 21 年 9 月 1 日に文化財課長から財団（財団法人とちぎ生涯学習文化財団）に調査費用の見積依頼があり、見積書提出を経て、発掘調査の受託契約が締結された。用地買収の進捗に応じて、次年度以降も同様の契約手続きを経て発掘調査に至った。



第1図 平出城跡遺跡位置図

第2節 調査の方法

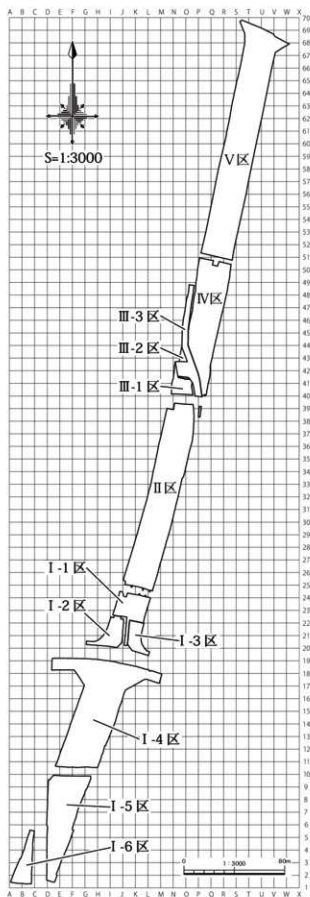
調査地は道路範囲であるため、南北に細長く、用地買収の進捗に応じて発掘調査を実施することになった。現在使用されている道路などで調査地が区分されていることから、調査区番号を付けた。平成21年度の調査が宇都宮市道312号線、推定平出城跡の南辺から北側であった。ここからⅠ区として、北に向かってⅡ区・Ⅲ区・Ⅳ区・Ⅴ区とした。市道312号線の南側については、調査区番号が南から北に行くことから、Ⅰ区の枝番を継承した。

調査区のグリッドは、各年度とともに10m方眼としていたが、個別にグリッド番号を付すなど統一性がなかった。このために、整理作業の段階で南北にⅠ～Ⅶ0、東西にA～Xとして南西端をAⅠグリッドとして、4次に亘る調査地を共通のグリッド名とした。

調査は、重機で表土除去を行い、調査地内に排土を置く場合には、調査地を半分づつ調査し、排土を反転することにした。遺構番号の発番は遺構の種類に係わらず、異なった調査区でも通し番号とした。但し、Ⅰ-2区・Ⅰ-3区では各調査区で1番から発番した。

掘り下げの際は遺構の堆積土を観察・記録するために、土坑では半分掘り下げ、溝などでは何箇所かにベルトを残した。土層図は手取り実測とし、平面図についてはⅠ-2区・Ⅰ-3区は平板を用いての実測、その他の区では一部平板実測したが、航空写真によるデジタル測量（写真測量図化）を行った。

遺構の記録写真は平成23年度までは35mmのカラーリバーサルとモノクロで撮影したが、平成29年度は一眼レフのデジタルカメラ（Nikon D7000）で撮影した。



第2図 平出城跡 調査区配置図

第3節 調査の経過

調査は、用地買収の進捗に応じて実施するために、長期に亘った。第1次調査は、平成21(2009)年度であり、10月5日から表土除去、10月19日からⅠ-Ⅰ区の遺構確認を行った。10月30日から翌年の1月18日まで遺構の掘り下げや実測・写真撮影などの調査をした。これらが終了した1月21日にⅠ-Ⅰ区とⅡ区の1回目の航空写真撮影を実施した。その後、Ⅰ区の北側に調査地を移し、11月10日からⅡ区遺構確認、11月16日から1月24日まで遺構調査を行い、Ⅰ-Ⅰ区とⅡ区の調査が終了した。1月21日には、航空写真撮影を実施した。1月25日から29日に埋戻した。この年度には調査地の最も北側になるⅤ区も調査を行った。11月18日から27日に表土除去、1月26日から3月17日まで遺構調査、3月18日に航空写真撮影を行い、平成21年度の調査を終えた。この年度の調査面積は10,840㎡であった。発見された遺構は、以下の通りである。

Ⅰ-Ⅰ区 方形竪穴遺構3棟、掘立柱建物跡0棟、井戸跡1本、地下式竈2棟、溝6条、土坑75本、ピット987基

Ⅱ区 遺構 東西大溝(SD-200)1条、南北大溝(SD-410)1条、溝15条、掘立柱建物跡0棟、方形竪穴遺構13棟、地下式竈9基、井戸跡1本、土坑170本、長方形土坑13基、ピット1030基

Ⅴ区 遺構 溝7条、土坑86本、ピット87基

第2次調査は平成22(2010)年度で、調査面積は3,000㎡であり、Ⅲ-Ⅰ区とⅣ区を調査した。5月11日に現地協議を行って、5月24日から6月16日まで表土除去を実施した。6月1日から22日まで遺構確認を行い、6月24日から7月13日まで遺構の掘り下げや記録などの調査、7月22日に航空写真撮影を実施した。これらの調査が全て終わって、7月27日から30日に調査地の埋戻しをした。2次調査で発見された遺構は、以下の通りである。

Ⅲ-Ⅰ区 南北大溝1条、溝3条、土坑2基

Ⅳ区 溝3条、井戸2本、長方形土坑・土坑46本、ピット29基



土除去後の様子(Ⅱ区)



遺構確認作業(Ⅱ区)



作業風景(大溝)



作業風景(Ⅴ)

第3次調査は平成23(2011)年度に行った。調査面積は800㎡であり、最初にⅢ-2区・Ⅲ-3区を調査した。2月3日に表土除去を行い、8・9日に遺構確認、2月28日まで遺構の調査を実施した。3月からはⅠ-2区・Ⅰ-3区を調査した。3月1日から8日に遺構確認、6日から21日に遺構の調査を行った。22日には航空写真撮影を行って本年度の作業を終了した。3次調査で見えられた遺構は、以下の通りである。

Ⅰ-2区 井戸跡5本、溝7条、地下式墳1基、土坑58基

Ⅰ-3区 方形竪穴1棟、井戸跡1本、溝3条、土坑23基、ピット43基

Ⅲ-2・Ⅲ-3区 大溝(外堀)1条、井戸跡1本、土坑3基、

第4次調査は平成29(2017)年度に行った。調査面積は、6,630㎡(Ⅰ-4区4,077㎡、Ⅰ-5区2,037㎡、Ⅰ-6区516㎡)である。6月22日からⅠ-4区・Ⅰ-5区・Ⅰ-6区の半分について表土除去を始めた。6月26日から7月5日まで遺構確認を行い、7月6日から遺構の調査になった。7月24日には航空写真撮影を行い、本年度調査地の半分を終えたので、埋め戻した。その後、7月28日から3調査区の半分を表土除去した。8月2日からは遺構確認を行い、4日からⅠ-5区の遺構調査を始めた。遺構確認は9日までで、以後は遺構調査が主体となった。8月30日に航空写真撮影を行い、現地調査を終えた。4次調査で見えられた遺構は、以下の通りである。

Ⅰ-4区 掘立柱建物跡8棟、住居跡1棟、柵列1条、溝1条、土坑267本。Ⅰ-5区 土坑178基。Ⅰ-6区 土坑71基。

整理・報告書作成作業

整理作業および報告書作成は、令和元年度(平成31年4月1日から令和2年3月30日)に実施した。遺構図面は図面修正の後、デジタルトレースした。遺物は水洗い・注記をした後、選別し、接合・復元・実測作業をへて、ロットリングペンにてトレースした。これらの図版に文章・観察表・写真を加え、編集し、令和2年3月27日に報告書を刊行した。



作業風景(Ⅰ-4区)



測量風景



土器の接合・復元作業

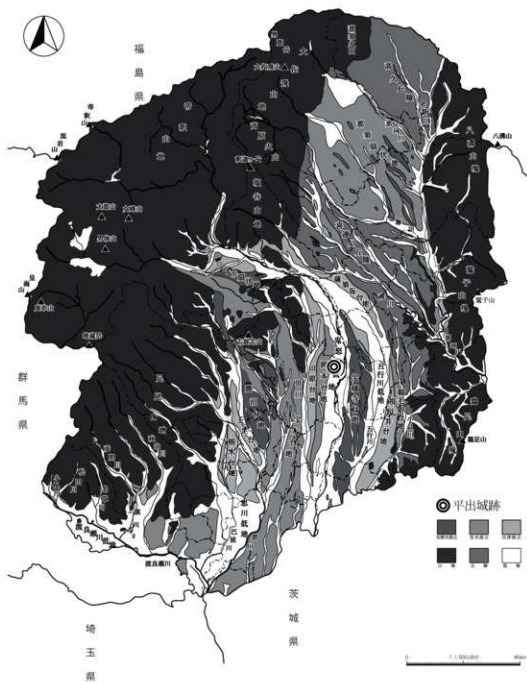


報告書作成作業

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

栃木県の地形は、大きく東部山地、中央部低地、西部山地に分けられる。東部山地は八溝山地であり、西部山地は那須・高原・日光・足尾などの山塊からなる下野山地と足尾山地である。東西の山地は南北に連なっており、両者に挟まれるように中央部低地が広がる。中央部低地は関東平野の北縁をなし、山地からのびる丘陵、東西に交互に繰り返される台地と低地、及び河川からなる。



第3図 栃木県の地形図

栃木県内には、南北に多数の河川が流れ、栃木県を代表する河川である鬼怒川は宇都宮市北西の日光市にある帝釈山地に源を発し、宇都宮市北部を南東に進みながら流路を変えて南下する。この鬼怒川に開析された宝積寺台地は、更新世の段丘堆積層である砂礫層を基盤とし、関東ローム層を細分した宝積寺ローム（宝積寺面）に覆われる。栃木県の関東ローム層は、この宝木ローム（宝木面）、さらにその上部に堆積する田原ローム層（田原面）に大別される。宝積寺面は当該地の宝積寺段丘と鹿沼市東部の鹿沼段丘面にある。宝木ローム層の下部は粘土化の進んだ火山灰層で、下部には真岡軽石層、上部では満美穴スコリア層を挟み構成される。

平出城跡は、宇都宮市東部の平出町に所在する。宇都宮市は、栃木県の中部に位置しており、北部では日光市・塩谷町・さくら市、東部では高根沢町・芳賀町、南部では真岡市・上三川町・下野市、西部では壬生町・鹿沼市と接する。面積は416.85㎢である。

宇都宮市の地形は、西部山地から続く山地、市内北西部から市街地北側に分布する丘陵、南北に伸びる段丘状の台地、同じく南北に伸び且つ帯状に広がる低地の4つに大別される。山地は、市内の北西部に散在する標高450～500mの孤立峰が多く、西部山地の東縁にあたる。古賀志山・鞍掛山・半蔵山・高館山などが該当し、その多くは、南へ下るにつれて丘陵へと続いていく。丘陵は、山地から続く丘陵と台地の縁に形成された丘陵の2種に分かれ、宝木台地の周辺に集中する。また、河川などの開析によって低地が入り込み、挟り込みや分断されて独立した丘陵も形成されている。台地は南北に細長く、市内の大部分を占めている。最も広いのは先述の宝木台地で、南端は現在の下野市と接する。南側は台地と低地が縞状に分布し、両端の鹿沼台地と清原台地は、宝木台地や岡本台地、田原大地と比べると高位に位置する。低地は、鬼怒川低地や田川低地のように南北に伸びる低地と、台地・丘陵・山地を開析している低地に分かれる。前者は市内の東側に集中し、後者は市内の各所に見られる。

参考文献

宇都宮市 1979「第2節 宇都宮の地形・地質」『宇都宮市史 原始・古代編』



第2節 歴史的環境

ここでは、平出城跡の主要な時期である室町時代後半から戦国期の宇都宮と周辺地域との様相をみていく。平出城の城主は史料に伝わっていないが、その所在位置からみて宇都宮氏の配下の者と推定されることから、宇都宮氏の動向を中心に概述していく。

室町幕府のもとで東国を管轄していたのは、鎌倉府の鎌倉公方であり、その補佐役であった関東管領であった。鎌倉公方には足利氏、関東管領は上杉氏であったが、公方が管領を殺害したことによって、武家勢力は2分されていく。このため、約30年に及ぶ公方派と管領派の抗争が繰り返された。一方、鎌倉府と地域勢力との抗争も激化していった。

下野国の守護は小山氏であり、佐野や下総の下河辺などにも勢力を拡張したが、天授6年・康暦2年(1380)に小山義政と宇都宮基綱の間で起きた義政の乱は17年の長きにわたった。鎌倉府は義政討伐を決め、義政を討ち、乱後に小山氏の正統は絶えた。その後、結城合戦にも宇都宮氏は加わった。そして、下野守護も小山氏から上杉氏に替わり、上杉氏は下野・上野・武蔵・安房・伊豆・越後の6ヶ国の守護となり、関東における上杉氏体制ができていった。さらに、上杉氏は領国で新興勢力の国人層を組織して、支配を固めていった。

15世紀後半には、鎌倉公方成氏と関東管領上杉氏の対立が激化する。享徳4(1455)から始まる享徳の乱であり、鎌倉を離れた成氏は鎌倉に戻れずに古河に居を構え古河公方となり、各地の領主層に影響を与え、下野をはじめ東関東の諸国では古河公方を支持した。一方の西関東では関東管領の上杉氏を支持した。これによって、関東地方では、京都における応仁・文明の乱(1476～1477)よりも先に戦国時代に入っていた。この戦国時代への突入によって多くの城郭が築かれたと考えられる。

16世紀には小田原の後北条氏が台頭し、領土を拡大して、下野にも圧力を強めていった。北条氏は氏綱の代には武蔵南半分ほどまで勢力を広め、氏政・氏直の代には下総・上野・下野の西半分まで伸張した。これに対して、越後の上杉氏は、上野まで進出した北条氏に、沼田付近の支城を攻めて、上杉・北条の敵対関係が始まる。上杉氏は永禄3年(1560)に関東出兵を決めて、上野に入ってくる。北条氏政はこれを阻止すべく下野佐野氏の協力のもと、唐沢山城を囲む。しかし、北条氏は引いて、これを押す上杉氏は南下した。さらに上杉氏は進出して、常陸の小田城や下総の白井城まで進出している。関東地方の中央部を主な舞台とした戦乱は、これに甲斐の武田氏に加わり、戦国大名の戦乱となり、下野の諸将も巻き込まれることになる。戦国末期には豊臣氏により天下統一が進められ、最後の小田原攻めの際に秀吉に協力して、この政権のもとで一大名となる。

下野近傍の動向では、上杉氏や常陸の大半を領域に入れた佐竹氏も下野に勢力拡張を図り、戦乱の状況は激化していった。上杉氏は、永禄元年(1558)には宇都宮領南の多功まで進出してきた。一方、宇都宮氏は上杉氏と組みすることもあり、永禄6年(1563)に宇都宮広綱は常陸の佐竹氏と結び、上杉氏の小山攻めに加わっている。小山城は落ちて、小山秀綱は謙信に降伏した。これにより小山氏の北上を阻止することになっていく。

北条氏も下野に進出し、天正期には下野南部から中央部に進み、元亀3年(1572)に北条氏政に対して、佐竹氏が上三川の多功原で敗れた。宇都宮氏の領地に迫る北条氏に対して、宇都宮氏は天正5年(1577)に結城氏などととも謙信に出兵を要請した。

次に、下野国内での諸勢力をみてみると、その東部・北部に那須氏、中央部に盤踞する宇都宮氏、南部には小山氏が勢力を張っていた。その他にも北部に大田原氏・大関氏、宇都宮氏の周囲には壬生氏・西方氏・皆川氏、南東部の芳賀郡域には益子氏や芳賀氏、安足地域には長尾氏・佐野氏が勢力を延ばしていた。国の南北の三大勢力とその他の中小勢力による地域支配、地域領有がなされていた。

このうち、芳賀氏は鎌倉時代から宇都宮氏と強いつながりを持っていたが、室町時代になると、宇都宮氏と姻戚関係を持って、宇都宮氏の一族と化していった。その勢力の増大によって、宇都宮氏に対抗する勢力になった。16世紀後半には芳賀氏と宇都宮氏の間で抗争が起きていた。

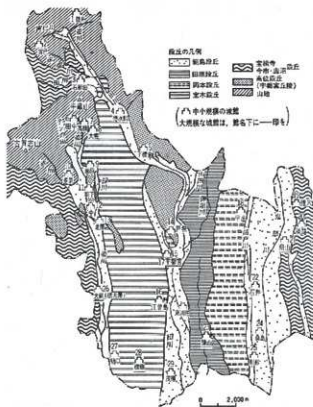
次に、宇都宮氏と血縁関係や主従関係にある氏をみると、南は上三川、益子、西は西方、北は塩谷、東は祖母井までに及び下野中央部から南部、常陸の一部までになる。「関東八州城の覚え」には戦国期宇都宮氏配下の主要な城が列挙されており、これが宇都宮氏配下の主要国人といえる。

宇都宮周辺の城館は東が鬼怒川に面する段丘に築かれ、中央部では南北に流れる田川流域、西側では姿川流域に多い。東側では南から刑部城・桑島城・石井城・平出城と直線的に配置されている。宇都宮氏は宇都宮城を中心に益子城・多功城などを同心円状に配置していたのである。

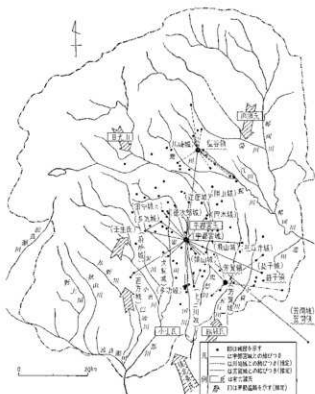
さらに、周辺の遺跡分布図に示したように、宇都宮市域には、中近世の城跡などが多数確認されている。平出城を含めてこれらが相互に関連していたと考えられる。

主要参考文献

宇都宮市史編さん委員会 1981『宇都宮市史 中世通史編』

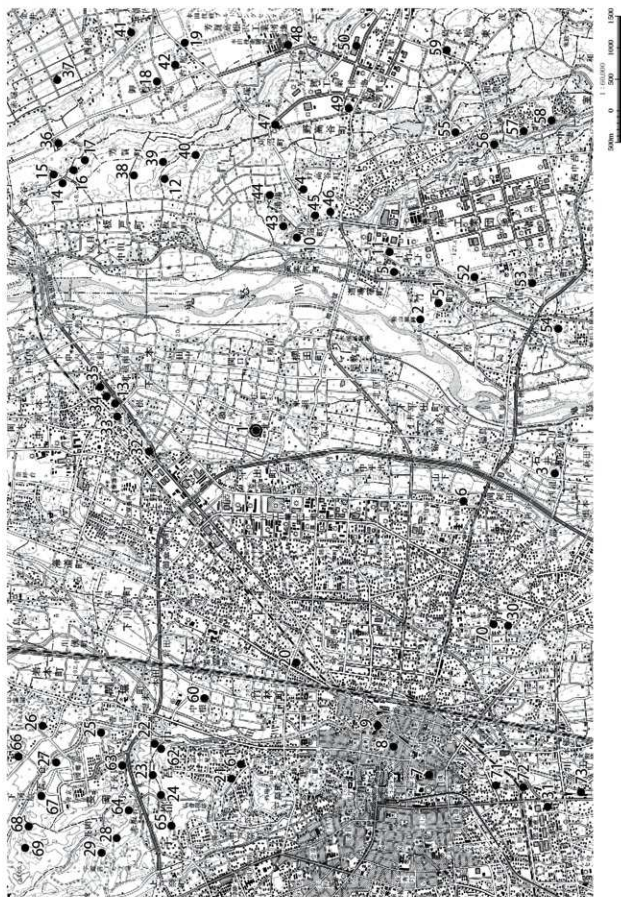


第4図 宇都宮市内の城館の位置



第5図 宇都宮城と宇都宮一族の支城との結びつき

第4・5図は『宇都宮市史 中世通史編』転載



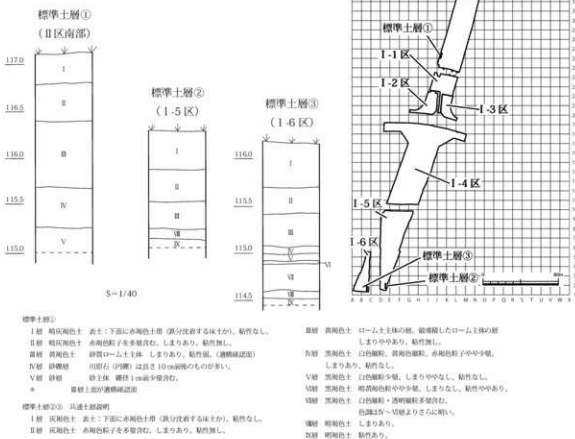
第6図 厩辺の遺跡地区

第1表 平出城周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	種別	時期(型式)	備考
1	平出城跡	平出町1512地	城郭跡	室町	
2	横山城跡	竹下町300-6地	城郭跡	室町	
3	石井城跡	石井町1721地	城郭跡	室町	
4	野高谷奈原寺遺跡	野高谷町657地	墓域	中世・近世	
5	同慶寺遺跡	竹下町167地	城郭跡	室町	
6	山下台高塚群	下平出町1919-1地	高塚	江戸	円形高塚2
7	宇都宮城跡	本丸町1番地	城郭跡	鎌倉～江戸	
8	おしどり塚	一番町1-11地	塚跡	鎌倉	
9	横矢の墓	大塚町3-116地	墓石	鎌倉	
10	鉄砲場の墓	河沼町469地	城郭跡	室町	
10	江戸小高塚	蓮華町22地	高塚	江戸	
12	不動山供養塚	飯戸町2620-1地	供養塚	江戸	
13	古飯塚高塚	飯戸町1711地	高塚	江戸	
14	鷹ノ谷A遺跡	宝積寺子藪ノ谷	敷布地	中世・近世	板碑
15	鷹ノ谷B遺跡	宝積寺子藪ノ谷	塚	中世・近世	
16	鷹ノ谷C遺跡	宝積寺子藪ノ谷	塚	中世・近世	正面に伊太夫様の祠
17	鷹ノ谷D遺跡	宝積寺子藪ノ谷	敷布地	縄文・古墳・中世・近世	内耳土器
18	竹の原A遺跡	上高塚沢中央の原	敷布地	縄文・中世・近世	
19	土の原A遺跡	上高塚沢北の原	敷布地	縄文・中世・近世	内耳土器
20	土の原B	今泉町387-3地	高塚	江戸	方形の塚 一部削平
21	人部家跡群	山本町544-2地	竈跡	江戸	竈2 平塚
22	榎ノ山供養塚群	長岡町174-5地	供養塚	江戸	供養塚4 1号は古墳の可能性あり
23	南加伊養塚群	長岡町786-7地	供養塚	江戸	供養塚4
24	長山伊養塚群	長岡町793-5地	供養塚	江戸	供養塚4 「文政7年」銘後中世
25	谷口山権現所供養塚群	長岡町1236地	供養塚	江戸	塚12 1号に墓
26	芝ノ原跡	五谷町66地	城郭跡	鎌倉	土器・堀一部残存
27	谷津山遺跡	五谷町1646地	高塚	江戸	円形高塚6 方形高塚1
28	権現山供養塚群	長岡町327地	供養塚	江戸	
29	道半塚供養塚群	長岡町358-2地	供養塚	江戸	供養塚5
30	宇太南第二遺跡	平松本町	集落跡	縄文～鎌倉	
31	藤南1丁目遺跡	藤南1-2-401地	集落跡	奈良～鎌倉	
32	第一公園東遺跡	下岡本町	縄文(加勢利王)		
33	第二公園南遺跡	下岡本町	縄文(加勢利王)		
34	日枝神社南遺跡	下岡本町	敷布地	先縄文	
35	岡本小学校遺跡	下岡本町	敷布地	縄文(後期)	
36	右の原A遺跡	上高塚沢右の原	敷布地	縄文	打石・磨石 石臼:右の原遺跡
37	右の原B遺跡	石臼沢～右の原	敷布地	縄文(中～後)・奈良	
38	中央遺跡	飯戸町3429地	古墳	縄文	
39	山田遺跡	飯戸町3463地	集落跡	縄文・古墳	
40	不動遺跡	飯戸町3060地	集落跡	縄文	
41	西内遺跡	上高塚沢字西倉・大塚内池	敷布地	打石器・縄文(前～後)	西内A、19-19号人口遺跡を含む
42	右の原C遺跡	上高塚沢右の原	敷布地	縄文	
43	藤守林西遺跡	河沼町552-1地	集落跡	縄文・奈良	
44	河沼池南遺跡	野高谷・河沼	敷布地	縄文・古墳時代以降	
45	河沼中河遺跡	河沼町269-11地	集落跡	縄文・古墳	
46	河沼跡	河沼町482-1地	集落跡	縄文・古墳	
47	A塚遺跡	下高塚沢字A塚	集落跡	縄文	
48	B塚遺跡	下高塚沢字B塚	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	
49	野高谷北台遺跡	野高谷町1135地	集落跡	縄文・古墳	
50	下原遺跡	下高塚沢字下原	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	
51	竹上遺跡	竹下町712地	集落跡	縄文・古墳	
52	竹下原遺跡	竹下町1412地	集落跡	縄文・古墳	
53	鎌山東原遺跡	鎌山町191-1地	集落跡	縄文・奈良	
54	草薙下遺跡	鎌山町草薙坂1672地	集落跡	縄文	
55	久久遺跡	草薙字久久坂・古御2900	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	
56	赤宝寺・南遺跡	赤宝町1741-1地	集落跡	縄文・奈良	
57	白内遺跡	赤宝町705-8地	集落跡	縄文・奈良	
58	鬼の内遺跡	水原町1912-1地	集落跡	縄文・古墳	
59	蟹の木原遺跡	東水原字蟹の木原	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	
60	蟹之内遺跡	笠原町658-1地	集落跡	縄文	
61	仏面遺跡	山本町443地	集落跡	縄文	
62	田向遺跡	長岡町360地	敷布地	縄文・古墳	
63	長岡古穴南遺跡	長岡	集落跡	縄文・奈良・平安	
64	石穴遺跡	長岡町360地	集落跡	縄文・古墳	
65	松ノ丘遺跡	戸部町360地	集落跡	縄文・古墳	
66	管理屋敷遺跡	五谷町596-3地	集落跡	縄文・古墳	
67	瓦塚・轟北久保遺跡	五谷町1522地	集落跡・高塚	縄文・古墳	方形高塚
68	次の上遺跡	五谷町1345地	集落跡	縄文・古墳	竈跡
69	飯俣遺跡	五谷町120地	集落跡	縄文・古墳	
70	宇太南遺跡	平松本町	集落跡	縄文～奈良	
71	里塚遺跡	西原町189-3地	集落跡	縄文	
72	藤南庄付近A遺跡	西原町	集落跡	縄文・古墳	
73	西原東遺跡	河沼町3511地	集落跡	縄文・古墳～平安	

第3節 標準土層

第7図に示した3地点から採取し、以下に図示した。標準土層①は、微高地上の平坦面、Ⅱ区南端部の調査区西壁際で採取した。標準土層②・③は微高地から低地に移る地点を選んだ。標準土層②はⅠ・Ⅴ区の南端部、標準土層③はⅠ・Ⅵ区南端部にあたる。Ⅰ層は暗灰褐色もしくは灰褐色を呈し、鉄分を多く含む。Ⅰ層底面の硬化面は床工と考えられる。微高地では層厚30cm程だが、Ⅰ・Ⅵ区では50cm近い。Ⅱ層は色調はほぼ同じだが、赤褐色粒子を多く含みしまりが強い。旧耕作土であろうか。基本的に遺構確認面はⅢ層の上面となる。微高地ではⅣ層以下が砂礫層になる場合が多いが、部分的には遺構確認面からすでに砂礫層が露出している区域もある。これに対し、Ⅰ・Ⅴ・Ⅰ・Ⅵ区では、砂礫層は確認されていない。このようにⅢ層以下の堆積状況は微高地と低地付近では大きなばらつきがある。

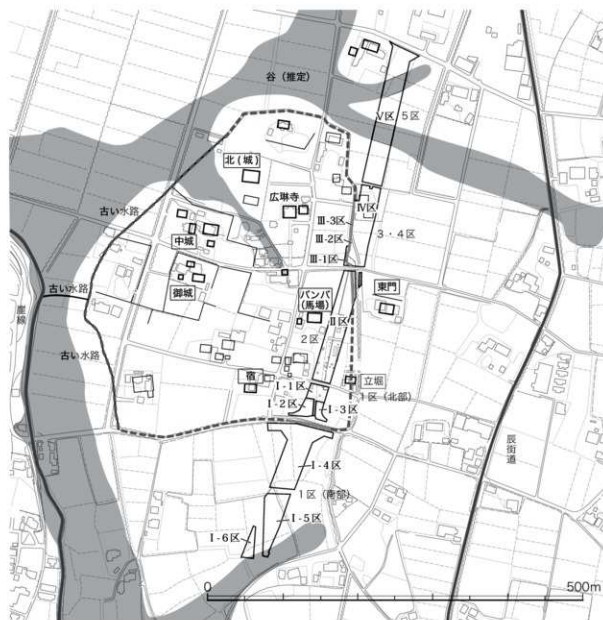


第7図 標準土層と採取位置図

第3章 調査の成果

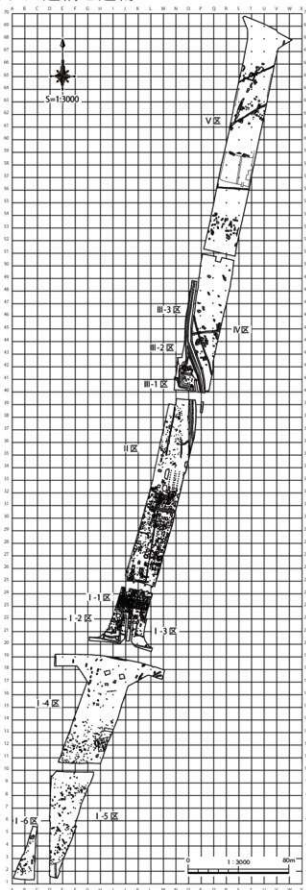
第1節 遺跡の概観

平出城跡は前述のとおり、県道のバイパス建設に伴い、平成21(2009)年度から平成29(2017)年度にかけて本調査を実施した。今回の調査が平出城跡に入った最初の発掘調査である。周囲は外堀の痕跡を色濃く残す水路が巡っており、冬場でも水量は豊富である。現状では寺院・宅地・水田・畑地などに利用されている。推測される城域は南北約420m、東西約350mで、その面積は10万㎡弱に及ぶ。今回の一連の発掘調査面積は約20,000㎡だが、このうち城域内は約6,000㎡であり、城域全体の6%を発掘調査したこととなる。遺跡は中世後半から江戸時代にかけての遺構・遺物を主体としている。少量ではあるが、14世紀代の陶磁器破片や縄文時代の遺物も確認されている。以下、調査区ごとに代表的な遺構をもとに記載することとしたい。

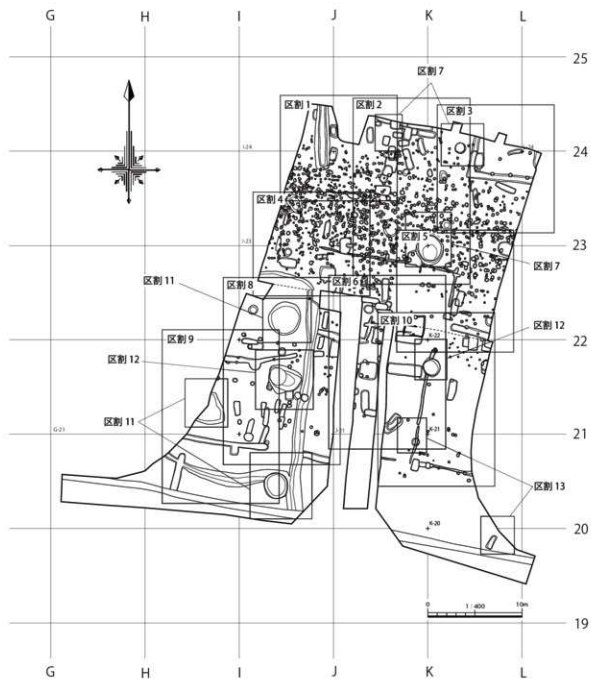


第8図 平出城の推定範囲と発掘調査区

第2節 確認された遺構と遺物



第9図 平出城跡遺跡全体図



第10図 1-1・1-2・1-3区 区劃配置図

調査I区北部（I-1区、I-2区、I-3区）

これらの調査区は東西に走る県道の北部に位置し、互いに境を接している。本来I区北部と括るのが簡潔だが、平成21年度と23年度の足かけ3年にわたり調査を実施し、各調査区で新たに遺構番号を発番している。このため基本的に遺構番号の前に調査時の区分けを付けて報告することとする。I区北部はその大半が微高地上の平坦面に位置し、緩やかに南に傾斜している。I-1区中央部は最も遺構密度が高い区域と言える。特に小穴（ピット群）が目立つ。I-2区・I-3区はピットの数こそI-1区に比べ少ないが、井戸・方形竪穴遺構・地下式墳などの様々な遺構が認められる。また調査区南端部には埋没谷が認められ、この区域に近づくとも遺構密度が減少する傾向がある。I区北部で確認された遺構は、方形竪穴遺構4棟、地下式墳1基、井戸跡7本、溝16条、土坑156本、ピットは約1030基である。主要な遺構ごとに概略を記す。

方形竪穴遺構（4基）

I-1区 SK-006（遺構：第17図 写真図版六）

調査区南部のJ-21グリッド内に位置する。北2mには方形竪穴遺構SK-008が近接する。規模は一辺約1.9m四方の正方形で、確認面からの深さは0.3m～0.33mである。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。北西コーナーに0.4m四方の範囲で深さ0.1m程の浅い掘り込みが見られる。北東コーナーは直角をなすが、他のコーナーは丸みを帯びる。覆土はレンズ状の堆積が認められ自然体積と判断した。壁際及び南壁際の中央部にピットを持つ。床面からの深さはP1が約12cm、P2が22cmで、柱痕等は確認できなかった。遺物は確認できなかった。西側で切り合う長方形土坑（SK-005）より新しい。北壁西寄りの張り出しは、本遺構に伴う可能性もあるが明確にはできなかった。

I-1区 SK-008（遺構：第17図 写真図版六）

調査区南部のJ-21・J-22グリッド内に位置する。南2mには方形竪穴遺構SK-006が、東約2mにはSK-013がそれぞれ近接する。東半部が調査区外のため、南北1.62m、東西残存長1.12m（復元長さ1.6～1.8m）の方形もしくは長方形を呈するものと思われる。確認面からの深さは0.23～0.27mである。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。北西・南西コーナーは概ね直角をなす。覆土は自然体積と判断した。壁は概ね垂直に立ち上がる。北壁及び南壁の中央部にピットを持つ。床面からの深さはP1が約0.32m、P2が0.20mの深さを有する。P2は段を有するが、いずれも柱痕等は確認できなかった。遺物は床面直上から礫2点が出土したが、いずれも未加工の円礫であり、図示しなかった。

I-1区 SK-013（遺構：第17図 写真図版六）

本遺構は調査区南部のJ-22グリッド内に位置する。西2mには方形竪穴遺構SK-008が近接する。南半部がI-3区に及ぶため、年度を跨ぎ調査を行った。若干歪むが平面形は一辺約2.2mの方形を呈する。確認面からの深さは20cm程である。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。壁は概ね垂直に立ち上がる。南西コーナーを除く壁際に幅0.10～0.15m、深さ0.1m程の壁溝が巡る。覆土は自然体積と判断した。北壁及び南壁の中央部にピットを持つ。床面からの深さはP1が約0.22m、P2の深さは0.2cmである。柱痕等は確認できなかった。覆土中からは遺物は確認できなかった。南西コーナー及び南壁はI-3区SK-015及びSK-021と切り合うが、重複関係は不明である。近接する方形竪穴遺構群の中ではやや大型の部類である。

I-1区 SK-041（遺構：第15図 写真図版五）

本遺構はI-22、J-22グリッド内に位置する。西南6.5mには方形竪穴遺構SK-008がある。平面形は東西1.6～1.7m、南北1.66mの概ね方形を呈する。東辺は弧状に膨らみを持つが、他は直線的である。確認面

からの深さは0.50mとやや深い。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がる。南壁やや西寄りの位置に、幅0.37m奥行き0.23mの半円形の掘込みがみられる。覆土は最下層(7層)に炭化物を含む層が認められ、その後の堆積は人為埋め戻しと判断した。覆土中からは遺物は確認できなかった。重複関係はSK-042より新しい。方形竪穴遺構と考えたが、小型の地下式塚の可能性もある。

井戸跡

I-1区 SE-076 (遺構：第18図 遺物：第101・121図 写真図版四)

I-1区北部のK-23・24グリッド内に位置する。重複遺構無し。東にSD-075が近接し、西南約9mにはI-1区SE-035がある。平面形は径1.2m程の概ね円形を呈する。形状は筒状で、壁は概直線的に立ち上がる。確認面から1mまで掘り下げた時点で調査終了したため、以下の状況不明である。覆土は礫や砂粒を多く含む、暗褐色土及び黒褐色土を主体としており、人為埋め戻しの可能性が高い。遺物は覆土中から内耳土器片7点、土師器小皿1点、砥石1点が出土し、このうち7の土師質土器小皿(7)、砥石(234)を図示した。

I-1区 SE-035 (遺構：第18図 遺物：第110・121図 写真図版四)

I-1区北部のJ-22・23、K-22・23グリッドに位置する大型の井戸跡。東にSD-075が近接し、北東約9mにはI-1区SE-075が位置する。SK-034及びSD-031との重複関係は不明。平面形は径3.0～3.2m程の概ね円形を呈す。壁は凹凸が多く、特に東壁のオーバーハング部分は埋没過程で崩落した可能性が高い。確認面から2m程掘り下げた時点で調査を終了したため、以下の状況は不明である。覆土はローム土・礫・砂粒を多く含む黒色土および暗灰色土を主体とし、薄く互層をなし堆積する。自然堆積と考えられる。遺物は覆土中から内耳土器、土師質土器小皿、砥石、陶磁器片、石白などが出土し、このうち陶器片(105・106)2点と砥石(231)1点の計3点を図示した。

I-2区 SE-001 (遺構：第24図 写真図版六)

I-2区南部のI-20グリッド内に位置する。SD-004およびSD-002より古い。北西7mにSE-007が、北8.2mにはI-2区SE-006がある。平面形は南北2.77m東西2.56mの楕円形を呈する。形状は筒状で、壁は概ね垂直に立ち上がる。確認面から2.2mまで掘り下げた時点で調査を終了したため以下の状況は不明である。覆土は礫・砂粒・ローム土を多く含む、暗褐色土及び灰褐色土を主体とする。人為埋め戻しか自然埋没かは断定できなかった。覆土中から遺物は確認できなかった。

I-2区 SE-003 (遺構：第24図 遺物：第104・113・123～127図 写真図版六・七)

I-2区南部のI-22グリッド内に位置する。重複する遺構は無い。南3mにはI-2区SE-006が、北東3.8mにはI-1区SK-041(方形竪穴遺構)がある。平面形は南北3.5m東西3.3mの楕円形を呈する。壁はやや凹凸があるがほぼ垂直に立ち上がる。確認面から1.6m程掘り下げた時点で調査を終了したため以下の状況は不明である。覆土は大型の礫・砂粒・ローム土を多く含む、暗褐色土を主体とする。覆土には礫や遺物が多く含まれるため埋め戻しと同時に廃棄したものと考えられるが、10・11層は壁の崩落土との所見がある。覆土中からは、土師質土器小皿、内耳土器、瓦質土器、磁器、磁器、石白、五輪塔、砥石など、多種の遺物が出土し、このうち内耳土器(76～81)瓦質土器(166・167)温石(249)石白(254～262、264)石鉢(263)灯明具(265)の計21点を図示した。

I-2区 SE-006 (遺構：第25図 遺物：第101・107・130図 写真図版七)

I-2区中央部のI-21グリッド内に位置する。SK-067、SK-102と切り合うが重複関係は不明である。東のSD-002に近接する。北東3mにはI-2区SE-003が、西5.5mにはSE-007がある。平面形は長軸(東西)3.4m、短軸(南北)3.0mの不整な楕円形を呈する。円筒状を呈する西半部は、確認面から2.3mの深さま

で掘り下げている。張り出し状を呈する東半部は、壁面が崩落したのか、あるいは入口状の施設と考えることもできるが、別遺構の可能性もある。覆土は、下層にロームブロック主体の壁崩落土や砂礫主体の層など主に自然堆積の状況が確認されるが、上層は人為埋め戻しと考えたい。遺物は土師質土器小皿（12・13・14）内耳土器（94）、五輪塔（284）等計4点を図示した。

1-2区 SE-068（遺構：第19・20図 写真図版七）

1-2区の1-22グリッド内に位置する。重複する遺構は無い。東1.3mには大型の井戸1-2区SE-003がある。平面形は1.0m×0.91mの概ね円形を呈する。壁はやや凹凸があるがほぼ垂直に立ち上がる。確認面から1.8m程掘り下げた時点で調査を終了したため、以下の状況は不明である。断面図は崩落のため記録できなかったが、ローム粒粒子・礫を含む暗褐色土を主体とする自然堆積と考えた。覆土中からは陶器片が1点出土したが、図示し得なかった。

1-3区 SE-013（遺構：第25図 写真図版八）

1-3区北部のK-21グリッド内に位置する。SD-018より新しい。北西2.5mには1-1区SK-013（方形竪穴遺構）が、北10mには1-1区SE-035がある。平面形は径1.7～1.8mの円形を呈する。壁は西部から北部にかけて若干オーバーハングするが、他はほぼ垂直に立ち上がる。確認面から1.5m程掘り下げた時点で調査を終了したため以下の状況は不明である。覆土は礫・砂粒・ローム粒子を含む黒褐色土を主体とし、概ね自然堆積と思われる。覆土中からは、土師質土器小皿、内耳土器等の小破片が少量出土したが、図示可能な遺物は確認できなかった。

地下式墳

1-2区 SK-007（遺構：第24図 遺物：第121図 写真図版七）

1-2区西部のH-21グリッド内に位置する。重複する遺構は無い。南3mには1-2区SE-006が、北東3.8mには1-1区SK-041（方形竪穴遺構）がある。西半部は調査区外となる。残存部は南北3.5m、東西3.3mの不整な三角形状を呈する。壁面は崩落のため凹凸が目立つ。1.3mほど掘り下げた時点で調査を終了したため以下の状況は不明である。覆土は礫・砂粒などの混入物が多く、いずれも自然堆積と判断した。8～10層を天井崩落土、11層以下は天井崩落以前、1～7層は天井崩落後の流入土としていることから、遺構東端部が開いていた竪坑部と考えられる。遺物は少なく、覆土中から砥石（236）1点が出土しこれを図示した。調査時は井戸（SE-007）としたが、地下式墳の可能性が高いと判断し、ここに記載した。

墓塚

1-1区SK-089（遺構：第19図 写真図版五）

1-1区北部の1-22グリッド内に位置する。重複する遺構は無い。東6.5mには1-2区SE-006が、北東3.8mには1-1区SK-041（方形竪穴遺構）がある。平面形は南北1.0m東西0.72mの長方形を呈する。主軸方向はN-15°-Eで、確認面からは1.64mと深く掘り込まれる。覆土は灰黄色の砂質土を主体とし、一括で埋め戻している。底面付近から人骨が一体確認された。人骨の遺存状況は良好では無かったが、頭蓋骨、腕（上腕骨・頭骨）及び足（大腿骨・頸骨）の状況から、人骨は頭部を北向きにし、膝を抱え込むような状態で埋葬したものと考えられる。釘や木質・副葬品等の出土遺物は確認できなかったため、桶に入れず直接埋葬した可能性が高い。詳細な年代は不明だが、近世墓と考えられる。周辺からは類似した遺構は確認されなかった。なお人骨の理化学的な鑑定は実施していないため、被葬者の性別・年齢などは不明である。

土抗

Ⅰ-1区 SK-017 (遺構：第17図 遺物：第101・121図 写真図版五)

Ⅰ-1区西部のJ-22グリッド内に位置する。SK-015、016、017、018と重複し、これらの遺構全てより新しい。南2mにはⅠ-1区SK-00 8が、東3mには方形竪穴遺構Ⅰ-1区SK-013がある。平面形は東西1.44m、南北0.7mの隅丸長方形で、深さは20cm、壁面はほぼ垂直に立つ。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は土師質土器小皿、砥石、内耳土器破片があり、このうち土師質土器小皿(1・2)、砥石(235)の計3点を図示した。

Ⅰ-1区 SK-025 (遺構：第16図)

Ⅰ-1区西部のJ-22グリッド内に位置する。SD-030に近接。SK-026より古い。平面形は長軸1.77m、短軸0.72mの隅丸長方形で、深さは0.27m、壁面はほぼ垂直に立つ。覆土は2層に分層可能。人為埋め戻しと思われる。遺物は土師質土器小皿小破片1点、内耳土器小破片1点があるが図示し得なかった。

Ⅰ-1区 SK-049 (遺構：第15図 写真図版六)

Ⅰ-1区西部のJ-22・J-23グリッド内に位置する。SD-049と切合うが前後関係は不明。南1.8mにはⅠ-1区SK-041がある。平面形は長軸1.62m以上、短軸1.10mの不整な長方形で、深さは0.24cmである。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は土師質土器小皿破片6点、内耳土器破片2点があるが、いずれも図化し得なかった。

Ⅰ-1区 SK-058 (遺構：第11図 遺物：第101・108・116・121図 写真図版五)

Ⅰ-1区西部のI-23グリッド内に位置する。ピット状の土抗。SK-059より古い。北2.1mにはⅠ-1区SK-094がある。平面形は東西0.4m南北0.3mの不整形で、深さは0.36cmである。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は土師質土器小皿17点、内耳土器18点、砥石1点、鉄製品1点があり、このうち土師質土器小皿(3・4・5)、内耳土器(96)、鉄製品(194)、砥石(232)を図示した。

Ⅰ-1区 SK-066 (遺構：第12・13図 写真図版五)

Ⅰ-1区西部のK-23・24グリッド内に位置する。SK-096より古く、SK-065より新しい。北西にはⅠ-1区SK-089が近接する。主軸方向はN-3°-Eである。平面形は長軸1.48m、短軸0.78mの隅丸長方形で、深さは0.13mと浅い。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は土師質土器小皿破片2点が出土したが、図化可能な遺物は無かった。

Ⅰ-1区 SK-074 (遺構：第14図 遺物：第120図 写真図版四)

Ⅰ-1区東部のK-23グリッド内に位置する。SD-075と重複するが切合い関係は不明である。西1.2mにはⅠ-1区SE-076が近接する。東3mには方形竪穴遺構Ⅰ-1区SK-013がある。平面形は東西1.44m、南北0.7mのやや不整な隅丸長方形で、深さは20cm、壁面はほぼ垂直に立つ。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は古銭(熙寧元宝223)が1点出土し、これを図示した。

Ⅰ-1区 SK-092 (遺構：第11図 遺物：第101図)

Ⅰ-1区東部のI-24・J-24グリッド内に位置する。重複遺構なし。SD-094に近接。平面形は長軸1.39m、幅0.80mのやや不整な隅丸長方形で、深さは0.3mである。壁面は直線的に立つ。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は覆土中より土師質土器小皿破片2点、内耳土器破片2点が出土し、このうち土師質土器小皿(8)を図示した。

Ⅰ-3区 SK-025 (遺構：第22・26図 遺物：第101図 写真図版八)

Ⅰ-3区東部のJ-20グリッド内に位置する。SD-026より古い。平面形は径0.8m程のやや不整な円形を呈

し、深さは1.03 mと深い。壁面はほぼ垂直に立つ。覆土は黒色土主体でレンズ状堆積がみられるが、人為埋め戻しの可能性がある。底面からは円礫と共に投棄されたような状態で、土師質器小皿(15・16)2点が出土しており、これら2点を図示した。

Ⅰ-2区 SE-060 (遺構：第19図)

Ⅰ-2区中央部の121グリッド内に位置する。北1.3 mにSE-003がある。SD-055と南部が接するが重複関係は不明。平面形は不整な円形を呈し、長軸0.86 m、短軸0.79 m、深さは0.25 mである。覆土は崩落のため土層観察ができず不明であった。遺物は陶器1点が出土したが図示し得なかった。

Ⅰ-2区 SK-061 (遺構：第19・20図 遺物：第110図 写真図版七)

Ⅰ-2区122グリッド内に位置する。重複遺構は無い。北2 mにはⅠ-2区SE-068が、東3.8 mにはⅠ-2区SE-060が近接する。平面形は長軸0.50 m、短軸0.42 mのやや不整な円形で、深さは0.27 mである。壁面はほぼ垂直に立つ。覆土は柱痕跡と裏込め(埋戻し)に分層できた。遺物は陶器小環(113)が覆土中から出土したが、出土層位は確認できなかった。

Ⅰ-2区 SK-096 (遺構：第19・20図)

Ⅰ-2区東部の122グリッド内に位置する。重複遺構はない。Ⅰ-2区SD-002、SD-091に近接する。平面形は長軸1.81 m、幅0.52 mの隅丸長方形で、深さ0.3 mである。壁面は直線的に立つ。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は覆土中より内耳土器・土師質土器小皿小破片が出土したが、図示し得なかった。

溝跡

溝跡は計16条が確認された。主軸方向をみると、南北方向の溝は最も規模の大きいSD-094はほぼ南北方向だが、その他の溝は北北東から南南西にかけ僅かに主軸が傾いている。これに対し東西方向の溝は東西のもの無く、殆どが西北西から東南東方向に主軸が傾いているのが特徴である。以下主要な溝について記述する。

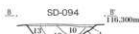
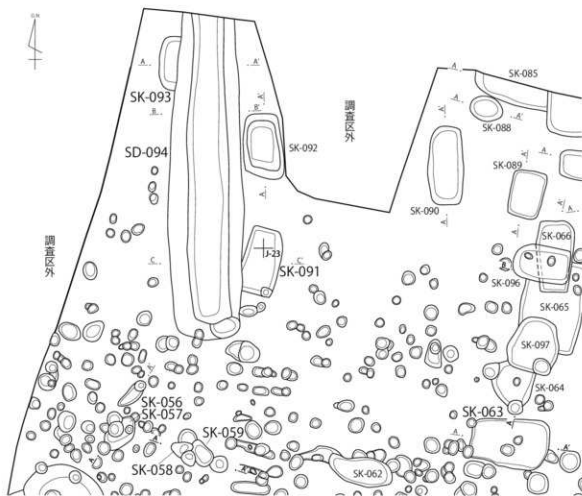
Ⅰ-1区 SD-094 (遺構：第11図 遺物：第101・109図 写真図版四・五)

Ⅰ-1区北西部の123・124グリッド内に位置する。長方形土坑SK-091、SK-093より新しい。北部が調査区外のため不明であるが、残存部の長さは6.88 mを測る。上幅は北部では1.1 mと細いが南部は1.6 mとやや幅が広い。溝南端部の両隅は丸みをおびている。深さは確認面から1.1 mである。溝の下幅は0.4～0.6 m程で壁面は直線的に立つ。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は覆土中より内耳土器や土師質土器小皿小破片が出土し、このうち土師質土器小皿(6)と内耳土器(97)を図示した。

Ⅰ-2区 SD-002・Ⅰ-1区 SD-043 (遺構：第15・19・20図)

Ⅰ-1区南端部からⅠ-2区南部にかけての121・22・23グリッド内に位置する。重複関係はSE-001より新しく、SK-069・070より古い。またⅠ-3区南部のSD-004との切合いは明らかにできなかったが、本遺構と同一の遺構と考えることもできよう。

溝の平面形は北部で若干細くなり、西へ曲がったのちⅠ-1区の調査区外へ延びる。規模は南北約24 mに及ぶ。上幅は南端部で最大1.6 m、最も狭い部分は0.6 mだが、平均1.2 m程の幅を有する部分が多い。断面形は薄い皿状を呈しており、深さは最深部でも0.3 m程と浅い。北部Ⅰ-1区SD-043の南の肩部分は確認できなかった。覆土は黄褐色微粒子を含む単層で、粘性が強い。覆土中からは石白破片や内耳土器破片等が少量出土したが、図示できる遺物はなかった。



SK-091

1. 黒色土 ローム粒 (1~5mm) 少量含む。しまり強。

SK-093

1. 黒色土 ローム粒 (1mm) 多量、下部にロームブロック含む。しまり強。

SD-094

1. 黒色土 下部にローム粒 (1mm) 若干含む。しまり強。

2. 黒色土

ロームブロック・ローム粒 (2~10mm) 散在的に含む。しまり強。

3. 黒色土

ローム粒 (1mm) 少量含む。しまり強。

4. 黒色土

ローム粒 (1mm) 散在的に多量、炭化物少量含む。しまり極めて強。

5. 黄褐色土

ローム粒 (2~5mm) 多量含む。しまり強。

6. 黄褐色土

ローム粒 (1mm) 多量含む。しまり強。

7. 黄褐色土

ローム粒 (5mm) 散在的に少量含む。しまり強。

8. 黄褐色土 ソフトローム中に褐色土が少量混入。しまり強。

9. 黒色土

ローム粒 (2mm) 多量含む。しまり強。

10. 黄褐色土

ロームブロック (50mm)・ローム粒 (1~7mm) 多量含む。

11. 黄褐色土

ロームブロック (10mm)・ローム粒多量含む。しまり強。

12. 黒色土

ローム粒 (1~2mm)・炭化物 (1~5mm) 少量含む。しまり強。

13. 黒色土

ロームブロック (20mm)・ローム粒少量含む。しまり強。

14. 黄褐色土

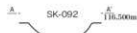
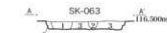
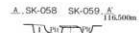
ロームブロック (5cm) 主軸。ローム粒 (1~3mm)・褐色土含む。

15. 黒色土

ローム粒 (1mm) 少量、礫 (10cm) 含む。しまり強。

16. 黒色土

ローム粒 (1~5mm) 多量、炭化物 (5mm) 少量含む。しまり強。



SK-058

1. 黄褐色土 ローム粒 (5mm)・礫 (1~2cm) 少量含む。しまり極めて強。

2. 黄褐色土

ローム粒 (1mm) やや多量含む。しまり極めて強。

SK-059

1. 黒色土 ロームブロック (1~2cm) 少量含む。しまり弱。

SK-063

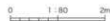
1. 暗褐色土 ロームブロック (5~20mm) 多量含む。しまり強。埋戻し。

2. 黒褐色土

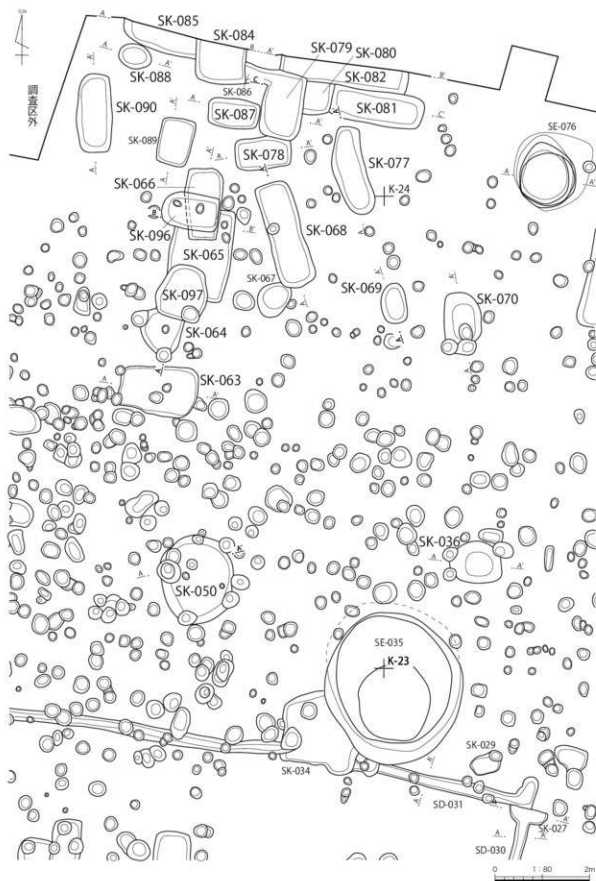
ローム粒 (5mm) 少量含む。しまり弱。埋戻し。

3. 褐色土

ローム粒 (1mm) やや多量。ロームブロック (1~2cm) 少量含む。しまり強。埋戻し。

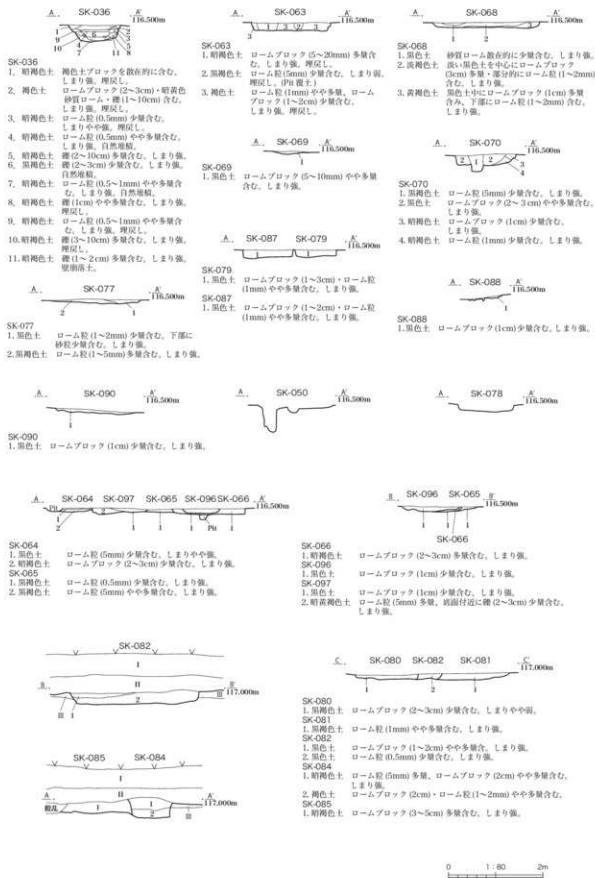


第11図 1-1区 区割1

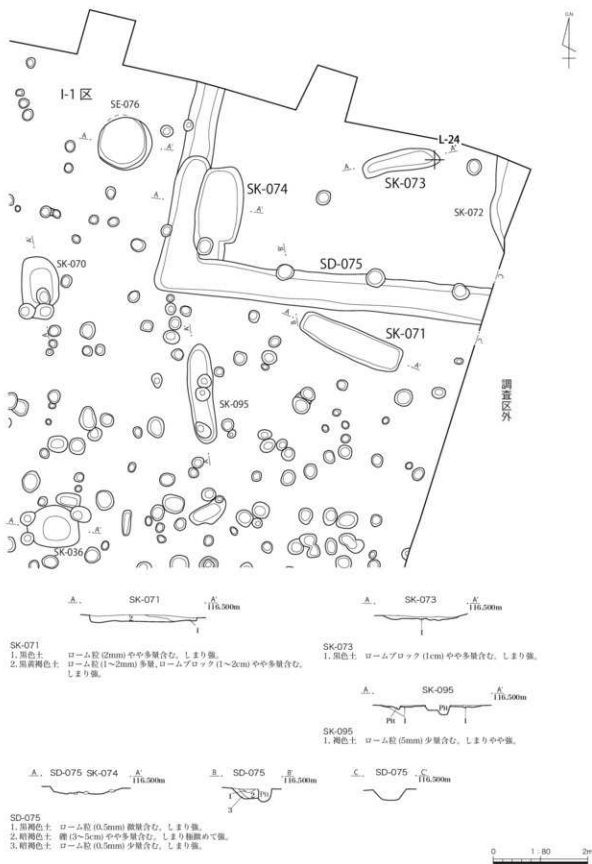


第12図 Ⅰ-Ⅰ区 区割2

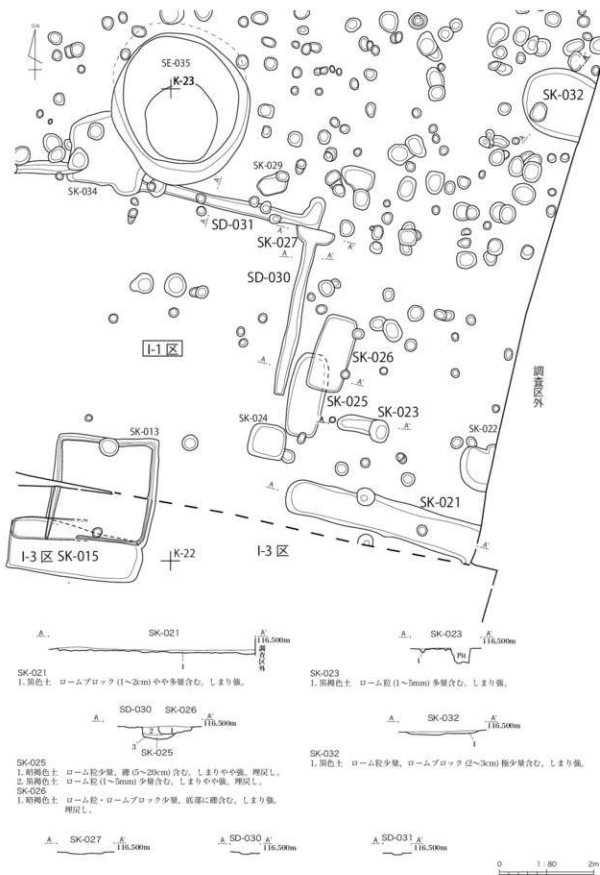
第3章 調査の成果



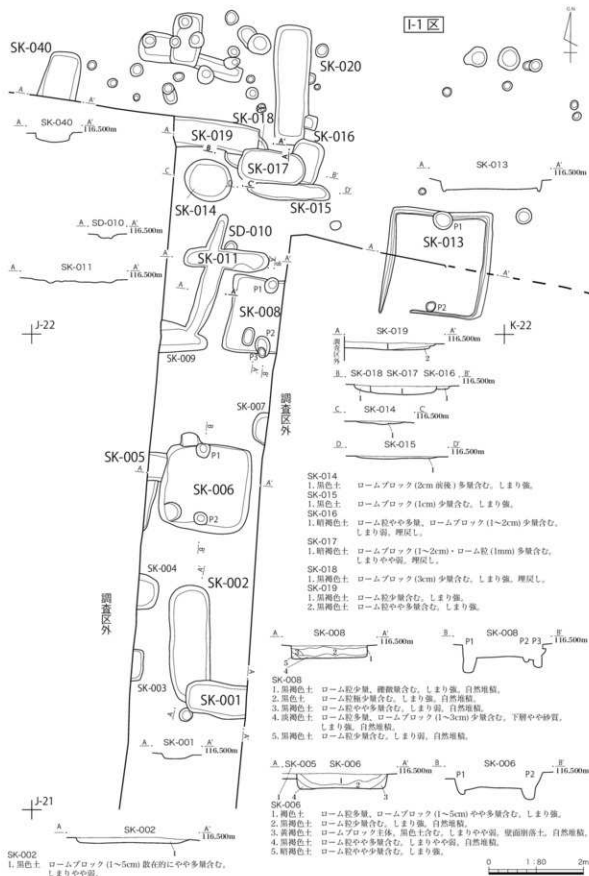
第13図 1-1区 区劃2断面図



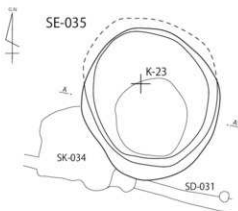
第14図 I-1区 区割3



第16図 I-1区 区割5

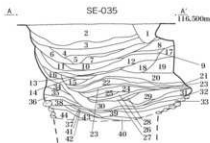


第17図 I-1区 区割6

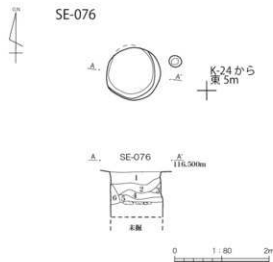


SE-035

1. 黒色土
2. 黒色土 雑(5~80mm)多量、ローム粒(2mm)含む。しまり弱。
3. 黒色土
4. 暗褐色土
5. 黒色土
6. 黒色土
7. 黒色土
8. 暗褐色土
9. 黄褐色土
10. 黒色土
11. 暗黒色土
12. 黒色土
13. 黒褐色土
14. 黒色土
15. 黒色土
16. 暗褐色土
17. 褐色土
18. 黄褐色土
19. 灰黄色土
20. 黒色土

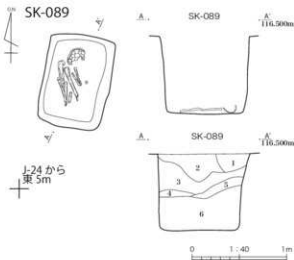


21. 暗褐色土
22. 黒色土
23. 褐色土と黒色土の混合土。しまり強。
24. 黒色土
25. 黒色土
26. 黒色土
27. 黒色土
28. 暗褐色土
29. 灰黄色土
30. 黒褐色土
31. 黒褐色土
32. 灰褐色土
33. 灰褐色土
34. 灰褐色土
35. 灰褐色土
36. 暗褐色土
37. 灰黄色土
38. 暗褐色土
39. 黒色土
40. 黒色土
41. 暗褐色土
42. 黒色土
43. 黒色土



SE-076

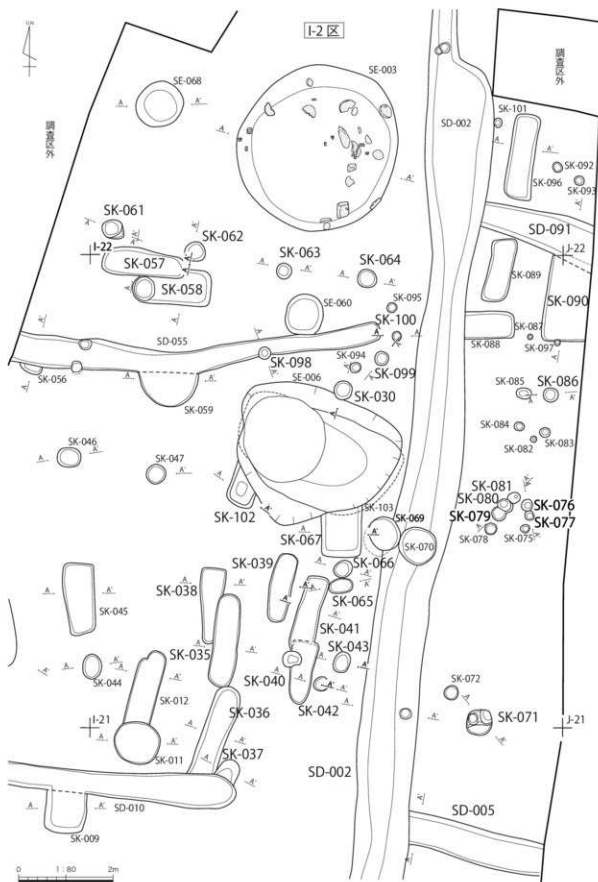
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土
3. 灰黄色土
4. 暗褐色土
5. 黒色土
6. 灰黄色土
7. 黒褐色土



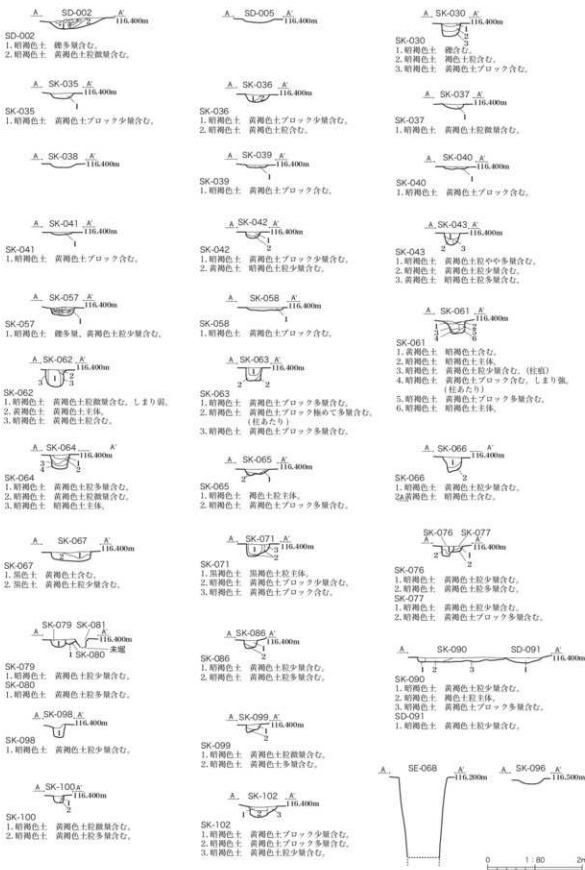
SK-089

1. 灰色砂質土
2. 暗褐色土
3. 灰黄色砂質土
4. 灰黄色砂質土
5. 灰色砂質土
6. 灰色砂質土

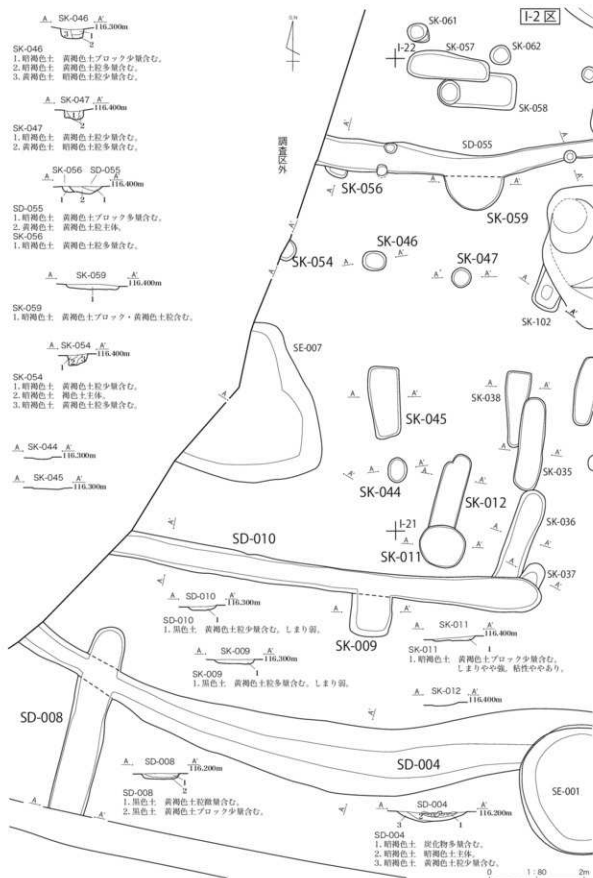
第18図 1-1区 区割7 (井戸・墓墳)



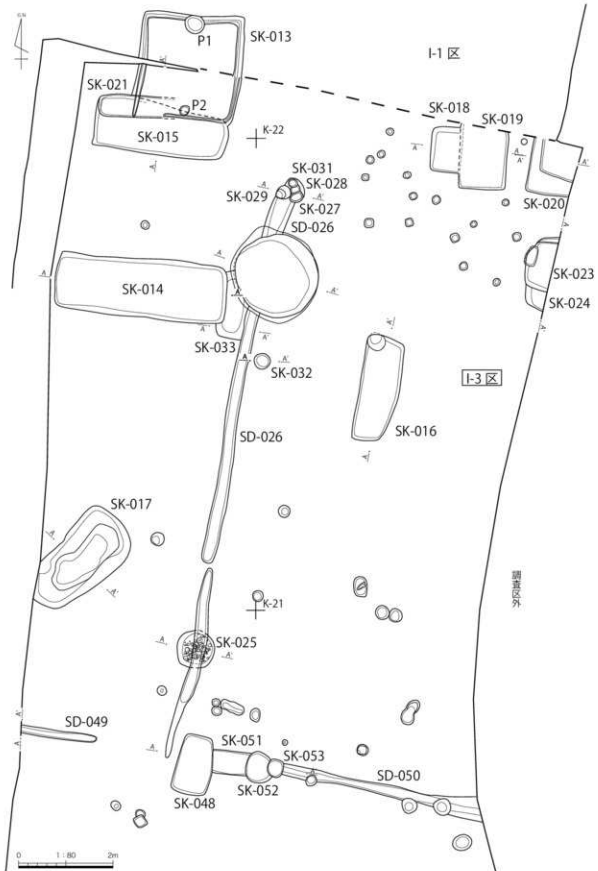
第19図 1-2-1-3区 区割8



第20図 1-2・1-3区 区割8断面図

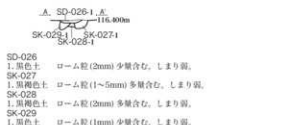
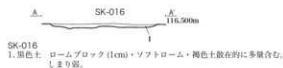
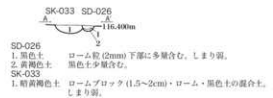
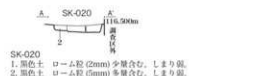
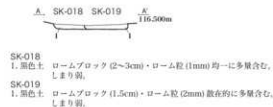


第21図 I-2・1-3区 区劃9

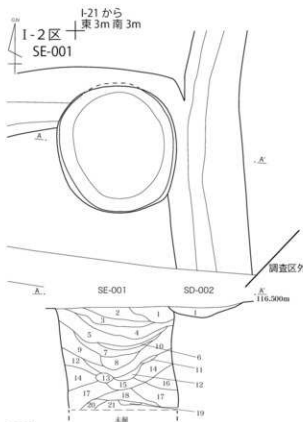


第22図 I-2・I-3区 区劃10

第3章 調査の成果



第23図 1-2-1-3区 区割10断面図



SE-001

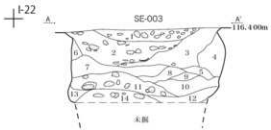
1. 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量含む。しまりや中強。粘性やや強。
2. 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量含む。しまりや中強。粘性やや強。
3. 暗褐色土 中や灰色。黄褐色土粒微量含む。しまりや中強。粘性やや強。
4. 暗褐色土 中や灰色。黄褐色土粒少量含む。しまりや中強。粘性やや強。
5. 灰褐色土 黄褐色土粒多量含む。しまりや中強。粘性やや強。
6. 灰褐色土 黄褐色土粒多量含む。しまりや中強。粘性やや強。
7. 暗褐色土 黄褐色土ブロック微量含む。しまりや中強。粘性やや強。
8. 暗褐色土 黄褐色土ブロック微量含む。しまりや中強。粘性やや強。
9. 黄褐色土 暗褐色土ブロック多量含む。しまりや中強。粘性強。
10. 黄褐色土 暗褐色土粒多量含む。しまりや中強。粘性強。
11. 暗褐色土 砂質ローム主体。
12. 灰褐色土 砂粒・礫含む。
13. 黄褐色土 灰褐色砂粒少量含む。
14. 灰土 礫多量含む。
15. 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。しまりや中強。粘性やや強。
16. 灰褐色土 礫多量含む。
17. 暗褐色土 黄褐色土粒が層状に複数枚堆積する。しまりや中強。粘性やや強。自然堆積。
18. 暗褐色土 黄褐色土粒が層状に複数枚堆積する。しまりや中強。粘性やや強。自然堆積。
19. 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。粘性やや強。
20. 灰土 黄褐色土と褐色土が層に堆積する。礫少量含む。粘性やや強。
21. 灰土 灰褐色土主体。礫やや多量含む。粘性やや強。

SD-002

1. 暗褐色土 黄褐色土粒微量含む。しまりや中強。粘性やや強。

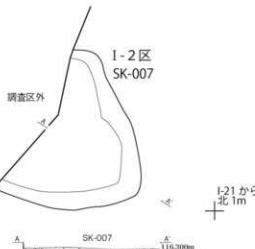
SK-007

1. 褐色土 礫含む。天井崩落後の地盤。
2. 暗褐色土 小礫含む。天井崩落後の地盤。
3. 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。天井崩落後の地盤。
4. 暗褐色土 天井崩落後の地盤。しまり強。粘性やや強。
5. 黄褐色土 砂質土。小礫含む。天井が大きく崩れた後の地盤。
6. 黄褐色土 小礫含む。天井崩落後の地盤。
7. 褐色土 黄褐色土・褐色土ブロック含む。天井崩落後の地盤。
8. 黄褐色土 黄褐色土・褐色土ブロック含む。天井崩落上。
9. 褐色土 天井崩。落上。
10. 褐色土 黄褐色土ブロック含む。天井崩落上。
11. 黄灰色土 小礫少量含む。天井崩落前の現土上。
12. 暗褐色土 天井崩落前の現土上。
13. 黄褐色土 砂質土。小礫多量含む。天井が大きく崩れる前の現土上。
14. 黄褐色土 天井・壁崩落上。
15. 暗褐色土 小礫含む。しまり弱。粘性弱。天井崩落後の現土上。
16. 黄褐色土 小礫含む。天井崩落後の現土上。
17. 暗褐色土 小礫含む。天井崩落後の現土上。しまり弱。粘性弱。
18. 褐色土 天井崩落前の現土上。しまり弱。粘性弱。



SE-003

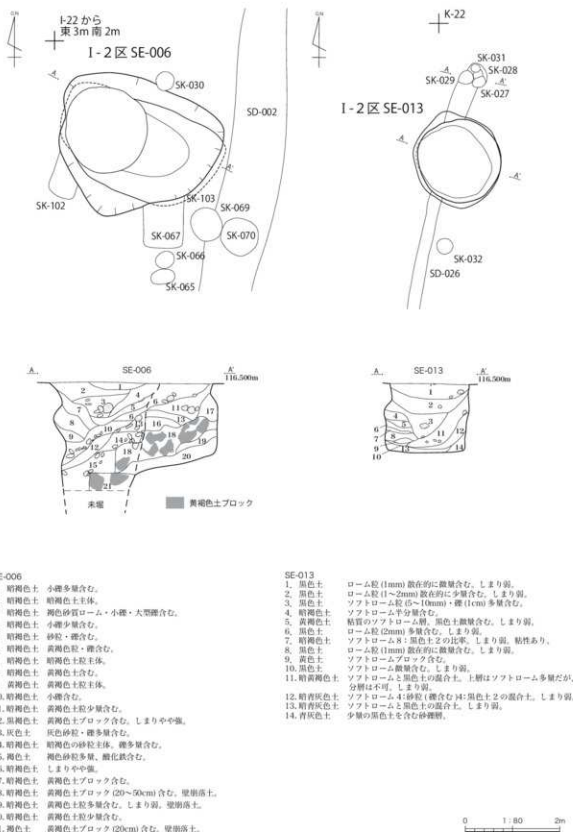
1. 灰褐色土 礫多量含む。
2. 暗褐色土 礫・土層片多量含む。
3. 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
4. 黄褐色土 暗褐色土多量含む。
5. 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
6. 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。
7. 暗褐色土 黄褐色土ブロック (15~20cm) 多量含む。
8. 暗褐色土 暗褐色土主体。
9. 黄褐色土 暗褐色土多量含む。
10. 黄褐色土 壁崩落上。
11. 暗褐色土 礫含む。しまり弱。粘性弱。
12. 黄褐色土 壁崩落上。
13. 灰土 黄褐色土ブロック含む。
14. 暗褐色土 灰褐色砂粒・礫多量含む。



SK-007

1. 褐色土 礫含む。天井崩落後の地盤。
2. 暗褐色土 小礫含む。天井崩落後の地盤。
3. 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。天井崩落後の地盤。
4. 暗褐色土 天井崩落後の地盤。しまり強。粘性やや強。
5. 黄褐色土 砂質土。小礫含む。天井が大きく崩れた後の地盤。
6. 黄褐色土 小礫含む。天井崩落後の地盤。
7. 褐色土 黄褐色土・褐色土ブロック含む。天井崩落後の地盤。
8. 黄褐色土 黄褐色土・褐色土ブロック含む。天井崩落上。
9. 褐色土 天井崩。落上。
10. 褐色土 黄褐色土ブロック含む。天井崩落上。
11. 黄灰色土 小礫少量含む。天井崩落前の現土上。
12. 暗褐色土 天井崩落前の現土上。
13. 黄褐色土 砂質土。小礫多量含む。天井が大きく崩れる前の現土上。
14. 黄褐色土 天井・壁崩落上。
15. 暗褐色土 小礫含む。しまり弱。粘性弱。天井崩落後の現土上。
16. 黄褐色土 小礫含む。天井崩落後の現土上。
17. 暗褐色土 小礫含む。天井崩落後の現土上。しまり弱。粘性弱。
18. 褐色土 天井崩落前の現土上。しまり弱。粘性弱。

第24図 I-2・I-3区 区割11 (井戸・地下式構)



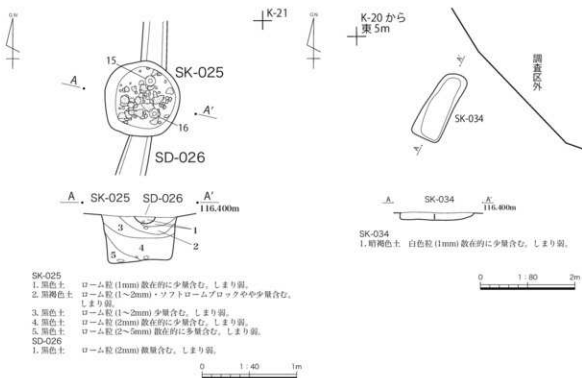
SE-006

1. 暗褐色土 小礫多層含む。
2. 暗褐色土 暗褐色土主体。
3. 暗褐色土 褐色砂質ローム・小礫・大型礫含む。
4. 暗褐色土 小礫少量含む。
5. 暗褐色土 砂粒・礫含む。
6. 暗褐色土 黄褐色粒・礫含む。
7. 暗褐色土 暗褐色土粒主体。
8. 暗褐色土 黄褐色土含む。
9. 黄褐色土 黄褐色土粒主体。
10. 暗褐色土 小礫含む。
11. 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。
12. 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。しまりや中強。
13. 灰色土 灰色砂粒・礫多層含む。
14. 暗褐色土 暗褐色の砂粒主体。礫多層含む。
15. 褐色土 褐色砂粒多量。酸化鉄含む。
16. 暗褐色土 しまりや中強。
17. 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。
18. 暗褐色土 黄褐色土ブロック(20~50cm)含む。壁面高土。
19. 暗褐色土 黄褐色土粒多層含む。しまり弱。壁面高土。
20. 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。
21. 褐色土 黄褐色土ブロック(20cm)含む。壁面高土。

SE-013

1. 黒色土 ローム粒(1mm)散在的に微量含む。しまり弱。
2. 黒色土 ソフトローム粒(5~10mm)・礫(1cm)多量含む。
3. 暗褐色土 ソフトローム平分離含む。
4. 暗褐色土 粘質のソフトローム層。灰色土微量含む。しまり弱。
5. 黄褐色土 ローム粒(2mm)多量含む。しまり弱。
6. 黒色土 ソフトローム8：黒色土2の比率。しまり弱。粘性あり。
7. 暗褐色土 ローム粒(1mm)散在的に微量含む。しまり弱。
8. 黒色土 ソフトロームブロック含む。
9. 黄褐色土 ソフトローム微量含む。しまり弱。
10. 黒色土 ソフトロームと黒色土の混合土。上層はソフトローム多層だが、
分離は不可。しまり弱。
11. 暗黄褐色土 ソフトローム4：砂粒(礫含む)4：黒色土2の混合土。しまり弱。
12. 暗青灰色土 ソフトロームと黒色土の混合土。しまり弱。
13. 暗青灰色土 ソフトロームと黒色土の混合土。しまり弱。
14. 青灰色土 少量の黒色土を含む砂粒層。

第25図 I-2・I-3区 区割12(井戸)



第26図 Ⅰ-2・Ⅰ-3区 区割13

Ⅰ-2区 SD-004 (遺構：第21図)

Ⅰ-2区南部のH-20、I-20グリッド内に位置する。南北軸のSD-008との重複関係は不明だが、SE-001より新しい。またⅠ-2区SD-002との切合いは明らかにできなかったが、同一の遺構とも考えられる。

東西軸のみぞで、緩やかな下弦状を呈し、西側の調査区に延びてゆく。確認面での上幅は中央部では1.4m程であるが、西端部では0.7mと細くなる。断面形は薄い皿状を呈しており、深さは最深部でも0.25m程と浅い。断面図採取付近では覆土上層に炭化物および礫が混入している。覆土中からは遺物は確認できなかった。

Ⅰ-1区 SD-075 (遺構：第14図 写真図版四)

Ⅰ-1区北東端のK-23・K-24、L-23グリッド内に位置する。SK-074と切合うが、重複関係は明らかにできなかった。溝は調査区内でほぼ直角に曲がる。北部と東部は調査区外となるため断定できないが、Ⅰ-1区区北7mにある調査Ⅱ区の溝(SD-160)と主軸・規模共に類似している。強い関連を持つ溝あるいは同一遺構の可能性もある。規模は上幅0.6mから0.8m、断面形は薄い皿状を呈しており、深さは最深部でも0.2mと浅い。底部からは部分的に礫が出土している。覆土中から遺物は確認されなかった。

調査Ⅱ区

本調査区は平成21年度に調査を実施した。調査面積は約3,500㎡、調査区内には埋没谷などは確認されず、安定した平坦面上に遺構が存在している。調査区内を概観すると、方形竪穴遺構、地下式墳等の主要な遺構は中央部から南部にかけ集中している。中央部には東西方向の溝、北部は外堀（大溝）SD-410が確認されるなど、城内内の状況を把握するうえで最も重要な区域といえる。特に中央部は屋号「馬場」にあたる区域であり、これに関連深い南北軸の長大な掘立柱建物跡が4棟確認されている。遺構数をみると、方形竪穴遺構11棟、地下式墳14基、井戸1本、溝14条、土坑170基、ピットは約1030基である。方形竪穴遺構群は中央部と南部に2か所のまとまりが見られる。また本地区は地下式墳の分布密度が高い点特徴的で、特に東西溝（SD-200）以南に集中している。井戸は1本が確認されたのみで、I区に比べが極端に少ない。小穴（ピット群）は中央部及び南部に若干の集中が認められるが、I区北部ほどの密集した状況は見られない。本項においても主要な遺構と遺物の出土状況などを中心に記してみたい。

方形竪穴遺構

SK-122（遺構：第47・48図 遺物：第104図 写真図版一四・一五）

調査区南部のL26グリッド内に位置する。東1.0mには方形竪穴遺構SK-134が、北0.7mには方形竪穴遺構SK-169が近接する。重複する遺構SK-229より古い。規模は東西1.79m、南北2.20mの長方形で、確認面からの深さは0.53mである。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかったが、南西コーナー付近に約0.7m四方の範囲で炭化物が確認された。覆土は水平に堆積するが、自然埋没か人為埋め戻しかは判断出来なかった。ピットは北壁際（P1）及び南壁際の中央部（P2）と、床面に4基（P3～P6）確認された。また東壁際には幅0.15mの浅い溝状の掘り込みを確認した。床面からの深さはP1が約0.32m、P2が0.25mと一定の深さを有するが、P3は0.05m、P4は0.07m、P5は0.06mと極めて浅い。柱痕等は確認できなかった。遺物は、覆土中から土師質土器小皿1点、内耳土器2点が出土したが、このうち床面直上から出土した内耳土器（68・71）2点を図示した。

SK-133（遺構：第53・54図 写真図版一五）

調査区南部K-26グリッド内に位置する。北東5.2mには方形竪穴遺構SK-122が、北4mには地下式墳SK-115が近接する。規模は東西1.57m、南北1.83の南北軸の隅丸長方形を呈するが、特に南西コーナーの丸み強い。確認面からの深さは0.45mである。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。覆土は壁際で斜めに堆積するが、その後概ね水平に堆積する。自然埋没か人為埋め戻しかは判断できなかった。ピットは北壁際中央部にP1が、南壁際中央部にP2が確認された。床面からの深さはP1が0.17m、P2が0.18mでいずれも柱痕は確認できなかった。遺物は、覆土中から内耳土器の小破片および土師質土器小皿の小破片が1点出土したが、図示し得なかった。

SK-134（遺構：第49・50図 写真図版一五・一六）

調査区南部のL26グリッド内にある。長方形土坑SK-135より古い。東には方形竪穴遺構SK-137が接するように位置し、西1mには方形竪穴遺構SK-122が近接する。規模は東西1.70m、南北1.84mの南北に長い隅丸長方形で、確認面からの深さは0.31mである。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。覆土は床面付近に炭化物灰を多く含む層が見られる。自然埋没か人為埋め戻しかは判断出来なかった。ピットは北壁際中央部にP1が、南壁際中央部にP2が認められる。床面からの深さはP1が0.24m、P2が0.36mである。柱痕等は確認できなかった。遺物は確認できなかった。

SK-137 (遺構：第49・50図 遺物：第108図 写真図版一五・一六)

調査区南部L-26グリッド内に位置する。SK-136及びSK-138より新しい。東には方形竪遺構SK-134が近接する。北東約3mには地下式墳SK-174がある。規模は東西1.88m、南北2.38mの南北軸の隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは0.51mである。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。覆土はレンズ状に堆積する。自然埋没か人為埋め戻しかは判断出来なかった。ピットは北壁際には確認できなかったが、南壁際中央部に2本(P1、P2)が確認された。また南東コーナーには東西0.6m、南北0.5m、深さ0.67mの掘り込みP3があり、付近には炭化物が集中している。また西壁際には長さ1.74m以上、幅0.13m、深さ0.22mの溝状の掘り込みも確認された。床面からの深さはP1が約0.24m、P2が0.24mで、いずれも柱痕等は確認できなかった。遺物は覆土中から内耳土器(95)が出土し、これを図示した。

SK-139 (遺構：第49・50図 遺物：第122図 写真図版一五)

調査区南部L-27グリッド内に位置する。SK-140が新しい。西0.8mに方形竪遺構SK-169が、東1mには地下式墳SK-174が近接する。規模は東西1.73m、南北2.0m～2.15mのやや不整な隅丸長方形を呈する。西壁が東壁に比べ若干短い。確認面から床面までの深さは0.13mと浅い。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。覆土は自然埋没か人為埋め戻しかは判断出来なかったが、床面には炭化物を多く含む層が確認できる。北壁際中央部および南壁際中央部のピットは本遺構の埋没後に掘られたものである。ピットは中央部にP1(深さ0.24m)が確認された。覆土中からは遺物は確認できなかったが、北壁際に切り合うP-430からは砥石(243)が出土している。

SK-169a (遺構：第47図)

調査区南部L-27グリッド内に位置する。調査時には1基の遺構として判断したが、南北の壁面がクランクする点や、ピットが4本あることなどから、方形竪穴遺構が重複する可能性が高い。本遺構は西半部でSK-169Bと重複するが、切合い関係は不明である。東0.8mに方形竪遺構SK-139が、南2.2mには方形竪穴遺構SK-134が近接する。規模は東西推定1.75m、南北2.08mのやや不整な隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは0.17mと浅い。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。自然埋没か人為埋め戻しかは判断できなかった。ピットは北壁際中央部にP1が、南壁際中央部にP2がある。床面からの深さはP1が約0.58m、P2が0.66mである。またP1の東部から東壁の2/3程の範囲で壁溝が見られる。覆土中から遺物は確認できなかった。

SK-169b (遺構：第47・48図 写真図版一六)

調査区南部L-27グリッド内に位置する。東半部でSK-169aと重複しているが、切合い関係は不明である。南2.0mには方形竪穴遺構SK-122が近接する。規模は東西推定1.6～1.7m、南北2.4mの隅丸長方形を呈するものと想定される。確認面からの深さは0.17mと浅い。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。覆土は自然埋没か人為埋め戻しかは判断できなかった。ピットは北壁際中央部にP1を、南壁際中央部にP2を確認した。床面からの深さはP1が0.12m、P2が0.17mである。覆土中から遺物は確認できなかった。

SK-216 (遺構：第39・40図)

調査区南部のM-30グリッド内に位置する。重複遺構は無く、南にSD-200が近接する。規模は東西1.71m、南北2.24m、北壁と南壁が丸みを持つ隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは0.12mと浅い。床面は概ね平坦で硬化面はみられなかった。覆土はローム粒子を含む黒褐色土主体である。自然埋没か人為埋め戻しかは判断できなかった。ピットは北壁際中央部にP1、南壁際の中央部にP2があり、床面からの深さはP1が0.33m、P2が0.29mである。遺物は確認できなかった。

SK-241 (遺構：第34・35図 写真図版一六)

調査区中央部 M-31 M-32 グリッド内に位置する。SD-234 に切られる。南 10.5m に方形竪遺構 SK-216 が、南西 12m には方形竪遺構 SK-290 がある。規模は東西 1.65 m、南北 2.47 の南北軸の長方形で、北壁がやや長い。確認面からの深さは 0.6 m である。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。覆土は水平に堆積するが、自然埋没か人為埋め戻しかは判断出来なかった。ピットは北壁際及び南壁際の中央部に計 2 本確認された。床面からの深さは P1 が 0.33m、P 2 が 0.30m で、柱痕等は確認できなかった。南壁際のコーナー付近にある長さ約 1m の張り出しは、床面が覆土くしまっており入口施設等の可能性がある。遺物は、覆土中から土師質土器小皿、内耳土器、鉄製品が出土したが、いずれも小破片で図示し得なかった。

SK-290 (遺構：第37・38図)

調査区南部 L-30 グリッド内に位置する。SD-241 より新しい。東西方向の溝 SD-200 のすぐ北に近接する。東 7.8m には方形竪穴遺構 SK-216 がある。規模は東西 2.27 m、南北 1.44 m～1.78 m と東西主軸の隅丸台形状を呈する。確認面からの深さは 0.61 m である。床面は概ね平坦で硬化面は確認できなかった。覆土は底面付近に炭化物粒子を含む薄い層があり、その後ローム土を多く含む黒褐色土及び暗褐色土がレンズ状に堆積する。自然埋没か人為埋め戻しかは判断出できなかった。ピットは、西壁際の中央部に 1 本と東壁際の中央部に 2 本確認された。P1 の深さは確認面から P2 が古く P3 が新しい。深さおよびピットの柱痕跡などは確認できなかった。また遺物も確認できなかった。

SK-403 (遺構：第29図 遺物：第128図)

調査区中央部やや北寄りの L-33 グリッド内に位置する。重複する遺構は無い。東 7.8 m に掘立柱建物跡 SB-422 がある。規模は東西 2.50 m、南北 1.66 m と東西主軸の隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは 0.61 m である。床面はロームブロックを含む薄い層があり、これは埋め戻し（貼り床か）と考えられる。また他の方形竪穴遺構に見られるような炭化物は確認されなかった。2 層中には多量の礫が投棄されるなど人為埋め戻しの可能性が高い。ピットは、北壁際と南壁際に 2 本ずつ計 4 本確認した。P 1 は床面より 0.32 m 程の深さを有するが他の 3 本は 0.15 m 程と比較的浅めである。各ピットとも、柱痕跡などは確認できなかった。遺物は確認できなかった。本遺跡から確認された他の方形竪穴遺構とやや離れた位置にある点、柱の本数や覆土の様子に違いがある点など特徴的な遺構と言える。

地下式墳**SK-108 (遺構：第51・52図 遺物：第110図 写真図版一三)**

Ⅱ区南部の J-25・J-26 グリッド内に位置する。重複する土坑 SK-107 より古い。北約 12 m には SK-252 がある。平面形は長軸 2.94 m、短軸 1.92 m、南側に竪坑を持つ凸字状を呈する。壁面は直線的に立ち上がる。確認面からの深さは竪坑部分で 0.78 m である。床面は概ね平だが、竪坑部分から北壁にかけ緩やかに傾斜する。覆土は円礫やローム粒子等の混入物が多い。天井崩落土と思われるようなロームブロックの集中する土層は確認できなかった。覆土中から磁器破片 (100) 1 点が出土しこれを図示した。

SK-115 (遺構：第47・48図 写真図版一一)

Ⅱ区南部の K-26・K-27 グリッド内に位置する。北約 2.5 m には SK-116 がある。平面形は東西に長い不整な楕円形で、長軸 3.50 m、短軸 2.77 m、確認面からの深さは西端部で 1.4 m、東端部で 1.57 m である。主軸方向は N52°E である。壁は現状では南壁を除くほぼ全面がオーバーハングしている。床面はわずかに凹凸を有する。覆土は、礫・小礫・ローム粒を含む、黒色土及び黒褐色土を主体としている。埋没状況を観察

すると、16～20層が一次的に自然堆積した後、12～15層の天井や壁面が崩落した様子が確認できる。1～11層に関しては人為埋め戻しの可能性もあるが断定できない。平面形態では明瞭な竪坑は確認できなかったが、覆土の埋没状況から遺構東部が開口していた可能性が高く、こちらが竪坑と考えたい。遺物は覆土中から、縄文土器1点、内耳土器6点、土師質土器小皿2点が出土したが、いずれも小破片で図示し得なかった。

SK-116 (遺構：第47・48図 遺物：第105図 写真図版一二) 土抗とするか

Ⅱ区南部のK-27グリッド内に位置する。南約2.5mには地下式竪SK-115がある。平面形は南北に長い楕円形を呈し、長軸2.60m、短軸1.81m、主軸方向はN-28°Eである。確認面からの深さは最深部で0.83mである。床面は概ね平坦である。覆土は黒色土及び黒褐色土主体とする。4～7層は自然堆積の可能性があるが、3層は礫を主体としている。上層の1～3層は人為埋め戻しの可能性が高い。遺物は少なく、覆土中から内耳土器(82)1点が出土しこれを図示した。オープンカットの竪遺構あるいは土抗とするか。地下式城の根拠に若干乏しく、大型の中世土抗として掲載すべきか。

SK-149 (遺構：第47・48図)

本遺構は、Ⅱ区南部のL-27グリッド内に位置する。SD-160より古い。北約2.3mにはSK-151がある。平面形は長軸2.08m、短軸1.72mの楕円形を呈する。確認面からの深さは最深部で1.4mである。壁面はほとんどの範囲でオーバーハングしている点特徴的である。床面は東部が若干深い概ね平坦で、壁面に向け、丸みをもって立ち上がる。平面形状では竪坑が確認できない点。天井崩落土なども見られないことから、地下式城とは断定せず、大型の土抗の可能性もある。

SK-151 (遺構：第42・43図 遺物：第122・127図)

Ⅱ区南部のL-28グリッド内に位置する。南約2.5mにはSK-149がある。重複関係はSD-160より新しい。平面形は長軸2.22m、短軸2.05mの東西に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは最深部で1.3mである。床面は概ね平坦である。壁は若干オーバーハングしたのち急角度で立ち上がる。覆土は西壁際の9層、11層が壁崩落土と考えられる。その他の覆土は、礫層を主体とする層で、いずれも人為的な埋め戻しと考えられる。遺物は覆土中から内耳土器小破片10点、土師質土器小皿破片1点、砥石1点、石臼1点が出土し、このうち砥石(239)と石臼(271)の計2点を図示した。明瞭な竪坑もなく、天井崩落土も確認できないことから大型の土抗の可能性もある。

SK-174 (遺構：第49・50図)

Ⅱ区南部のM-27グリッド内に位置する。西4.7mにはSK-149がある。平面形は東半部が調査区外のため全容は不明だが、南北2.46m以上、東西0.77m以上の規模を有する。確認面からの深さは、最深部で1.31mである。床面は壁際部分のみであるが、中央部が皿状に窪む。壁は丸みをもって立ち上がり、オーバーハングしている。覆土はローム土を主体とした分厚い6層があり、これは天井崩落土と考えられる。1・2層は人為的な埋め戻しの可能性もある。出土遺物は確認できなかった。

SK-252 (遺構：第45図 遺物：第102・107・116・129図 写真図版一一)

Ⅱ区南部のJ-27グリッド内に位置する。東約8.4mにはSK-116がある。平面形は概ね円形を呈するが、南西部に短い竪坑が付く。大きさは長軸2.31m、短軸2.02mで、確認面からの深さは最深部(中央部)で1.5m程である。床面は概ね平坦だが、中央部がややレンズ状に凹む。覆土は西側(竪坑部分)から暗褐色土や黒褐色土(18～24層)が一次的に流入したのち、天井崩落土(17・14・8層など)が堆積した様子が確認できた。上層の覆土については人為埋め戻しの可能性が高いが、断定はできない。覆土中から土師質土器小皿(29)・内耳土器(88)・鉄製品(189)・五輪塔(282)が出土し、これらを図示した。

SK-283 (遺構：第39・40図 遺物：第131図 写真図版一二)

Ⅱ区中央部のM-29グリッド内に位置する。東約3.3mにはSK-289がある。南約9.2mにはSK-289がある。平面形は長軸2.16m、短軸2.14mの円形で、確認面からの深さは最深部で1.45mである。床面は概ね平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、円筒状を呈する。覆土は礫・砂粒・砂質ロームなどを多く含み、レンズ状に堆積することから自然堆積と思われる。遺物は覆土中から縄文土器破片(318)1点が出土したのみで、これを図示した。明確な天井崩落が見られないため、土壌の可能性もある。

SK-285 (遺構：第34・35図 遺物：第105図)

Ⅱ区中央部東壁際のN-31グリッド内に位置する。西約9.0mにはSK-400がある。平面形は東半部が調査区外のため不明だが、南北3.9m、東西2.0m以上の規模を有する。確認面からの深さは最深部で1.35mである。床面は概ね平坦だが、中央部が緩やかにレンズ状に窪む、壁は南部及び北部ではややオーバーハングするが、西壁ではオーバーハングは見られず、急角度に立ち上がる。覆土はローム土主体の14・15層は天井崩落土と考えられる。全体的にローム粒・砂粒・礫などの混入物が多い。南から西へ傾斜しながら堆積しているようすが確認できる。自然堆積の可能性がある。遺物は土師質土器小皿及び、内耳土器破片等が出土しており、このうち土師質土器小皿(48)1点と、内耳土器(88・89・90)3点の計4点を図示した。

SK-288 (遺構：第36図 写真図版一一)

Ⅱ区中央部西壁際のK-29グリッド内に位置する。重複遺構はない。南3.3mにはSK-281がある。遺構の大部分は西の調査区外にあるため平面形は不明だが、南北1.52m以上、東西0.41m以上、確認面からの深さは最深部で0.95mである。壁面は僅かにオーバーハングする。床面は概ね平坦である。覆土はロームブロックローム粒子の混入物が多い。確認された部分では天井崩落土等は確認されなかった。南から北にかけ傾斜しながら堆積しているが自然堆積か人為埋戻しかは断定できなかった。地下式墳の可能性が高く、本項に記載した。遺物は確認されなかった。

SK-289 (遺構：第39・40図 遺物：第102図 写真図版一二)

Ⅱ区中央部東壁際のM-29グリッド内に位置する。西約3.3mにはSK-283がある。平面形は東部が調査区外になるため、全形は不明だが、北部に円筒系の竪坑を持つ。開口部での規模は長軸3.81m、短軸1.38m、確認面からの深さは最深部で1.07mである。北壁及び西壁は大きくオーバーハングする部分があるが、南壁はそれほど顕著ではない。床面は概ね平坦で、中央部が緩やかにレンズ状に窪む。覆土はローム粒子・ロームブロックを多く含む土層が多く、自然堆積の可能性が高い。明確な天井崩落土と考えられる土層は確認できなかった。遺物は少なく、覆土中から土師質土器小皿(41)が出土しこれを図示した。地下式墳の可能性が高く、本項に記載したがオープンカットの竪穴の可能性もある。

SK-400 (遺構：第32・33図 遺物：第102・150・110・122・128・129図 写真図版一二)

Ⅱ区中央部のL-32、M-32グリッド内に位置する。重複遺構は無い。東約9.0mにはSK-285がある。平面形は南北に長い楕円形を呈し、明確な竪坑は確認できなかった。規模は長軸5.01m、短軸3.52mである。確認面からの深さは南部が深く、最深部で2.01mあり、北部はやや浅く1.7m程の深さを有する。壁は北壁及び南壁付近でオーバーハングしている。覆土は最初に南北壁際に壁崩落土が認められ、その後天井(10・11層)が崩落した可能性がある。陥没後は礫を多量含む3層が厚く認められ、これは人為的に埋戻された可能性が高い。覆土中からは土師質土器小皿4点、内耳土器3点、陶器3点、砥石2点板破片1点、石臼7点と比較的多くの遺物が出土した。このうち土師質土器小皿(42・43・44・45)・内耳土器(78・79・80)・陶器(108・112)・砥石(240・241)・板碑(280)・石臼(273・275・276・277)が出土しこれを

図示した。

SK-420 (遺構：第28図)

Ⅱ区北部西壁際のL-36グリッド内に位置する。平面形は西半部が調査区外のため平面形は不明である。長軸1.54m、短軸0.66m以上、確認面からの深さは最深部で0.94mである。壁面は南壁底面付近で若干オーバーハングする。床面は概ね平坦である。覆土は6層(壁の崩落土)が堆積したのち、比較的均質な黒色土及び黒褐色土が堆積している。いずれも自然堆積と考えられる。礫・砂粒などの混入物が多く、いずれも自然堆積と判断した。8～10層を天井崩落土、11層以下は天井崩落以前、1～7層は天井崩落後の流入土としていることから、遺構東端部が開口していた「入口部」と考えられる。遺構の一部しか調査できないため明確にできないが、掘り込みが深いため、地下式城に分類したが、土抗とすべきか。

SK-281 (遺構：第41・43図 遺物：第102図 写真図版一四)

Ⅱ区南部西壁際のK-29グリッド内に位置する。北約3.3mにはSK-288がある。複室構造の地下式城と思われる。南北に長い長方形を呈し、西壁中央部やや南寄りにU字状の張り出しがみられ、東壁中央部には部屋を2つに分けるように、方形の掘り残しがある。全体の規模は長軸3.82m、短軸1.86m、確認面からの深さは最深部で0.75mである。各部屋を見てみると、北室は北東コーナーがやや丸みを持つ。南室は北室に比べるとやや小さく不整な台形状を呈し、南西コーナーがやや丸みを持つ。床面は概ね平端で、各室の間や入口部分にも段差は見られないまた硬化面や、炭化物なども見られなかった。覆土は20層に分層された。礫をあまり含まない暗褐色土及び黒褐色土が主体となる。自然堆積の可能性が高いと判断した。遺物は少なく、覆土中から土師質土器小皿(39・40)が出土しこれらを図示した。

井戸跡

SE-159 (遺構：第49・50図 遺物：第102・132図)

Ⅱ区南部東壁際のM-27 M-28グリッド内に位置する。南1.4mにはSK-158がある。平面形は径1m程度の概ね円形を呈する。形状は筒状で、壁は概ね直線的に立ち上がる。確認面から0.95mまで掘り下げた時点で調査終了したため、以下の状況は不明である。壁はオーバーハングする部分が多く、覆土は礫や砂質ロームを多く含む黒褐色土および暗褐色土が主体で、人為埋め戻しの可能性が高い。遺物は覆土中から土師質土器4点、内耳土器2点、縄文時代石器1点が出土し、このうち土師質土器小皿(24)、縄文石器(334)を図示した。

溝跡

SD-200 (遺構：第37・39・40図 遺物：第101・105・106・116図 写真図版一〇・一一)

Ⅱ区南のK-30、L-30、M-30グリッド内に位置する東西方向の溝である。南北方向の溝SD-218、SK-221より古い。北には方形竪穴遺構SK-216・290が近接する。溝は東の調査区外から西へ21mの地点で途切れしており、調査区西端まで3mの空白部分がある。溝の上幅は最も広い西部で2.9m、最も狭い東端で2m弱と若干の差がある。確認面からの深さは最も深い部分で1.64m、最も浅い部分は西端部で1.3mである。底面は概ね平坦である。断面は底部付近と中位に段をもつ逆台形状を呈している。覆土を観察するとこの段差は最低3回(以上)の作り替え、あるいは掘り直しを行った結果であると思われる。壁の傾斜はその都度緩やかになる。また覆土2層から10層においては「ロームブロックを多量含む層」が溝の北側から幾重にも流れ込んだ様子が確認された。調査時の所見では土塁の盛り土が崩れ、流れ込んだものと考えている。遺物は

覆土中から土師質土器4点、内耳土器1点、陶器1点、砥石1点鉄製品3点が出土し、このうち土師質土器小皿(18・19・20・21・22・23)、内耳土器(73・74・86・87)鉄製品(187・191・196)の計13点を図示した。

SD-218 (遺構：第32・33・37・38図 遺物：第113図 写真図版一〇)

Ⅱ区中央部のL-30、L-31、L-32グリッド内に位置する溝である。東西方向の溝SD-200より新しく、長方形土坑SK-212・SK-296より古い。SK-298との切り合いは不明である。東に方形竪穴遺構SK-290が近接する。長さ18.18m、幅は1.1m、の直線的な溝である。確認面からの深さは0.3m程である。底面は若干の凹凸を有する。断面形は皿状もしくはカマボコ状を呈する。覆土はローム粒子ロームブロックを多く含む自然体積と考えられる。遺物は覆土中から土師質土器小皿8点、内耳土器6点、陶器1点、瓦質土器1点、石白1点が出土し、このうち瓦質土器(168)1点を図示した。

SD-410 (遺構：第30図 遺物：第109・110・130図 写真図版一〇)

Ⅱ区北部の0-34、0-35、0-36、0-37、0-38、0-39グリッド内に跨がる南北方向の溝である。南北方向の溝SD-411と切り合うが重複関係は不明である。本溝は平出城跡の外堀(大溝)と考えられる遺構である。本調査区内で確認された規模は、南北約48m、確認面での上幅は3.0mから4.0mである。底面の幅は0.4から0.6m程で、概ね平坦である。断面形は壁の中段で稜を持つ逆台形状を呈する。立ち上がりはSD-200と比べるとやや傾斜が緩やかである。土層断面を観察すると、最低4回(以上)の作り替え、あるいは掘り直しが想定される。壁面の段差もその際に生じた可能性が高い。覆土はいずれも自然堆積と考えられる。SD-200ではロームブロックを多量含む層が見られ、土塁の存在が想定されたが、本遺構からはそれを裏付けるような土層は確認されなかった。遺物は覆土中から内耳土器破片1点、内耳土器破片1点、陶器3点、五輪塔1点等が出土した。このうち内耳土器(99)陶器(109・110・111)五輪塔(285)など計5点を図示した。遺物から本溝は中世末から江戸時代まで開口していたものと考えられる。

SD-160 (遺構：第53・54・55図)

Ⅱ区南部から中央部に位置し、K-25・26・27、L-27・28・29・30グリッド内にまたがる南北方向の溝である。代表的な重複遺構はS-151・SK192・SK-193等があるが、いずれの遺構より古い。掘立柱建物跡群(SB422・423・424・425)と平行して掘られており、これらと関連深い遺構と考えられる。東西溝SD-200より古い。またSD-200を挟んで北に位置するSD421は、本遺構と主軸方向や規模が類似しており、同一遺構の可能性もある。本調査区内で確認された規模は上幅0.3～0.5mと狭いが、南北約57m以上の長さを有する。また南の調査区Ⅰ-Ⅰ区で確認されたSD-075は、本遺構と主軸・規模・形態ともに類似しており、同一遺構である可能性が高い。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は確認されなかった。

掘立柱建物跡

SB-422 (遺構：第56図 写真図版九)

Ⅱ区中央部のM-31、M-32、M-33グリッドに跨がり位置する。主軸方向はN-10°Eである。東2.4mにはSB-423がほぼ主軸を同じくして存在する。SD-234より新しい。また、SK-241との重複関係は確認できなかった。本遺構は南北棟の長大掘立柱建物跡で、東側柱列に庇が付くもの想定される。規模は身舎が南北12間×東西1間で、幅1間の庇が付く。長さは南北22m、東西4.3mである。各柱穴の間尺は南北軸で平均1.83m、東西は3.2mである。庇は南北12間、東西1間である。間尺は南北1.83m、東西1.1mである。主軸方向はN-13°Eである。柱穴は身舎が25本、庇が11本の計36本が確認できた。柱穴は径30-50cm、

深さは5~20cmのものが多く、いずれも浅く残りが悪い。これに対し庇の柱穴は、平面形が円形もしくは楕円形で、径は20~25cm、深さは5~15cmと、身舎に比べ規模が一回り小さい。確認できなかったピットはすでに削平されてしまった可能性が高い。土層断面には柱痕跡や裏込めなどは確認できなかった。また出土遺物も確認できなかった。

SB-423 (遺構：第56図 写真図版九)

Ⅱ区中央部のN-32、N-33グリッドに跨り位置する。主軸方向はN-10°-Eである。西2.4mにはSB-422がほぼ主軸を同じくして存在する。重複遺構は確認できなかった。本遺構は南北棟の側柱式の掘立柱建物跡である。確認された規模は南北7間×東西1間で、長さは南北12.8m、東西3.2mを測る。間尺は南北軸で平均1.83mと、ほぼ等間隔で規則的に配置されている。東西の間尺は3.2mで、いずれもSB-422とほぼ同一である。柱穴は計16本が確認できた。柱穴の平面形は円形もしくは隅丸方形を呈し、径は30~50cm、深さは5~20cmのものが多く、確認できなかったピットはすでに削平されてしまった可能性が高い。なお土層断面には柱痕跡や裏込めは確認できなかった。また出土遺物も確認できなかった。本建物はSB-422と主軸・間尺・各ピットの規模がほぼ同一である。SB-422と同様に庇(通路)の付く建物が2棟併設されていた可能性もあるが、遺構の東部は調査区外となるため断定できない。

SB-424 (遺構：第57図 写真図版九)

Ⅱ区南部のL-28、L-29、L-30、M-29、M-30グリッドに跨り位置する。主軸方向はN-8°-Eである。東3.9mにはSB-425がほぼ主軸を同じくして存在する。また西2mにはSD-160が平行している。何基かの長方形土坑と切合うが、前後関係は確認できなかった。本遺構は南北棟の側柱式の掘立柱建物跡である。規模は南北11間×東西1間で、長さは南北22m、東西4.1m程である。各柱穴の間尺は南北軸で平均2m前後で一定している。またP2とP15については棟持柱の可能性のあるものとして図示したが、他の掘立柱建物跡からは確認されず、また間尺も不揃いである。検出できなかったピットはすでに削平されてしまった可能性が高い。なお土層については確認できなかった。また出土遺物も確認できなかった。

SB-425 (遺構：第57図 写真図版九)

Ⅱ区南部のM-27、M-28、M-29グリッドに跨り位置する。主軸方向はN-8°-Eである。西3.9mにはSB-424がほぼ主軸を同じくして存在する。また西9mには本建物とほぼ平行するSD-160がある。建物の範囲内に長方形土坑および地下式塙(SK-289)があるが、前後関係は明らかにできなかった。本遺構は南北棟の側柱式の掘立柱建物跡である。規模は南北11間である。東部が調査区外のため明確にはできないが、SB-424同様、東西の幅は1間である可能性が高い。長さは南北22m、東西は4.1mと思われる。各柱穴の間尺は南北軸で平均2.00mである。柱穴は計12本を確認した。柱穴の平面形は円形もしくは隅丸方形を呈し、径は30~50cm、方形のピットは一辺40cm前後のものが多く、深さは5~25cmのものが多く、確認できなかったピットはすでに削平されてしまった可能性が高い。土層は確認できなかった。また出土遺物も確認できなかった。

土坑

SK-163 (遺構：第45・46図 遺物：第101・127図 写真図版一三)

Ⅱ区南部のK26グリッド内に位置する。平面形は不整な隅丸方形、を呈する。東西1.39m、南北1.30m、確認面からの深さは最深部で0.43mである。遺物は、覆土中から土師質土器小皿2点、内耳土器1点、石臼1点が出土し、このうち土師質土器(17)、石臼(270)の計2点を図示した。

SK-211 (遺構：第37・38図 遺物：第102・111・116・121図)

Ⅱ区中央部のL30グリッド内に位置する。SD-200、SK-275より新しい。東にあるSD-218とはほぼ平行している。平面形は南北に長い長方形を呈し、長軸4.66m、短軸0.75m、確認面からの深さは最深部で0.41mである。遺物は覆土中から土師質土器4点、内耳土器1点、陶器1点、砥石1点、鉄製品1点が出土し、このうち土師質土器小皿(25・26)、陶器(155)、鉄製品(188)、砥石(238)の計5点を図示した。

SK-264 (遺構：第36図 遺物：第102図)

Ⅱ区中央部K31グリッド内に位置する。平面形は西が調査区外のため不明な点が多いが、南北に長い長方形を呈するものと思われる。規模は長軸6.24m、短軸0.6m以上、確認面からの深さは最深部で0.33mである。遺物は覆土中から土師質土器7点(32・33・34・35・36・37・38)が出土しすべて図示した。

SK-284 (遺構：第39図 遺物：第111・116図)

Ⅱ区中央部のM30・31グリッド、N30・31グリッド内に位置する。平面形は東半分が調査区外のため不明だが、長軸4.38m、短軸2.99m以上の方形もしくは長方形を呈するものと考えられる。確認面からの深さは最深部で0.70mである。遺物は覆土中から土師質土器2点、内耳土器2点、磁器9点、鉄製品2点が出土し、このうち磁器(134・136・144)、鉄製品(181・182)の計6点を図示した。

SK-408 (遺構：第29図 遺物：第115図)

Ⅱ区中央部東壁際のN33・34グリッド、O34グリッド内に位置する。平面形は長軸5.12m、短軸1.96m以上、確認面からの深さは最深部で0.36mである。床面は中央部が緩やかな皿状に窪む。覆土は自然堆積戸考えられる。遺物は覆土中から土師質土器5点、土製品(土人形)10点、磁器1点、礫1点が出土し、このうち土製品(土人形)(174・175・176・177・178)を図示した。江戸時代の遺構と考えられる。

SK-126 (遺構：第53・55図 遺物：第105・121図 写真図版一二)

Ⅱ区南部K25グリッド内に位置する。重複関係はSD-131、SK-127より新しい。平面形は長軸2.02m、短軸1.53mの不整な第形状を呈し、確認面からの深さは最深部で0.27mである。遺物は覆土中から土師質土器1点、内耳土器1点、砥石3点が出土し、このうち内耳土器(83)、砥石(237)を図示した。

SK-220 (遺構：第34・35図 遺物：第114図)

M31グリッド平面形は長軸1.00m、短軸0.77m、確認面からの深さは最深部で0.16mである。遺物は覆土中から土製品(土鈴)1点(171)が出土し図示した。

SK-240 (遺構：第34・35図 遺物：第102図)

L31グリッド内に位置する。平面形は長軸2.30m、短軸0.68mで、確認面からの深さは最深部で0.21mである。遺物は覆土中から土師質土器5点、内耳土器11点、鉄製品3点が出土し、このうち土師質土器小皿(27・31)を図示した。

SK-246 (遺構：第51・52図 遺物：第127図 写真図版一三)

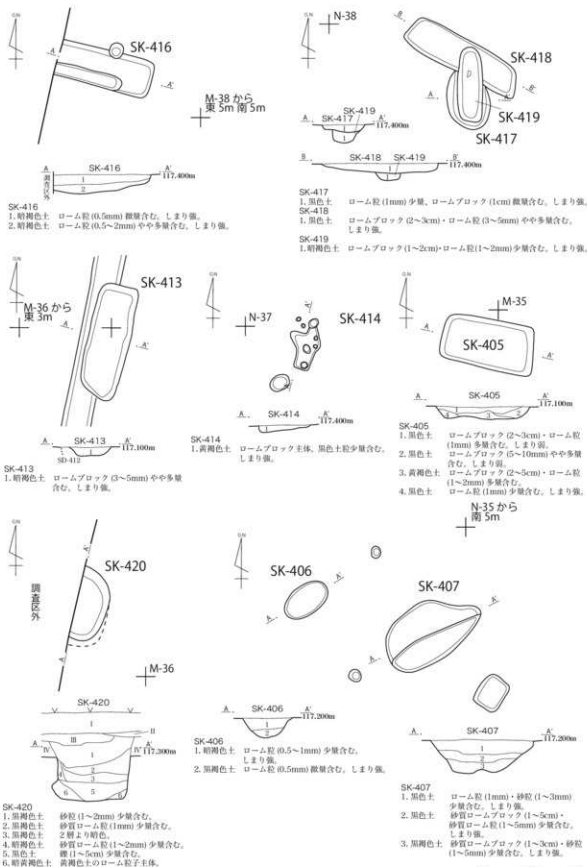
J25グリッド内に位置する。平面形は長軸2.42m、短軸1.31m、確認面からの深さは最深部で0.31mである。遺物は覆土中から石臼1点(269)が出土しこれを図示した。

SK-263 (遺構：第31図 遺物：第102図)

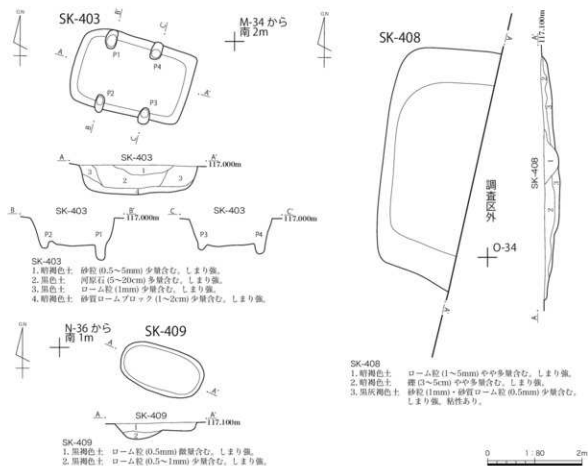
L32グリッド内に位置する。平面形は長軸1.05m、短軸0.78m、確認面からの深さは最深部で0.23mである。遺物は覆土中から土師質土器1点、内耳土器1点が出土し、このうち土師質土器(28)を図示した。



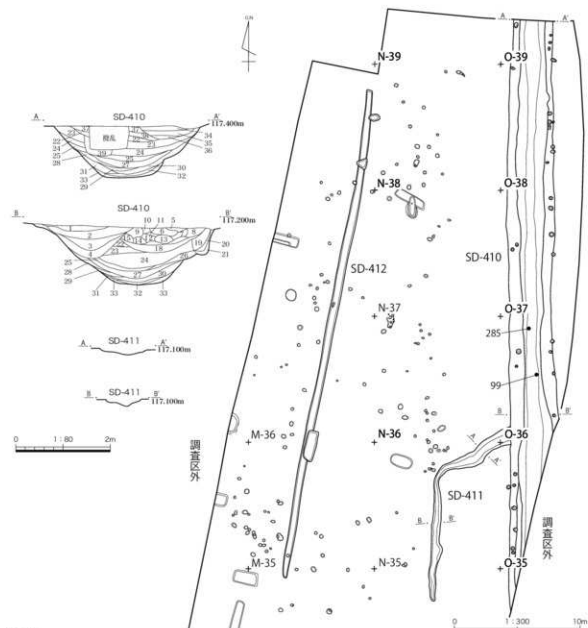
第27図 II区 区別配置図



第28図 II区 区割1



第29図 II区 区割2



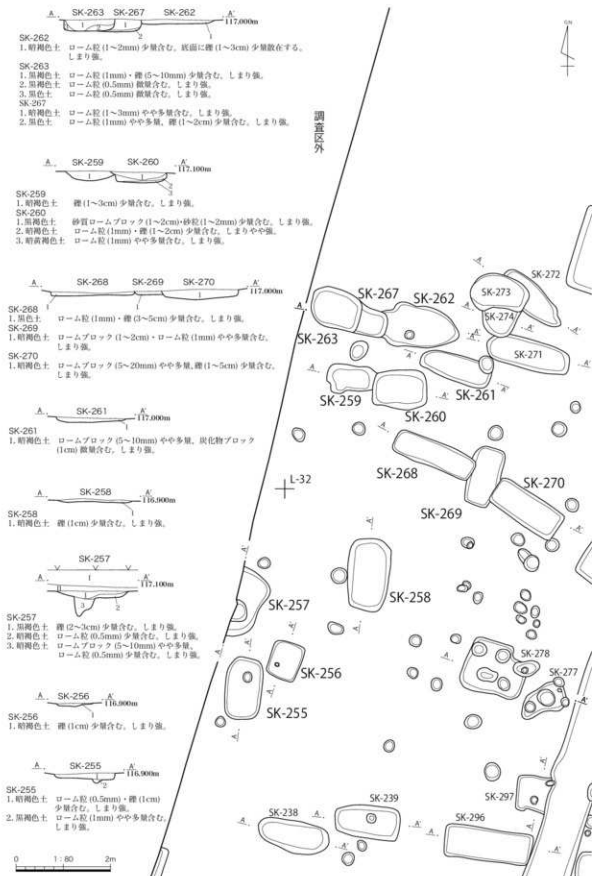
SD-410

1. 褐色土 炭化物・砂質ローム土の混合土。流路痕跡小。
2. 黒色土 ローム粒(0.5mm)多量含む。しまり強。
3. 黒色土 灰色粘土多量含む。しまり強。粘性あり。
4. 黒色土 砂質ロームの混合土。
5. 褐色土 ローム粒(5mm)多量含む。
6. 褐色土 砂質ロームブロック多量含む。
7. 褐色土 ロームブロック少量含む。
8. 褐色土 ローム粒(2mm)多量含む。
9. 褐色土 ローム粒(5mm)少量含む。
10. 褐色土 ローム粒(1mm)多量含む。
11. 黒色土 ロームブロック(10cm)・ローム粒(1mm)・炭化物(1cm)多量含む。
12. 明褐色土 砂質ローム(15mm)・黒色土少量含む。
13. 灰色土 ロームブロック(10cm)・ローム粒(1mm)・炭化物(1cm)多量含む。
14. 褐色土 ローム粒(1mm)多量。炭化物少量含む。
15. 褐色土 ローム粒(1mm)少量。高灰石含む。
16. 褐色土 黒色土と砂質ロームの混合土。
17. 黒色土 ローム粒・砂粒少量。黒色土少量含む。しまり強。粘性あり。
18. 黒褐色土 ローム粒(0.5mm)少量含む。
19. 黒色土 砂質ローム少量含む。
20. 黒色土 砂質ロームと黒色土の混合土。
21. 黄褐色土 砂質ロームと砂粒の混合土。しまり強。
22. 黄褐色土 砂質ロームと砂粒の混合土。しまり強。

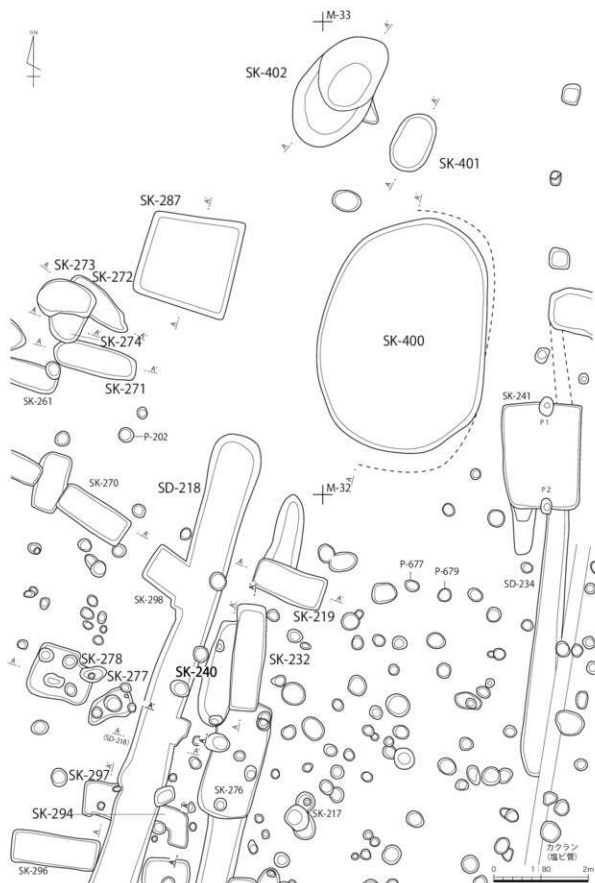
23. 灰色土
24. 灰色土
25. 灰色土
26. 暗灰色土
27. 灰色土
28. 暗灰色土
29. 暗灰色土
30. 黒灰色土
31. 暗灰黄色土
32. 明黒灰色土
33. 黒灰色土
34. 黒色土
35. 黒色土
36. 黒褐色土
37. 黒褐色土
38. 褐色土
39. 黒色土

- 灰色粘土主体。黒色土少量含む。
 灰色粘土主体。黒色土や少量含む。
 灰色粘土と黒色土の混合土。しまり強。
 砂質ロームブロック(15~20cm)・黒色土含む。しまり強。
 灰色土・砂粒・黒色土の塊(1cm)が散在的に混入する。
 砂粒。黒色土多量。小礫含む。しまり強。
 砂粒多量。灰色粘土含む。酸化第二鉄色の塊(1cm)が散在的に混入する。
 砂粒多量含む。酸化第二鉄色の塊(1cm)が散在的に混入する。
 灰色粘土と黒色土(1~5mm)・砂質ローム多量含む。しまり強。粘性あり。
 砂粒。1層中に酸化第二鉄色の砂粒が上位に混入。黄白色粒(0.5mm)含む。しまり強。
 砂粒を主体に黒色土・褐色土の混合土。しまり強。
 ローム粒(1mm)少量。砂粒層を上位に含む。しまり強。
 黒色土。ローム粒・砂粒少量。黒色土少量含む。しまり強。
 ローム粒・砂粒少量含む。しまり強。
 ローム粒(1~5mm)多量含む。しまり強。
 褐色土中に砂質ローム少量含む。しまり強。
 灰色粘土多量含む。しまり強。

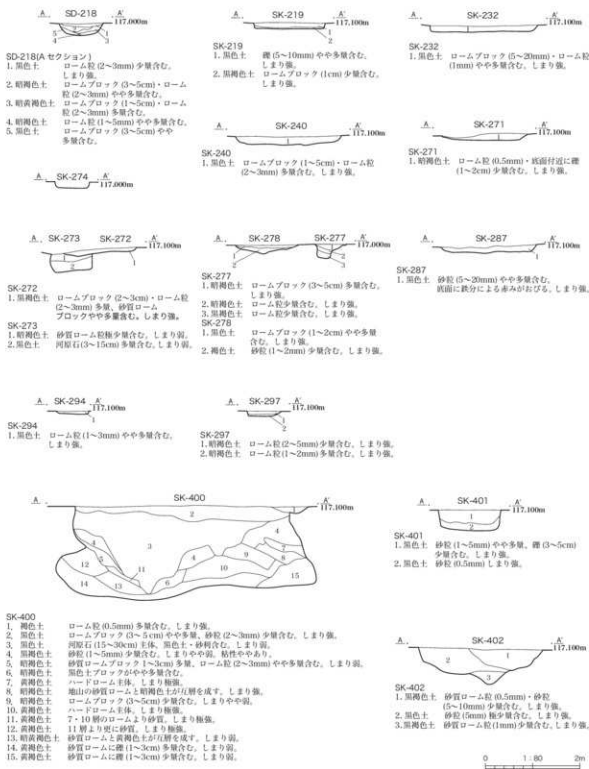
第30図 II区 区割3



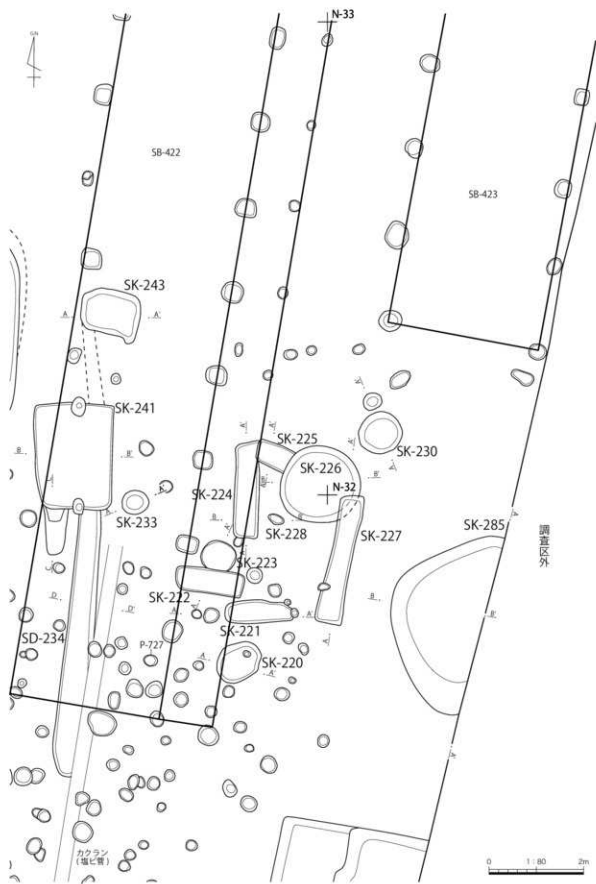
第31図 II区 区劃4



第32図 II区 区割5



第33図 II区 区割5断面図



第34図 II区 区割6



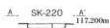
SK-234

1. 黒褐色土 礫(1~2cm)散見含む、しまり強。
2. 暗褐色土 ローム粒(1mm)多量、ロームブロック(1~2cm)やや多量含む、しまり強。
3. 暗褐色土 ローム粒(1~3mm)多量、ロームブロック(2~3cm)やや多量含む、しまり強。
4. 暗褐色土 ロームブロック(1~3cm)多量、ローム粒(1~3mm)やや多量含む、しまり強。

5. 暗褐色土 ロームブロック(1~2cm)少量含む、しまり強。
6. 黒褐色土 ローム粒(0.5~1mm)少量含む、しまり強。
7. 暗褐色土 ローム粒(1mm)多量、ロームブロック(5~10mm)やや多量含む、しまり強。

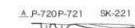
SK-243

1. 暗褐色土 礫(5~10mm)少量含む、しまり強。



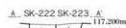
SK-220

1. 暗褐色土 ロームブロック(1cm)少量含む、しまり強。
2. 暗褐色土 ロームブロック(1cm)・ローム粒(1mm)少量含む、しまり強。



SK-221

1. 暗褐色土 ローム粒(0.5mm)少量含む、しまり強。
2. 暗褐色土 ローム粒(1mm)多量含む、しまり強。



SK-222

1. 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm)・ローム粒(1mm)多量含む。

SK-223

1. 暗褐色土 ロームブロック(3~4cm)多量、ローム粒(1mm)やや多量含む。



SK-243

1. 暗褐色土 礫(5~10mm)少量含む、しまり強。
- SK-225
1. 暗褐色土 ローム粒(1mm)少量、礫(1~3cm)散見含む、しまり強。



SK-226

1. 暗褐色土 ロームブロック(1~5cm)・ローム粒(1mm)多量含む、しまり強。

SK-227

1. 暗褐色土 砂質ロームブロック(1~3cm)やや多量含む、しまりやや弱。



SK-225

1. 黒褐色土 ロームブロック(1~3cm)やや多量含む、しまり強。

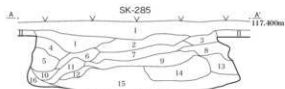


SK-230

1. 暗褐色土 砂質ロームブロック(1~3cm)やや多量含む、しまりやや弱。



SK-233

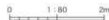


SK-285

1. 黒色土 砂粒(1~5mm)・礫(10cm)散見含む。
2. 黒色土 礫(5~20cm)多量含む。
3. 黒色土 砂粒(1~5mm)少量含む。
4. 暗褐色土 ローム粒(0.5mm)少量含む。
5. 黄褐色土 ローム主体。
6. 暗褐色土 ローム主体、5層より暗色、軟質。
7. 暗褐色土 礫(1~3cm)やや多量含む。
8. 黒色土 砂粒(1mm)散見含む。
9. 暗褐色土 ローム粒(0.5mm)少量含む。
10. 黄褐色土 ローム主体、黒色土少量含む。
11. 黄褐色土 ローム主体。

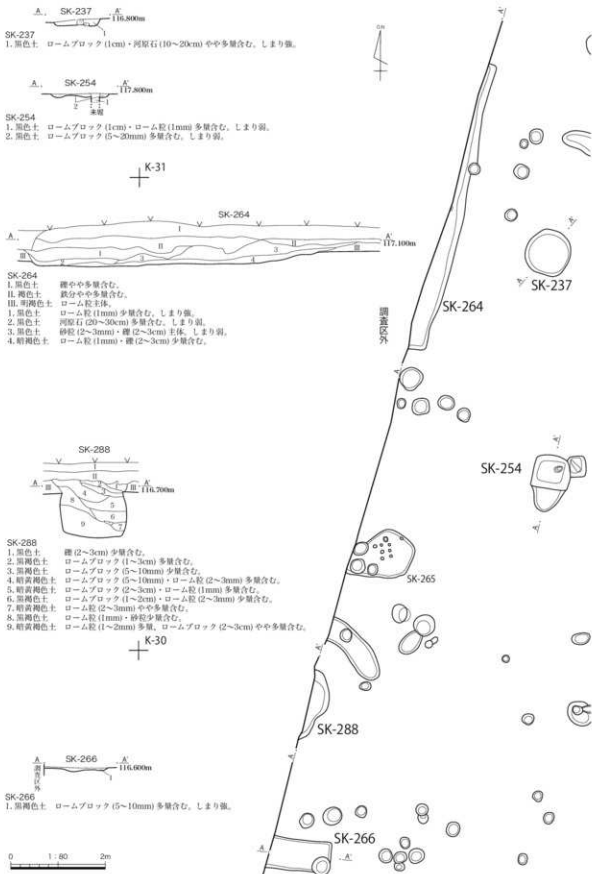


12. 暗褐色土 ローム粒(1~3mm)やや多量含む。
13. 暗褐色土 黒色土とロームブロックの混合土。
14. 暗褐色土 ローム主体、15層より暗色、軟質。
15. 黄褐色土 ローム主体。
16. 黄褐色土 ローム主体、黒色土含む、しまり弱、軟質。
17. 黒色土 礫(5~20cm)散在的に少量含む。
18. 暗褐色土 砂質ローム粒(0.5mm)少量含む。
19. 暗褐色土 砂質ローム粒(1mm)少量含む。
20. 暗褐色土 ロームと黒色土の混合土。
21. 暗褐色土 ローム粒(1~5mm)多量、ロームブロック(2~3cm)やや多量含む。



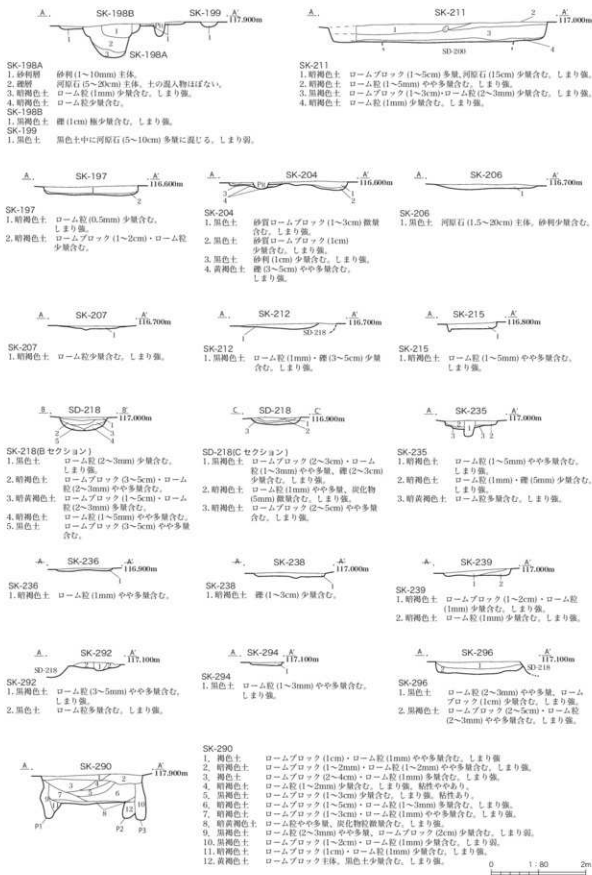
第35図 II区 区割6断面図

第3章 調査の成果

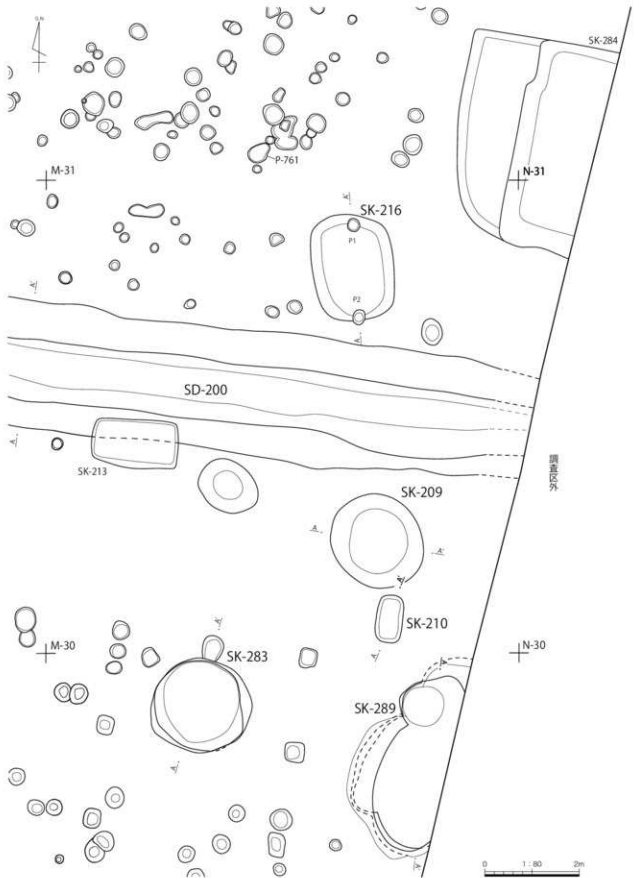


第36図 II区 区割7

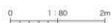
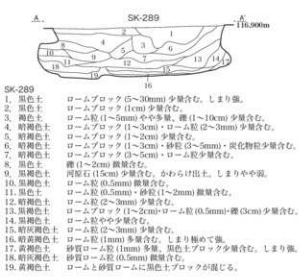
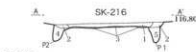
第3章 調査の成果



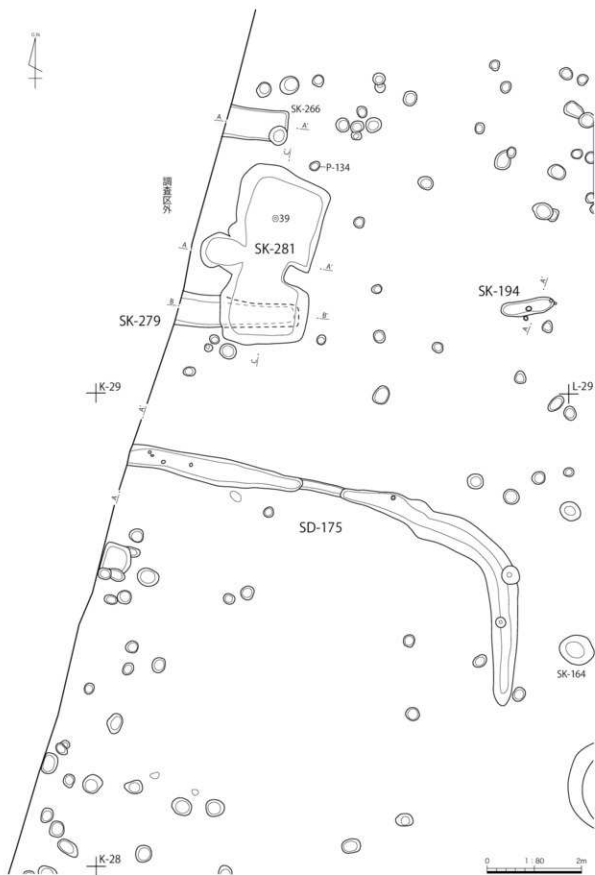
第38図 II区 区割8断面図



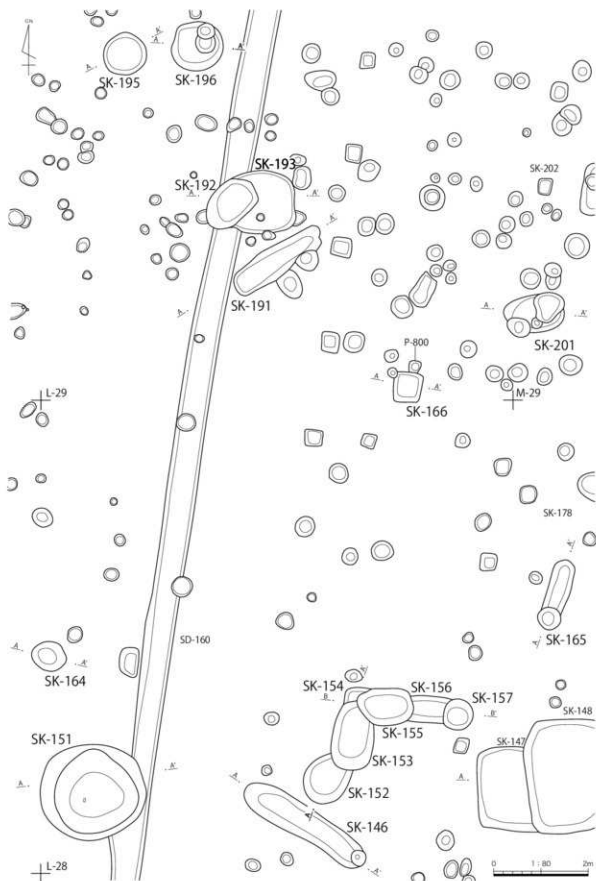
第39図 II区 区割9



第40図 II区 区別9断面図

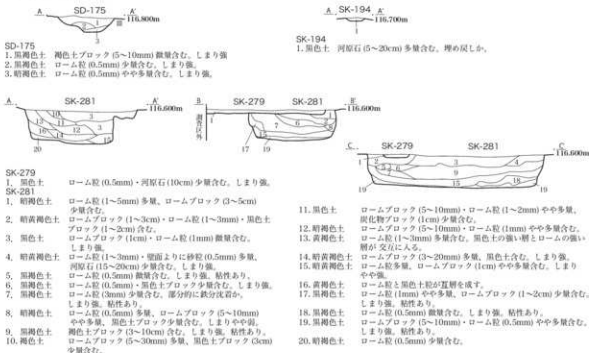


第41図 II区 区割10

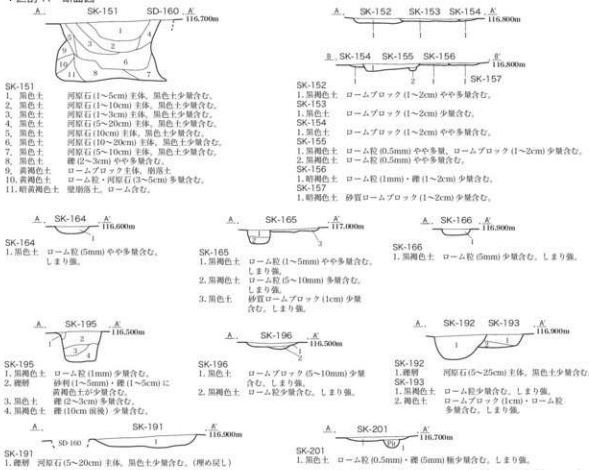


第42図 II区 区割11

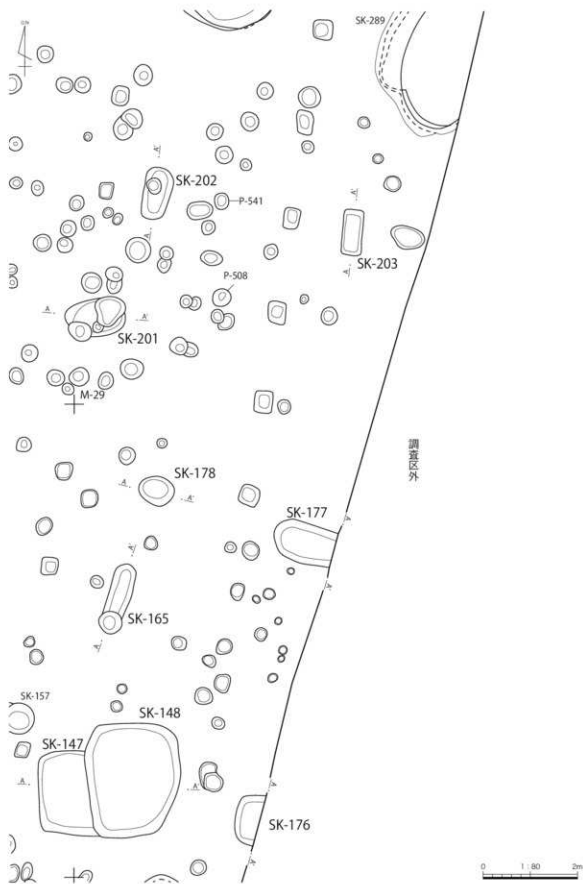
：区割10 断面図



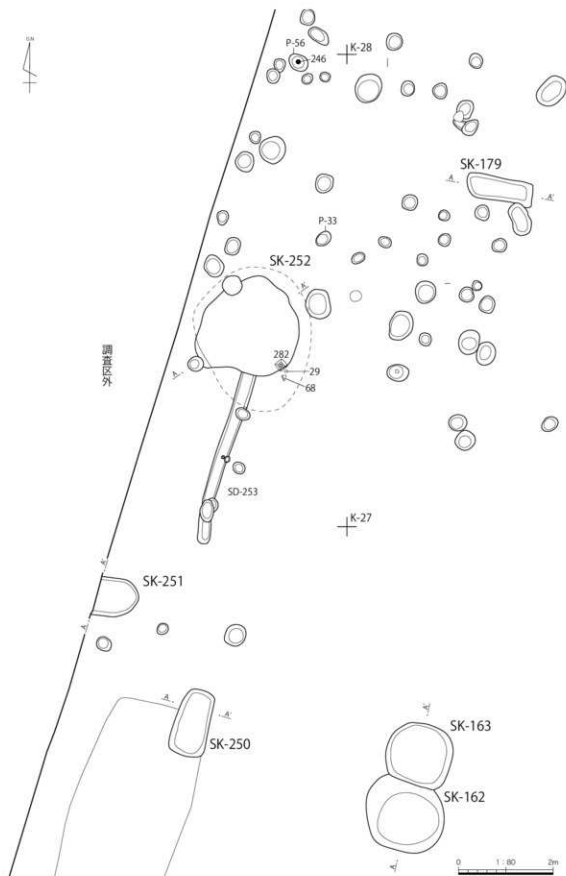
：区割11 断面図



第43図 II区 区割10・11断面図



第44図 II区 区割12



第45図 II区 区割13

区割12 断面図

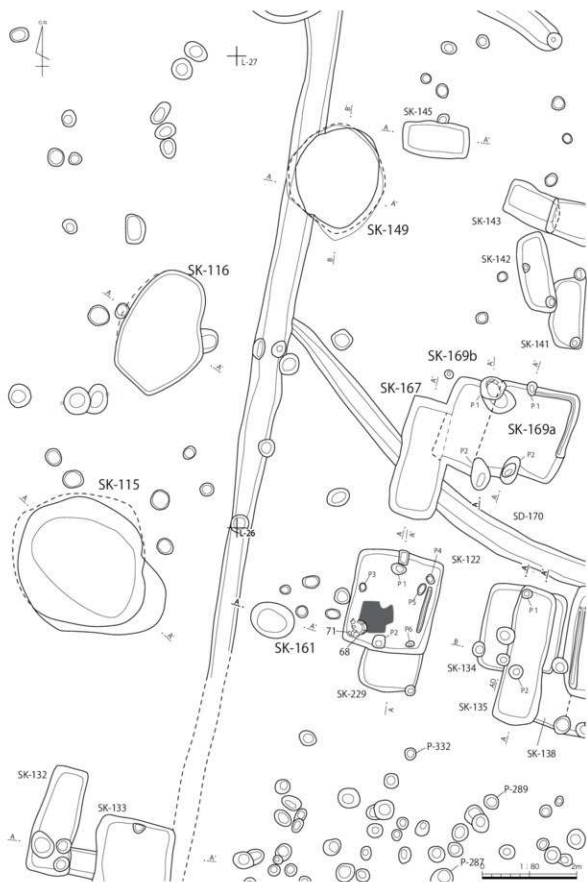


区割13 断面図

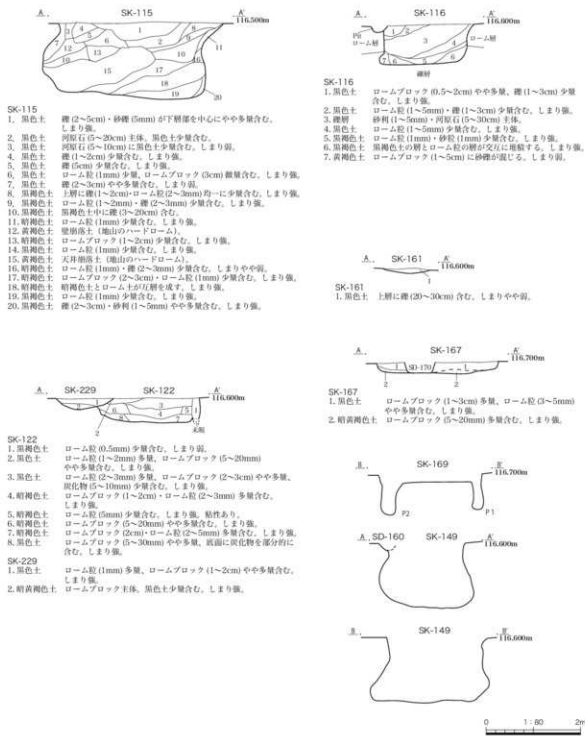


0 1:80 2m

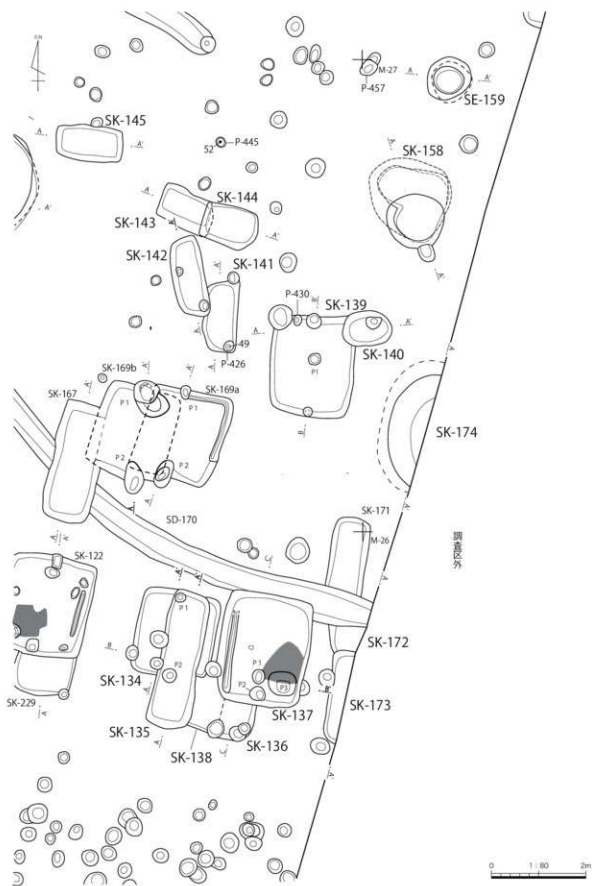
第46図 II区 区割12・13断面図



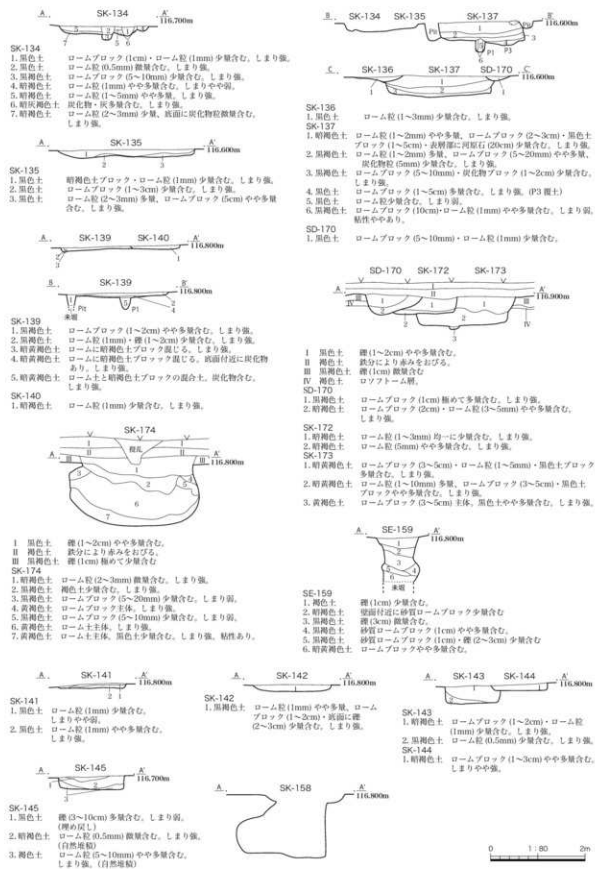
第47図 II区 区割14



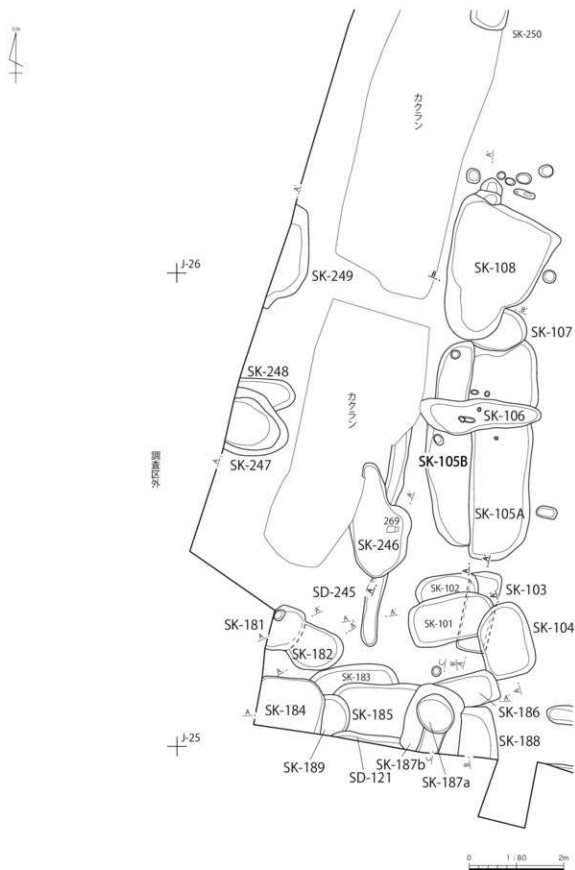
第48図 II区 区割14断面図



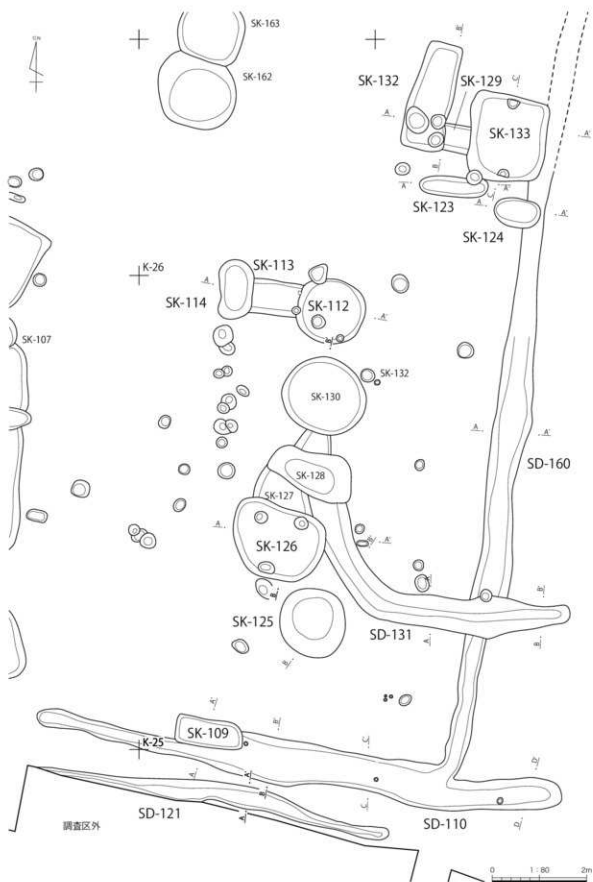
第49図 II区 区割15



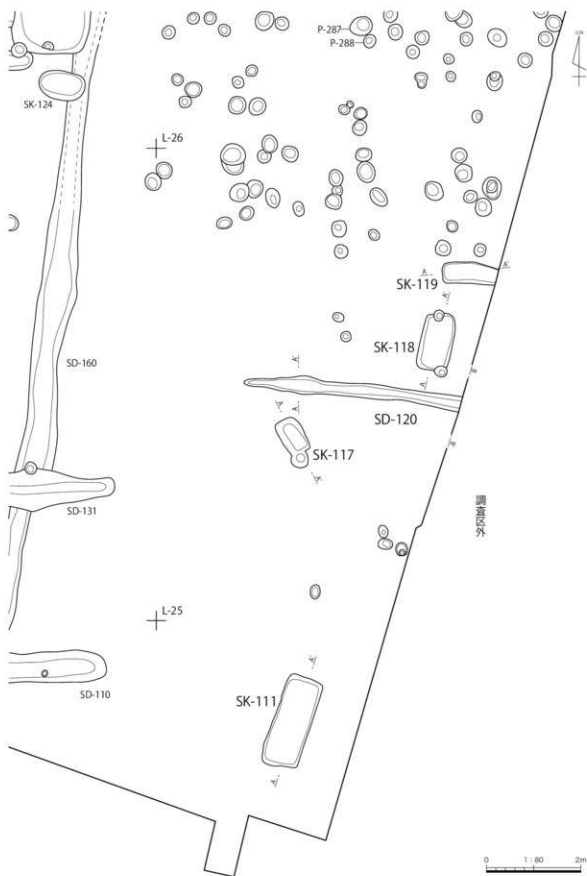
第50図 II区 区劃15断面図



第51図 II区 区割16

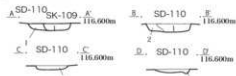


第53図 II区 区割17



第54図 II区 区割18

区割17 断面図



SK-109

1. 暗褐色土 壁・底面に礫(3~10cm)散在する。しまりやや強。

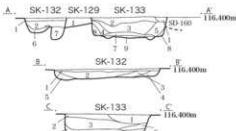
SK-110(A)セクション

1. 黒褐色土 礫(1~3cm)少量含む。しまり強。

SD-110(B)C Dセクション

1. 黒褐色土 ローム粒(0.5mm)・礫(1~2cm)少量含む。しまり強。

2. 黒褐色土 ローム粒(0.5mm)均一に少量含む。しまり強。



SK-129

ローム粒(1mm)多量、ロームブロック(1~2cm)やや多量含む。

SK-132

ローム粒(1mm)少量含む。しまり強。

ローム粒(5~10mm)少量含む。底面に礫(10~15cm)少量

散在する。しまり強。

ローム粒(5mm)・炭化物粒(5mm)少量含む。しまり弱。

ローム粒(1~5mm)やや多量、炭化物粒(5mm)・焼土粒

少量含む。しまり強。

ローム粒(1mm)やや多量含む。しまり強。

炭化物少量含む。ロームに原色土ブロックが混在。しまり強。

ローム粒(5mm)やや多量、ロームブロック(3~5cm)少量含む。

しまり強。

SK-133

ローム粒(0.5mm)少量含む。やや弱。

ローム粒(1mm)やや多量、ロームブロック(5~10mm)少量

含む。しまり強。

ロームブロック(5~30mm)やや多量含む。しまり強。

ローム粒(1mm)少量含む。しまり強。

ローム粒(2~3mm)・砂質ローム粒やや多量含む。しまり強。

ローム粒(2~3mm)・原色土粒・炭化物粒少量含む。しまり強。

ローム粒(1mm)多量含む。しまり強。

炭化物粒・ブロックやや多量含む。しまり強。粘性ややあり。

区割18 断面図



SK-117

1. 黒褐色土 ローム粒(1mm)少量含む。しまり強。



SK-119

1. 黒褐色土 ローム粒(1mm)少量含む。しまり強。



SK-111



SK-112

1. 暗褐色土 ローム粒(1cm)多量含む。しまり強。

SK-113

1. 暗褐色土 ローム粒(1mm)少量含む。しまり強。

SK-114

1. 黒褐色土 黒褐色土中に黒褐色土少量含む。しまり強。



SK-125

1. 黒褐色土 河原石(1.5~3cm)多量含む。しまり強。

SK-126

1. 黒褐色土 河原石(1~30cm)多量、礫(1~3cm)少量含む。しまり強。

SD-131

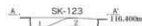
ローム粒(1mm)少量含む。しまり強。

2. 暗褐色土 ローム粒(1mm)やや多量含む。しまり強。



SD-121

1. 暗褐色土 開口(5cm)やや多量含む。底面に此分がけ出し、赤色で炭化している。底面の形状から振り返りして作り替えた形跡あり。



SK-123

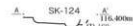
1. 褐色土 黒色土少量含む。しまり強。

2. 黒褐色土 ローム粒(5mm)少量含む。しまり強。



SD-160

1. 黒褐色土 ローム粒(5mm)やや多量含む。しまり強。

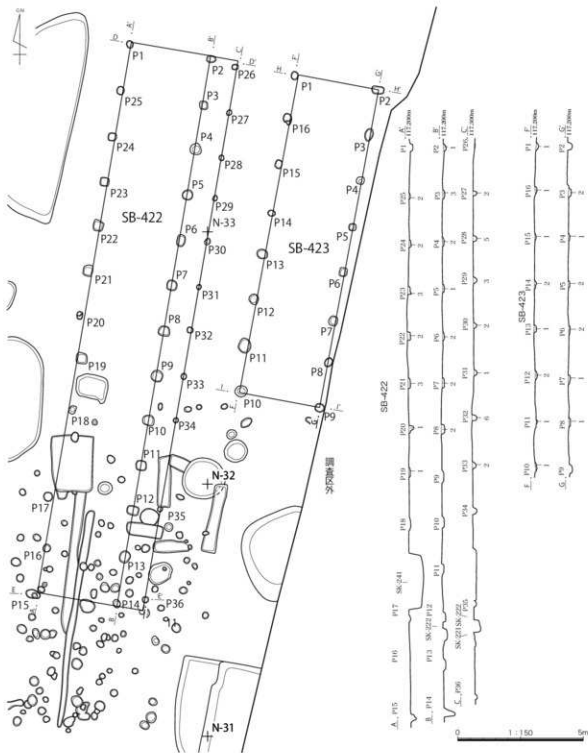


SK-124

SD-160



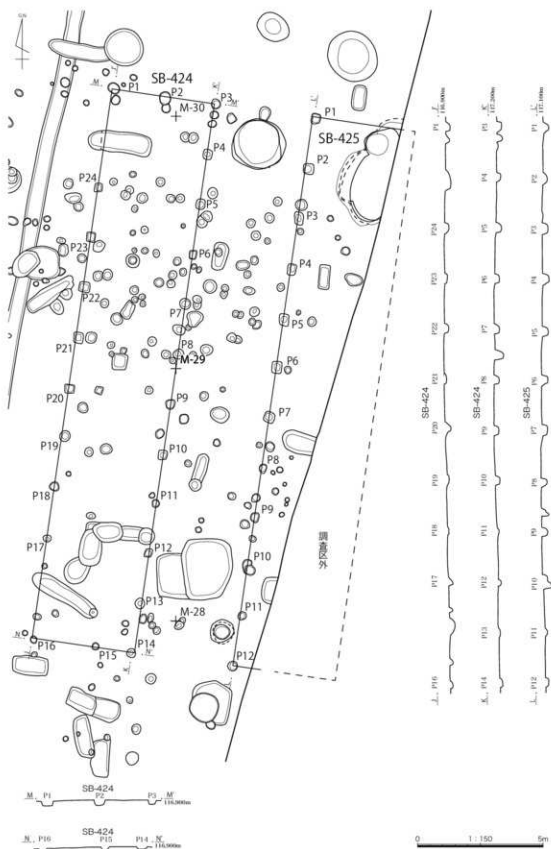
第55図 II区 区割17・18 断面図



SB-422・423・426

1. 黒褐色土 鉄分やや少量、ローム粒(1~5mm)少量含む。しまり強。
 2. 黒褐色土 鉄分多量、ロームブロックやや少量、ローム粒少量含む。しまり強。
 3. 黒褐色土 鉄分多量、ローム粒少量含む。しまり極めて強。
 4. 黒褐色土 鉄分やや少量、砂質ローム粒少量含む。しまり強。
 5. 黒褐色土 鉄分多量、砂質ロームブロックやや少量、砂質ローム粒少量含む。しまり強。
 6. 黒褐色土 ロームブロック多量含む。

第56図 II区 区割19(SB-422・423)



第57図 II区 区劃20(SB-424・425)

調査Ⅲ区（Ⅲ-1区、Ⅲ-2区、Ⅲ-3区）

本調査区はⅡ区北部と、Ⅳ区西部の間にあり、微高地上の平坦面に位置する。全体的に見ると、北から南にかけ、緩やかに傾斜している。これらの調査区は互いに境を接するが、平成22年度（Ⅲ-1区、Ⅲ-2区）と平成23年度（Ⅲ-3区）の2年に亘り発掘調査を行ったもので、同時に確認したものではない。図面や写真を提示する都合上、その範囲を示す事とした。調査対象となった主な遺構は平出城の外堀SD-410（大溝）とこれに連結する溝とその他の土坑が主な遺構となる。前述のとおりここは「東門」の屋号が残る区域である。また調査の結果、遺跡のすぐ東を流れる用水路SD-001と大溝との関わり合いが深いことがわかった。また大溝の平面形状や底面に特徴的な形状を確認することができた。3-3区は溝が埋没したのち、その上面には現在に続く墓地在築かれており、平出城廃城後の土地利用の状況を伺える資料となった。この他、溝・井戸跡・土抗などが少数確認された。以下主要な遺構について概観したい。

溝跡

SD-421（大溝）（遺構：第59・60・61図 写真図版一六～一九）

本遺構はⅢ-1区、Ⅲ-2区、Ⅲ-3区に跨がり確認された。N-40・41・42・43、O-40グリッド内に位置する。重複する東西の溝SD-420や、土抗SK-462a・SK-462bはいずれも本遺構より新しい。本遺構は調査Ⅱ区で確認された大溝（外堀：SD-410）と同一遺構と考えられる。調査時の遺構番号を踏襲し、SD-421として報告することとした。

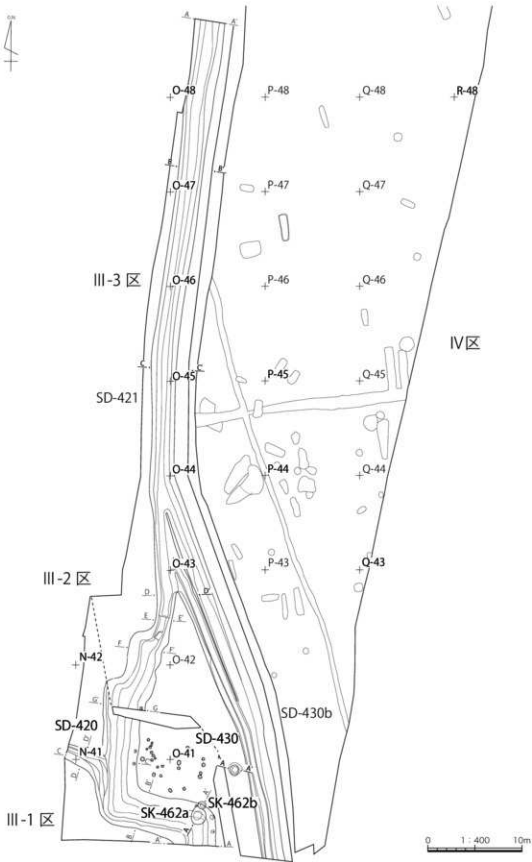
溝は南北36m、東西14m程の範囲に存在する。平面形を南から概観すると、溝はⅢ-1区南端部で直角に曲がり、西に9mほど直線的に延び、さらに直角に曲がり北上する。その後Ⅲ-3区に入りさらに15mほど北へ延びた所で、2回小さく鍵の手状に曲がる。溝はさらに直線的に延びSD-430a・430bおよびSD-001（現在の用水路）に連結する。溝の上幅は北部（E断面付近）が最も狭く1.6m程である。F断面付近では大幅に広くなり上幅3.4m～3.6m程、南半部ではやや広く平均4m程となる。調査区南端のA断面を観察すると、最も広い部分の上幅は約5mに及ぶ。溝底面の幅は0.5～0.8m幅で、概ね平坦に掘られているが、N42グリッド中央部付近で1m近い段差を有し急激に立ち上がる。これを境に北側は上幅も狭く、掘り込みも確認面から0.6m程と浅くなっている。

覆土の断面は3か所で観察した。土層はレンズ状に細かく分層することが可能で、いずれも自然堆積と考えられる。7回以上の作り替え（掘り直し）があるものと考えられる。溝が掘られた当初は箱薬研もしくは丸みを帯びた薬研状の断面であったが、埋没や掘りさらいを繰り返すうちに浅くなり最終的にレンズ状の浅い溝となり、廃棄されたことが窺える。調査Ⅲ区内における溝からの出土遺物は皆無であった。

Ⅲ-3区SD-001との関係

Ⅲ-3区のSD-001は平出城の北部から東側に沿って流れる現在の用水路である。道路工事に伴う改修のため、用水の法面および底面に貼られたコンクリートを外し、その下面を調査したところ、部分的に大溝（外堀）の覆土と思われる土層が残っていることが判明した。但し、大溝の壁面は砂礫層となる部分もあり、遺構の覆土か、地山の砂礫層か、あるいはコンクリート壁の裏込めに入れた土砂か、判別しづらい部分も多かった。

Ⅲ-3区北端部の土層断面においてSD-421の覆土が確認されたため、基本的にSD-001北半部の流路は平出城の外堀とほぼ一致しているものと考えられよう。SD-001の南半部については明らかにできなかったが、平出城の外堀と密接な関連があったことは明らかである。



第58図 III区(III-1、III-2、III-3区)全体図

遺物は確認できなかった。

Ⅲ-2区 SD-420 (遺構：第59図 写真図版一七)

本遺構はⅢ-1区のM-40・41、N-40・41グリッド内に位置する。大溝SD-421と重複し、これより新しいと思われる。平面をみると、本遺構は大溝SD-421の南西コーナー付近から枝分かれするように北西方向に延びている。規模は西側が調査区外のため全体の長さは不明であるが、SD-421のC断面で観察したところ、西から東へ緩やかに傾斜していることが分かる。溝の全長は5m以上、上幅は最大2.5m程だが、3-1区西壁付近の幅は1.5m程である。確認面からの深さは西壁際で0.44m、東部では0.7mほどである。溝の断面形は屋梁研状を呈している。出土遺物は確認できなかった。大溝の埋没過程に域内から取り付けられた東西方向の溝ということが出来る。

Ⅲ-3区 SD-430a (遺構：第59・60図 写真図版二〇)

本遺構はⅢ-3区のP-40・0-40・41・42・43グリッド内に位置する。現代の用水路であるSD-001の西側に沿うように掘られている。重複関係はSD-430bより古く、大溝SD-421より新しい。本遺構はⅢ-3区内に於いて約31mの長さが確認された。SD-430aは上幅1.6m、深さは約0.4m、底面は浅く平坦で、東側の肩はSD-430bにより削られており残っていない。遺物は確認できなかった。

Ⅲ-3区 SD-430b (遺構：第59・60図 写真図版二〇)

本遺構はⅢ-3区のP-40・0-40・41・42・43グリッド内にある。位置的にはSD-430aとSD-001に挟まれた形となる。重複関係はSD-430aより新しくSD-001より古い。本遺構はⅢ-3区内に於いて約32mの長さが確認された。上幅は広いところで1.2m程、深さは0.2～0.3m、底面の下幅は0.6mとやや幅広である。覆土は礫を含む暗褐色土主体で、自然堆積と考えられる。遺物は確認できなかった。

溝の性格

SD-430a・430bは0-43グリッド以北では確認できなかった。本来存在しなかったか、あるいはSD-001によって削平された可能性もある。溝の性格については不明な点が多いが、平出城跡の外堀が埋まった後、現在の水路が整備されるまでの間に利用された可能性があるのではないかと。

井戸跡

Ⅲ-1区 SE-466 (遺構：第59・61図 写真図版一六)

Ⅲ-1区東部の0-40グリッド内に位置する。重複遺構は無い。SD-430aに近接している。平面形は直径2m程の不整な円形を呈する。形状は確認面から0.4m程までは漏斗状を呈し、以下はオーバーハングしながら袋状を呈する。確認面から1.9m下まで掘り下げた時点で調査終了したため、底面等の状況は不明である。覆土は4層に分層される。礫を含む厚い土層が短期間で堆積した様子が窺えるため、人為埋め戻しと思われる。覆土中からは遺物は確認できなかった。

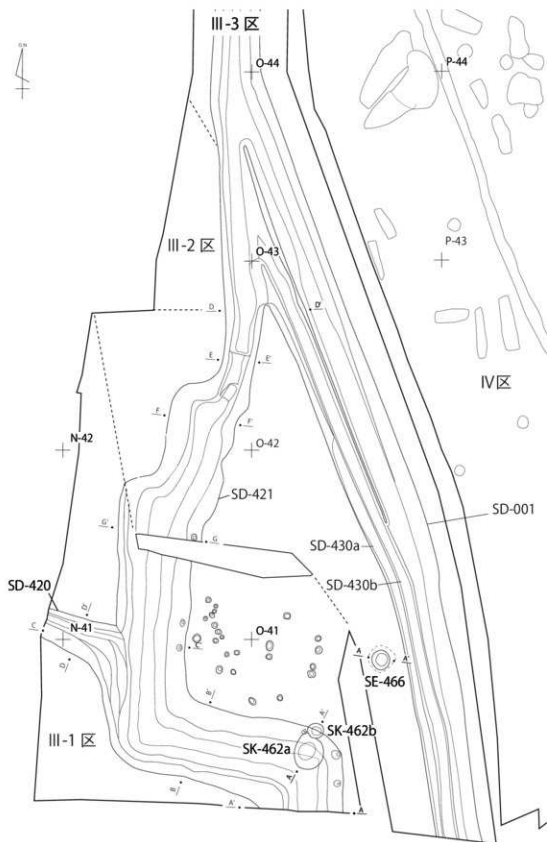
土坑

Ⅲ-1区 SK-462a (遺構：第59・61図)

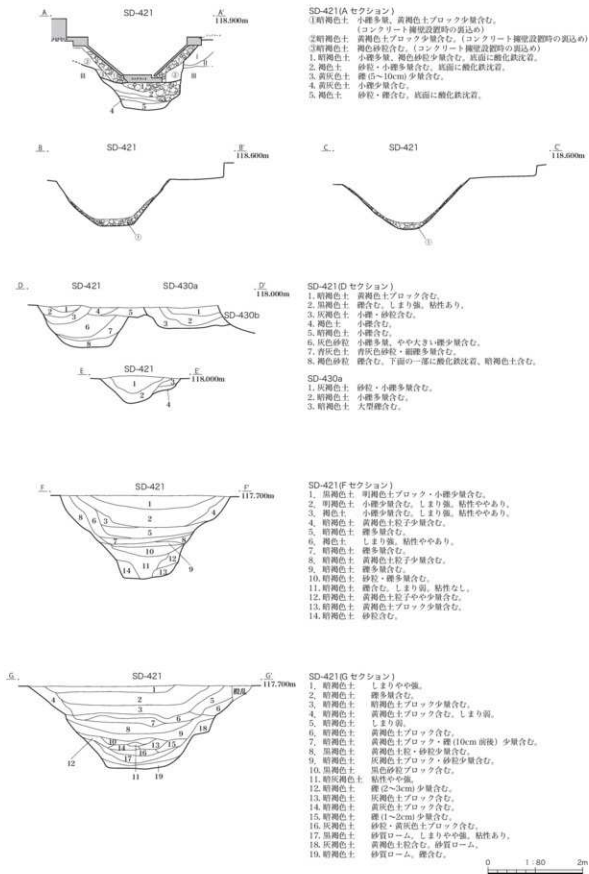
Ⅲ-1区0-40グリッド内に位置する。SD-421より新しく、SK-462bより古い。平面形は長軸1.91m、短軸1.54mの楕円形で、深さは0.25mである。断面は皿状で、覆土は自然堆積と思われる。遺物は確認できなかった。

Ⅲ-1区 SK-462b (遺構：第59・61図)

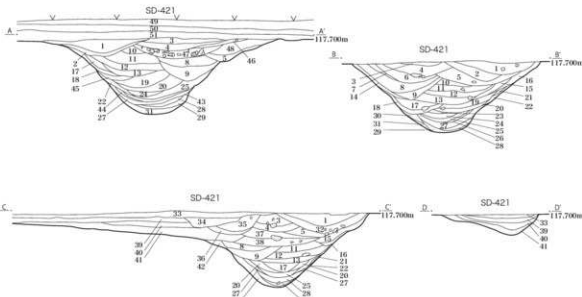
Ⅲ-1区0-40グリッド内に位置する。SD-421・SK-462aより古い。平面形は直径0.8m程の円形で、深さは0.2mである。壁面はやや急角度に立つ。覆土は円礫やローム粒を多量含み、人為埋め戻しと考えられる。



第59図 III区 遺構配置図



第60図 III区 断面図(1)



SD-410

1. 褐色土 砂礫(0.5~10cm)・暗褐色土・褐色土の混合土。しまり強。
2. 暗褐色土 礫(10~40mm)・砂礫(2mm)・ローム粒(2mm)含む。しまり強。
3. 褐色土 砂礫(5~10mm)多量含む。しまり強。
4. 黄褐色土 大型の円礫を下部に含む。
5. 黄褐色土 ローム粒・ソフトローム・灰色土の混合土。円礫含む。しまり強。
6. 黒色土 ローム粒(5mm)少量含む。しまり強。
7. 黒色土 ローム粒(1mm)散在的に少量含む。しまり強。
8. 黒色土 ローム粒(0.5mm)少量含む。しまり強。6層より暗い。
9. 明褐色土 土人跡は8層と類似するが色調はやや明るい。しまり強。
10. 褐色土 ローム粒(2mm)多量含む。しまり強。
11. 褐色土 ロームブロック(30mm)・ローム粒(2mm)多量含む。しまり強。
12. 暗褐色土 ローム粒(1~2mm)含む。しまり強。
13. 暗褐色土 暗褐色粘質土層。しまり強。
14. 褐色土 ローム粒(1mm)多量含む。しまり強。
15. 黄褐色土 ローム粒(1mm)含む。しまり強。
16. 黒色土 ローム粒(1mm)散在的に含む。しまり強。
17. 暗褐色土 暗褐色粘質土層。円礫含む。しまり強。
18. 暗褐色土 ローム粒(5mm)少量含む。しまり強。粘性あり。
19. 暗褐色土 炭化物(5mm)少量含む。しまり強。粘性あり。
20. 暗褐色土 暗褐色粘質層。褐色土と灰色粘土の混合土。しまり強。粘性あり。
21. 黄褐色土 ローム粒(1~2mm)多量含む。しまり強。
22. 黄褐色土 ローム粒(0.5mm)多量含む。しまり強。
23. 暗褐色土 暗褐色の粘土層。しまり強。
24. 黄褐色土 ローム粒(0.5mm)・暗灰色粘土粒多量含む。しまり強。粘性あり。
25. 灰褐色土 灰色粘土中に褐色細砂粒多量含む。しまり強。

26. 暗灰色粘土層 やや砂質。しまり強。粘性あり。ローム粒(0.5mm)・黒色土・暗灰色粘土粒を散在的に含む。しまり強。
27. 黒褐色土 砂粒多量含む。しまり強。
28. 暗褐色土 ソフトローム含む。しまり強。粘性強。
29. 黄褐色土 ローム粒(1mm)・ソフトロームブロックの混合土。しまり強。
30. 黄褐色土 ローム粒(0.5mm)含む。砂質土含む。しまり強。
31. 暗褐色土 円礫(50mm)・ローム粒(5mm)・黒色土粒多量含む。褐色土に類似した色調。小礫多量含む。しまり強。
32. 黄褐色土 ローム粒(5mm)・小礫多量含む。しまり強。
33. 褐色土 焼土粒(2mm)若干。ローム粒(7mm)・小礫含む。しまり強。
34. 暗褐色土 ローム粒(5mm)・小礫少量含む。しまり強。
35. 暗褐色土 ローム粒(5mm)・小礫少量含む。しまり強。
36. 暗褐色土 ローム粒(5mm)・小礫少量含む。しまり強。
37. 黄褐色土 ロームブロック(10mm)・ローム粒(2mm)多量含む。しまり強。
38. 黄褐色土 ロームブロック(30mm)・ローム粒(1mm)多量含む。しまり強。
39. 暗褐色土 ローム粒(5mm)極めて少量含む。しまり強。
40. 暗褐色土 39層と比してローム粒が更に少なく純粋に近い。しまり強。
41. 黒色土 ロームブロック(10mm)少量。小礫若干含む。しまり強。
42. 黄褐色土 ロームブロックの集積土。黄色土含む。しまり強。
43. 褐色土 黒色土層を扇状に含む。しまり強。粘性あり。
44. 暗褐色土 ローム粒(1mm)少量含む。しまり強。
45. 暗褐色土 ローム粒(5mm)少量含む。しまり強。
46. 黄褐色土 ローム粒(1~5mm)多量含む。しまり強。
47. 黄褐色土 円礫を主体とし、ローム粒(1mm)少量含む。しまり強。
48. 黒色土 炭化物(5mm)・焼土粒(5mm)散在含む。しまり強。
49. 黒色土 宅地造成時の盛土。
50. 黒色土 新作土層。
51. 黒色土 新作土層(床土)。しまり強。

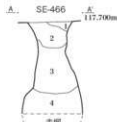


SK-462a

1. 暗褐色土 ローム粒(0.5~1mm)多量。ロームブロック(30mm)少量含む。しまり強。
2. 暗褐色土 ロームブロック(10mm)少量。黒色土若干含む。しまり強。
3. 暗褐色土 ローム粒(2mm)少量含む。しまり強。

SK-462b

1. 暗褐色土 円礫(5~15cm)多量。ローム粒(2mm)少量に含む。しまり強。



SE-466

1. 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。しまりや中礫。粘性や中なし。
2. 暗褐色土 黄褐色土粒子・礫少量含む。しまり弱。
3. 暗褐色土 礫含む。
4. 暗褐色土 小礫多量含む。



第61図 Ⅲ区 断面図(2)

調査IV区

調査IV区は外堀（大溝）の東側となるため、城館跡の区域外にあたる。本調査区は平成22年度に実施した。遺構分布の特徴をみると、域内で見られたような方形竪穴遺構や地下式竪穴などがほぼ皆無である点特徴的といえる。井戸はⅡ区同様、本調査区においても1本のみ確認されたにすぎない。またビット状の遺構が極めて少ない。遺構は溝および長方形土抗が主となる。分布状況は全体的に散漫だが、南半部に比較的集中するのに対し、北半部は埋没谷があるためか、遺構密度がやや低い傾向にある。

溝跡

SD-432（遺構：第64・66・67・71・72図 写真図版二〇）

調査区南部の0-43・44・45・46、P-41・42・43・44グリッドに位置する。東西方向の溝SD433より新しく、SK-661より古い。Ⅳ区とⅢ区を分けるSD-001およびⅢ-Ⅲ区のSD-430a・430bとも平行しており、これらの溝と関連が想定できる。確認された範囲での長さは約50mに及ぶ。上幅は0.4mから0.8m、確認面からの深さは0.2m～0.3mと浅い。断面は逆台形状を呈し、底面は概ね平坦である。B断面では底面付近の第2層中に砂質土が見られる。遺物は確認できなかった。本遺構は調査区(Ⅲ-3区)では確認されなかった。上面が削平されたためか、あるいは調査区外で簡潔したかは断定できなかった。

SD-433（遺構：第66・67・68・70図 写真図版二〇～二二）

Ⅳ区中央部の0-44・P-44・Q-44グリッド内に位置する東西方向の溝。重複関係はSD-432および長方形土抗SK-434より古く、SK-446・447より新しい。確認された範囲での長さは約22mに及び、溝はさらに東に延びている。上幅は西端部で1.5mと最も広いが、交差するSD-432のすぐ東部では0.4mと極端に狭くなるが、平均して1.3m程である。溝の断面形はしっかりした堀方を持つ逆台形状を呈している。確認面からの深さは0.6から0.7mを測る。覆土は黒色土および黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。遺物は確認されなかった。

井戸跡

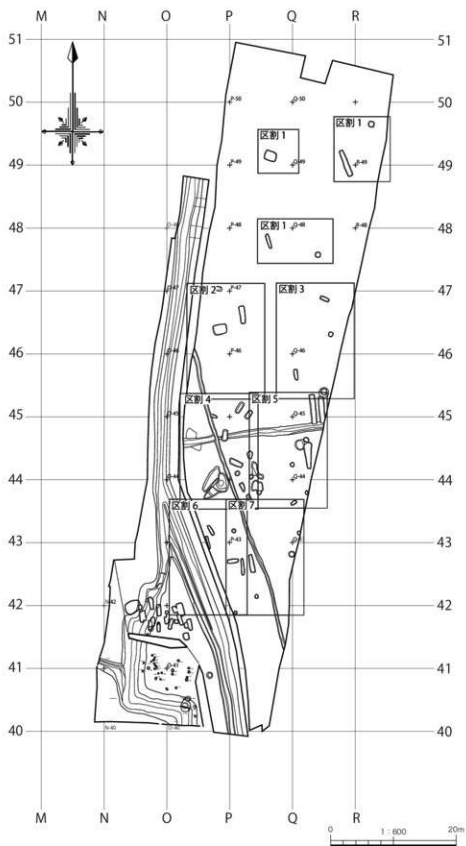
Ⅳ区SE-448（遺構：第65図）

Ⅳ区中央部のQ-45グリッド内に位置する。南に長方形土抗SK-446が近接するが重複関係は判別できなかった。平面形は直径1.54m程の概ね円形を呈する。形状は確認面から0.7m程までは漏斗状を呈し、以下は筒状を呈する。確認面から1.7mまで掘り下げた時点で調査終了したため、以下の状況は不明である。覆土は礫を多量含む第6層が人為埋め戻しと思われるが、レンズ状に堆積する上層の覆土も礫を多く含むことからこちらも人為埋め戻しの可能性がある。礫や砂粒を多く含む、暗褐色土及び黒褐色土を主体としており、人為埋め戻しの可能性が高い。覆土中からは遺物は確認できなかった。

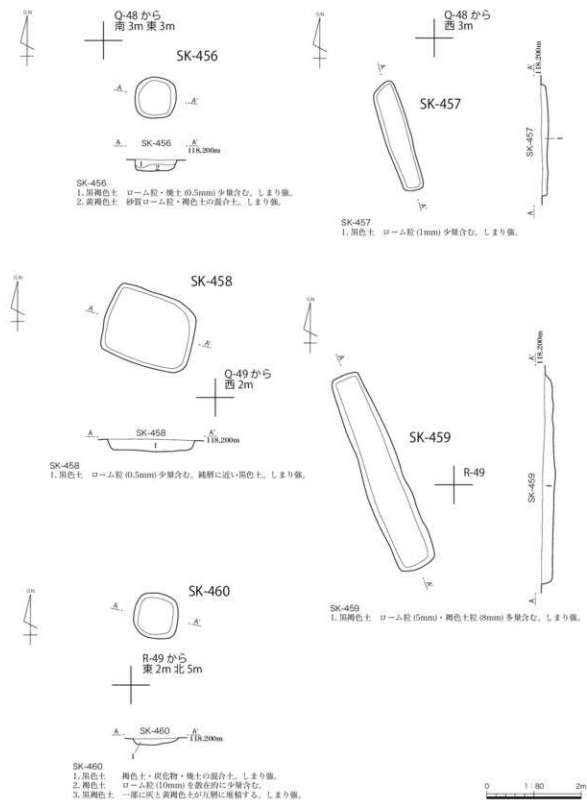
土抗

Ⅳ区SK-459（遺構：第63図）

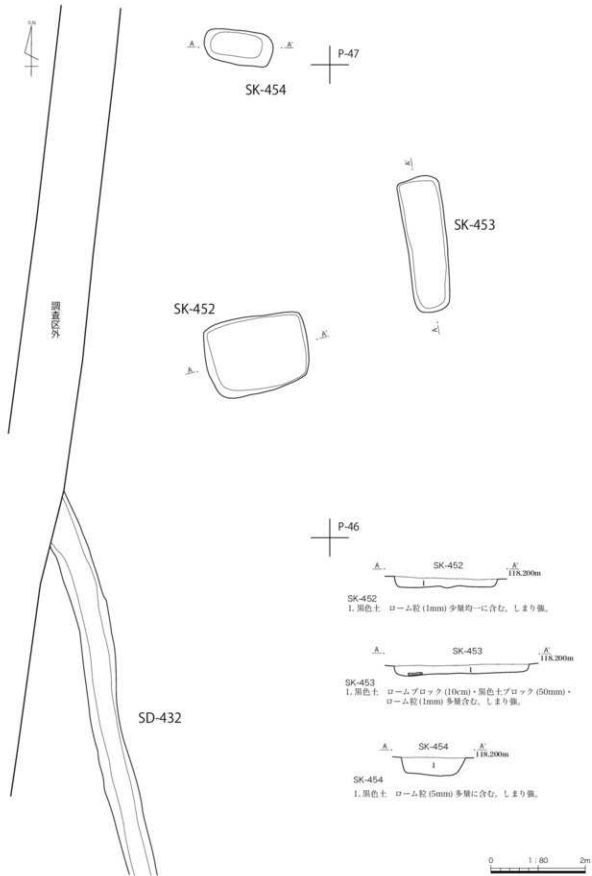
Ⅳ区北部のQ-48・Q-49グリッド内に位置する。重複する遺構は無い。主軸方向はN-21°-Wである。平面形は長軸4.38m、短軸0.86mの長方形を呈し、確認面からの深さは0.29mである。壁面はやや斜めに立つ。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は確認できなかった。周辺は長方形土抗が散在する区域である。



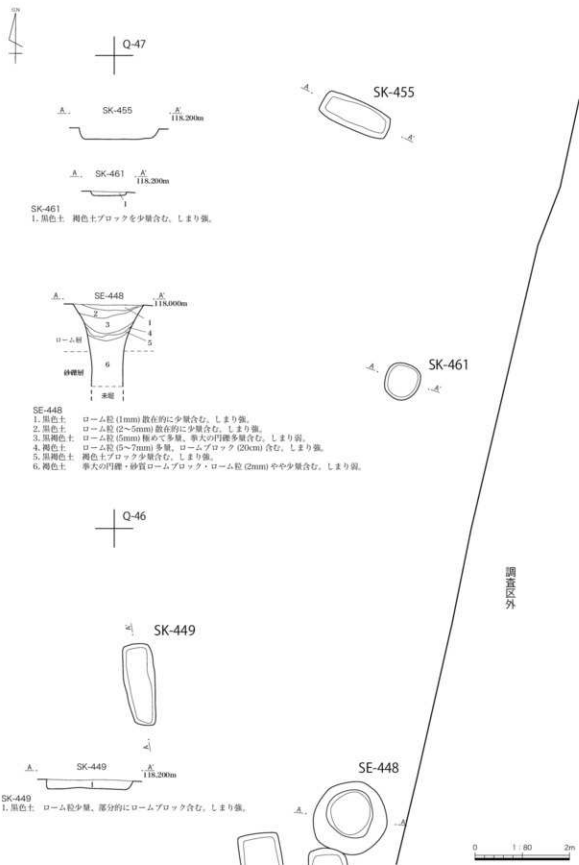
第62図 IV区 区划配置図



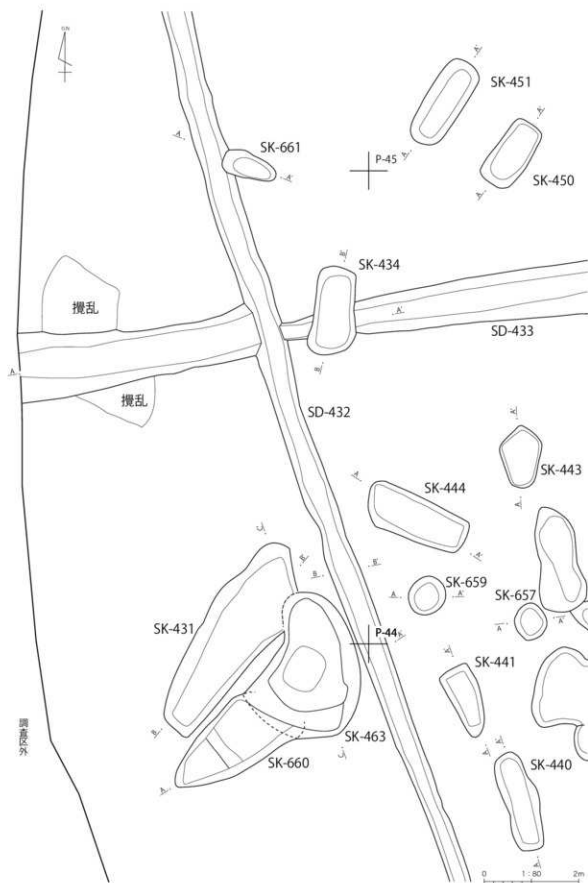
第63図 IV区 区劃1



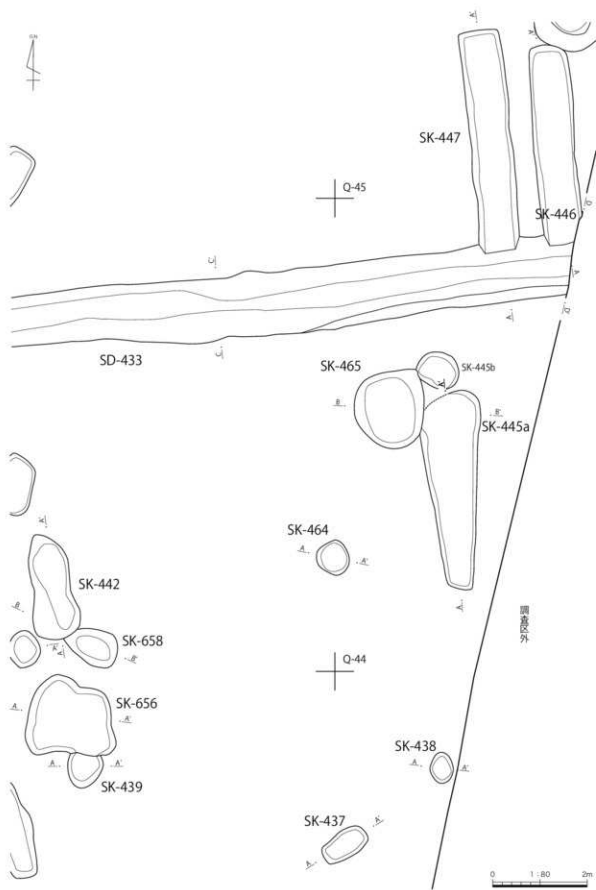
第64図 IV区 区割2



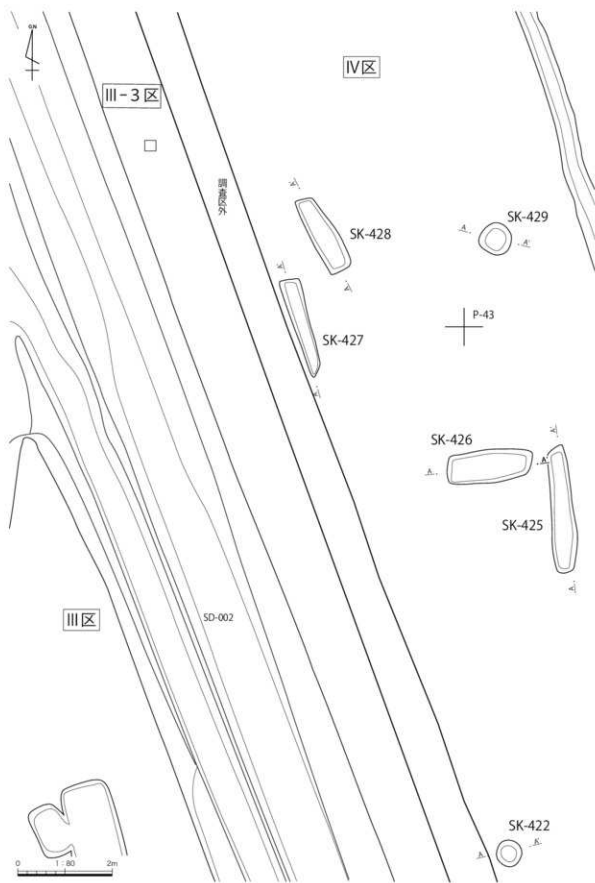
第65図 IV区 区割3



第66図 IV区 区割4

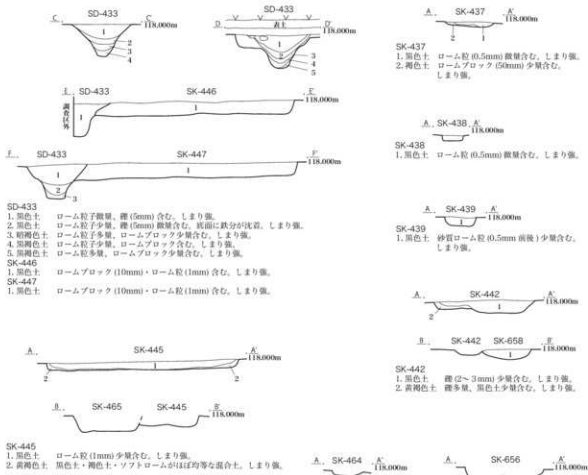


第68図 IV区 区割5



第69図 IV区 区割6

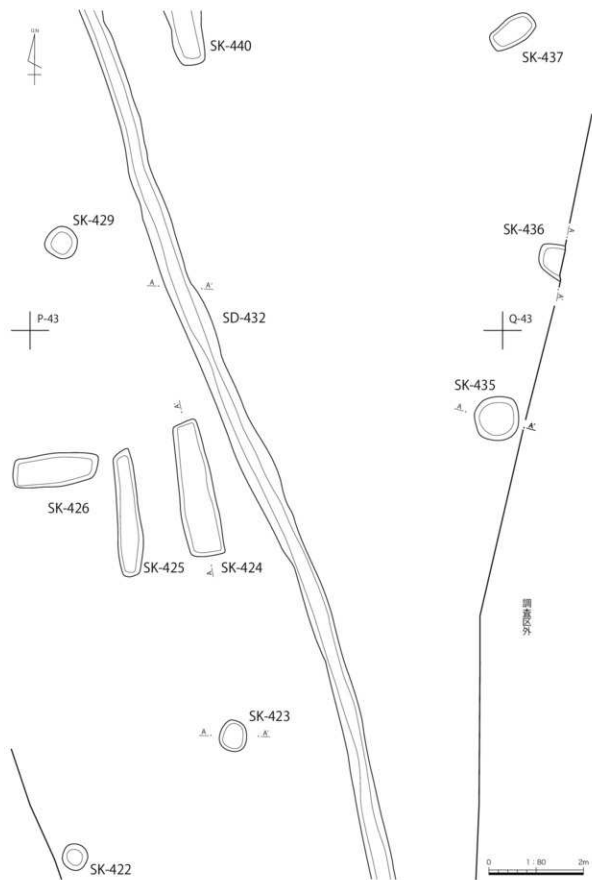
：区劃5 断面図



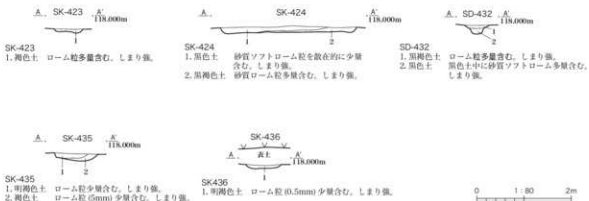
：区劃6 断面図



第70図 IV区 区劃5・6断面図



第71図 IV区 区割7



第72図 IV区 区割7断面図

調査V区

本調査区は平成21年度に調査を実施した。V区は今回調査範囲の北端部に位置し、IV区と同様平出城の区域外にあたる。V区は微高地上の平坦面に立地するが、調査の結果、北部・中央部・南西部に埋没谷の存在が明らかになった。遺構はこれらの埋没谷に近接して築かれる傾向がみられる。北部の埋没谷は南西方向から北東方向に入り込んでいる。この埋没谷の南北を区切るように2条の溝が掘られている。南側の溝付近には近現代の墓塚が4基まるとして見られる。中央部の埋没谷はその南側に沿って1条の溝がみとめられる。埋没谷の北部には長方形土抗が若干のまとまりを示す。IV区南西部に斜めに入る埋没谷は平出城の外堀（現在の水路：SD-001）と傾きを同じくしている。付近には土抗が多く見られる。

本調査区で確認された遺構は、溝7条、墓塚5基、土坑81基、ピットは約50基である。時期的には中世末～近現代におよぶが、近世の遺構・遺物が多い。以下、主要な遺構ごとに概略を記す。

墓塚

V区 SK-357a (遺構：第79図 写真図版二三)

V区中央部のR-57、R-58グリッド内に位置する。SK-357bにその上面を切られている。平面形は長軸0.7m短軸0.42mの長方形を呈する。上面を切るSK-357bの床面からの深さは、0.23mである。覆土は単層で、炭化物・灰を多く含む人為埋め戻しと考えられる。少量の骨片が出土することから火葬墓の可能性もある。

V区 SK-364 墓塚 (遺構：第86図 遺物：第110・119・122図 写真図版二四～二六)

V区中央部のR-61、S-61グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。東0.36mには墓塚SK-366が、北0.1mには墓塚SK-365がある。平面形は東西1.17、南北1.14mのやや不整な円形で、深さは0.49mである。覆土は3層に分層される。墓塚底面を3層で埋め戻した後、遺体を入れた早稲を埋葬したと考えられる。桶は底板と側板の下半部が残っていた。底板の上面及び上層から多くの遺物が出土した。遺物は陶器5点、磁器12点、内耳土器1点、土師小皿1点、砥石1点、古銭1点、土製品（土人形）5点、ガラス製品1点、焼土塊2点等である。人骨は確認できなかった。このうち陶器（124）、磁器（122・127）、ガラス製品（217）、砥石（248）など計5点を図示した。

V区 SK-365 墓塚 (遺構：第86図 遺物：第110～112・115・123・128図 写真図版二四～二六)

V区中央部のS-61グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。東0.57mには墓塚SK-367が、南0.10mには墓塚SK-364がある。平面形は径1.12mから1.18mの円形を呈し、深さは0.48mである。覆土は3層に分層され、人為埋め戻しと考えられる。1層および2層中には径10～30cm程の円礫を含んでいた。

また本遺構からはSK364に見られるような桶は確認されなかった。遺物は陶器10点、磁器6点、硯1点、石臼1点、土製品(土人形)2点があり、このうち陶器(115・116・117・154・162)、磁器(118・120・123・126・131・141)、硯(253)、石臼(272)、土人形(179)、など計13点を図示した。

V区 SK-366 (遺構：第87図 遺物：第110～112・117・120・123図 写真図版二四～二六)

V区中央部のS-61グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。西0.36mには墓壇SK-364が、北0.2mには墓壇SK-367がある。平面形は東西1.68m南北1.64mの不整な円形を呈し、確認面からの深さは0.38mである。覆土2層は礫を多量含む暗褐色土で、人為埋め戻しと思われる。上層の1層は多量の焼土と炭化物が出土しており、焼土を捨てたか、あるいはこの場で焚き火をした可能性がある。人骨などは確認できなかった。遺物は覆土中から陶器2点、磁器6点、内耳土器2点、砥石1点、古銭1点、鉄製品3点、琥珀3点があり、このうち陶器(114)、磁器(121・132・159)、鉄製品(197・198)、古銭(224)、硯(252)など計9点を図示した。

V区 SK-367 (遺構：第87図 遺物：第103・111・117・120図 写真図版二四～二六)

遺物は土師質土器小皿4点、陶器2点、磁器2点、鉄製品12点、古銭8点があり、このうち土師質土器小皿(67)、磁器(152)、鉄製品(199～206)、古銭(219・220・225～230)など計18点を図示した。

V区 SK-377 (遺構：第77図 遺物：第111・112・117・118・123図)

V区中央部のT-63グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。西2.08mには長方形土抗SK-378がある。平面形は直径1.33m～1.44mの不整な円形で、深さは0.39mである。覆土は焼土や炭化物を多く含む層が主体となる。また3層からは少量の骨片が出土している。骨片は理化学的な鑑定を行っていないが、人骨の可能性が高い。遺物は覆土中から陶器5点、磁器2点、土師質土器小皿5点、鉄製品10点、銅製品1点、温石1点が出土し、このうち磁器(151・157)、陶器(156)、鉄製品(207～212)、銅製品(215)、温石(250)など計11点を図示した。

土抗

V区 SK-307 (遺構：第80・82図 遺物：第112・118図)

遺物は覆土中から陶器1点、磁器35点、銅製品1点などあり、このうち陶器(130)、磁器(119・125・133・137～140・145～150・153・158・160・164・165)、銅製品(215)など計20点を図示した。

V区 SK-330 (遺構：第80・82図 遺物：第130・132図 写真図版二三)

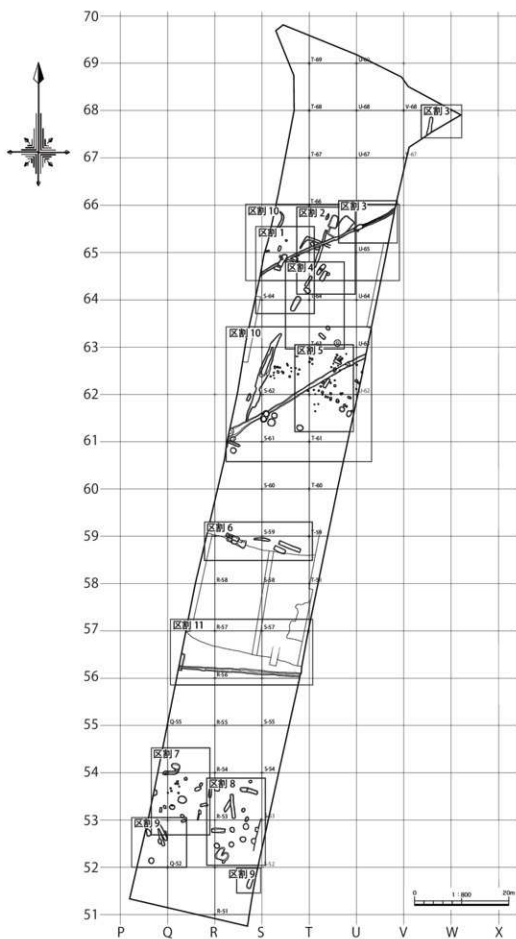
V区南部のQ-53グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。南西1.20mにはSK-328がある。平面形は東西1.89m南北1.57mの東西に長い楕円形を呈しており、深さは0.17mである。底面は若干凹凸がある。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は縄文時代の石皿1点(333)、五輪塔地輪(286)1点があり、これら計2点を図示した。

V区 SK-345 (遺構：第80・82図 遺物：第103図 写真図版二三)

V区南部Q-53グリッド内に位置する。重複関係なし。北西方向2.08mにはSK-307、南方向3.36mにはSK-330がある。平面形は径0.70m程の円形で、深さは0.31mである。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は土師質土器小皿2点、骨2点があり、このうち土師質土器小皿(66)1点を図示した。

V区 SK-369 (遺構：第78図 遺物：第111図 写真図版二三)

V区中央部のT-61グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。西0.64mにはSK-370がある。平面形は東西1.00m南北1.31mの楕円形で、深さは0.08mである。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。



第73図 V区 区割配置図

遺物は陶器1点があり、このうち陶器(129)など計1点を図示した。

V区 SK-370 (遺構：第78図 遺物：第111図 写真図版二六)

V区中央部のT-61グリッド内に位置する。重複関係なし。東方0.64mにはSK-369がある。平面形は径1.1-1.20mの円形で、深さは0.37mである。覆土は単層で人為埋め戻しと思われる。遺物は磁器2点が出土し、このうち磁器(143)1点を図示した。

溝

V区 SD-349 (遺構：第85図 写真図版二二)

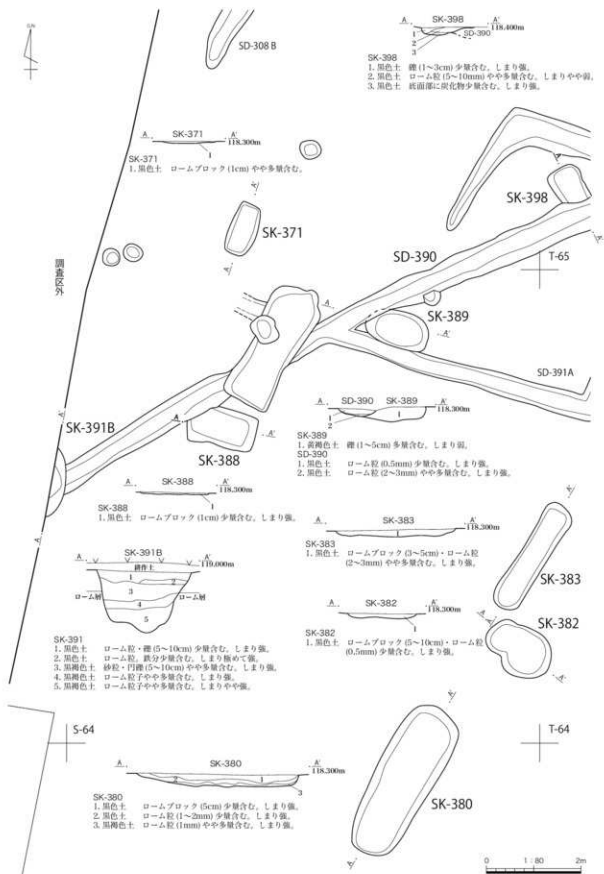
V区南部のQ-56、R-56、S-56グリッド内に位置する東西方向の溝である。中央部の埋没谷の南に当たり、他遺構との重複関係は無い。長さ25.8m以上、上幅は0.8から0.9m程の直線的な溝である。確認面からの深さは0.35m程である。底面は若干の凹凸を有し、断面は台形状を呈する。覆土は地山の礫を含む自然堆積と考えられる。遺物は確認されなかった

V区 SD-390 (遺構：第74・75・76図 写真図版二二)

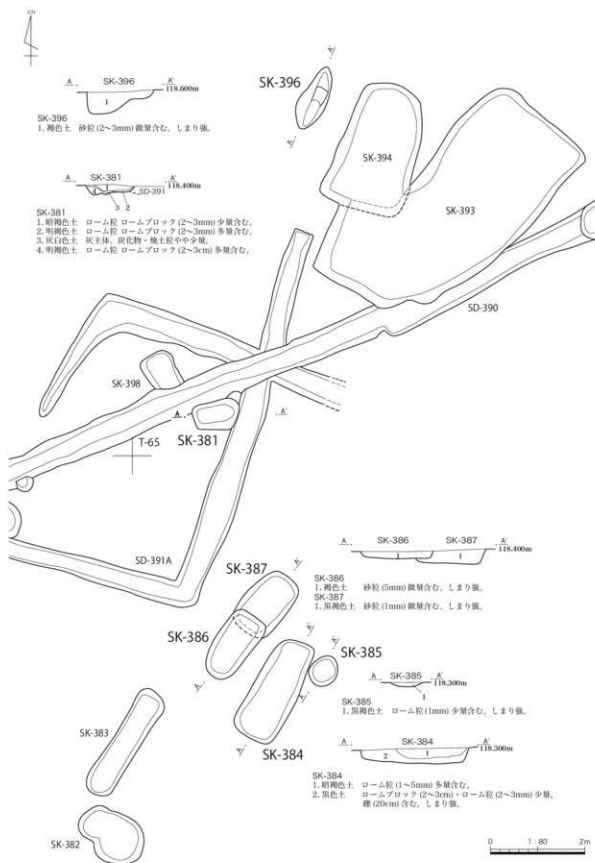
V区北部のS-64、S-65、T-65、U-65グリッド内に位置する溝である。SK-381・392・393・391bより古く、SK-389より新しい。SD-391dとの切り合いは不明である。長さ31.6m以上、上幅は最大で0.8m程の直線的な溝である。確認面からの深さは0.2-0.3mと浅いが、東壁際では0.6mを測る。底面は若干の凹凸を有する。断面形は皿状もしくは逆台形を呈する。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は確認されなかった。

V区 SD-360 (遺構：第84図)

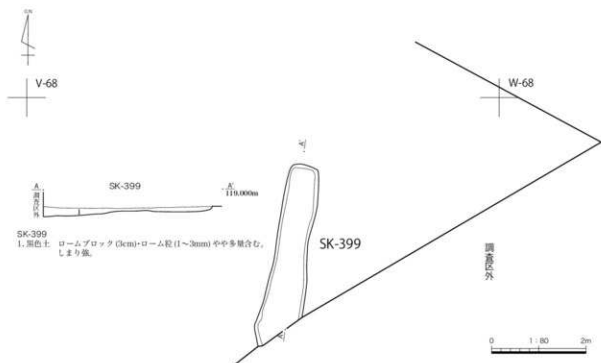
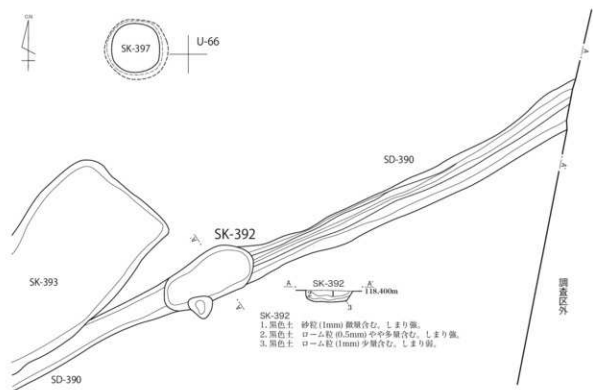
V区中央部北寄りのR-61、S-61、S-62、T-62、U-62グリッド内に位置する、墓壇SK-364・365より古い。埋没谷を挟んだSD-390と平行しており、一対の遺構とも考えられる。長さ34.2m以上で、溝の上幅は0.8から1mである。確認面からの深さは最も深い西側で0.36m、中央部では0.1mと浅い。底面は概ね平坦である。断面は丸みを帯びた箱状を呈する。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は確認できなかった。



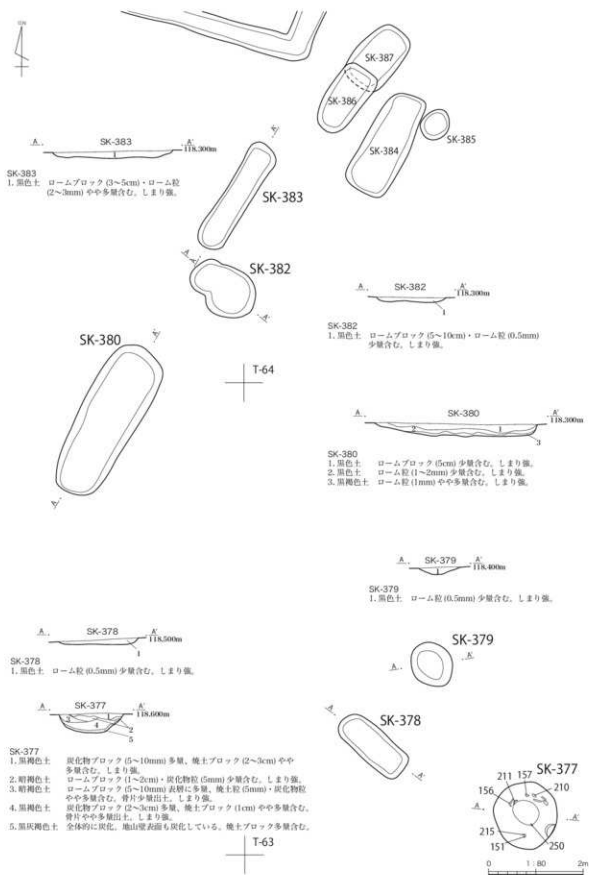
第74図 V区 区劃1



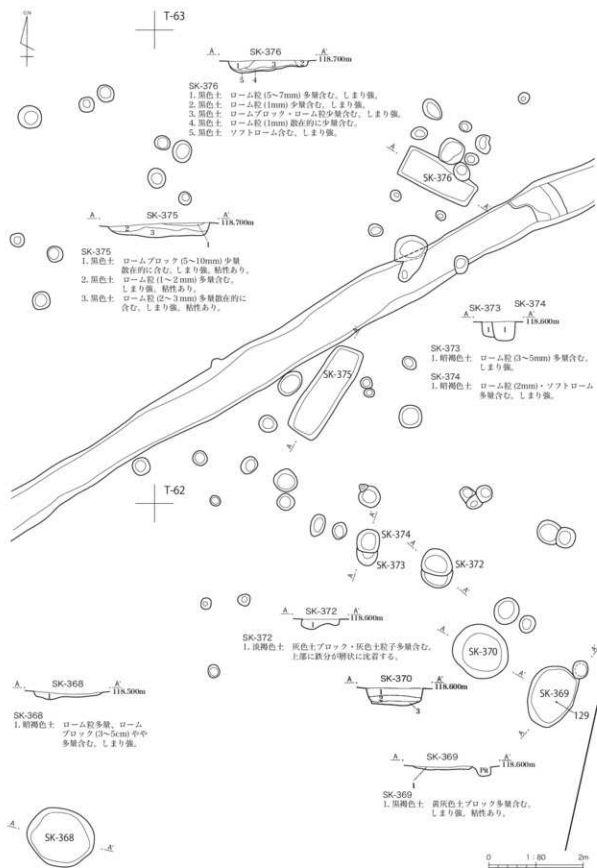
第75図 V区 区割2



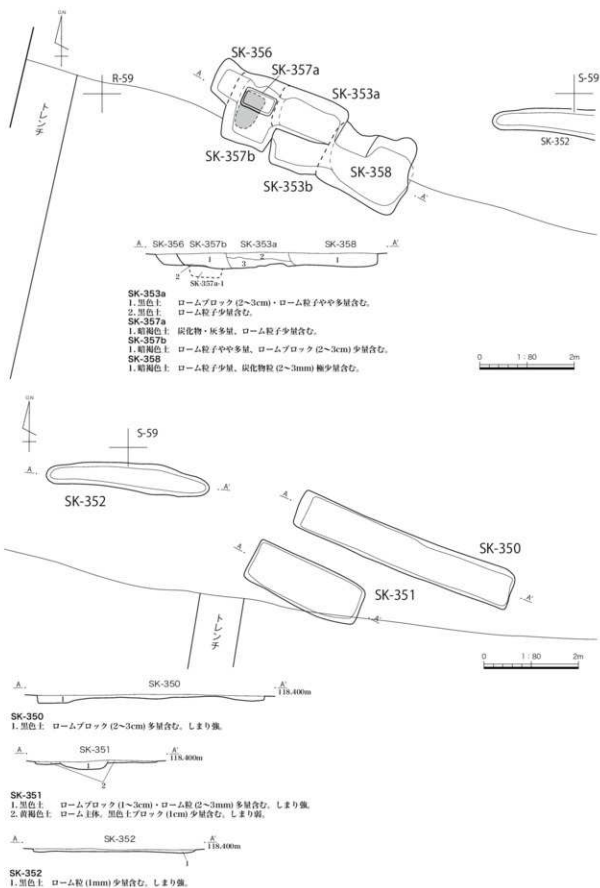
第76図 V区 区割3



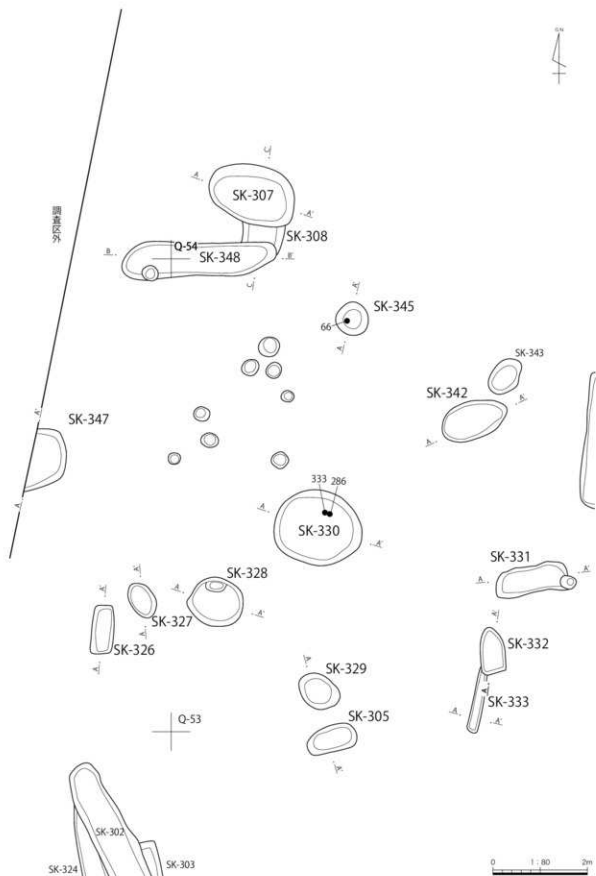
第77図 V区 区割4



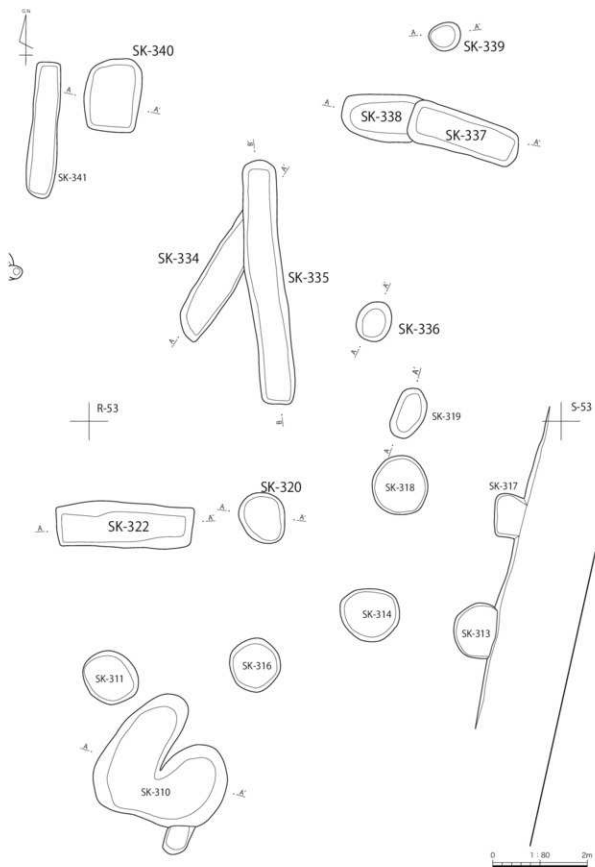
第78図 V区 区割5



第79図 V区 区割6

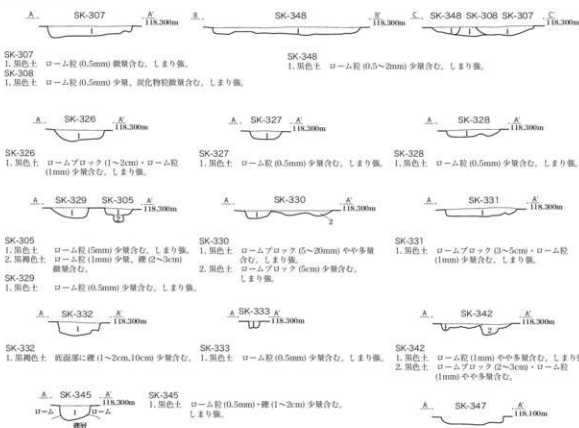


第80図 V区 区割7

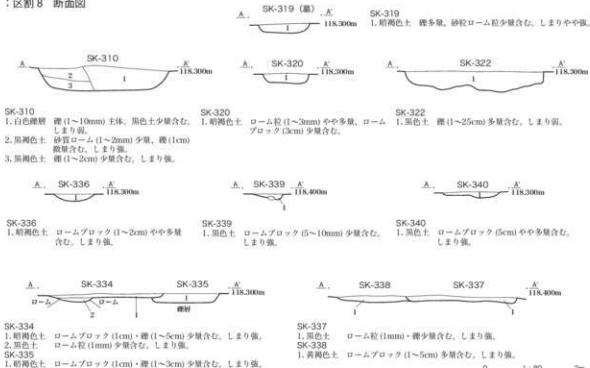


第81図 V区 区割8

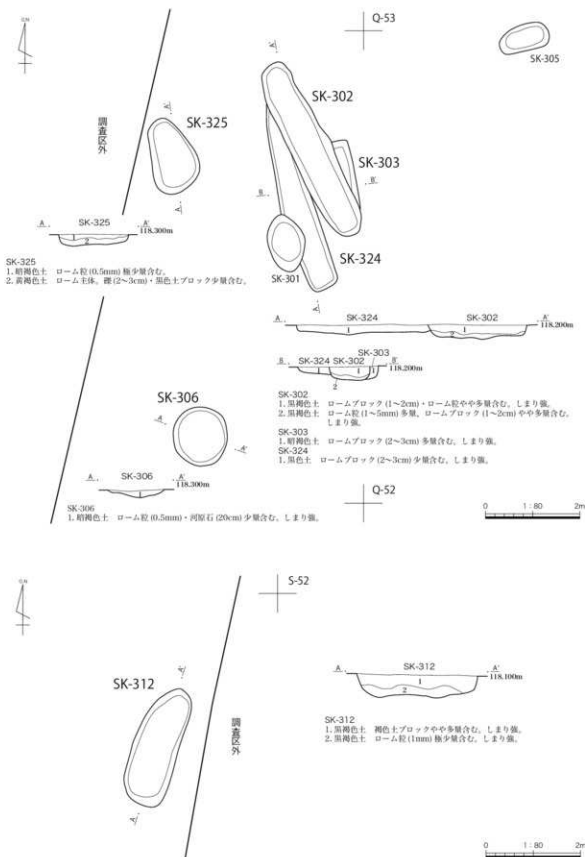
：区劃7 断面図



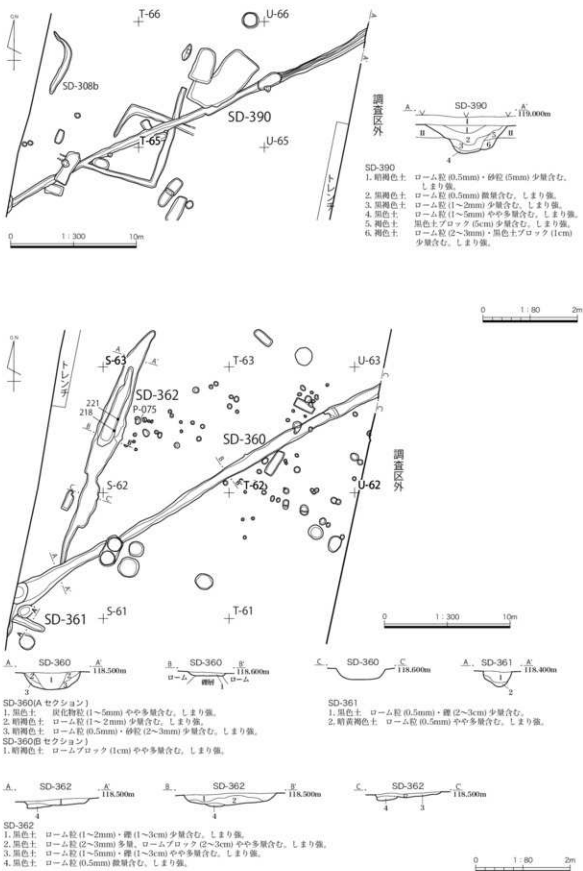
：区劃8 断面図



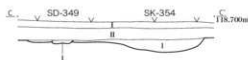
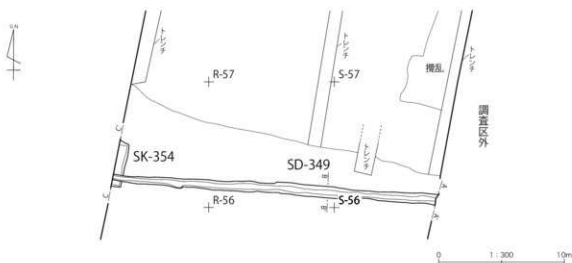
第82図 V区 区劃7・8断面図



第83図 V区 区割9



第84図 V区 区割10 (SD)



SD-349 (A セクション東壁)

- I. 黒色土 礫(1~3cm)少量含む、しまり弱。
- II. 褐色土 礫(1cm)少量含む、起伏による赤みをおびる、しまり強。
- 1. 黒色土 礫(1~2mm)やや多量含む、しまり強。
- 2. 黒色土 ロームブロック(1cm)・礫(1cm)少量含む、しまり強。

SD-349 (B セクション)

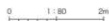
- 1. 黒色土 河原石(3~5cm)やや多量含む、しまり強。
- 2. 暗褐色土 河原石(3cm)・砂粒(1mm)少量含む、しまり強。

SK-354

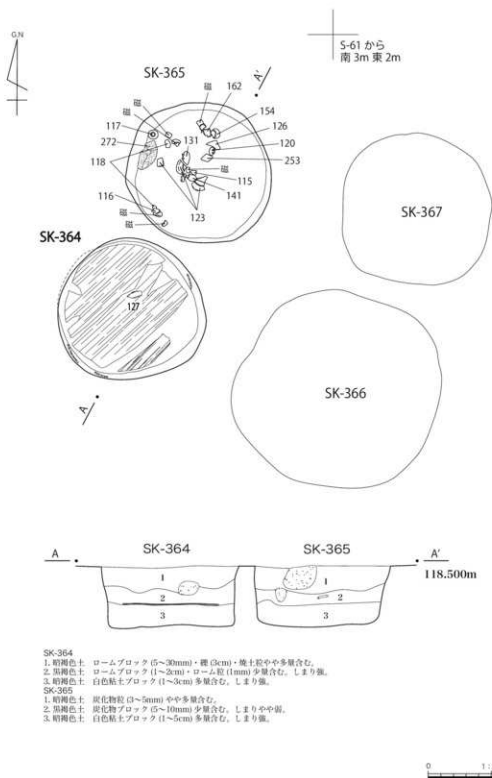
- I. 黒色土 礫(1cm)少量含む、しまり弱。
- II. 褐色土 礫(1~2cm)多量含む、起伏による赤みをおびる、しまり強。
- 1. 礫層 礫(1~5cm)主体、しまり弱。

SD-349 (C セクション西壁)

- 1. 黒色土 礫(1~2cm)少量含む、しまり強。



第85図 V区 区割11 (SD)



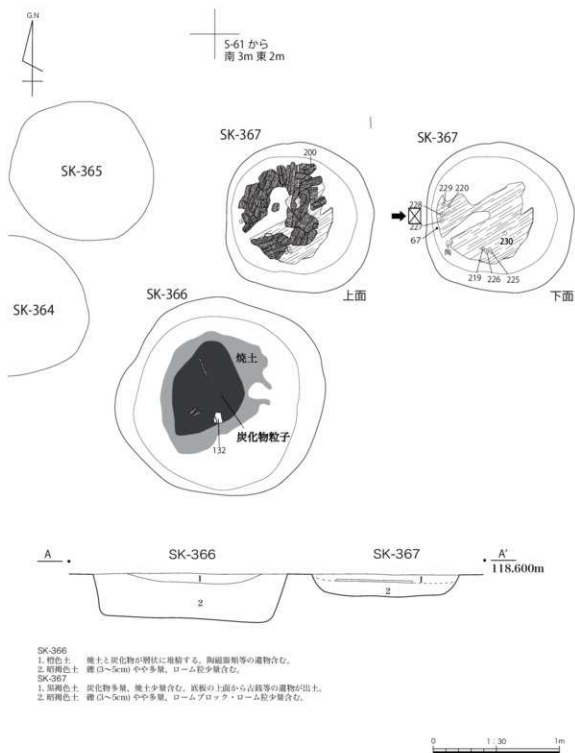
SK-364

1. 暗褐色土 ロームブロック (5~30mm)・径 (2cm)・焼土粒やや多量含む。
2. 黒褐色土 ロームブロック (1~2cm)・ローム粒 (1mm) 少量含む。しまり強。
3. 暗褐色土 白色粘土ブロック (1~3cm) 多量含む。しまり強。

SK-365

1. 暗褐色土 炭化物粒 (3~5mm) やや多量含む。
2. 黒褐色土 炭化物ブロック (5~10mm) 少量含む。しまりやや弱。
3. 暗褐色土 白色粘土ブロック (1~5cm) 多量含む。しまり強。

第 86 図 V 区 SK-364・365 (墓塚)



SK-366

1. 褐色土 焼土と炭化物が別状に出現する。陶磁器類等の遺物含む。

2. 暗褐色土 礫(3~5cm)や中多量、ローム粒少量含む。

SK-367

1. 黒褐色土 炭化物多量、焼土少量含む。底層の上面から古銭等の遺物が出土。

2. 暗褐色土 礫(3~5cm)や中多量、ロームブロック・ローム粒少量含む。

第 87 図 V区 SK-366・367 (墓壇)

調査I区南部（I-4区、I-5区、I-6区）

I区南部の調査は最終年度の平成29年度に実施した。この区域はI区北部と道路を挟んだ南側にあたり、掘調査範囲の南端部となる。北からI-4区・I-5区・I-6区と分けし調査を実施した。各調査区の面積はI-4区：4,077㎡、I-5区：2,037㎡、I-6区：516㎡である。I-4区の主な遺構は、調査区北壁に平行する東西方向の溝や掘立柱建物跡群がある。このほか長方形土坑や、南端部からはピット群が確認されたが、いずれも遺物が少なく時期不明なものが多い。また調査区東端部からは、縄文時代の遺物集中地点（遺物包含層）が1か所確認されている。

I-5区、I-6区は南端部に埋没谷が見られる事から、低地に移行する区域である。時期不明の土坑やピットが散在するが、I-4区に見られるような掘立柱建物跡などは確認されなかった。土層サンプルを2か所から採取しており、これらについては自然化学分析を実施し、その成果を巻末に掲載している。遺物は縄文土器破片、磁器破片、五輪塔、鉄製品が少量出土するのみである。

溝跡

SD-229（大溝）（遺構：第91図 写真図版三〇）

I-4区南のH-18、I-18、J-18グリッド内に位置する東西方向の溝である。重複する遺構は無い。溝は南の肩の一部が長さ約20mに亘り確認されたのみであり、規模形状を明らかにすることはできなかった。南北セクションのB断面3層に、溝上層の覆土が僅かに認められるが、遺物は確認されなかった。また調査区北壁からは溝上面を埋め戻したと考えられる土層が確認された。本溝は平出城跡の南の外堀（大溝）と想定されるが、溝本体は調査区外の舗装路の下に存在するものと思われる。

掘立柱建物跡（8基）

I-4区 SB-226（遺構：第95図 写真図版二八）

I-4区中央部の壁際のH-13、I-13グリッド内に位置する。南部の掘立柱建物群の中にあり、他遺構との重複関係はない。西5.60mにはSK-128が、南4.0mにはSB-227がある。西側が調査区外のため全体の規模は不明だが、平面形は2間×4間（以上）の東西棟の建物である。柱跡のあるピットはどれか？

I-4区 SB-227（遺構：第96図 写真図版二九）

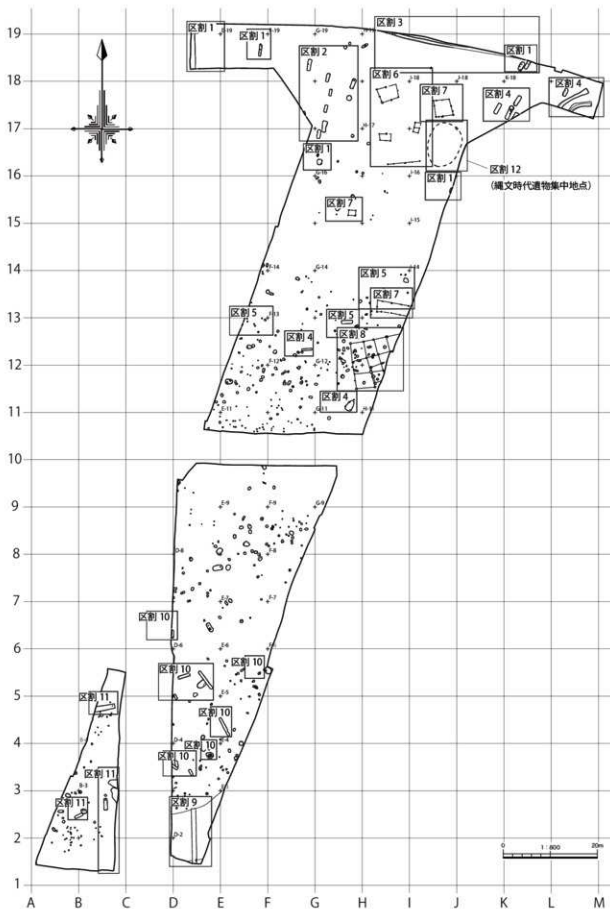
I-4区南部東壁際のG-11、G-12、H-11、H-12グリッド内に位置する。南部の掘立柱建物群の中にあり、SB-228と重複関係にあるが、新旧は不明である。西8.40mにはSK-160、北4.0mにはSB-226がある。西側が調査区外のため全形は不明だが、平面形は3間×3間（以上）の東西棟の建物である。側柱以外の柱は束柱と考えられる。柱跡のあるピットはどれか？

I-4区 SB-228（遺構：第96図 写真図版二八）

I-4区南部東壁際のH-11、H-12グリッド内に位置する。南部の掘立柱建物群の中にあり、SB-227と重複関係にあるが、新旧は不明である。南6.0mにはSK-001、北10.40mにはSB-226がある。2間×2間（以上）の建物と考えられるが、東部が調査区外のため正確な規模は不明である。

I-4区 SB-263（遺構：第95図 写真図版二九）

I-4区中央部のG-15グリッド内に位置する。北部と南部の掘立柱建物群の中間にあり、他遺構との重複関係はない。東20.0mにはSK-254が、北西11.20mにはSK-237がある。平面形は1間×1間の東西棟である。



第88図 1-4・1-5・1-6区 区割配置図

I-4区 SB-269 (遺構:第94図 写真図版二九)

I-4区北部H-16グリッド内に位置する。北部の掘立柱建物群の中にあり、他遺構との重複関係はない。東4.56 mにはSB-270が、北6.4 mにはSB-276がある。平面形は1間×2間の東西棟である

I-4区 SB-270 (遺構:第94図 写真図版三〇)

I-4区北部I-16、I-17グリッド内に位置する。北部の掘立柱建物群の中にあり、他遺構との重複関係はない。西4.56 mにはSB-269が、北西6.16 mにはSB-276がある。1間×2間の南北棟の建物跡である

I-4区 SB-271 (遺構:第95図)

I-4区北部のI-17グリッド内に位置する。北部の掘立柱建物群の中にあり、他遺構との重複関係はない。西7.2 mにはSB-276が、南西3.2 mにはSB-270がある。平面形は東西3間×南北3間のやや不整な変形を呈する。各柱の間尺は一定していない。

I-4区 SB-276 (遺構:第94図 写真図版二九)

I-4区北部のH-17グリッド内に位置する。北部の掘立柱建物群の中にあり、他遺構との重複関係はない。東7.2 mにはSB-271が、南6.40 mにはSB-269がある。平面形は2間×2間の東西棟の掘立柱建物跡である。

土坑**I-4区 SK-128 (遺構:第93図)**

I-4区南部のG-12グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。南1.72 mにはSK-132がある。平面形は東西2.40 m南北0.72mの隅丸長方形形で、深さは0.14 mである。覆土は人為埋め戻しと思われる。遺物は陶器1点が出土したが、図示し得なかった。

I-4区 SK-150 (遺構:第96図)

I-4区南部のG-12グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。北0.40 mにはSK-148が、北東方向0.24 mにはSK-149がある。平面形は東西0.25 m、南北0.26mの円形形で、深さは0.07 mである。覆土は人為埋め戻しと思われる。遺物は縄文土器1点がある。

I-4区 SK-237 (遺構:第89図 遺物:第131図 写真図版三〇)

I-4区北部のG-16グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。東22.40 mには縄文時代の遺物集中地点がある。平面形は東西1.01 m、南北1.14mの隅丸長方形を呈し、深さは0.22 mである。覆土は人為埋め戻しと思われる。遺物は縄文土器が2点(295・320)あり、これを図示した。

I-4区 SK-241 (遺構:第92図 遺物:第129図)

I-4区北部のL-17グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。北1.12 mにはSK-242が、北西2.40 mにはSK-243がある。平面形は東西4.9 m以上、南北1.09m以上の不整な長方形を呈しており、深さは0.24 mである。覆土は人為埋め戻しと思われる。遺物は五輪塔(281)が1点出土し、これを図示した。

I-5区 SK-007 (遺構:第98図 遺物:第116図)

I-5区中央部のD-5グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。東2.16 mにはSK-008が、南東2.32 mにはSK-080がある。平面形は東西2.69 m、南北0.63mの隅丸長方形を呈し、深さは0.38 mである。覆土は人為埋め戻しと思われる。遺物は鉄製品(183)1点が出土し、これを図示した。

I-5区 SK-080 (遺構:第98図 遺物:第131図)

I-5区中央部のD-5グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。北西2.32 mにはSK-007がある。平面形は東西1.94 m以上南北1.30mの楕円形形で、深さは0.18 mである。覆土は人為埋め戻しと思われる。

遺物は縄文土器1点が出土し(324)これを図示した。

1-6区 SK-049 (遺構:第99図 遺物:第131図 写真図版三一)

1-6区中央部のB-2、B-3グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。北0.04mにはSK-050が近接する。また西1.20mにはSK-002がある。西側が調査区外のため全容は不明だが、東西1.63m以上、南北3.08m以上の不整形を呈するものと思われる。確認面からの深さは0.07mと浅い。覆土は単層で自然堆積か人為埋め戻しかは不明である。遺物は石器1点、縄文土器2点が出土し、このうち縄文土器(290)1点を図示したが、本遺構に伴うものかは断言できない。

1-6区 SK-050 (遺構:第99図 遺物:第131図 写真図版三一)

1-6区中央部のB-3グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。南0.04mにはSK-049が接するように位置し、南西2.80mにはSK-002がある。平面形は東西2.0m以上、南北1.70mの不整形形で、深さは0.07mである。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は、縄文土器片12点があり、このうち4点(287・288・289・291)を図示したが、本遺構に伴うものかは断言できない。

竪穴建物跡

1-4区 S1-238 (遺構:第89図 遺物:第111・112図 写真図版三〇)

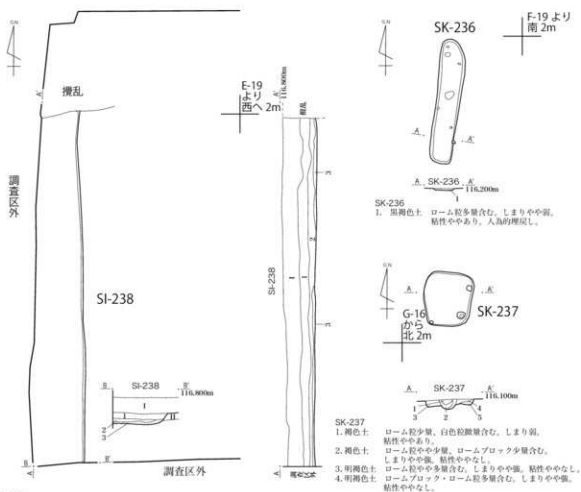
1-4区北部のD-18グリッド内に位置する。他遺構との重複関係はない。遺構の大部分が調査区外のため、平面形や規模は不明だが、東西1.18m以上、南北7.44m以上の規模を有し、深さは0.24m程である。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は磁器2点、内耳土器5点、土師小皿2点があり、このうち磁器(70・71)など計2点を図示した。規模・形状から古墳時代か古代の建物跡と考え調査したが、当該期の遺物は確認できなかった。

縄文時代遺物包含層 (遺構:第100図 遺物:第131図292~314 写真図版三〇)

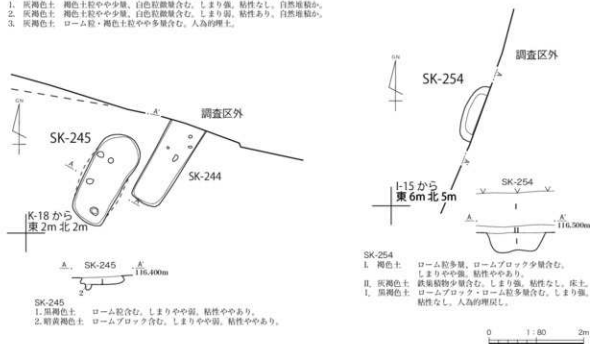
1-4区北部、調査区際のI-16グリッドに位置する。規模は東西7m南北9m程の南北に長い楕円形状の範囲に疎らに分布する様子が確認された。遺物は、厚さ20cmほどの暗黄褐色土層中から、約50点の土器片が出土した。遺物は縄文時代中期後半から後期初頭の土器が主体を占める。破片同士の接合関係はほとんど見られなかった。遺物を除去した後に周辺を精査したが、柱跡や焼土、炭化物などは検出できなかった。

遺物は縄文時代中期末葉の加曾利E式系の土器(307~310)や称名寺式土器(296-304)がある。

この他、遺構外の縄文土器は20点弱である。殆どが中期末葉から後期初頭の土器だが、前期中葉の黒浜式土器(315)、中期前葉の阿玉台Ib式土器(316)などが1点ずつ確認されている。

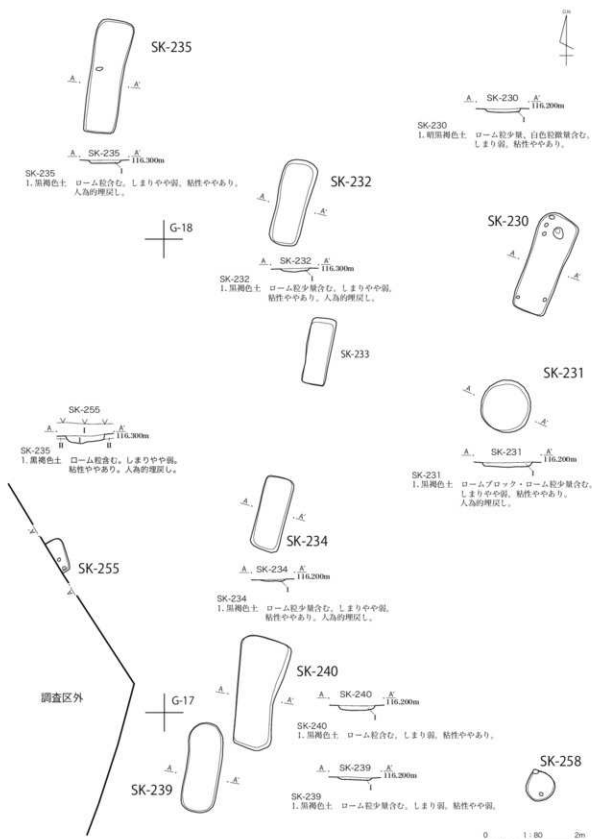


- SI-238
- I. 褐色土 赤褐色の鉄分集積物や多量、ローム粒少量含む。しまり強。粘性なし。(床土・表土)
- II. 褐色土 明褐色土粒やや少量含む。しまりやや強。粘性なし。地山ロームが、
1. 灰褐色土 褐色土粒やや少量、白色粒少量含む。しまり強。粘性なし。自然堆積が、
2. 灰褐色土 褐色土粒やや少量、白色粒少量含む。しまり弱。粘性あり。自然堆積が、
3. 灰褐色土 ローム粒・褐色土粒やや多量含む。人為的埋土。

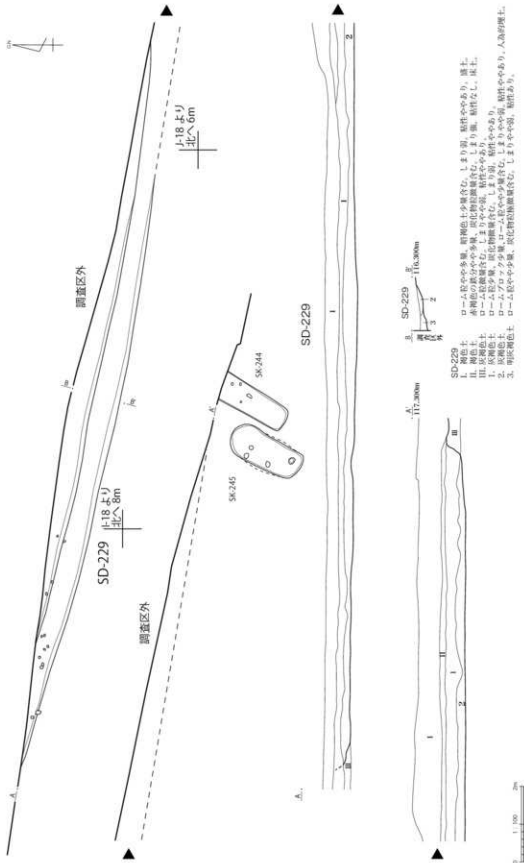


- SK-245
1. 灰褐色土 ローム粒含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
2. 暗灰褐色土 ロームブロック含む。しまりやや弱。粘性ややあり。

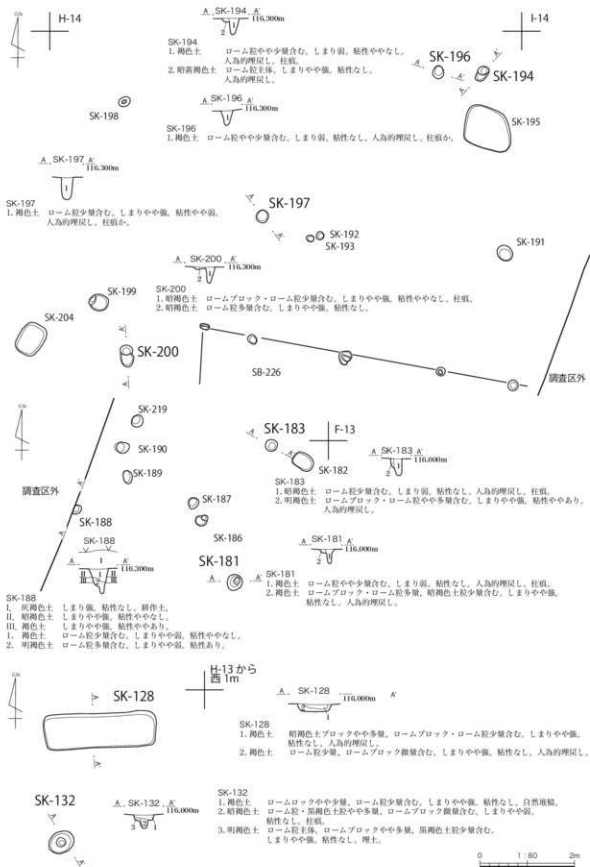
第89図 I-4区 区割1



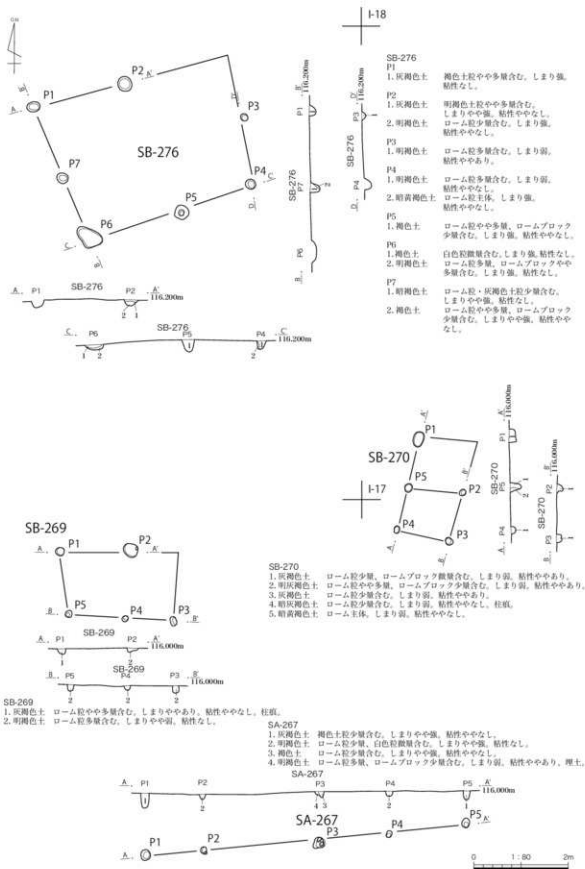
第90図 1-4区 区割2



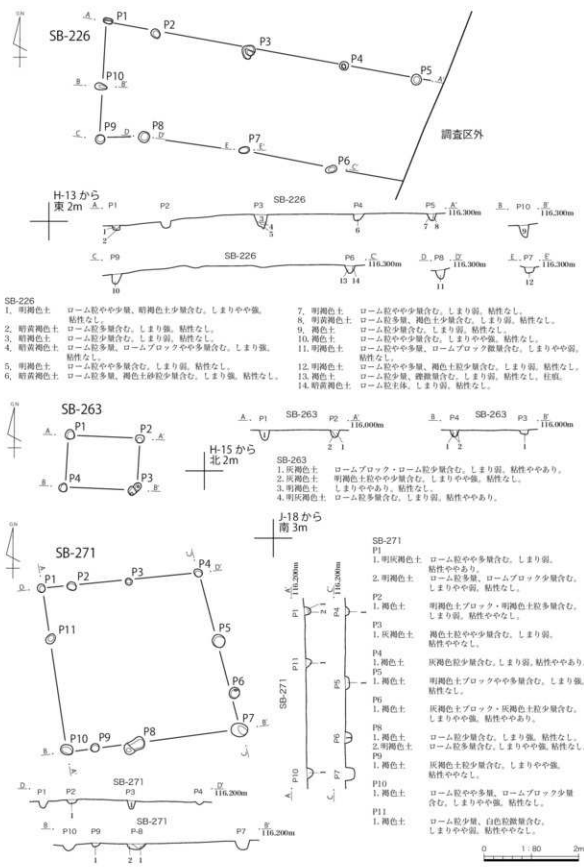
第91図 I-4区 区前3



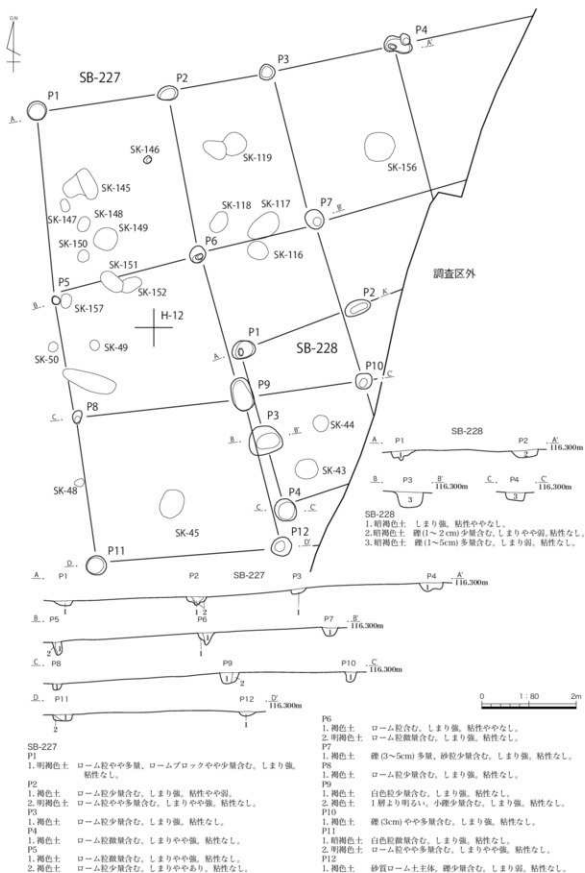
第93図 Ⅰ-4区 区割5



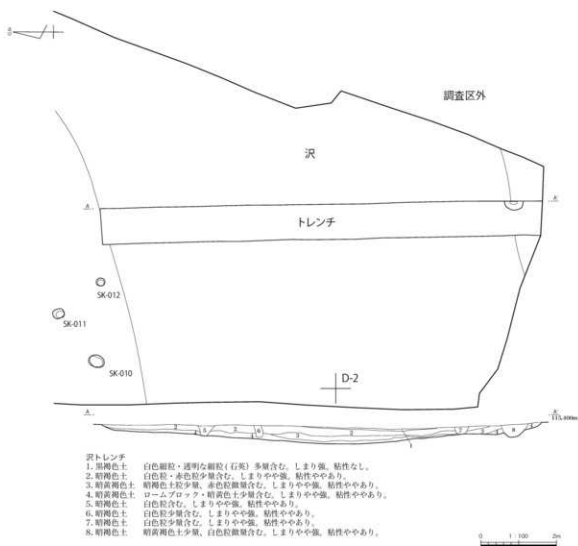
第94図 1-4区 区割6



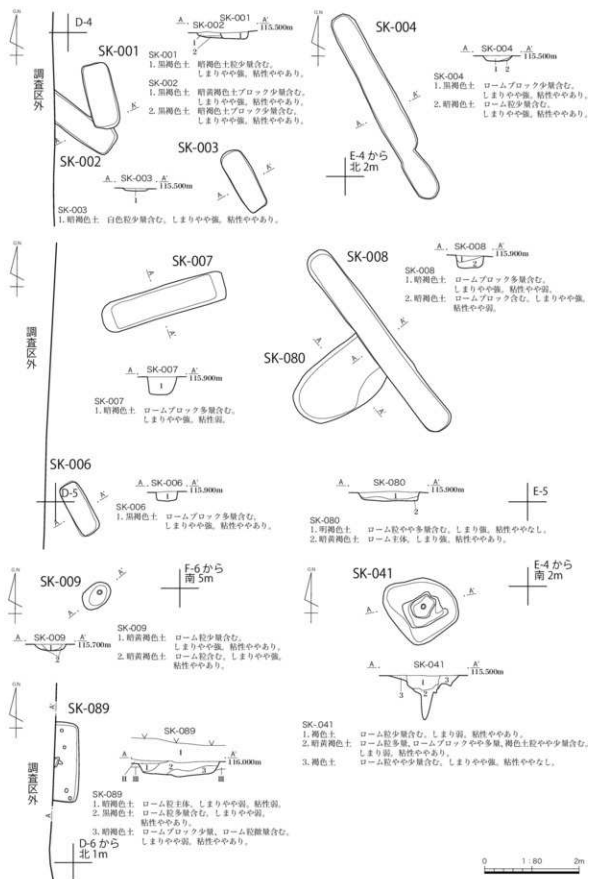
第95図 1-4区 区割7



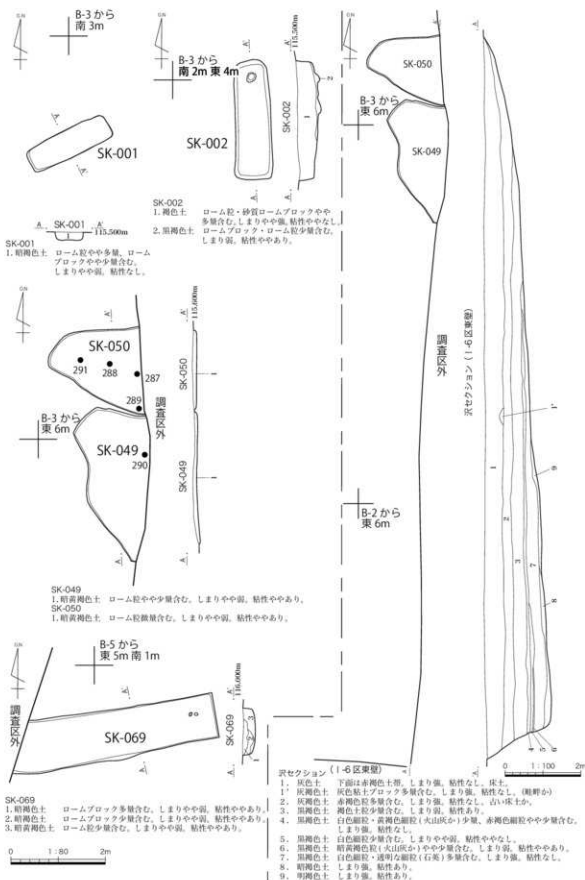
第96図 1-4区 区割8



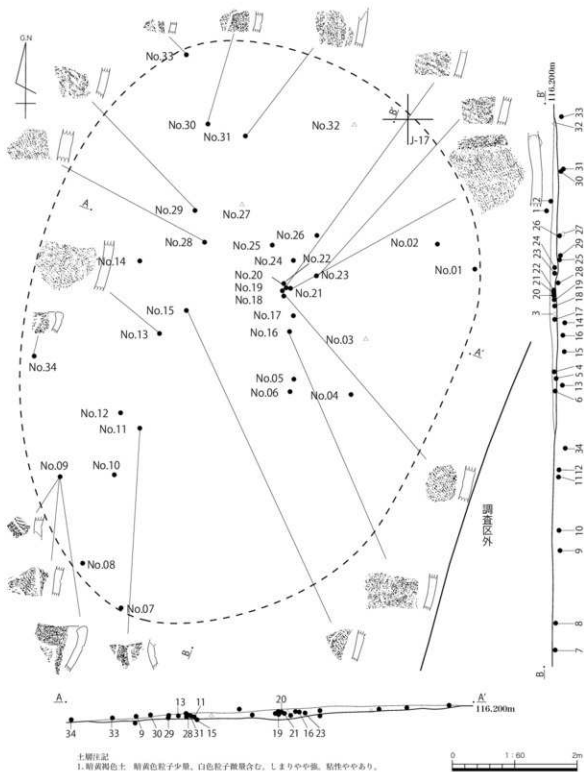
第97図 1-5区 区割9



第98図 I - 5区 区割10



第99図 1-6区 区割11



第100図 I-4区 縄文時代包含層遺物出土状況 区割12

平出城跡の遺物

平出城跡からは、土師質土器小皿や内耳土器・国産陶磁器、及び鉄製品・銅製品・古銭、石臼・五輪塔・板碑などが出土した。そこで、各種の遺物の時期や特徴などに関して概述していく。

(1) 土師質土器小皿

土師質土器小皿は、67点を図化した。全てロクロナデを行い、非ロクロの資料はない。ここで本県を含む当該品の変遷を見ていくと、今平利幸氏が宇都宮市域と中心とした県内の変遷を述べている(今平2001)。そこでは、非ロクロ使用をA、ロクロ使用をB、大型のものを1、小型品を2、底径/口径が大きいもので器高の高いものからa b cとしている。

氏の分類に従って、本遺跡の土師質土器小皿を分類すると、B-1a類は4・14・34・35・39・40・64、B-1c類は3・18・22・41で、大型品ではその他がB-1b類である。大型品では3類に分けられるが、1b類が主体となっている。

B-1類の器形は全般に器厚が厚く、体部上半から口縁部が内湾気味になる形態が多いことが特徴になっている。口縁部が外反するのは22などに限られる。また、内面の底部と体部境が沈線状になるものもみられる。事例を挙げれば24・33・37・40・62・66などである。今平氏の編年表に照らし合わせれば、大型品の1類で主体になるのは1b類であり、氏の年代によれば5期から7期で、15世紀中葉・後葉から16世紀後半の範囲になる。

1a類は氏の2期が口径13cm、3期が11～12cm、5期が10～11cmであり、本遺跡の1a類は口径10cm前後であることから、5期と位置付けることができる。主体となる1b類は口径9cm以下から10cmほどであり、今平氏の編年表では5期の1b類は口径12cmほど、7期で9cmに小型化している。これからすれば、本遺跡の1b類は主に6・7期と位置付けることができる。

このように、大型の土師質土器小皿は6・7期(15世紀末から16世紀前半、16世紀後半)を主体とし、5期(15世紀中葉から後葉)を少数含むとみておきたい。

小型品の2類について今平氏は、2a類は底径/口径が70以上で、器高1～1.8cm、2b類は底径/口径が50～70で、器高1～2cm、2c類は底径/口径35～50で、器高1～2cmのものとしている。この分類に従い、44・45・46が2c類であり、その他は2b類となる。2b類は、3期から7期まで存在するが、4期では器高1.2cm、6・7期では器高2cmほどになっている。本遺跡の2b類は器高2cm弱であって6・7期に比定される。全体に器厚が厚くて、内面の底部・体部境の不明瞭なものも多くて、境が沈線状になるものは44などに限られる。このように、小型の土師質土器小皿は6・7期(15世紀末から16世紀前半、16世紀後半)を主体とすることが明らかになった。なお、67は器厚が薄く、他の小型品と形態が異なっており、江戸時代に降る可能性もある。

以上の検討から、土師質土器小皿は大型・小型品を合わせると、15世紀中葉・後葉のものが少数確認でき、主体は16世紀代全般に及ぶことがわかった。

使用痕では内面の口縁部や底部・体部に油煙(タール)の付着するものが散見される。灯明具として使用されたものである。67には「壽」あるいは「壹」の可能性のある墨書がある。

(2) 内耳土器

内耳土器は31点を図化した。本県域における内耳土器の編年については、秋本陽光氏(秋本1985)、両角まり氏(両角1996)、服部敬史氏(服部1997)などの研究がある。これらの先行研究の成果に従って、時期比定を行っていきたい。秋本氏は内耳土器について、器高/口径が1:3以上か以下、口縁部内面の段や

沈線の有無で編年を組んだ。15世紀には器高の低いものはないが、16世紀には高いものと浅いもの、段・沈線の有無で4形態があること、17世紀以降にさらに浅くなることを指摘した。両角氏は関東全域の内耳土器の編年を行い、器高/口径が1:3以上のA群を15世紀に、1:3未満で、1:6以上を16世紀に、C群を概ね17世紀にしているが、秋本氏の17世紀に近い形態も16世紀末頃に置かれている。服部氏による本県域内耳土器の編年も秋本氏に沿い、深い鍋から浅くなる傾向を指摘されている。

このような先行研究の観点で、本遺跡の内耳土器をみると、84・85・87が器高/口径が1:3以上で、その比が43～46で、内面の口縁部下に段や沈線があることから15世紀のものだと判断される。86も器高/口径が35で内面に段があることから型式的にはその後段になるであろう。器高が8～9cmほどのものは、器高/口径が20前後であって両角氏によるB群で16世紀になるであろう。実測図では68～83・92・93・95などである。この土器には、内面の口縁部下に沈線のあるもの、段のあるもの、いづれもないものなど形態的な差がみられる。この点は秋本氏の分類したI～III類が16世紀にみられることと同じである。94は残存が少なく径は復元されないが、器高/口径が1:6ほどで器高が低くて、耳が口から底部まで全体にわたって付けられており、16世紀末から17世紀初めになる可能性がある。このように、本遺跡の内耳土器の時期は、15世紀を少数含み、16世紀が主体となり、16世紀末から17世紀初めがわずかに存在する可能性があるが、94は両角氏の編年では16世紀末となる。

次に、産地や形態的な特徴などの関して試みる。耳は粘土紐貼付であり、2対1と2対2が確認された。胎土では、茨城県域で生産されたと推定されるものには金色や銀色の雲母を含む。図化したもので雲母を含むのは69・70・96・97であり、これらは茨城県域の生産品と判断できる。形態では、茨城や千葉県域の内耳土器は体部が大きく開くことが指摘されている(両角1996・服部1997)。この見解に従って本遺跡の内耳土器をみると、96は体部が大きく開く形態であり、胎土に雲母を含んでいることから茨城県域の内耳土器の特徴をよく示している。各氏の論考でも器高が低いものでは体部の開きがより顕著ではないが、77・95などは胎土に雲母を含んでいないが、体部の開きが大きいため、茨城県域の内耳土器の影響を受けたものと推定される。本遺跡の内耳土器は、全体的には雲母を含んだものが少なく、形態的にも体部の開きの少ないことから、栃木県域を含む在地産のものが主体であるといえる。

以上のように、主体となる土師質土器小皿や内耳土器の時期が15世紀、特に土師質土器小皿が15世紀中葉から後葉であることから、城の時期も15世紀中・後葉に始まり、16世紀代が盛期となり、その末頃には機能しなくなったと判断しておきたい。

(3) 陶磁器

本遺跡から出土した陶磁器については、長佐古真也・山下峰司・水本和実・石井たま子氏に実見のうえ、ご教授頂いた成果をここでは概観しておきたい。遺物観察表に時期を示したが、これは上限とする年代であり、これを前提にみていく。

時期 中世の遺物は少なく、14～16世紀は3点のみである。最も古いものは14世紀の籬蓮弁文の青磁碗と瀬戸産灰釉の瓶子である。15世紀末から16世紀初めには呉須染付の貿易陶磁器が1点確認できる。土師質土器小皿や内耳土器から導かれた城の時期は15世紀から始まり、16世紀を盛期とし、16世紀末頃までと考えられることから、貿易陶磁器や瓶子は伝世品の可能性がある。ここまでが平出城跡の陶磁器である。

17世紀後半には出土数が増加する。平出城跡の東端であるⅡ区SD-410からは17世紀後葉から18世紀前葉の播鉢や丸碗が出土しており、この時期までは城の堀が空いていたことを示す。18・19世紀の陶磁器は急増するが、城の東端よりも外側になるV区からまとまって出土しており、城とは関連のない陶磁器群である

といえる。これは、17世紀前半の遺物が少ない点や江戸時代の焙烙(内耳土器)などがなくなることにもよる。産地 平出城に係わる陶磁器の産地は、貿易陶磁器や瀬戸・美濃産である。遺物から城が機能しなくなったと考えられる16世紀末以降の遺物では、図化できたもので17世紀後半から19世紀の陶磁器で、瀬戸・美濃産とみられるものが30点弱、美濃産を含めると30点以上になる。肥前系は15点で、瀬戸・美濃の約半分となっている。これらが本遺跡で主体となる江戸時代から明治時代の陶磁器産地である。これに少数であるが、志戸呂産、堺・明石産が各1点確認できた。また、産地が明らかでないが、156の鉢や154の土瓶蓋は19世紀になると、本県域や南東北などでも小規模の陶器生産が各地で始まることから、狭域流通品の可能性はある。

器種 城が機能しなくなった後の17～18世紀では丸碗や皿・小皿が主体的な器種であり、酒器の燗德利や盃になる小坏が一定数確認できる。また、少数であるが、仏飯器がこの時期にみられる。型紙描絵などの技法で作られる19世紀では、端反碗・丸碗が多くて、皿と組む。少数の器種としては、燗德利や盃の小坏、土瓶の蓋・描鉢・灯明皿などが確認された。時期は特定できなかったが、V区において仏飯器が複数確認されており、場所の使い方と関連するであろう。

(4) 土製品

170の土製鈴は鈕がサルを象ったとみられることから、十二支の揃いの鈴であった可能性もある。172・173はⅡ区S D -410から出土した大黒天と恵比寿天の人形であろう。この堀は、平出城跡の東堀にあたり、堀の底から17世紀後葉から18世紀前葉の瀬戸・美濃産の丸碗が出土していることから、この時期を上限とすると考えられ、城と係わるものではない。この他の人形も大黒天か恵比寿天とみられ、縁起物や信仰によって祀られたものであろう。

胎土に白色針状物を含むものがあり、172・176～178に観察された。白色針状物は、本県域であれば那須烏山市城や那珂川町など県北東部の八溝山系に含まれている。縄文土器から土師器にも確認されており、地域的な特徴をもった胎土である。平出城のある宇都宮市東部から鬼怒川の低地を挟んで喜連川丘陵があり、ここから白色針状物が確認できることから、比較的近い位置になる。在地産の土製品の流通を考える上で参考になる資料であろう。

(5) 鉄製品・銅製品

平出城に係わるものではⅡ区S D -200出土の釘や刀の可能性のある残片、鉄生産に係わる鉄滓、及び城の時期のⅡ区S K -211の鉄製品、I - I区S K -058の燗壁である。これらは、土器と遺構内で共存しており、16世紀代の所産である。194の燗壁や196の椀形鍛冶滓は、この地域で鉄精錬や鉄器製作を行っていたことを示す。これらの出土した場所は、平出城の南東隅にあたり、城の盛期のある時期に、ここが金属製品の細工場であったことが明らかになった。

I区・Ⅱ区から出土した鉄釘は、頭が折れており、使用後のものである。その折り方も多様であって、182はL字形に折り、187はコの字形に折っている。S D -200から出土した釘(187)は、廃棄したか近傍にある鍛冶工房で使用する故鉄として集積されたものの可能性がある。

V区では、S K -367・377から釘や各種の鉄製品が出土した。S K -367では大正から昭和期の磁器皿(152)や大正5年(1916)の銅貨が出土しており、釘や刀の可能性のある製品などの時期が判明する。ここから出土した釘には木質が付いており、木板などに打ち込まれたものであろう。202では木質の厚さが2～3cm以上になる。S K -377は、昭和に入ることになる可能性のある平碗や在地産の陶器鉢が出土しており、ここからは釘や鎌・鉄などが出土した。215は、19世紀の陶磁器と共存した銅製の飾金具であろう。

(6) 古銭

渡来銭と江戸時代の銭、大正時代の銭貨が出土した。渡来銭は222・223で、景徳元寶などが日本では中世に専ら使用されていたことから、16世紀を中心とする平出域で用いられたものであろう。その後は寛永通寶が2枚で江戸時代後期から末の天保通寶・文久永寶がまとまって出土した。このうちS K -367では8枚の銭貨が出土した。この遺構は墓であり、棺桶の底の周縁から出た副葬銭である。しかし、この副葬銭は天保通寶・文久永寶と共に大正5年の一銭銅貨が出ていること、及び大正から昭和初期の磁器皿が出土したことから、墓はこの時期になると判断される。さらに、副葬銭であるが、幕末頃の銭貨が大正時代頃まで用いられていたことを示す資料となる。

(7) 砥石

砥石は20点図化した。このうち、土器との共存関係から平出域の時期の砥石は、232・235・237・240・241・249であり、250は近代以降の所産と判断することができる。砥石の材質は全て流紋岩質凝灰岩である。

表面観察によって、製作技法を復元できるものがあった。タガネ痕が確認できるものが存在し、長軸方向に削る場合が多い。235・239・241などでこの方向への削り痕が観察されるが、243のように短軸方向に削るものも少数みられた。条線状の櫛歯タガネ痕は240・242で観察された。一般的に荒削りを行った後に、長軸方向に平滑化するとみられ、この2点では側面のみみられた。

使用方法では、短軸断面が方形のものは3～4面が砥面であるが、断面長方形の薄い砥石は表裏面のみを使用するものもある(246・247)。研ぎ方向は、長軸方向が235・236・244・246・247などで最も多い。長軸に対して斜方向に研ぐものは232・233・234・239・241・243などで、比較的多い。短軸方向に研ぐ事例は233などで少なく、他の方向もあるが短軸方向にも研いでいる。

(8) 硯

3点を図化できた。石材や産地については鑑定委託した結果による。長方形の硯で、V区S K -365は18世紀後半から19世紀第2四半期の陶磁器と共存している。253の硯は石材が黒色粘板岩で、海の部分を残す。宮城県雄勝などの産品と判断される。S K -366から出土した252は、19世紀第4四半期の磁器と共に出土している。海と陸の一部を残し、石材は流紋岩質凝灰岩質砂岩で砥石と関連したグリーンタフ分布域の産地が考えられる。なお、251の硯の石材は粘板岩で、253と同じ地域の産品とみられる。

(9) 石臼

25点を図化した。このうち土器との共存関係により、城の時期の遺物はI - 2区S E -003、II区S K -163・400のものである。このうちS E -003からは254～264までの石臼が出土した。

上臼は257・258・260・261・262・266・267・269～271・275～277である。大ききで分類でき、257・260・268・274・276は小型の臼である。

下臼は芯棒取付孔があり、全て下まで貫通しており、254・255・259・272などで確認することができる。その中でも芯棒孔の形態によって、254や272のように下端の穿孔部分が裾広がりになって挟りが大きいものと、255や259のように挟りがほとんどない形態に分類することができる。穿孔は孔の壁面の観察によって、上下両方向から行っていたことが256や273などによって確認できる。

目は255が四分割となっており、本遺跡で確認できたものでは最も目の分割数が少ない。258は目の分割がみられず、放射状になっている。いづれも城の時期に使用されたものであるが、精粗差があったことが窺われる。

挽き木を挿入する側面の孔は、長方形(262)、円形(258)、方形(266・275)があり、小型の上臼では

精美な方形(257)、菱形枠を隔刻して方形孔を穿つもの(276)も存在する。精美な方形孔の白は茶白であろう。

本遺跡の石白も使用後に側縁を削り取るものが確認できた。これは上白に顕著で、261や262は上縁を全面的に削り取っており、262は側面全面まで削っている。276も上縁を削っており、二次的な使用があったことが推測される。

(10) 五輪塔・板碑

6点の五輪塔を図化し、空風輪が1点、火輪が4点、地輪が1点である。共伴した土器によって城の時期のものはⅠ-2区SE-006、Ⅱ区SK-252、Ⅱ区SD-410から出土したものである。いずれも小型塔であり、空風輪は高さが比較的低い。火輪は軒口下端が少し反り、上端は282や284がやや大きく反り、284・285では反りが少ない。このような小型塔は15世紀以降になるといい(岩橋2002)、岩橋氏が提示した見性寺の小型五輪塔を16世紀とし、17世紀第2四半期以降は近世五輪塔が大型化するという見解がある(松原1996)。本遺跡の五輪塔の石材は安山岩が多いが、282は凝灰岩である。小型で、軒口の反りが見性寺の小型五輪塔群と類似していることから、概ね16世紀のものだと推定しておきたい。このため、五輪塔は城の盛期に造立されたことを示す。

板碑はⅡ区SK-400から出土し、この遺構からは城の時期の遺物が出土していることから、板碑も城の時期には既に造立されていたことがわかる。

参考文献

- 秋本陽光 1985『大町遺跡』上三川町教育委員会
 岩橋康子 2002『上三川町見性寺五輪塔群について』『栃本県考古学会誌』第23集
 宇留野主税 2008『戦国期の古利根川流域におけるかわらけの様相』『豊良岐考古』第30号
 今平利幸 2001『下野における中世上部器用について』『栃本県考古学会誌』第22集
 服部敬史 1997『内耳上器の研究(上)』『土曜考古』第21号
 松原典明 1996『下野・五輪塔考』『考古学の諸相』
 内角まり 1996『内耳淵から焙烙へー近世江戸在地系焙烙の成立ー』『考古学研究』第42巻第4号

第2表 I区北部(1-1区・1-2区・1-3区)遺構観察表

調査区	種別	遺構No.	種類	位置	遺構形状	長(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸	出土遺物	備考
I-1	SK	001	土坑	J21	(楕円長方形)	1.26	0.72	0.11	N96°E	-	一部調査区外
I-1	SK	002	土坑	J21	(楕円長方形)	2.46	0.82	0.12	N2°W	-	-
I-1	SK	003	土坑	J21	(楕円長方形)	0.24	0.66	0.11	(N90°W)	-	一部調査区外
I-1	SK	004	土坑	J21	(楕円長方形)	0.41	0.76	0.04	(N80°W)	-	一部調査区外
I-1	SK	005	土坑	J21	(楕円長方形)	0.37	0.60	0.11	(N16°E)	-	一部調査区外
I-1	SK	006	方形窠穴	J21	楕円方形	1.85	1.88	0.33	N8°E	-	-
I-1	SK	007	土坑	J21	(楕円形)	0.29	0.64	0.21	(N101°E)	-	一部調査区外
I-1	SK	008	方形窠穴	J21J22	楕円方形	1.62	1.12	0.27	N9°E	-	一部調査区外
I-1	SK	009	土坑	J21J22	(楕円形)	1.02	0.69	0.1	-	-	一部調査区外
I-1	SD	010	溝	J22	-	2.64	0.42	0.09	N14°E	-	-
I-1	SK	011	土坑	J22	楕円長方形	1.79	0.42	0.09	N84°W	-	-
I-1	SK	013	方形窠穴	J22	方形	-	-	0.18	N8°E	-	1-3区 SK-022+SK-015と切り付く不明
I-1	SK	014	土坑	J22	円形	0.96	0.96	0.07	-	-	-
I-1	SK	015	土坑	J22	楕円長方形	1.76	0.35	0.06	N85°W	-	-
I-1	SK	016	土坑	J22	楕円長方形	0.91	0.64	0.07	N14°E	-	SK-016 → SK-017
I-1	SK	017	土坑	J22	楕円長方形	1.44	0.70	0.19	N83°W	-	土師小皿2点 硯石1点 内耳土器1点
I-1	SK	018	土坑	J22	(楕円形)	0.85	-	0.17	-	-	SK-018 → SK-017
I-1	SK	019	土坑	J22	長方形	1.84	0.60	0.16	N84°W	-	一部調査区外
I-1	SK	020	土坑	J22	楕円長方形	2.53	0.77	0.18	N2°E	-	一部調査区外
I-1	SK	021	土坑	K22	楕円長方形	4.16	0.77	0.13	N74°W	-	一部調査区外
I-1	SK	022	土坑	K22	不整形	0.67	1.00	-	-	-	一部調査区外
I-1	SK	023	土坑	K22	不整形	1.08	0.35	0.08	N80°W	-	一部調査区外
I-1	SK	024	土坑	K22	楕円方形	0.75	0.73	0.64	N14°E	-	一部調査区外
I-1	SK	025	土坑	K22	楕円長方形	1.77	0.72	0.27	N12°E	-	内耳土器1点 土師小皿2点
I-1	SK	026	土坑	K22	楕円長方形	1.62	0.76	0.15	N15°E	-	SK-025 → SK-026
I-1	SK	027	土坑	K23	不整形	0.82	0.32	0.03	-	-	-
I-1	SK	029	土坑	K22	不整形	0.66	0.41	0.28	-	-	-
I-1	SD	030	溝	K22	-	3.28	0.28	0.04	N12°E	-	-
I-1	SD	031	溝	J22J22-K22	-	14.92	0.29	0.04	N80°W	-	-
I-1	SK	032	土坑	K-22K23	(楕円形)	3.28	0.28	0.09	N72°W	-	一部調査区外
I-1	SK	034	土坑	J22	不整形	1.53	1.02	0.23	-	-	-
I-1	SE	035	井戸	J22K22-J23K23	円形	3.22	3.02	2.08	-	-	硯石1点 陶器2点 磁石1点 内耳土器2点 土師小皿4点 石臼1点 漆器2点 附105、106、231
I-1	SK	036	土坑	K23	楕円形	1.08	0.90	0.36	-	-	-
I-1	SK	040	土坑	J22	(楕円長方形)	1.01	0.84	0.21	N15°E	-	一部調査区外
I-1	SK	041	方形窠穴	J22J22	方形	1.66	1.55	0.52	N5°E	-	SK-091 → SK-092
I-1	SK	042	土坑	J22	(楕円長方形)	0.69	0.37	0.33	N85°W	-	SK-042 → SK-041
I-1	SD	043	溝	J22	-	6.00	1.39	0.19	(N80°W)	-	一部調査区外
I-1	SK	044	土坑	J22	不整形	2.11	1.03	0.13	-	-	内耳土器7点
I-1	SK	045	土坑	J22	円形	0.88	0.79	0.06	-	-	-
I-1	SK	046	土坑	J22J23	不整形	1.47	0.45	-	-	-	-
I-1	SK	048	土坑	J22J22	不整形	1.39	0.57	0.11	N87°E	-	-
I-1	SK	049	土坑	J22J23	(楕円長方形)	1.62	1.10	0.24	N3°E	-	内耳土器2点 土師小皿6点
I-1	SK	050	土坑	J23	円形	1.86	1.55	0.57	-	-	-
I-1	SK	052	土坑	J23	楕円長方形	1.89	0.58	0.16	N10°E	-	-
I-1	SK	053	土坑	J23	(楕円形)	0.66	0.57	0.05	-	-	-
I-1	SK	054	土坑	J23	(楕円長方形)	1.29	0.47	0.11	N15°E	-	一部調査区外
I-1	SK	055	土坑	J23	不整形	2.22	1.40	-	-	-	-
I-1	SK	056	土坑	J23	不整形	0.71	0.28	0.49	N40°E	-	-
I-1	SK	057	土坑	J23	不整形	0.84	0.48	0.05	-	-	-
I-1	SK	058	土坑	J23	不整形	0.40	0.28	0.36	-	-	土師小皿17点 硯石1点 内耳土器18点 鉄製品1点
I-1	SK	059	土坑	J23	楕円形	0.57	0.38	0.03	-	-	附3、4、5、96、194、232
I-1	SK	061	土坑	J23	不整形	0.74	0.58	-	N70°W	-	-
I-1	SK	062	土坑	J23	不整形	0.53	0.29	0.32	N71°W	-	-
I-1	SK	063	土坑	J23	楕円長方形	1.64	1.02	0.18	N82°W	-	-
I-1	SK	064	土坑	J21	円形	1.15	0.95	0.08	-	-	-
I-1	SK	065	土坑	J23	長方形	1.96	1.31	0.07	N12°E	-	SK-065 → SK-066
I-1	SK	066	土坑	J23J24	楕円長方形	1.48	0.78	0.13	N3°E	-	SK-066 → SK-096
I-1	SK	067	土坑	J23	楕円形	0.80	0.63	0.08	-	-	-
I-1	SK	068	土坑	J23J24	楕円長方形	2.27	0.70	0.13	N15°W	-	土師小皿2点
I-1	SK	069	土坑	J23K23	(楕円形)	0.51	0.75	0.08	N75°W	-	-
I-1	SK	070	土坑	K23	楕円形	1.02	0.76	0.36	N4°W	-	-
I-1	SK	071	土坑	K23	楕円長方形	2.24	0.63	0.16	N64°W	-	-

第2節 確認された遺構と遺物

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
1-1	SK	072	土坑	K-23	-	(1.80)	(0.61)	0.02	-	縄文土器1点 炭石1点	一部調査区外 層 233、327
1-1	SK	073	土坑	K-23&24 L-231-24	長楕円形	1.59	0.44	0.11	N-77°E	-	-
1-1	SK	074	土坑	K-23	不整形圓長方形	(1.93)	0.97	0.13	N-6°E	古銭1点	-
1-1	SD	075	溝	K-23&24 L-23	-	(10.40)	0.74	0.24	-	-	-
1-1	SE	076	井戸	K-23&24	円形	1.18	1.10	(0.96)	-	内耳土器7点 炭石1点 土師小皿1点	層 7、234
1-1	SK	077	土坑	J-23,J-24	不整形	1.90	0.65	0.11	N-20°W	-	-
1-1	SK	078	土坑	J-24	長方形	1.19	0.67	0.16	N-84°E	-	-
1-1	SK	079	土坑	J-24	不整形	(1.39)	(0.87)	0.15	(N-10°)E	-	-
1-1	SK	080	土坑	J-24	-	0.60	0.50	0.12	-	-	SK-080→SK-082
1-1	SK	081	土坑	J-24&24	(圓長方形)	(1.94)	0.72	0.16	N-78°W	-	-
1-1	SK	082	土坑	J-24&24	(圓長方形)	2.70	(0.48)	0.27	N-81°W	-	SK-082→SK-081 一部調査区外
1-1	SK	084	土坑	J-24	(圓長方形)	(0.82)	(1.04)	0.4	(N-5°)E	-	一部調査区外
1-1	SK	085	土坑	J-24	(圓長方形)	(1.57)	(0.46)	0.3	N-73°W	-	SK-085→SK-084 一部調査区外
1-1	SK	086	土坑	J-24	-	-	-	-	-	-	-
1-1	SK	087	土坑	J-24	圓長方形	1.08	0.62	0.18	N-78°W	-	-
1-1	SK	088	土坑	J-24	楕円形	0.70	6.08	0.06	N-74°W	-	-
1-1	SK	089	土坑	J-24	圓長方形	1.00	0.72	1.64	N-15°E	骨1点	-
1-1	SK	090	土坑	J-24	圓長方形	1.65	0.74	0.08	N-0°	-	一部調査区外
1-1	SK	091	土坑	J-23 J-24 J-24 J-24	圓長方形	1.40	0.76	0.2	N-18°E	-	SK-091→SK-094
1-1	SK	092	土坑	J-24 J-24	圓長方形	1.39	0.80	0.3	N-0°	土師小皿2点 内耳土器2点	層 8
1-1	SK	093	土坑	J-24	(圓長方形)	(1.14)	(0.38)	0.12	(N-5°)E	-	SK-093→SK-094
1-1	SD	094	溝	J-23 J-24	-	0.880	1.57	0.5	(N-2°)W	内耳土器1点 土師小皿1点	層 6、97
1-1	SK	095	土坑	K-23	長楕円形	2.08	0.51	0.1	N-5°W	-	-
1-1	SK	096	土坑	J-23 J-24	(楕円形)	(0.52)	(0.72)	0.09	(N-73°)W	-	-
1-1	SK	097	土坑	J-23	不整形	2.00	1.04	0.13	N-27°E	-	SK-095→SK-097
1-1	SK	098	土坑	-	-	-	-	-	-	-	-
1-2	SE	001	井戸	I-20	円形	2.77	2.56	(2.18)	-	-	-
1-2	SD	002	溝	0-201,21- 1-29	-	(23.36)	1.12	0.92	N-7°E	石白3点	SE-001→SD-002
1-2	SE	003	井戸	I-22	浅丸	3.50	3.29	(1.58)	-	内耳土器13点 石白10点 五輪塔2点 瓦葺土器5点 炭石1点 石炭1点 礎石1点 土師小皿18点 石3点	層 68～72、92、 156、167、249、 254～265
1-2	SD	004	溝	0-201-20)	-	(13.37)	1.48	0.22	-	-	-
1-2	SD	005	溝	(0-20)	-	(2.92)	0.77	0.08	(N-75°)W	-	-
1-2	SE	006	井戸	I-21	不整形	3.36	2.98	(2.27)	-	内耳土器2点 五輪塔1点 土師小皿3点 石1点	層 12・13・14 91・284
1-2	SK	007	地下式竈	H-21	不整形	(2.35)	(3.45)	(1.36)	-	炭石1点	層 236
1-2	SD	008	溝	H-20	-	14.09	0.79	0.12	(N-14°)E	-	-
1-2	SK	009	土坑	H-20	(圓長方形)	(0.99)	0.85	0.1	N-5°E	-	-
1-2	SD	010	溝	H-201,20	-	(0.09)	0.62	0.11	N-84°W	-	-
1-2	SK	011	土坑	I-20 J-21	円形	0.98	0.88	0.11	-	-	-
1-2	SK	012	土坑	I-21	長楕円形	(1.56)	0.56	0.08	N-15°E	-	-
1-3	SE	013	井戸	J-21&21	円形	1.80	1.72	1.46	-	内耳土器7点 土師小皿2点	SD-018→SE-013
1-3	SK	014	土坑	J-21	圓長方形	3.65	1.24	0.33	N-84°W	-	-
1-3	SK	015	土坑	J-21 J-22	圓長方形	2.85	(1.16)	0.25	N-83°W	-	SK-015→SK-022
1-3	SK	016	土坑	K-21	圓長方形	2.26	0.82	0.11	N-11°E	-	-
1-3	SK	017	土坑	J-21	圓長方形	2.45	1.19	0.55	N-44°E	-	-
1-3	SK	018	土坑	K-21&22 (方形)	(方形)	(0.58)	0.95	0.12	N-85°W	-	SK-018→SK-019
1-3	SK	019	土坑	K-21&22 (方形)	(方形)	(1.35)	(1.00)	0.12	N-4°E	-	-
1-3	SK	020	土坑	K-21	(方形)	(1.17)	(0.95)	0.16	(N-10°)E	-	-
1-3	SK	021	土坑	J-22	(圓長方形)	-	(0.45)	0.15	(N-88°)W	-	-
1-3	SK	022	方形竈穴	J-22	(方形)	-	-	(0.25)	-	-	-
1-3	SK	023	土坑	K-21	(圓長方形)	(0.58)	(1.06)	0.59	(N-78°)W	-	-
1-3	SK	024	土坑	K-21	(圓長方形)	(0.48)	(1.56)	0.43	(N-80°)W	-	SK-024→SK-023
1-3	SK	025	土坑	I-20	円形	0.82	0.78	1.03	-	土師小皿2点	SK-025→SD-026 層 15・16
1-3	SD	026	溝	J-20 J-21 K-21	-	12.53	0.28	0.13	(N-11°)E	-	SK-027→SD-026 SK-029→SD-026
1-3	SK	027	土坑	K-21	楕円形	0.30	0.20	0.17	N-70°E	-	SK-028→SK-027
1-3	SK	028	土坑	K-21	(楕円形)	0.22	(0.11)	0.15	-	-	-
1-3	SK	029	土坑	K-21	楕円形	0.33	0.27	0.2	-	-	SK-028→SK-029
1-3	SK	030	土坑	I-21	円形	0.41	0.39	0.28	-	-	-
1-3	SK	031	土坑	K-21	円形	0.19	0.18	-	-	-	-

第3章 調査の成果

調査区	種別	遺構No.	種類	位置	遺構形状	長(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸	出土遺物	備考
1-3	SK	032	土坑	J24K.21	円形	0.35	0.34	0.1	-	-	-
1-3	SK	033	土坑	J21	楕円長方形	1.43	(0.60)	0.19	N9°E	-	SK-033→SD-026
1-3	SK	034	土坑	K-19	楕円長方形	1.53	0.60	0.16	N27°E	-	-
1-2	SK	035	土坑	J21	長楕円形	1.97	0.53	0.12	N9°E	-	-
1-2	SK	036	土坑	J20J.21	(楕円長方形)	(1.94)	0.55	0.16	N20°E	-	-
1-2	SK	037	土坑	J20	(楕円長方形)	(0.42)	0.47	0.11	N32°E	-	-
1-2	SK	038	土坑	J21	(楕円長方形)	1.62	0.52	0.08	N4°E	-	-
1-2	SK	039	土坑	J21	楕円長方形	1.48	0.47	0.05	N12°E	-	-
1-2	SK	040	土坑	J21	(不整形長方形)	(1.36)	(0.58)	0.06	N11°E	-	-
1-2	SK	041	土坑	J21	(楕円長方形)	(1.94)	0.50	0.05	N16°E	-	-
1-2	SK	042	土坑	J21	円形	0.33	0.32	0.14	-	-	-
1-2	SK	043	土坑	J21	楕円形	0.43	0.33	0.25	N16°E	-	-
1-2	SK	044	土坑	H.21J.21	楕円形	0.53	0.40	0.04	N2°E	-	-
1-2	SK	045	土坑	H.21J.21	長方形	1.47	0.66	0.04	N3°W	-	-
1-2	SK	046	土坑	H.21	楕円形	0.47	0.42	0.2	-	-	-
1-2	SK	047	土坑	J21	円形	0.43	0.41	0.2	-	-	-
1-3	SK	048	土坑	J20	楕円長方形	1.28	0.79	0.24	N14°E	-	-
1-3	SD	049	溝	J20	-	(1.60)	0.19	0.15	N82°W	-	SD-049→SK-053
1-3	SD	050	溝	K-20	-	(4.30)	0.26	-	N77°W	-	-
1-3	SK	051	土坑	J20	(楕円長方形)	(0.70)	0.49	0.14	N83°W	-	-
1-3	SK	052	土坑	J20K.20	楕円形	0.69	(0.44)	0.43	-	内耳土器1点	SK-052→SK-053
1-3	SK	053	土坑	K-20	楕円形	0.37	0.33	0.15	-	-	-
1-2	SK	054	土坑	H.21	(円形)	0.44	(0.26)	0.25	-	-	-
1-2	SD	055	溝	H.21J.21	-	(7.74)	0.66	0.15	-	-	-
1-2	SK	056	土坑	H.21	-	(0.49)	(0.19)	0.12	-	-	SK-056→SK-055
1-2	SK	057	土坑	J22	楕円長方形	1.76	0.58	0.16	N83°W	-	-
1-2	SK	058	土坑	J21	不整形長方形	1.67	0.75	0.06	N85°W	-	-
1-2	SK	059	土坑	J21	(円形)	1.25	(0.72)	0.11	-	-	-
1-2	SE	060	井戸	J21	円形	0.86	0.79	0.25	-	陶器1点 土師小皿1点	-
1-2	SK	061	土坑	J22	楕円形	0.50	0.42	0.27	-	陶器2点	-
1-2	SK	062	土坑	J22	円形	0.42	0.42	0.36	-	-	-
1-2	SK	063	土坑	J21	円形	0.32	0.32	0.26	-	-	-
1-2	SK	064	土坑	J21	円形	0.41	0.40	0.31	-	-	-
1-2	SK	065	土坑	J21	楕円形	0.54	0.30	0.12	N83°E	-	-
1-2	SK	066	土坑	J21	円形	0.40	0.33	0.32	-	-	-
1-2	SK	067	土坑	J21	(楕円長方形)	(1.05)	0.82	0.2	N3°E	-	-
1-2	SE	068	井戸	J22	円形	1.00	0.91	-	-	陶器1点	-
1-2	SK	069	土坑	J21	円形	0.71	0.62	-	-	-	一部調査区外
1-2	SK	070	土坑	J21	円形	0.80	0.77	-	-	-	-
1-2	SK	071	土坑	J20J.21	円形	0.60	0.51	0.27	-	-	-
1-2	SK	072	土坑	J21	円形	0.31	0.28	-	-	-	-
1-2	SK	075	土坑	J21	楕円形	0.20	0.16	-	-	-	-
1-2	SK	076	土坑	J21	円形	0.30	0.24	0.2	-	-	-
1-2	SK	077	土坑	J21	楕円形	0.20	0.18	0.11	-	-	SK-077→SK-076
1-2	SK	078	土坑	J21	円形	0.25	0.23	-	-	-	-
1-2	SK	079	土坑	J21	楕円形	0.30	(0.24)	0.15	-	-	SK-079→SK-080
1-2	SK	080	土坑	J21	楕円形	0.32	(0.25)	0.1	-	-	SK-080→SK-081
1-2	SK	081	土坑	J21	楕円形	(0.24)	0.22	(0.2)	-	-	-
1-2	SK	082	土坑	J21	円形	0.13	0.12	-	-	-	-
1-2	SK	083	土坑	J21	円形	0.22	0.20	-	-	-	-
1-2	SK	084	土坑	J21	円形	0.20	0.20	-	-	-	-
1-2	SK	085	土坑	J21	楕円形	0.32	0.23	-	-	-	-
1-2	SK	086	土坑	J21	円形	0.30	0.30	0.16	-	-	-
1-2	SK	087	土坑	J21	円形	0.11	0.11	-	-	-	-
1-2	SK	088	土坑	J21	楕円長方形	(1.05)	0.58	-	N90°W	-	-
1-2	SK	089	土坑	J21J.22	楕円長方形	1.34	0.51	-	N12°E	-	-
1-2	SK	090	土坑	J21J.21	(楕円方形)	(1.77)	(0.90)	0.1	N12°E	-	-
1-2	SD	091	溝	J21J.22 J21J.22	-	(2.45)	0.85	0.11	N70°W	-	-
1-2	SK	092	土坑	J22	円形	0.23	0.22	-	-	-	-
1-2	SK	093	土坑	J22	円形	0.20	0.20	-	-	-	-
1-2	SK	094	土坑	J21	円形	0.24	0.23	-	-	-	-
1-2	SK	095	土坑	J21	円形	0.19	0.19	-	-	-	-
1-2	SK	096	土坑	J22	楕円長方形	1.81	0.52	0.11	N9°E	内耳土器1点 土師小皿1点	-
1-2	SK	097	土坑	J21	円形	0.13	0.12	-	-	-	-
1-2	SK	098	土坑	J21	円形	0.25	0.25	0.28	-	-	-
1-2	SK	099	土坑	J21	円形	0.30	0.30	0.18	-	-	-
1-2	SK	100	土坑	J21	円形	0.21	0.19	0.15	-	-	-
1-2	SK	101	土坑	J22	円形	0.20	0.17	-	-	-	-

第3表 II区遺構観察表

調査区	棟別	遺構No.	種類	位置	遺構形状	長(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸	出土遺物	備考
II	SK	101	土坑	J-25	隅丸長方形	1.84	1.00	0.11	N-80°E	-	-
II	SK	102	土坑	J-25	(隅丸長方形)	(1.33)	(0.44)	0.23	N-82°E	-	-
II	SK	103	土坑	J-25	-	(0.52)	(0.48)	0.14	-	-	-
II	SK	104	土坑	J-25	(隅丸長方形)	1.56	1.09	0.22	N-12°W	-	-
II	SK	105	A土坑	J-25	不整形	(4.44)	(1.42)	0.18	N-0°	内耳土器4点	-
II	SK	105	B土坑	J-25	不整形	(0.40)	(0.98)	0.19	N-0°	-	SK-105→SK-107
II	SK	106	土坑	J-25	不整形	(2.56)	(0.76)	0.18	N-90°	-	SK-105→SK-106
II	SK	107	土坑	J-25	(櫛形)	(0.64)	(0.96)	0.09	N-67°E	-	-
II	SK	108	地下式坑	J-25J-26	不整形	2.94	1.92	0.78	N-26°E	-	SK-108→SK-107 堀100
II	SK	109	土坑	K-24 K-25	隅丸長方形	1.44	0.96	0.15	N-78°W	-	-
II	SD	110	溝	J-25 K-25, K-24	-	11.30	0.97	-	-	-	SD-110→SK-109
II	SK	111	土坑	L-24	隅丸長方形	1.98	0.78	-	N-20°E	-	-
II	SK	112	土坑	K-25	円形	(1.48)	(1.44)	-	-	-	SK-113→SK-112
II	SK	113	土坑	K-25	(長方形)	(0.98)	(0.73)	0.27	N-83°W	内耳土器1点	-
II	SK	114	土坑	K-25 K-26	隅丸長方形	1.25	0.70	0.25	N-3°E	-	SK-113→SK-114
II	SK	115	地下式坑	K-26 K-27	不整形	3.50	2.77	1.57	N-52°W	縄文土器1点 内耳土器6点 土師小皿2点	-
II	SK	116	地下式坑	K-27	不整形	2.60	1.81	0.83	N-28°E	内耳土器1点	堀82
II	SK	117	土坑	L-25	不整形	1.08	0.52	0.13	N-27°W	-	-
II	SK	118	土坑	L-25	隅丸長方形	1.24	0.65	-	N-12°E	-	-
II	SK	119	土坑	L-25	(隅丸長方形)	(1.14)	0.44	-	(N-88°W)	-	一部調査区外
II	SD	120	溝	L-25	-	(4.60)	0.37	-	(N-82°W)	-	-
II	SD	121	溝	J-24 J-25, K-24	-	(12.08)	(0.47)	(0.1)	(N-82°W)	内耳土器5点	SK-188→SD-121 一部調査区外
II	SK	122	方形窆穴	L-26	方形	2.20	1.79	(0.53)	N-10°E	内耳土器2点 土師小皿1点	SK-229を含むか? 堀87, 90
II	SK	123	土坑	K-26	長櫛形	1.47	0.41	-	N-88°W	-	-
II	SK	124	土坑	K-26	櫛形	0.98	0.62	-	N-78°W	-	-
II	SK	125	土坑	K-25	円形	1.49	1.36	-	-	-	-
II	SK	126	土坑	K-25	不整形	2.02	1.53	0.21	-	内耳土器1点 灰石3点 土師小皿1点	SD-131→SK-126 堀83, 237
II	SK	127	土坑	K-25	-	(1.28)	(0.56)	0.27	-	-	-
II	SK	128	土坑	K-25	不整形	1.81	1.00	0.42	-	-	-
II	SK	129	土坑	K-25	不整形	(0.76)	(0.46)	-	-	-	-
II	SK	130	土坑	K-25	円形	1.79	1.58	0.23	-	内耳土器1点	-
II	SD	131	溝	K-25	-	(8.10)	0.92	-	-	-	-
II	SK	132	土坑	K-26	隅丸長方形	2.32	0.91	0.22	N-15°E	-	SK-129→SK-132
II	SK	133	方形窆穴	K-26	方形	1.83	1.57	0.45	N-10°E	内耳土器1点 土師小皿2点	SK-129→SK-133
II	SK	134	方形窆穴	L-26	方形	1.84	1.70	0.31	N-9°E	-	-
II	SK	135	土坑	L-26	隅丸長方形	3.93	0.82	0.18	N-9°E	-	-
II	SK	136	(方形窆穴)	L-26	(方形)	(0.82)	(1.30)	0.09	N-18°E	-	-
II	SK	137	方形窆穴	L-26	方形	2.38	1.88	0.51	N-9°E	内耳土器1点	SK-137→SK-136 SK-137→SD-170 堀95
II	SK	138	(方形窆穴)	L-26	(方形)	(1.12)	(0.60)	0.19	N-9°E	-	-
II	SK	139	方形窆穴	L-27	方形	2.15	1.73	0.12	N-4°E	-	-
II	SK	140	土坑	L-27M-27	櫛形	1.08	0.75	0.1	N-85°E	-	SK-139→SK-140
II	SK	141	土坑	L-27	隅丸長方形	1.50	0.75	0.1	N-0°	-	-
II	SK	142	土坑	L-27	隅丸長方形	1.69	0.68	0.13	N-10°W	-	-
II	SK	143	土坑	L-27	(隅丸長方形)	1.20	0.76	0.36	N-65°W	-	SK-143→SK-144
II	SK	144	土坑	L-27	(隅丸長方形)	(0.96)	0.83	0.16	N-73°W	-	-
II	SK	145	土坑	L-27	隅丸長方形	1.38	0.78	0.29	N-83°W	-	-
II	SK	146	土坑	L-28	長櫛形	2.93	0.68	0.21	N-57°W	内耳土器7点	-
II	SK	147	土坑	L-28M-28	(隅丸長方形)	1.80	(1.04)	0.15	(N-0°)	-	SK-147・148は1遺構の同時期に埋められたものか
II	SK	148	土坑	M-28	不整形	2.42	1.96	0.22	N-0°	-	-
II	SK	149	地下式坑	L-27	不整形	2.08	1.72	0.78	-	-	SK-149→SD-160
II	SK	151	地下式坑	L-28	櫛形	2.22	2.05	1.27	-	内耳土器10点 土師小皿1点 灰石1点 石臼1点	SD-160→SK-151 堀239, 271
II	SK	152	土坑	L-28	(櫛形)	0.90	0.92	0.11	-	-	SK-152→SK-153
II	SK	153	土坑	L-28	(隅丸長方形)	1.48	0.88	0.06	N-8°E	-	-
II	SK	154	土坑	L-28	(隅丸長方形)	(0.28)	0.46	0.06	-	-	SK-154→SK-153
II	SK	155	土坑	L-28	櫛形	1.18	0.78	0.14	N-88°E	-	SK-154→SK-155
II	SK	156	土坑	L-28	(隅丸長方形)	(0.81)	0.56	0.03	N-88°W	-	SK-156→SK-155
II	SK	157	土坑	L-28	円形	0.62	0.65	0.04	-	-	SK-156→SK-157
II	SK	158	地下式坑	M-27	不整形	2.30	1.68	1.35	-	-	-
II	SE	159	井戸	M-27M-28	不櫛形	1.00	0.87	(0.95)	-	土師小皿4点 内耳土器2点 石磨(縄文)1点	堀24, 334
II	SD	160	溝	K-24～27 L-26～30	-	-	-	-	-	-	-
II	SK	161	土坑	L-26	櫛形	0.93	0.73	0.11	N-68°W	-	-
II	SK	162	土坑	K-26	櫛形	1.80	1.62	0.3	-	土師小皿1点	SK-162→SK-163

第3章 調査の成果

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
II	SK	163	土坑	K-26	楕円形	1.39	1.30	0.43	-	内耳土器1点 土師小皿2点 石臼1点	図17、270
II	SK	164	土坑	K-28L-28	円形	0.74	0.61	0.16	-	-	-
II	SK	165	土坑	M-28	(長楕円形)	(1.23)	0.48	0.34	N-18°-E	-	-
II	SK	166	土坑	L-28L-29	方形	0.65	0.64	0.12	N-6°-E	-	-
II	SK	167	土坑	L-27	(楕丸長方形)	2.56	0.99	0.27	N-14°-E	-	SK-167→SD-170
II	SK	169a	方形窠穴	L-27	(楕丸長方形)	2.08	1.75	0.17	N-14°-E	-	169bと重複 切り合い不明
II	SK	169b	方形窠穴	L-27	(楕丸長方形)	2.4	1.7	0.17	N-14°-E	-	169aと重複 切り合い不明
II	SD	170	溝	L-26L-27、 M-26	-	(11.38)	0.63	0.43	-	内耳土器1点	-
II	SK	171	土坑	L-26-M-26	(楕丸長方形)	(1.56)	0.78	-	N-10°-E	-	-
II	SK	172	土坑	L-26-M-26	-	(0.52)	0.69	0.4	-	-	SK-172→SD-170 一部調査区外
II	SK	173	土坑	L-26	(楕丸長方形)	1.99	0.38	0.68	N-10°-E	土師1点	SK-173→SD-172 一部調査区外
II	SK	174	地下式坑	M-27	(円形)	(2.46)	0.77	1.31	-	-	一部調査区外
II	SD	175	溝	K-28L-28	-	(11.17)	0.70	0.33	-	-	-
II	SK	176	土坑	M-28	(楕丸長方形)	(0.54)	1.09	0.35	(N-85°-W)	-	一部調査区外
II	SK	177	土坑	M-28	(楕丸長方形)	(1.32)	0.84	0.1	N-71°-W	-	一部調査区外
II	SK	178	土坑	M-28	楕円形	0.74	0.60	0.05	-	-	-
II	SK	179	土坑	K-27	楕丸長方形	1.39	0.48	0.14	N-77°-W	-	一部調査区外
II	SK	181	土坑	J-25	(楕円形)	(1.01)	0.68	0.04	(N-38°-E)	-	一部調査区外
II	SK	182	土坑	J-25	(不整形)	(1.01)	0.97	0.07	(N-62°-W)	-	-
II	SK	183	土坑	J-25	(楕丸長方形)	(1.66)	0.53	0.07	N-86°-E	-	-
II	SK	184	土坑	J-25	(楕丸長方形)	(1.07)	(1.38)	0.22	N-10°-E	内耳土器7点 土師小皿8点	SK-189→SK-184 一部調査区外
II	SK	185	土坑	J-25	(楕丸長方形)	(1.69)	(1.09)	0.2	(N-88°-W)	-	SK-185→SK-187
II	SK	186	土坑	J-25	(楕丸長方形)	(0.88)	0.68	0.12	(N-77°-E)	-	-
II	SK	187	土坑	J-25	不整形	1.46	(1.22)	(2.13)	(N-18°-E)	-	一部調査区外
II	SK	188	土坑	J-25	(楕丸長方形)	(1.02)	0.73	0.5	-	-	SK-186→SK-188
II	SK	189	土坑	J-25	(楕円形)	(0.85)	0.56	0.16	-	-	SK-185→SK-189 一部調査区外
II	SK	191	土坑	L-29	不整形長方形	2.17	0.68	0.29	N-58°-E	-	-
II	SK	192	土坑	L-29	楕円形	1.25	0.78	0.47	N-49°-E	-	SK-193→SK-192
II	SK	193	土坑	L-29	(楕円形)	(1.40)	1.35	0.29	(N-90°)	-	-
II	SK	194	土坑	K-29	長楕円形	1.13	0.32	0.05	N-83°-E	-	-
II	SK	195	土坑	L-29	円形	0.89	0.88	0.63	-	-	-
II	SK	196	土坑	L-29	円形	1.10	1.00	0.14	-	-	-
II	SK	197	土坑	L-29	楕丸長方形	2.01	1.12	0.22	N-82°-W	-	-
II	SK	198	土坑	L-30	円形	2.72	2.68	0.75	-	-	-
II	SK	199	土坑	L-30	楕円形	0.72	0.39	0.1	N-77°-W	-	-
II	SD	200	溝	K-30L-30、 M-30	-	(20.96)	2.72	1.68	N-81°-W	内耳土器6点 土師小皿13点 陶器1点 鉄製品3点	図18、19、20、21・ 22・23、73、74、 84、85、187、191、 196
II	SK	201	土坑	M-29	不整形	0.66	0.64	0.1	-	-	-
II	SK	202	土坑	M-29	長楕円形	1.12	0.57	0.25	N-12°-E	-	-
II	SK	203	土坑	M-30	長方形	0.96	0.42	0.34	N-5°-E	-	-
II	SK	204	土坑	L-29	(楕丸長方形)	(2.52)	0.84	0.17	N-82°-W	-	SK-204-205同一土坑と する pH深さ0.12
II	SK	206	土坑	L-30	(長楕円形)	(2.32)	0.64	0.11	N-79°-W	-	-
II	SK	207	土坑	L-30	円形	1.58	1.47	0.06	-	-	-
II	SK	209	土坑	M-30	円形	2.12	1.85	0.17	-	-	-
II	SK	210	土坑	M-30	楕丸長方形	1.00	0.56	0.24	N-10°-E	-	-
II	SK	211	土坑	L-30	長方形	4.66	0.75	0.41	N-18°-W	内耳土器1点 土師小皿4点 陶器1点 石臼1点 鉄製品1点	SD-200→SK-211 図25、26、 155、238、188
II	SK	212	土坑	L-30	長楕円形	1.74	0.58	0.12	N-77°-W	内耳土器4点	SD-218→SK-212
II	SK	213	土坑	M-30	楕丸長方形	1.82	1.03	-	N-86°-W	-	-
II	SK	215	土坑	L-31	楕丸長方形	1.05	0.63	0.15	N-3°-E	-	-
II	SK	216	方形窠穴	M-30	楕丸形	2.24	1.71	0.12	N-8°-W	-	-
II	SK	217	土坑	L-31	(円形)	(0.40)	0.32	0.39	-	-	-
II	SK	218	溝	L-30L-31、 L-32	-	18.18	1.12	0.27	N-17°-E	内耳6点 土師小皿8点 陶器1点 石臼1点 灰質土器1点	図168
II	SK	219	土坑	L-31-M-31	長方形	1.55	0.71	0.12	N-70°-W	-	-
II	SK	220	土坑	M-31	楕円形	1.00	0.77	0.16	N-57°-E	土製品(土師)1点	図171
II	SK	221	土坑	M-31	不整形	(1.55)	0.5	0.12	N-98°-E	-	-
II	SK	222	土坑	M-31	楕丸長方形	1.44	0.52	0.28	N-82°-W	-	SK-223→SK-222
II	SK	223	土坑	M-31	(円形)	0.72	0.64	0.21	-	-	-
II	SK	224	土坑	M-31-M-32	(楕丸長方形)	2.00	0.52	0.14	N-3°-E	-	-
II	SK	225	土坑	M-32	(楕丸長方形)	0.57	0.51	0.12	(N-63°-W)	-	-
II	SK	226	土坑	M-31・32、 N-31・32	円形	1.68	1.67	0.16	-	-	-
II	SK	227	土坑	M-31-N-31	不整形	(2.61)	0.50	0.06	N-13°-E	-	SK-226→SK-227

第2節 確認された遺構と遺物

調査区	種別	遺構No.	種類	位置	遺構形状	長(m)	幅(m)	深さ(m)	土軸	出土遺物	備考
II SK 228	土坑	M-31	-	-	櫛形	0.36	0.20	0.05	N60°W	-	-
II SK 229	方形罅穴	L-26	-	-	方形	-	-	-	-	-	-
II SK 230	土坑	N-32	-	-	円形	0.92	0.91	0.06	-	-	-
II SK 232	土坑	L-31	-	-	楕円長方形	2.28	0.71	0.14	N5°E	-	-
II SK 233	土坑	M-31/M-32	-	-	円形	0.57	0.50	0.06	-	-	-
II SD 234a	溝	M-31	-	-	-	(5.60)	0.48	-	(N7°E)	-	-
II SD 234b	溝	M-31	-	-	-	8.64	0.31	0.21	(N9°E)	-	-
II SK 235	土坑	L-31	-	-	長方形	1.12	0.60	0.34	N14°E	-	-
II SK 236	土坑	K-31/L-31	-	-	不整形	1.25	0.48	0.07	N65°W	-	-
II SK 237	土坑	K-30	-	-	円形	1.02	0.98	0.16	-	-	-
II SK 238	土坑	K-31/L-31	-	-	櫛形	1.53	0.70	0.09	N77°W	-	-
II SK 239	土坑	L-31	-	-	楕円長方形	1.35	0.69	0.15	N82°W	-	-
II SK 240	土坑	L-31	-	-	楕円長方形	2.30	0.68	0.18	N14°E	内耳土層 11 点 土師小皿 5 点 鉄器 3 点	図 27、31
II SK 241	方形罅穴	M-31/M-32	-	-	方形	2.47	1.65	0.6	N90°	内耳土層 1 点 土師小皿 3 点 鉄器 3 点	SK-241 → SD-234
II SK 243	土坑	M-32	-	-	不整形	1.24	0.91	0.06	N78°W	-	SK-243 → SD-234
II SD 245	溝	J-25	-	-	-	(4.74)	0.37	0.17	N10°E	-	-
II SK 246	土坑	J-25	-	-	不整形	2.42	1.31	0.31	(N6°W)	右口 1 点	図 269
II SK 247	土坑	J-25	-	-	不整形	(1.32)	1.38	0.95	N69°W	-	SK-247 → SK-248 一部調査区外
II SK 248	土坑	J-25	-	-	(櫛形)	(1.28)	(0.67)	0.28	(N88°W)	-	一部調査区外
II SK 249	土坑	J-25/26	-	-	(不整形)	(2.29)	(0.62)	0.52	-	-	一部調査区外
II SK 250	土坑	J-25	-	-	楕円長方形	1.45	0.74	0.15	N18°E	-	一部調査区外
II SK 251	土坑	J-26	-	-	(櫛形)	(0.89)	0.80	0.24	N83°W	-	一部調査区外
II SK 252	地下式坑	J-27	-	-	不整形	2.31	2.02	1.54	-	内耳土層 27 点 土師小皿 3 点 鉄製品 3 点 五輪瓦 1 点	図 29、88、189、282
II SD 253	溝	J-27	-	-	-	(3.72)	0.27	1.45	-	-	-
II SK 254	土坑	K-30	-	-	不整形	0.79	0.71	(0.08)	-	内耳土層 1 点 土師小皿 1 点	-
II SK 255	土坑	K-31	-	-	楕円長方形	1.32	0.80	0.22	N6°E	-	-
II SK 256	土坑	K-31/L-31	-	-	方形	0.81	0.66	0.08	N15°E	-	内耳土層 1 点 一部調査区外 図 30
II SK 257	土坑	K-31	-	-	不整形	(1.51)	(0.68)	0.53	-	土師小皿 1 点	-
II SK 258	土坑	L-31	-	-	楕円長方形	1.51	0.87	0.04	N6°E	-	-
II SK 259	土坑	L-32	-	-	不整形	(0.96)	0.61	0.18	N90°	-	-
II SK 260	土坑	L-32	-	-	楕円長方形	1.13	0.83	0.2	N90°	内耳土層 1 点	SK-259 → SK-260
II SK 261	土坑	L-32	-	-	長櫛形	1.56	0.54	0.12	N74°W	-	-
II SK 262	土坑	L-32	-	-	不整形	(1.48)	0.94	0.07	N81°W	-	SK-262 → SK-267
II SK 263	土坑	L-32	-	-	(楕円長方形)	(1.05)	(0.78)	(0.23)	N71°W	内耳土層 1 点 土師小皿 1 点	図 28
II SK 264	土坑	K-31	-	-	(方形)	(6.24)	(0.28)	0.64	(N16°E)	土師小皿 7 点	一部調査区外 図 32 ~ 38
II SK 265	土坑	K-30	-	-	不整形	(1.52)	0.99	0.29	-	-	一部調査区外
II SK 266	土坑	K-29	-	-	(長方形)	(1.34)	0.67	(0.09)	N83°W	-	一部調査区外
II SK 267	土坑	L-32	-	-	-	(0.60)	0.56	0.25	(N75°W)	-	SK-267 → SK-263
II SK 268	土坑	L-31/L-32	-	-	長方形	1.76	0.55	0.07	N68°W	内耳土層 2 点 土師小皿 2 点	-
II SK 269	土坑	L-31/L-32	-	-	長方形	1.30	0.69	0.07	N20°E	-	一部調査区外 図 270
II SK 270	土坑	L-31/L-32	-	-	長方形	1.55	0.66	0.2	N56°W	-	SK-269 → SK-270
II SK 271	土坑	L-32	-	-	長櫛形	1.79	0.63	0.13	N75°W	-	-
II SK 272	土坑	L-32	-	-	不整形	1.60	0.59	0.12	N45°W	五貫土層 1 点	SK-273 → SK-272 図 160
II SK 273	土坑	L-32	-	-	不整形	1.25	0.8	0.38	N72°W	-	-
II SK 274	土坑	L-32	-	-	(櫛形)	(0.62)	0.75	0.12	(N20°E)	-	-
II SK 275	土坑	L-30	-	-	(楕円長方形)	(0.53)	0.44	-	N70°W	内耳土層 1 点	図 93
II SK 276	土坑	L-31	-	-	(楕円長方形)	(2.57)	1.15	0.17	N14°E	-	-
II SK 277	土坑	L-31	-	-	不整形	10.58	0.62	0.3	-	-	-
II SK 278	土坑	L-31	-	-	不整形	1.32	1.12	0.19	-	-	-
II SK 279	土坑	K-29	-	-	(長方形)	(0.87)	0.67	0.07	-	-	一部調査区外
II SK 281	地下式坑	K-29	-	-	(不整形)	3.80	1.86	0.75	-	内耳土層 28 点 土師小皿 2 点	SK-281 → SK-279 図 39、40
II SK 283	地下式坑	M-29	-	-	円形	2.16	2.14	1.44	-	内耳土層 2 点 土師小皿 1 点 縄文土層 1 点	図 318
II SK 284	土坑	M-30/31、 N-30/31	-	-	(不整形)	(4.38)	(2.99)	0.7	-	内耳土層 2 点 土師小皿 2 点 磁器 9 点 鉄製品 2 点	一部調査区外 図 134、136、144、181、182
II SK 285	地下式坑	N-31	-	-	(楕円長方形)	2.17	(2.13)	1.20	-	内耳土層 22 点 土師小皿 6 点	一部調査区外 図 75、76、77
II SK 286	土坑	L-38	-	-	-	-	-	-	-	土師小皿 2 点	図 47
II SK 287	土坑	L-32	-	-	方形	1.97	1.92	0.18	N16°E	-	-
II SK 288	地下式坑	K-29	-	-	(不整形)	(1.52)	(0.41)	0.95	-	-	一部調査区外
II SK 289	地下式坑	M-29	-	-	不整形	3.81	1.38	1.07	-	-	一部調査区外 図 41
II SK 290	方形罅穴	L-30	-	-	方形	2.27	1.78	0.61	N82°W	-	-
II SK 292	土坑	L-31	-	-	不整形	1.00	0.88	0.13	-	-	-
II SK 294	土坑	L-31	-	-	不整形	(1.00)	(0.148)	(0.07)	-	-	-
II SK 296	土坑	L-31	-	-	長方形	1.73	0.66	0.26	N81°W	-	SK-296 → SD-218
II SK 297	土坑	L-31	-	-	不整形	(0.67)	0.70	0.11	N85°W	-	-
II SK 298	土坑	L-31	-	-	(長方形)	(0.85)	(0.85)	0.1	N56°W	-	-
II SK 308	土坑	B(区)外	-	-	-	-	-	-	-	土師小皿 2 点 磁器 1 点	-
II SK 365	土坑	B(区)外	-	-	-	-	-	-	-	磁器 4 点	図 273

第3章 調査の成果

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
II	SK	366	土坑	II K9	-	-	-	-	-	土師小皿 1 点 磁器 8 点 陶器 2 点 硯 1 点	-
II	SK	367	土坑	II K9	-	-	-	-	-	陶器 1 点	-
II	SK	400	地下式坑	L-32 M-32	櫛円形	5.01	3.52	2.01	N-10° 東	西耳土器 3 点 土師小皿 4 点 陶器 3 点 硯石 2 点 板碑 1 点 石臼 7 点	図 42 ~ 45, 78, 79, 80, 108, 112, 240, 241, 273, 275 ~ 277, 280
II	SK	401	土坑	M-32	櫛円形	1.29	0.82	0.42	N-27° 東	-	-
II	SK	402	土坑	L-32 M-32	不整形	(2.65)	1.84	0.78	N-37° 東	-	-
II	SK	403	方形窆穴	L-33	長方形	2.50	1.66	0.61	N-75° W	-	図 274
II	I	405	土坑	L-34 M-34	長方形	1.96	1.05	0.26	N-78° W	-	-
II	SK	406	土坑	M-34	櫛円形	器	0.61	0.42	N-53° 東	-	-
II	SK	407	土坑	M-34 N-34	不整形	2.20	1.26	0.7	N-60° 東	-	-
II	SK	408	土坑	N-33×N-34 O-34	(櫛丸方形)	(5.12)	(1.96)	0.30	-	土師小皿 5 点 土製品 (土人形) 110 点 磁器 1 点 板碑 1 点	一部調査区外 図 174 ~ 178
II	SK	409	土坑	N-35	櫛円形	1.78	0.98	0.37	N-68° W	-	-
II	SD	410	溝 (大溝)	O-34 ~ 39	-	(48.72)	(5.88)	1.27	-	内耳土器 1 点 陶器 3 点 五輪器 1 点	図 99, 109, 110, 111, 285
II	SD	411	溝	N-34×35×36 O-35×36	-	(16.54)	(1.12)	0.16	-	-	-
II	SD	412	溝	M-34 ~ 38	-	39.20	0.72	0.13	(西 10° 東)	-	-
II	SK	413	土坑	M-35 M-36	櫛丸長方形	2.44	1.18	0.18	N-14° 東	内耳土器 11 点 陶器 小皿 1 点	SD-412 → SK-413 図載 86
II	SK	414	土坑	N-36 N-37	不整形	1.12	0.70	0.19	-	-	-
II	SK	415	土坑	M-37	円形	0.94	0.86	0.86	-	-	-
II	SK	416	土坑	M-37	(櫛丸長方形)	(2.03)	0.80	0.4	N-76° W	-	一部調査区外
II	SK	417	土坑	N-37	不整形	1.75	0.94	0.16	N-0°	-	SK-419 → SK-417
II	SK	418	土坑	N-37 N-38	櫛丸長方形	2.58	0.73	0.23	N-58° W	-	SK-419 → SK-418
II	SK	419	土坑	N-37	櫛円形	1.58	0.54	0.39	N-2° W	-	-
II	SK	420	地下式坑	L-36	(櫛円形)	(11.54)	(0.66)	0.94	-	-	一部調査区外
II	SD	421	溝	L-30 L-31	-	(3.36)	(1.23)	1.77	(西 13° 東)	内耳土器 3 点	-
II	SB	422	竪立柱建物跡	M-31 M-32 M-33	長方形	22.00	4.30	-	(西 10° 東)	-	長大な竪立柱建物跡 SD-234 → SB-422
II	SB	423	竪立柱建物跡	N-32 N-33	長方形	12.80	3.20	-	(西 10° 東)	-	長大な竪立柱建物跡
II	SB	424	竪立柱建物跡	L-28 L-29 L-30 M-29 M-30	長方形	22.00	4.10	-	(西 8° 東)	-	長大な竪立柱建物跡
II	SB	425	竪立柱建物跡	M-27 M-28 M-29	長方形	22.00	4.10	-	(西 8° 東)	-	長大な竪立柱建物跡 一部調査区外

II 区 Pit 観察表

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
II	Pit	33	小穴	J-27	櫛円形	0.36	0.28	0.10	-	硯石	図 242
II	Pit	56	小穴	J-27	円形	0.42	0.34	-	-	銅製品、硯石	図 213, 246
II	Pit	134	小穴	K-29	不整形円形	0.22	0.17	-	-	土師瓦土器	図 46
II	Pit	202	小穴	L-31	円形	0.31	0.28	0.22	-	土師瓦土器	図 50
II	Pit	332	小穴	L-26	円形	0.24	0.22	0.13	-	陶器	図 104
II	Pit	426	小穴	L-27	円形	0.25	0.19	0.22	-	土師瓦土器	図 49
II	Pit	430	小穴	L-27	円形	0.22	0.17	-	-	硯石	図 243
II	Pit	445	小穴	L-27	円形	0.21	0.18	0.03	-	土師瓦土器	図 52
II	Pit	457	小穴	M-27	櫛丸長方形	0.40	0.31	0.29	-	硯	図 251
II	Pit	508	小穴	M-29	円形	0.30	0.37	-	-	土師瓦土器	図 53
II	Pit	541	小穴	M-29	櫛丸長方形	0.35	0.30	-	-	鉄製品	図 190
II	Pit	677	小穴	M-31	櫛円形	0.31	0.21	0.31	-	古銭、土師瓦土器	図 55, 222
II	Pit	679	小穴	M-31	円形	0.26	0.25	0.26	-	鉄製品	図 184
II	Pit	727	小穴	M-31	円形	0.31	0.25	0.09	-	鉄製品	図 186
II	Pit	761	小穴	M-31	不整形	0.49	0.32	-	-	土師瓦土器	図 56
II	Pit	800	小穴	L-29	円形	0.25	0.24	0.09	-	鉄製品	図 185
V	Pit	75	小穴	S-62	不整形	0.43	0.40	-	-	鉄製品	図 195

第4表 III・IV区遺構観察表

調査区	種別	遺構No.	種類	位置	遺構形状	長(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸	出土遺物	備考
III-1	SD	001	溝	O-39 ~ 48	-	-	-	-	-	内趾土器5点 土師小皿1点	-
III-1	SD	420	溝	M-40~41、 N-40~41	-	-	-	-	-	-	-
III-1	SD	421	溝(大溝)	N-40~41+42+ 43.0-40	-	-	-	-	-	-	SD421 → SD430
IV	SK	422	土坑	P-41	円形	0.55	0.52	0.17	-	-	-
IV	SK	423	土坑	P-42	円形	0.65	0.60	0.09	-	-	-
IV	SK	424	土坑	P-42	隅丸長方形	2.89	0.79	0.14	N40°W	-	-
IV	SK	425	土坑	P-42	隅丸長方形	2.70	0.53	0.1	N7°W	-	-
IV	SK	426	土坑	O-42 P-42	隅丸長方形	1.86	0.71	0.17	N83°E	-	-
IV	SK	427	土坑	O-42 O-43	隅丸長方形	2.15	0.43	0.14	N18°W	-	-
IV	SK	428	土坑	O-43	隅丸長方形	1.72	0.58	0.13	N27°W	-	-
IV	SK	429	土坑	P-43	円形	0.68	0.65	0.13	-	-	-
III-3	SD	430a	溝	P41.O-41、 O-42	-	(31.0)	1.6	0.4	-	-	SD430a → SD430b → SD001
III-3	SD	430b	溝	P41.O-41、 O-42	-	(32.0)	1.2	0.3	-	-	SD430a → SD430b → SD002
IV	SK	431	土坑	O-43 O-44	不整形	4.27	1.42	0.59	N30°E	-	SK431 → SK430
IV	SD	432	溝	O-43 ~ 46、 P-41 ~ 44	-	(49.6)	0.60	0.2	(N20°W)	-	-
IV	SD	433	溝	O+P-O-44	-	(22.52)	1.33	0.72	(N83°E)	-	SD433 → SD432
IV	SK	434	土坑	O-44	隅丸長方形	1.90	0.95	0.42	N8°E	-	SD433 → SD434
IV	SK	435	土坑	P-42 O-42	円形	1.02	0.96	0.18	-	-	-
IV	SK	436	土坑	Q-43	(楕円形)	0.55	0.73	0.09	(N65°W)	-	一部調査区外
IV	SK	437	土坑	P-43 Q-43	隅丸長方形	1.02	0.257	0.12	N56°E	-	-
IV	SK	438	土坑	Q-43	楕円形	0.65	0.49	0.12	-	-	-
IV	SK	439	土坑	P-43	(楕円形)	(0.71)	0.74	0.2	-	-	-
IV	SK	440	土坑	P-43	不整隅丸長方形	2.12	0.70	0.13	N17°W	-	-
IV	SK	441	土坑	P-43	不整隅丸長方形	1.51	0.66	0.19	N20°W	-	-
IV	SK	442	土坑	P-44	不整形	2.26	0.96	0.26	(N10°W)	-	SK658 → SK442
IV	SK	443	土坑	P-44	不整形	1.33	0.88	0.12	-	-	-
IV	SK	444	土坑	P-44	隅丸長方形	2.24	0.94	0.37	N66°W	-	-
IV	SK	445a	土坑	Q-44	不整形長方形	4.21	1.22	0.24	N3°W	-	-
IV	SK	445b	土坑	Q-44	不整形円形	0.89	0.73	-	-	-	-
IV	SK	446	土坑	Q-44 O-45	(隅丸長方形)	(4.22)	0.85	0.35	N5°W	-	SK446 → SD433 一部調査区外
IV	SK	447	土坑	Q-44 Q-45	長方形	(4.67)	0.88	0.37	N5°W	-	SK447 → SD433
IV	SE	448	井戸	Q-45	円形	1.54	1.51	(1.74)	-	-	-
IV	SK	449	土坑	Q-45	隅丸長方形	1.73	1.65	0.2	N6°W	-	-
IV	SK	450	土坑	P-44 P-45	隅丸長方形	1.51	0.76	0.19	N36°E	-	-
IV	SK	451	土坑	P-45	隅丸長方形	2.00	0.80	0.49	N35°E	-	-
IV	SK	452	土坑	O-46	隅丸長方形	2.20	1.63	0.24	N78°E	-	-
IV	SK	453	土坑	P-46	隅丸長方形	2.87	0.86	0.26	N9°W	-	-
IV	SK	454	土坑	O-46 O-47	隅丸長方形	1.45	0.75	0.39	N82°W	-	-
IV	SK	455	土坑	Q-46	隅丸長方形	1.51	0.62	0.24	N65°W	-	-
IV	SK	456	土坑	Q-47	円形	0.94	0.87	0.24	-	-	-
IV	SK	457	土坑	P-47	隅丸長方形	2.35	0.56	0.16	N18°W	-	-
IV	SK	458	土坑	P-49	隅丸長方形	1.94	1.52	0.25	N71°W	-	-
IV	SK	459	土坑	Q-48 Q-49	隅丸長方形	4.38	0.86	0.29	N21°W	-	-
IV	SK	460	土坑	R-49	隅丸長方形	0.96	0.93	0.16	-	-	-
IV	SK	461	土坑	Q-46	円形	0.78	0.73	0.09	-	-	-
III-1	SK	462a	土坑	O-40	楕円形	(1.91)	1.54	0.25	-	-	-
III-1	SK	462b	土坑	O-40	円形	0.84	0.77	0.2	-	-	-
IV	SK	463	土坑	O-43 O-44	不整形	(3.08)	(2.43)	0.63	-	-	-
IV	SK	464	土坑	P-44 Q-44	楕円形	0.70	0.64	0.11	-	-	-
IV	SK	465	土坑	Q-44	不整楕円形	1.65	1.53	0.34	-	-	SK445 → SK465
IV	SE	466	井戸	O-40	隅丸長方形	1.05	0.95	(1.96)	-	-	-
IV	SK	656	土坑	P-43	不整形	2.06	1.92	0.25	-	-	-
IV	SK	657	土坑	P-44	不整形円形	7.26	0.67	0.28	-	-	-
IV	SK	658	土坑	P-44 → P-44	不整形円形	1.16	0.78	0.21	N60°W	-	-
IV	SK	659	土坑	P-44	円形	0.84	0.76	0.18	-	-	-
IV	SK	660	土坑	O-43 O-44	不整形	5.04	2.10	0.4	(N44°E)	-	SK660 → SK430
IV	SK	661	土坑	O-44 O-45	不整形円形	1.17	0.55	0.41	N70°W	-	SK611 → SD432

第3章 調査の成果

第5表 V区遺構観察表

調査区	種別	遺構No.	種類	位置	遺構形状	長(m)	幅(m)	深さ(m)	主軸	出土遺物	備考
V	SK	301	土坑	P-52	楕円形	1.25	0.75	-	(N-15°-W)	-	-
V	SK	302	土坑	P-52	不整楕円長方形	4.02	0.88	0.29	N-20°-W	-	-
V	SK	303	土坑	P-52	(長方形)	(1.50)	(0.33)	0.28	(N-15°-W)	-	SK-303→SK-302
V	SK	305	土坑	Q-52-Q-53	楕円形	1.08	0.57	0.3	N-73°-E	-	-
V	SK	306	土坑	P-52	円形	1.25	1.15	0.17	-	-	-
V	SK	307	土坑	Q-54	楕円形	1.87	1.24	0.24	-	陶器1点 磁器18 副製品1点	SK-308→SK-307 陶130、119、125、 133、137～140、 145～150、153、 158、160、164、 165、215
V	SK	308a	土坑	Q-54	-	(0.35)	0.84	0.19	-	磁器1点	陶101
V	SD	308b	溝	S-65	-	5.60	0.60	-	-	-	-
V	SK	309	土坑	R-61	(楕円形)	(1.80)	(0.94)	-	-	-	一部調査区外
V	SK	310	土坑	R-52	不整形	2.80	2.68	0.47	-	-	-
V	SK	311	土坑	Q-52-R-52	円形	1.23	1.07	-	-	-	-
V	SK	312	土坑	R-51	長楕円形	2.57	0.95	0.52	N-19°-E	-	-
V	SK	313	土坑	R-52	不整形	1.16	0.92	-	-	-	-
V	SK	314	土坑	R-52	円形	1.30	1.16	-	-	-	-
V	SK	316	土坑	R-52	円形	1.15	1.07	-	-	-	-
V	SK	317	土坑	R-52	不整形	0.91	0.61	-	-	-	-
V	SK	318	土坑	R-52	楕円形	1.26	1.18	-	-	-	-
V	SK	319	土坑	R-52-R-53	楕円形	1.10	0.64	-	N-22°-E	骨2点	-
V	SK	320	土坑	R-52	楕円形	1.07	0.96	0.2	-	-	-
V	SK	322	土坑	Q-52-R-52	不整形長方形	2.90	0.98	0.43	N-90°	-	-
V	SK	324	土坑	P-52	(楕円長方形)	(4.10)	(0.73)	0.2	N-15°-W	-	SK-324→SK-302
V	SK	325	土坑	P-52	不整形	1.65	0.98	0.24	-	-	-
V	SK	326	土坑	P-53	楕円長方形	1.04	0.45	0.25	N-5°-E	-	-
V	SK	327	土坑	P-53	楕円形	0.78	0.52	0.16	N-32°-W	-	-
V	SK	328	土坑	Q-53	不整形	1.18	1.02	0.15	-	-	-
V	SK	329	土坑	Q-53	不整楕円形	0.92	0.70	0.22	N-63°-W	-	-
V	SK	330	土坑	Q-53	円形	1.89	1.57	0.17	-	石器(縄文)1点 五輪帯1点	陶286、333
V	SK	331	土坑	Q-53	不整形	1.70	0.61	0.16	N-80°-E	土師小皿8点	-
V	SK	332	土坑	Q-53	不整形	0.97	0.53	0.29	(N-6°-W)	-	-
V	SK	333	土坑	Q-53	(楕円長方形)	(1.26)	0.23	0.14	N-12°-E	-	-
V	SK	334	土坑	R-53	(楕円長方形)	(2.40)	0.77	0.18	N-34°-E	-	-
V	SK	335	土坑	R-53	楕円長方形	5.17	0.77	0.2	N-3°-W	-	SK-335→SK-334
V	SK	336	土坑	R-53	楕円形	0.88	0.72	0.15	-	-	-
V	SK	337	土坑	R-53	(楕円長方形)	(2.27)	0.87	0.14	N-72°-W	-	-
V	SK	338	土坑	R-53	不整形	1.56	0.99	0.12	N-86°-W	-	SK-338→SK-337
V	SK	339	土坑	R-53	楕円形	0.68	0.59	0.12	-	-	-
V	SK	340	土坑	Q-53-R-53	楕円形	1.54	1.22	0.12	N-5°-E	-	-
V	SK	341	土坑	Q-53	楕円長方形	2.88	0.61	-	N-5°-E	-	-
V	SK	342	土坑	Q-53	不整楕円形	1.46	0.80	0.24	N-70°-E	-	-
V	SK	343	土坑	Q-53	不整形	0.85	0.60	-	N-40°-E	-	-
V	SK	345	土坑	Q-53	円形	0.71	0.70	0.31	-	土師小皿2点 骨2点	陶66
V	SK	347	土坑	P-53	楕円長方形	(1.21)	(0.87)	0.17	-	-	一部調査区外 全体 陶P53
V	SK	348	土坑	P-Q-53-54	長楕円形	3.26	0.77	0.16	N-90°	-	SK-308→SK-348
V	SD	349	溝	Q-R-55-56	-	25.76	0.89	0.35	N-86°-W	-	-
V	SK	350	土坑	S-58	長方形	4.86	0.81	0.16	N-67°-W	磁器1点	-
V	SK	351	土坑	S-58	長方形	2.55	1.00	0.17	N-65°-W	-	-
V	SK	352	土坑	R-58S-58	長楕円形	3.47	0.64	0.09	N-83°-W	磁器1点	-
V	SK	353a	土坑	R-58R-59	(長方形)	(1.50)	(0.98)	0.3	-	-	SK-353→SK-358
V	SK	353b	土坑	R-58	(長方形)	(1.10)	(0.80)	0.3	-	-	SK-353→SK-359
V	SK	354	土坑	Q-56	(長方形)	(3.72)	(0.82)	(0.31)	(N-13°-E)	-	SK-354→SD-349 一部調査区外
V	SK	356	土坑	R-58R-59	(不整形長方形)	0.82	(0.47)	0.22	-	-	SK-356→SK-357
V	SK	357a	土坑	R-58R-59	(不整形長方形)	1.52	(1.15)	(0.31)	-	-	SK-357→SK-353
V	SK	357b	土坑	R-58R-59	-	-	-	-	-	-	-
V	SK	358	土坑	R-58R-59	(不整形)	(1.92)	1.7	0.28	-	-	-
V	SK	359	土坑	R-60	円形	1.24	1.10	-	-	現代のゴミ捨て場	-
V	SD	360	溝	R-61S-61S- 62T-62T-62	-	(34.27)	1.2	0.38	-	-	-
V	SD	361	溝	R-60R-61	-	(2.62)	0.62	0.34	N-66°-W	-	-
V	SD	362	溝	R-61-62 S-62-63	-	(20.00)	2.18	0.29	N-20°-E	磁器1点	-
V	SK	363	土坑	R-61	不整楕円形	1.28	0.74	-	N-67°-E	-	-
V	SK	364	土坑	R-61S-61	ダブりあり	1.17	1.14	0.40	-	陶器5点 磁器12点 内山土 器1点 土師小皿1点 磁石 1点 骨鏡1点 土製品17点 彫り5点 ガラス製品1点 鏡 土鏡2点 骨2点	陶122、124、127、 217、248

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
V	SK	365	土坑	S-61	円形	1.18	1.12	0.48	-	陶器 10点 磁器 6点 炭 1点 石目 1点 土製品 (土人形) 2点	図 115 ~ 118、120、123、126、131、141、154、161、162、179、253、272
V	SK	366	土坑	S-61	円形	1.68	1.64	0.38	-	陶器 2点 磁器 6点 内耳土器 2点 炭石 1点 古銭 1点 鉄製品 3点 銅釘 3点	図 114、121、132、161、159、197、198、224、252
V	SK	367	土坑	S-61	円形	1.28	1.24	0.18	-	陶器 3点 磁器 38点 土師小皿 4点 鉄製品 11点 炭化物 1点	図 67、152、199 ~ 206、219、220、225 ~ 230
V	SK	368	土坑	S-61	円形	1.46	1.22	0.18	-	-	-
V	SK	369	土坑	T-61	楕円形	1.31	1.00	0.08	N-30° 東	陶器 1点	図 129
V	SK	370	土坑	T-61	円形	1.20	1.10	0.37	-	磁器 2点	図 143
V	SK	371	土坑	S-65	楕円長方形	1.12	0.60	0.04	N-30° 東	-	-
V	SK	372	土坑	T-61	不整形	0.80	0.66	0.22	-	-	-
V	SK	373	土坑	T-61	(円形)	0.27	0.43	0.32	-	-	SK-373 → SK-374
V	SK	374	土坑	T-61	楕円形	0.50	0.48	0.39	-	-	-
V	SK	375	土坑	T-62	長方形	2.13	0.72	0.32	N-34° 東	-	-
V	SK	376	土坑	T-62	長方形	1.68	0.72	0.25	N-64° 西	-	-
V	SK	377	土坑	T-63	円形	1.44	0.33	0.39	-	陶器 5点 磁器 2点 土師小皿 5点 鉄製品 10点 銅製品 1点 漆石 1点	図 151、156、157、207 ~ 212、214、215、250
V	SK	378	土坑	T-63	楕円長方形	1.67	0.70	0.13	N-50° 西	-	-
V	SK	379	土坑	T-63	円形	1.00	0.96	0.16	-	-	-
V	SK	380	土坑	S-63 S-64	楕円長方形	3.44	1.25	0.3	N-28° 東	-	-
V	SK	381	土坑	T-65	楕円長方形	0.98	0.64	0.2	N-77° 東	-	SD-391 → SK-381
V	SK	382	土坑	S-64 T-64	不整形	1.50	1.10	0.11	-	-	-
V	SK	383	土坑	S-64 T-64	楕円長方形	2.53	0.60	0.19	N-33° 東	-	-
V	SK	384	土坑	T-64	楕円長方形	2.30	1.00	0.34	N-30° 東	-	-
V	SK	385	土坑	T-64	楕円形	0.68	0.56	0.09	-	-	-
V	SK	386	土坑	T-64	(楕円長方形)	1.16	0.80	0.16	N-37° 東	-	-
V	SK	387	土坑	T-64	楕円長方形	1.48	0.96	0.31	N-40° 東	-	SK-387 → SK-386
V	SK	388	土坑	S-64	(楕円長方形)	1.50	0.80	0.05	N-47° 西	-	-
V	SK	389	土坑	S-64	楕円形	1.37	0.76	0.32	N-74° 西	-	SK-389 → SD-390
V	SD	390	溝	S-64+G5 T-61-65	-	0.16	0.74	0.61	N-65° 東	-	-
V	SD	391a	溝	S-64 T-64+65	-	15.40	0.70	-	-	-	-
V	SK	391b	土坑	R-64	(円形)	1.48	0.26	1.33	-	-	-
V	SK	392	土坑	T-65 U-65	楕円形	2.08	1.00	0.24	N-60° 東	-	-
V	SK	393	土坑	T-65	不整形	5.36	2.73	-	N-40° 東	-	-
V	SK	394	土坑	T-65	(楕円長方形)	0.70	1.70	0.35	N-19° 東	-	-
V	SK	396	土坑	T-65	不整形	1.42	0.57	0.51	N-28° 東	-	-
V	SK	397	土坑	T-65 T-66	円形	1.04	1.04	-	-	-	-
V	SK	398	土坑	T-65	(楕円長方形)	0.85	0.70	0.17	N-32° 西	-	SD-390 → SK-398
V	SK	399	土坑	V-67	(楕円長方形)	0.86	0.96	0.23	N-10° 東	-	一部調査区外

第6表 1-4区 遺構観察表

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
1-4	SK	001	土坑	G-11	不整形	2.35	1.34	0.19	N-30° 東	-	-
1-4	SK	002	土坑	G-2 → G-10 G-2 調査区外)	円形	0.67	0.61	0.19	-	-	-
1-4	SK	003	土坑	F-10	楕円形	0.24	0.22	0.12	-	-	-
1-4	SK	004	土坑	F-10	円形	0.28	0.25	0.14	-	-	-
1-4	SK	005	土坑	F-10	円形	0.27	0.23	0.12	-	-	-
1-4	SK	006	土坑	F-10	円形	0.19	0.18	0.14	-	-	-
1-4	SK	007	土坑	F-10	円形	0.2	0.18	0.17	-	-	-
1-4	SK	008	土坑	F-10	不整形	0.36	0.3	0.12	N-55° 西	-	-
1-4	SK	009	土坑	F-10	円形	0.17	0.15	0.16	-	-	-
1-4	SK	010	土坑	F-10	楕円形	0.18	0.14	0.13	N-70° 西	-	-
1-4	SK	011	土坑	F-10	楕円形	0.43	0.34	0.14	-	-	-
1-4	SK	012	土坑	F-10	楕円形	0.53	0.40	0.13	N-81° 西	-	-
1-4	SK	013	土坑	F-10	不整形	0.2	0.15	0.13	N-15° 東	-	-
1-4	SK	014	土坑	F-10	(楕円形)	0.17	0.15	0.13	-	-	-
1-4	SK	015	土坑	F-10	不整形	0.14	0.14	0.1	-	-	-
1-4	SK	016	土坑	F-10	円形	0.17	0.14	0.23	-	-	-
1-4	SK	017	土坑	F-10	円形	0.16	0.14	0.12	-	-	-
1-4	SK	018	土坑	F-10	円形	0.17	0.16	0.05	-	-	-
1-4	SK	019	土坑	E-10	円形	0.2	0.18	0.15	-	-	-
1-4	SK	020	土坑	E-10	円形	0.25	0.22	0.25	-	-	-

第3章 調査の成果

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
1-4	SK	021	土坑	E-10	円形	0.16	0.15	0.06	-	-	-
1-4	SK	022	土坑	E-10	円形	0.15	0.14	0.09	-	-	-
1-4	SK	023	土坑	E-10	楕円形	0.24	0.19	0.08	-	-	-
1-4	SK	024	土坑	E-10	楕円形	0.24	0.22	0.1	-	-	-
1-4	SK	025	土坑	E-10	円形	0.22	0.2	0.21	-	-	-
1-4	SK	026	土坑	E-10	円形	0.23	0.2	0.21	-	-	-
1-4	SK	027	土坑	E-10	楕円形	0.2	0.16	0.2	-	-	-
1-4	SK	028	土坑	E-10	楕円形	0.23	0.2	0.21	-	-	-
1-4	SK	029	土坑	E-10	楕円形	0.25	0.22	0.06	-	-	-
1-4	SK	030	土坑	E-10	楕円形	0.24	0.19	0.23	-	-	-
1-4	SK	031	土坑	E-10	楕円形	0.19	0.15	0.1	-	-	-
1-4	SK	032	土坑	E-10	円形	0.22	0.18	0.12	-	-	-
1-4	SK	033	土坑	E-10	楕円形	0.21	0.17	0.14	-	-	-
1-4	SK	034	土坑	E-10	楕円形	0.26	0.21	0.07	-	-	-
1-4	SK	035	土坑	E-10	楕円形	0.17	0.14	0.12	-	-	-
1-4	SK	036	土坑	E-10	楕円形	0.15	0.13	0.12	-	-	-
1-4	SK	037	土坑	E-10	円形	0.15	0.13	0.09	-	-	-
1-4	SK	038	土坑	E-10	不整形	0.31	0.24	0.05	-	-	-
1-4	SK	039	土坑	D-10	楕円形	0.39	0.24	0.04	N70° E	-	-
1-4	SK	040	土坑	D-10E-10	楕円形	0.50	0.35	0.11	-	-	-
1-4	SK	041	土坑	D-10E-10	円形	0.2	0.19	0.09	-	-	-
1-4	SK	042	土坑	G-11	楕円形	0.3	0.21	0.1	N60° E	-	-
1-4	SK	043	土坑	H-11	楕円形	0.46	0.40	0.18	-	-	-
1-4	SK	044	土坑	H-11	楕円形	0.32	0.31	0.45	-	-	-
1-4	SK	045	土坑	H-11	楕円形	0.62	0.47	0.12	-	-	-
1-4	SK	046	土坑	G-11	楕円形	0.48	0.32	0.2	-	-	-
1-4	SK	047	土坑	G-11	円形	0.77	0.71	0.13	-	-	-
1-4	SK	048	土坑	G-11	不整形	0.2	0.16	0.08	-	-	-
1-4	SK	049	土坑	G-11	円形	0.23	0.2	0.08	-	-	-
1-4	SK	050	土坑	G-11	円形	0.21	0.2	0.2	-	-	-
1-4	SK	051	土坑	G-11	楕円形	0.81	0.43	0.14	N59° E	-	-
1-4	SK	052	土坑	G-11	楕円形	0.3	0.24	0.23	-	-	-
1-4	SK	053	土坑	G-11	円形	0.16	0.15	0.07	-	-	-
1-4	SK	054	土坑	G-11	楕円形	0.2	0.17	0.18	-	-	-
1-4	SK	055	土坑	G-11	楕円形	0.28	0.24	0.29	-	-	-
1-4	SK	056	土坑	G-11	楕円形	0.23	0.16	0.23	N40° E	-	-
1-4	SK	057	土坑	G-11	楕円形	0.44	0.32	0.24	-	-	-
1-4	SK	058	土坑	F-11	不整形	0.36	0.23	0.23	N20° E	-	-
1-4	SK	059	土坑	F-11	円形	0.36	0.33	0.21	-	-	-
1-4	SK	060	土坑	F-11	円形	0.27	0.26	0.19	-	-	-
1-4	SK	061	土坑	F-11	不整形	0.80	0.49	0.13	-	-	-
1-4	SK	062	土坑	F-11	円形	0.35	0.29	0.38	-	-	-
1-4	SK	063	土坑	F-11	楕円形	0.55	0.44	0.14	N35° E	-	-
1-4	SK	064	土坑	F-11	楕円形	0.55	0.53	0.2	-	-	-
1-4	SK	065	土坑	F-11	長楕円形	0.32	0.13	0.09	N25° W	-	-
1-4	SK	066	土坑	F-11	円形	0.2	0.17	0.27	-	-	-
1-4	SK	067	土坑	F-11	円形	0.22	0.2	0.22	-	-	-
1-4	SK	068	土坑	F-11	楕円形	0.2	0.01415	0.14	N60° W	-	-
1-4	SK	069	土坑	F-11	円形	0.19	0.18	0.2	-	-	-
1-4	SK	070	土坑	F-11	円形	0.22	0.19	0.19	-	-	-
1-4	SK	071	土坑	F-11	円形	0.22	0.21	0.18	-	-	-
1-4	SK	072	土坑	F-11	円形	0.21	0.19	0.32	-	-	-
1-4	SK	073	土坑	G-11	楕円形	0.28	0.23	0.15	-	-	-
1-4	SK	074	土坑	G-11	楕円形	0.22	0.21	0.13	-	-	-
1-4	SK	075	土坑	F-11G-11	楕円形	0.64	0.48	0.19	-	-	-
1-4	SK	076	土坑	F-11	楕円形	0.74	0.45	0.16	N67° W	-	-
1-4	SK	077	土坑	F-11	楕円形	0.38	0.31	0.06	-	-	-
1-4	SK	078	土坑	F-11	楕円形	0.47	0.40	0.06	-	-	-
1-4	SK	079	土坑	F-11	長楕円形	1.02	0.49	0.2	N35° E	-	-
1-4	SK	080	土坑	F-11	不整形	0.25	0.21	0.06	-	-	-
1-4	SK	081	土坑	F-11	方形	0.62	0.58	0.12	N2° E	-	-
1-4	SK	082	土坑	F-11	縦長長方形	0.74	0.42	0.19	N23° E	-	-
1-4	SK	083	土坑	F-11	円形	0.24	0.24	0.1	-	-	-
1-4	SK	084	土坑	F-11	楕円形	0.45	0.35	0.15	-	-	-
1-4	SK	085	土坑	F-11	楕円形	0.45	0.38	0.11	-	-	-
1-4	SK	086	土坑	F-11	楕円形	0.62	0.35	0.13	N60° E	-	-
1-4	SK	087	土坑	F-11	楕円形	0.76	0.47	0.14	N41° W	-	-

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	方位	出土遺物	備考
1-4	SK	088	土坑	F-11	橢円形	0.49	0.33	0.2	N-60° E	-	-
1-4	SK	089	土坑	E-11	橢円形	1.00	0.48	0.16	N-15° E	-	-
1-4	SK	090	土坑	E-11 E-12	橢円形	0.48	0.34	0.12	-	-	-
1-4	SK	091	土坑	E-11	橢円形	0.54	0.40	0.18	-	-	-
1-4	SK	092	土坑	E-11	橢円形	0.65	0.51	0.16	-	-	-
1-4	SK	093	土坑	E-11	橢円形	0.62	0.57	0.18	-	-	-
1-4	SK	094	土坑	E-11	円形	0.19	0.17	0.09	-	-	-
1-4	SK	095	土坑	E-11	不整形	0.21	0.17	0.2	-	-	-
1-4	SK	096	土坑	E-12	円形	0.14	0.13	0.17	-	-	-
1-4	SK	097	土坑	E-11	橢円形	0.3	0.21	0.2	-	-	-
1-4	SK	098	土坑	E-11	橢円形	0.53	0.36	0.15	-	-	-
1-4	SK	099	土坑	E-11	円形	0.18	0.18	0.23	-	-	-
1-4	SK	100	土坑	E-11	円形	0.19	0.17	0.16	-	-	-
1-4	SK	101	土坑	E-11	橢円形	0.32	0.24	0.11	-	-	-
1-4	SK	102	土坑	E-11	円形	0.41	0.35	0.14	-	-	-
1-4	SK	103	土坑	E-11	橢円形	0.73	0.59	0.14	-	-	-
1-4	SK	104	土坑	E-11	橢円形	0.19	0.13	0.13	-	-	-
1-4	SK	105	土坑	E-11	橢円形	0.64	0.35	0.09	N-10° E	-	-
1-4	SK	106	土坑	E-11	橢円形	0.48	0.32	0.12	-	-	-
1-4	SK	107	土坑	E-11	不整形	1.53	1.09	0.23	-	-	-
1-4	SK	108	土坑	E-11	橢円形	0.52	0.45	0.12	-	-	-
1-4	SK	109	土坑	E-11	円形	0.14	0.12	0.1	-	-	-
1-4	SK	110	土坑	E-11	円形	0.21	0.19	0.28	-	-	-
1-4	SK	111	土坑	E-11	橢円形	0.72	0.56	0.17	N-17° W	-	-
1-4	SK	112	土坑	E-11	橢円形	0.62	0.52	0.17	N-65° W	-	-
1-4	SK	113	土坑	D-11	橢円形	0.26	0.21	0.19	-	-	-
1-4	SK	114	土坑	D-11	橢円形	0.53	0.46	0.11	-	-	-
1-4	SK	115	土坑	D-11	円形	0.2	0.18	0.13	-	-	-
1-4	SK	116	土坑	H-12	橢円形	0.41	0.38	0.19	-	-	-
1-4	SK	117	土坑	H-12	橢円形	0.75	0.44	0.25	-	-	-
1-4	SK	118	土坑	H-12	橢円形	0.488	0.32	0.21	-	-	-
1-4	SK	119	土坑	H-12	不整形	0.84	0.47	0.26	-	-	-
1-4	SK	120	土坑	H-12	橢円形	0.62	0.48	0.14	-	-	-
1-4	SK	121	土坑	H-12	円形	0.26	0.24	0.18	-	-	-
1-4	SK	122	土坑	H-12	円形	0.2	0.19	0.26	-	-	-
1-4	SK	123	土坑	H-12	橢円形	0.50	0.37	0.12	-	-	-
1-4	SK	124	土坑	H-12	橢円形	0.22	0.16	0.05	-	-	-
1-4	SK	125	土坑	G-12	不整形	0.79	0.59	0.24	-	-	-
1-4	SK	126	土坑	G-12 H-12	橢円形	0.37	0.35	0.14	-	-	-
1-4	SK	127	土坑	G-12	橢円形	0.49	0.28	0.16	N-80° W	-	-
1-4	SK	128	土坑	G-12	竇丸長方形	2.40	0.72	0.14	N-87° E	陶器1点	-
1-4	SK	129	土坑	G-12	円形	0.2	0.2	0.27	-	-	-
1-4	SK	130	土坑	G-12	橢円形	0.42	0.36	0.18	-	-	-
1-4	SK	131	土坑	G-12	円形	0.17	0.15	0.15	-	-	-
1-4	SK	132	土坑	G-12	橢円形	0.56	0.44	0.29	-	-	-
1-4	SK	133	土坑	G-12	円形	0.67	0.59	0.1	-	-	-
1-4	SK	134	土坑	G-12	橢円形	0.59	0.38	0.07	N-55° W	-	-
1-4	SK	135	土坑	G-12	楕円形	0.90	0.48	0.15	N-0°	-	-
1-4	SK	136	土坑	G-12	橢円形	0.44	0.41	0.11	-	-	-
1-4	SK	137	土坑	G-12	円形	0.21	0.19	0.25	-	-	-
1-4	SK	138	土坑	G-12	円形	0.21	0.17	0.28	-	-	-
1-4	SK	139	土坑	G-12	円形	0.17	0.15	0.15	-	-	-
1-4	SK	140	土坑	G-12	円形	0.2	0.19	0.15	-	-	-
1-4	SK	141	土坑	G-12	橢円形	0.32	0.25	0.28	-	-	-
1-4	SK	142	土坑	G-12	橢円形	0.27	0.23	0.28	-	-	-
1-4	SK	143	土坑	G-12	不整形	1.15	0.60	0.14	N-55° W	-	-
1-4	SK	144	土坑	G-12	円形	0.43	0.35	0.08	-	-	-
1-4	SK	145	土坑	G-12	不整形	0.68	0.65	0.12	-	-	-
1-4	SK	146	土坑	G-12	橢円形	0.17	0.13	0.17	-	-	-
1-4	SK	147	土坑	G-12	不整形	0.27	0.18	0.12	-	-	-
1-4	SK	148	土坑	G-12	橢円形	0.32	0.24	0.09	-	-	-
1-4	SK	149	土坑	G-12	円形	0.49	0.47	0.06	-	-	-
1-4	SK	150	土坑	G-12	円形	0.26	0.25	0.07	-	-	縄文1点
1-4	SK	151	土坑	G-12	橢円形	0.56	0.32	0.15	N-45° W	-	-
1-4	SK	152	土坑	G-12	(橢円形)	(0.47)	0.28	0.09	-	-	-
1-4	SK	153	土坑	G-12	円形	0.2	0.17	0.13	-	-	-
1-4	SK	154	土坑	G-12	円形	0.2	0.18	0.08	-	-	-

第3章 調査の成果

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	出土遺物
1-4	SK	155	土坑	G-12	楕円形	0.4	0.35	0.15	-	-	-
1-4	SK	156	土坑	H-12	円形	0.62	0.60	0.36	-	-	-
1-4	SK	157	土坑	G-12	楕円形	0.3	0.22	0.29	-	-	-
1-4	SK	158	土坑	F-12	楕円形	0.3	0.21	0.34	-	-	-
1-4	SK	159	土坑	F-12	円形	0.21	0.21	0.32	-	-	-
1-4	SK	160	土坑	F-12	長方形	2.20	0.40	0.12	N 85° 東	-	-
1-4	SK	161	土坑	F-12	楕円形	0.54	0.42	0.24	-	-	-
1-4	SK	162	土坑	F-12	楕円形	0.56	0.44	0.19	-	-	-
1-4	SK	163	土坑	F-12	楕円形	0.77	0.59	0.15	-	-	-
1-4	SK	164	土坑	F-12	円形	0.21	0.2	0.29	-	-	-
1-4	SK	165	土坑	F-12	楕円形	0.61	(0.55)	0.13	-	-	-
1-4	SK	166	土坑	F-12	不整形	1.28	0.74	0.16	-	-	-
1-4	SK	167	土坑	F-12	円形	0.51	0.47	0.11	-	-	-
1-4	SK	168	土坑	F-12	円形	0.34	0.28	0.12	-	-	-
1-4	SK	169	土坑	F-12	楕円形	0.44	0.33	0.11	-	-	-
1-4	SK	170	土坑	F-12	楕円形	0.82	0.70	0.26	-	-	-
1-4	SK	171	土坑	F-12	不整形	0.60	0.47	0.13	-	-	-
1-4	SK	172	土坑	F-12	円形	0.15	0.14	0.08	-	-	-
1-4	SK	173	土坑	F-12	楕円形	0.35	0.28	0.13	-	-	-
1-4	SK	174	土坑	E-12	円形	0.19	0.17	0.12	-	-	-
1-4	SK	175	土坑	E-12	(円形)	0.62	(0.61)	0.23	-	-	-
1-4	SK	176	土坑	E-12	不整形	(1.29)	0.77	0.13	-	-	-
1-4	SK	177	土坑	E-12	円形	0.2	0.18	0.12	-	-	-
1-4	SK	178	土坑	E-12	円形	0.54	0.52	0.16	-	-	-
1-4	SK	179	土坑	E-12	円形	0.15	0.12	0.13	-	-	-
1-4	SK	180	土坑	E-12	円形	0.36	0.35	0.17	-	-	-
1-4	SK	181	土坑	E-12	円形	0.34	0.30	0.07	-	-	-
1-4	SK	182	土坑	E-12	楕円形	0.45	0.34	0.11	N 55° W	-	-
1-4	SK	183	土坑	E-12-E-13	円形	0.25	0.25	0.36	-	-	-
1-4	SK	184	土坑	E-12	円形	0.18	0.16	0.17	-	-	-
1-4	SK	185	土坑	E-12	楕円形	0.44	0.33	0.12	N 48° W	-	-
1-4	SK	186	土坑	E-12	不整形	0.27	0.25	0.07	-	-	-
1-4	SK	187	土坑	E-12	楕円形	0.255	0.22	0.17	-	-	-
1-4	SK	188	土坑	E-12	(円形)	0.22	(0.17)	0.52	-	-	-
1-4	SK	189	土坑	E-12	楕円形	0.28	0.19	0.17	-	-	-
1-4	SK	190	土坑	E-12	楕円形	0.28	0.24	0.2	-	-	-
1-4	SK	191	土坑	H-13	円形	0.35	0.3	0.25	-	-	-
1-4	SK	192	土坑	H-13	円形	0.18	0.16	0.19	-	-	-
1-4	SK	193	土坑	H-13	円形	0.16	0.14	0.12	-	-	-
1-4	SK	194	土坑	H-13	楕円形	0.35	0.21	0.34	N 32° 東	-	-
1-4	SK	195	土坑	H-13	不整形	1.04	0.85	0.13	-	-	-
1-4	SK	196	土坑	H-13	円形	0.27	0.22	0.32	-	-	-
1-4	SK	197	土坑	H-13	円形	0.26	0.24	0.47	-	-	-
1-4	SK	198	土坑	H-13	円形	0.26	0.19	0.17	-	-	-
1-4	SK	199	土坑	H-13	楕円形	0.41	0.35	0.09	-	-	-
1-4	SK	200	土坑	H-13	不整形	0.46	0.27	0.33	-	-	-
1-4	SK	201	土坑	H-13	不整形	0.38	0.34	0.23	-	-	-
1-4	SK	202	土坑	H-13	円形	0.11	0.09	0.19	-	-	-
1-4	SK	203	土坑	H-13	不整形	0.54	0.34	0.15	-	-	-
1-4	SK	204	土坑	G-13	楕円長方形	0.69	0.53	0.18	N 33° 東	-	-
1-4	SK	205	土坑	G-13	楕円形	0.26	0.2	0.2	-	-	-
1-4	SK	206	土坑	G-13	円形	0.25	0.2	0.2	-	-	-
1-4	SK	207	土坑	G-13	円形	0.28	0.22	0.19	-	-	-
1-4	SK	208	土坑	G-13	楕円形	0.45	0.4	0.11	-	-	-
1-4	SK	209	土坑	G-13	楕円形	0.27	0.22	0.17	-	-	-
1-4	SK	210	土坑	F-13	楕円形	0.47	0.4	0.19	-	-	-
1-4	SK	211	土坑	G-13	円形	0.41	0.34	0.12	-	-	-
1-4	SK	212	土坑	F-13	円形	0.18	0.17	0.14	-	-	-
1-4	SK	213	土坑	F-13	円形	0.16	0.16	0.07	-	-	-
1-4	SK	214	土坑	F-13	楕円形	0.31	0.21	0.08	-	-	-
1-4	SK	215	土坑	F-13	円形	0.21	0.19	0.09	-	-	-
1-4	SK	216	土坑	F-13	円形	0.3	0.27	0.16	-	-	-
1-4	SK	217	土坑	F-13	楕円形	0.90	0.59	0.2	N 60° W	-	-
1-4	SK	218	土坑	E-13F-13	不整形	1.73	0.80	0.15	N 67° W	-	-
1-4	SK	219	土坑	E-13	円形	0.27	0.24	0.23	-	-	-
1-4	SK	220	土坑	E-13	円形	0.28	0.26	0.16	-	-	-
1-4	SK	221	土坑	E-13	円形	0.21	0.18	0.22	-	-	-

第2節 確認された遺構と遺物

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
1-4	SK	222	土坑	E-13	不整形	0.37	0.21	0.29	N-60°-E	-	-
1-4	SK	223	土坑	E-13	円形	0.29	0.22	0.18	-	-	-
1-4	SK	224	土坑	D-14→E-14	(円形)	0.44	0.88	0.19	-	-	-
1-4	SK	225	土坑	D-14E-14 →D-14調査区 以外	楕円形	0.80	0.46	0.38	N-30°-E	-	-
1-4	SB	226	孤立柱建物跡	H-13J-13	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SB	227	孤立柱建物跡	G-11G-12, H-11H-12	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SB	228	孤立柱建物跡	H-11H-12	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SD	229	溝	H-18J-18, J-18	-	(19.30)	-	(0.23)	-	-	一部調査区外
1-4	SK	230	土坑	G-17G-18	楕円長方形	2.16	0.76	0.09	N-10°-E	-	-
1-4	SK	231	土坑	G-17	円形	1.09	1.07	0.11	-	-	-
1-4	SK	232	土坑	G-17G-18	楕円長方形	1.85	0.68	0.09	N-13°-E	-	-
1-4	SK	233	土坑	G-17	長方形	1.42	0.53	0.1	N-10°-E	-	-
1-4	SK	234	土坑	G-17	長方形	1.57	0.59	0.05	N-13°-E	-	-
1-4	SK	235	土坑	F-18	楕円長方形	2.42	0.70	0.07	N-10°-E	-	-
1-4	SK	236	土坑	E-18	長楕円形	2.64	0.51	0.04	N-8°-E	-	-
1-4	SK	237	土坑	G-16	楕円方形	1.14	1.01	0.22	N-4°-E	-	調査2点
1-4	SI	238	住居跡	D-18	(方形)	(7.44)	(1.18)	(0.24)	(N-4°-W)	礎石2点以内・土器5点・土師 小皿2点	層 295、320 視 135、163
1-4	SK	239	土坑	G-16	長楕円形	1.90	0.73	0.07	N-10°-E	-	-
1-4	SK	240	土坑	G-16G-17	不整形長方形	2.37	1.02	0.11	N-8°-E	-	-
1-4	SE	241	土坑	L-17	不整形長方形	(4.94)	(1.09)	0.24	-	五輪塔1点	層 281
1-4	SK	242	土坑	L-17	不整形長方形	(7.12)	1.04	0.1	-	-	-
1-4	SK	243	土坑	L-17	長楕円形	1.78	0.82	0.08	N-28°-E	-	-
1-4	SK	244	土坑	K-18	(長方形)	(1.92)	0.72	0.23	N-30°-E	-	-
1-4	SK	245	土坑	K-18	楕円長方形	2.00	0.84	0.3	N-30°-E	-	-
1-4	SK	246	土坑	K-17	楕円長方形	2.37	0.84	0.21	N-33°-E	-	-
1-4	SK	247	土坑	K-17	楕円長方形	3.08	0.80	0.11	N-24°-E	-	-
1-4	SK	248	土坑	J-17	楕円長方形	2.39	0.78	0.07	N-40°-E	-	-
1-4	SK	249	土坑	G-16	楕円形	0.62	0.42	0.48	N-24°-E	-	-
1-4	SK	250	土坑	G-15	楕円形	0.70	0.34	0.15	N-47°-E	-	-
1-4	SK	251	土坑	G-15	楕円形	0.73	0.50	0.25	N-13°-W	-	-
1-4	SK	252	土坑	G-15	不整形	1.19	0.99	0.25	-	-	-
1-4	SK	253	土坑	K-17	(楕円長方形)	(1.67)	(0.89)	0.28	N-29°-E	-	-
1-4	SK	254	土坑	I-15	(楕円形)	(1.22)	(0.34)	0.42	-	-	-
1-4	SK	255	土坑	F-17	(方形)	(0.68)	(0.42)	0.2	(N-17°-W)	-	-
1-4	SK	256	土坑	G-18	不整形円形	0.66	0.61	0.31	-	-	-
1-4	SK	257	土坑	G-18	楕円形	0.54	0.47	0.24	-	-	-
1-4	SK	258	土坑	G-16	不整形円形	0.67	0.60	0.19	-	-	-
1-4	SK	259	土坑	G-16	不整形	0.44	0.4	0.13	-	-	-
1-4	SK	260	土坑	G-16	楕円形	0.49	0.42	0.2	-	-	-
1-4	SK	261	土坑	G-16H-16	円形	0.47	0.44	0.13	-	-	-
1-4	SK	262	土坑	G-15	楕円形	1.17	0.77	0.24	N-32°-W	-	-
1-4	SB	263	孤立柱建物跡	G-15	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SK	264	土坑	G-15	円形	0.19	0.18	0.22	-	-	-
1-4	SK	265	土坑	G-15	円形	0.15	0.14	0.16	-	-	-
1-4	SK	266	土坑	H-15	円形	0.19	0.19	0.28	-	-	-
1-4	SA	267	欄干	H-16J-16	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SK	268	土坑	H-16	楕円形	0.69	0.54	0.18	-	-	-
1-4	SB	269	孤立柱建物跡	H-16	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SB	270	孤立柱建物跡	I-16J-17	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SB	271	孤立柱建物跡	I-17	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SK	272	土坑	I-18	楕円形	0.4	0.27	0.25	N-25°-E	-	-
1-4	SK	273	土坑	H-15	楕円形	0.2	0.15	0.18	-	-	-
1-4	SK	274	土坑	H-15	楕円形	0.18	0.13	0.25	-	-	-
1-4	SK	275	土坑	H-15	不整形	0.17	0.16	0.29	-	-	-
1-4	SB	276	孤立柱建物跡	H-17	-	-	-	-	-	-	-
1-4	SK	277	土坑	H-15	円形	0.18	0.17	0.22	-	-	-
1-4	SK	278	土坑	G-18H-18	長楕円形	1.48	0.48	0.27	N-60°-E	-	-

第7表 I-5区 遺構観察表

調査区	種別	遺構No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
I-5	SK	001	土坑	D-3	楕円長方形	1.42	0.60	0.15	N11°-W	-	-
I-5	SK	002	土坑	D-3	楕円長方形	(1.49)	0.54	0.11	N56°-W	-	-
I-5	SK	003	土坑	D-3	楕円長方形	1.38	0.52	0.06	N29°-W	-	-
I-5	SK	004	土坑	D-4E-4	不整形長方形	4.34	0.59	0.12	N27°-W	-	-
I-5	SK	006	土坑	D-4D-5	長方形	1.16	0.46	0.2	N29°-W	-	-
I-5	SK	007	土坑	D-5	楕円長方形	2.69	0.63	0.38	N74°-E	鉄製品1点	周183
I-5	SK	008	土坑	D-5	楕円長方形	4.63	0.59	0.27	N37°-W	-	-
I-5	SK	009	土坑	E-5	楕円形	0.67	0.46	0.14	N49°-E	-	-
I-5	SK	010	土坑	D-2	楕円形	0.4	0.32	0.19	-	-	-
I-5	SK	011	土坑	D-2	楕円形	0.3	0.25	0.21	-	-	-
I-5	SK	012	土坑	D-2	円形	0.23	0.21	0.34	-	-	-
I-5	SK	013	土坑	D-2	円形	0.32	0.27	0.4	-	-	-
I-5	SK	014	土坑	D-2	円形	0.23	0.18	0.27	-	-	-
I-5	SK	015	土坑	D-2	楕円形	0.25	0.18	0.19	-	-	-
I-5	SK	016	土坑	D-2	円形	0.25	0.24	0.23	-	-	-
I-5	SK	017	土坑	D-2	楕円形	0.42	0.32	0.39	-	-	-
I-5	SK	018	土坑	D-2	楕円形	0.3	0.25	0.22	-	-	-
I-5	SK	019	土坑	D-2	円形	0.21	0.21	0.19	-	-	-
I-5	SK	020	土坑	D-2	円形	0.52	0.48	0.2	-	-	-
I-5	SK	021	土坑	D-3	円形	0.17	0.17	0.19	-	-	-
I-5	SK	022	土坑	D-3	円形	0.15	0.15	0.14	-	-	-
I-5	SK	023	土坑	D-3	楕円形	0.44	0.34	0.09	N13°-W	-	-
I-5	SK	024	土坑	D-3	円形	0.42	0.36	0.07	-	-	-
I-5	SK	025	土坑	D-3	不整形	0.2	0.18	0.2	-	-	-
I-5	SK	026	土坑	D-3	円形	0.40	0.39	0.1	-	-	-
I-5	SK	027	土坑	E-3	不整形	0.47	0.45	0.1	-	-	-
I-5	SK	028	土坑	E-3	円形	0.41	0.34	0.08	-	-	-
I-5	SK	029	土坑	E-3	円形	0.39	0.32	0.14	-	-	-
I-5	SK	030	土坑	D-3E-3	円形	0.23	0.18	0.09	-	-	-
I-5	SK	031	土坑	E-3	円形	0.32	0.31	0.08	-	-	-
I-5	SK	032	土坑	D-3	円形	0.26	0.24	0.14	-	-	-
I-5	SK	033	土坑	D-3	不整形	1.13	0.72	0.24	-	-	-
I-5	SK	034	土坑	D-3	円形	0.21	0.19	0.3	-	-	-
I-5	SK	035	土坑	D-3	円形	0.32	0.25	0.1	N10°-E	-	-
I-5	SK	036	土坑	D-3	楕円形	0.52	0.41	0.08	-	-	-
I-5	SK	037	土坑	D-3	楕円形	0.71	0.45	0.13	N6°-E	-	-
I-5	SK	038	土坑	D-3	楕円形	0.85	0.64	0.1	-	-	-
I-5	SK	039	土坑	D-3	円形	0.21	0.19	0.08	-	-	-
I-5	SK	040	土坑	D-3	円形	0.3	0.28	0.08	-	-	-
I-5	SK	041	土坑	D-3	不整形	1.40	1.34	0.93	-	-	-
I-5	SK	042	土坑	D-3	円形	0.24	0.21	0.14	-	-	-
I-5	SK	043	土坑	E-3	円形	0.19	0.17	0.29	-	-	-
I-5	SK	044	土坑	E-3	円形	0.63	0.61	0.19	-	-	-
I-5	SK	045	土坑	E-3	円形	0.48	0.48	0.15	-	-	-
I-5	SK	046	土坑	E-3E-4	円形	0.95	0.95	0.29	-	-	-
I-5	SK	047	土坑	E-3	楕円形	0.81	0.53	0.14	-	-	-
I-5	SK	048	土坑	D-3	楕円形	0.5	0.42	0.15	-	-	-
I-5	SK	049	土坑	D-4E-4	不整形円形	0.38	0.34	0.15	-	-	-
I-5	SK	050	土坑	D-4	楕円形	0.94	0.75	0.32	N24°-E	-	-
I-5	SK	051	土坑	C-4D-4	楕円形	0.44	0.32	0.13	N13°-W	-	-
I-5	SK	052	土坑	D-4	不整形円形	0.43	0.29	0.16	N30°-E	-	-
I-5	SK	053	土坑	D-4	楕円形	0.42	0.31	0.12	N10°-E	-	-
I-5	SK	054	土坑	E-4	楕円形	0.66	0.48	0.11	-	-	-
I-5	SK	055	土坑	E-4	楕円形	0.5	0.3	0.1	N70°-W	-	-
I-5	SK	056	土坑	E-4	不整形	0.31	0.24	0.28	-	-	-
I-5	SK	057	土坑	E-5	長方形	0.56	0.40	0.21	N27°-W	-	-
I-5	SK	058	土坑	E-4E-5	楕円形	0.43	0.28	0.14	N86°-W	-	-
I-5	SK	059	土坑	E-4	楕円形	0.25	0.19	0.07	-	-	-
I-5	SK	060	土坑	D-4	不整形	0.49	0.42	0.12	-	-	-
I-5	SK	061	土坑	D-4	円形	0.34	0.28	0.07	-	-	-
I-5	SK	062	土坑	D-4	円形	0.48	0.43	0.13	-	-	-
I-5	SK	063	土坑	D-5	楕円三角形	0.97	0.75	0.24	-	-	-
I-5	SK	064	土坑	D-5	楕円形	0.54	0.34	0.16	N70°-W	-	-
I-5	SK	065	土坑	E-5	円形	0.38	0.32	0.1	-	-	-

調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	方位	出土遺物	備考
1-5	SK	066	土坑	E-5	円形	0.50	0.45	0.12	-	-	-
1-5	SK	067	土坑	E-5	不整形	0.38	0.27	0.09	-	-	-
1-5	SK	068	土坑	E-5	楕円形	0.38	0.3	0.17	-	-	-
1-5	SK	069	土坑	E-5	楕円形	0.46	0.14	0.34	-	-	-
1-5	SK	070	土坑	E-5	不整形	1.08	0.38	0.22	N-60°-E	-	-
1-5	SK	071	土坑	E-5	楕円形	0.49	0.44	0.12	-	-	-
1-5	SK	072	土坑	E-5	円形	0.33	0.3	0.13	-	-	-
1-5	SK	073	土坑	E-5	円形	0.29	0.26	0.13	-	-	-
1-5	SK	074	土坑	E-5	不整形	0.28	0.25	0.11	-	-	-
1-5	SK	075	土坑	E-5	楕円形	0.51	0.34	0.12	N-25°-W	-	-
1-5	SK	076	土坑	E-5	不整形	1.15	0.51	0.17	N-62°-W	-	-
1-5	SK	077	土坑	E-5	円形	0.25	0.2	0.07	-	-	-
1-5	SK	078	土坑	E-5	楕円形	0.43	0.39	0.07	-	-	-
1-5	SK	079	土坑	E-5F-5	不整形	1.73	1.30	0.24	(N71°-W)	-	-
1-5	SK	080	土坑	D-5	(楕円形)	(1.94)	1.30	0.18	N-55°-E	縄文1点	図324
1-5	SK	081	土坑	E-6	円形	0.71	0.67	0.25	-	-	-
1-5	SK	082	土坑	E-6	円形	0.3	0.28	0.14	-	-	-
1-5	SK	083	土坑	E-6E-7	楕円形	0.89	0.73	0.25	N-29°-W	-	-
1-5	SK	084	土坑	E-6	円形	0.22	0.2	0.11	-	-	-
1-5	SK	085	土坑	E-6E-7	不整形長方形	0.93	0.40	0.21	N-31°-W	-	-
1-5	SK	086	土坑	D-6E-6	楕円形	0.67	0.49	0.15	-	-	-
1-5	SK	087	土坑	D-6	楕円長方形	2.06	0.84	0.34	N-28°-W	-	-
1-5	SK	088	土坑	D-6	楕円形	0.44	0.34	0.23	-	-	-
1-5	SK	089	土坑	D-6	(方形)	(1.68)	(0.54)	0.15	(N-0°)	-	一部調査区外
1-5	SK	090	土坑	D-7	楕円形	0.49	0.38	0.14	-	-	-
1-5	SK	091	土坑	D-7	楕円形	0.82	0.45	0.12	N-75°-E	-	-
1-5	SK	092	土坑	D-7	円形	0.47	0.83	0.15	-	-	-
1-5	SK	093	土坑	D-7	楕円形	0.51	0.39	0.15	-	-	-
1-5	SK	094	土坑	D-6D-7	円形	0.46	0.38	0.16	-	-	-
1-5	SK	095	土坑	D-7	円形	0.38	0.31	0.12	-	-	-
1-5	SK	096	土坑	D-7	楕円形	0.73	0.56	0.2	-	-	-
1-5	SK	097	土坑	D-7	円形	0.53	0.47	0.13	-	-	-
1-5	SK	098	土坑	D-7	円形	0.49	0.45	0.11	-	-	-
1-5	SK	099	土坑	D-7	楕円形	0.32	0.25	0.07	N-22°-E	-	-
1-5	SK	100	土坑	D-7	楕円形	0.84	0.69	0.24	N-13°-W	-	-
1-5	SK	101	土坑	D-7	不整形	0.44	0.4	0.16	-	-	-
1-5	SK	102	土坑	D-7	楕円形	0.53	0.39	0.18	-	-	-
1-5	SK	103	土坑	D-7	楕円形	0.4	0.32	0.14	-	-	-
1-5	SK	104	土坑	D-7	円形	0.45	0.43	0.08	-	-	-
1-5	SK	105	土坑	D-7E-7	楕円長方形	2.12	1.12	0.22	N-82°-E	-	-
1-5	SK	106	土坑	E-7	楕円形	0.60	0.44	0.14	-	-	-
1-5	SK	107	土坑	E-7	楕円形	1.17	0.90	0.24	-	-	-
1-5	SK	108	土坑	E-7	楕円形	0.95	0.73	0.3	N-44°-E	-	-
1-5	SK	109	土坑	E-7	円形	0.41	0.38	0.17	-	-	-
1-5	SK	110	土坑	E-7	楕円形	0.56	0.46	0.17	-	-	-
1-5	SK	111	土坑	E-7	円形	0.19	0.15	0.15	-	-	-
1-5	SK	112	土坑	E-7	楕円形	0.4	0.34	0.11	-	-	-
1-5	SK	113	土坑	F-7	楕円形	0.34	0.26	0.13	-	-	-
1-5	SK	114	土坑	F-7	楕円形	0.53	0.40	0.14	-	-	-
1-5	SK	115	土坑	F-7	円形	0.26	0.23	0.08	-	-	-
1-5	SK	116	土坑	F-8	円形	0.32	0.29	0.07	-	-	-
1-5	SK	117	土坑	F-8	楕円形	0.68	0.47	0.18	N-77°-E	-	-
1-5	SK	118	土坑	F-8	楕円形	0.59	0.50	0.13	N-18°-W	-	-
1-5	SK	119	土坑	F-8	円形	0.18	0.17	0.05	-	-	-
1-5	SK	120	土坑	F-8	楕円形	0.49	0.32	0.11	N-32°-W	-	-
1-5	SK	121	土坑	F-8	円形	0.22	0.21	0.2	-	-	-
1-5	SK	122	土坑	F-8	円形	0.32	0.3	0.09	-	-	-
1-5	SK	123	土坑	F-8	楕円形	0.21	0.17	0.21	-	-	-
1-5	SK	124	土坑	F-8	楕円形	0.23	0.18	0.32	-	-	-
1-5	SK	125	土坑	F-8	円形	0.28	0.26	0.12	-	-	-
1-5	SK	126	土坑	F-8	楕円形	0.24	0.21	0.26	-	-	-
1-5	SK	127	土坑	F-8	円形	0.19	0.18	0.3	-	-	-
1-5	SK	128	土坑	F-8	円形	0.27	0.23	0.15	-	-	-
1-5	SK	129	土坑	F-8	円形	0.46	0.41	0.11	-	-	-
1-5	SK	130	土坑	F-8	不整形	0.98	0.76	0.13	-	内証土器2点	-
1-5	SK	131	土坑	F-8	円形	0.31	0.3	0.18	-	-	-

第3章 調査の成果

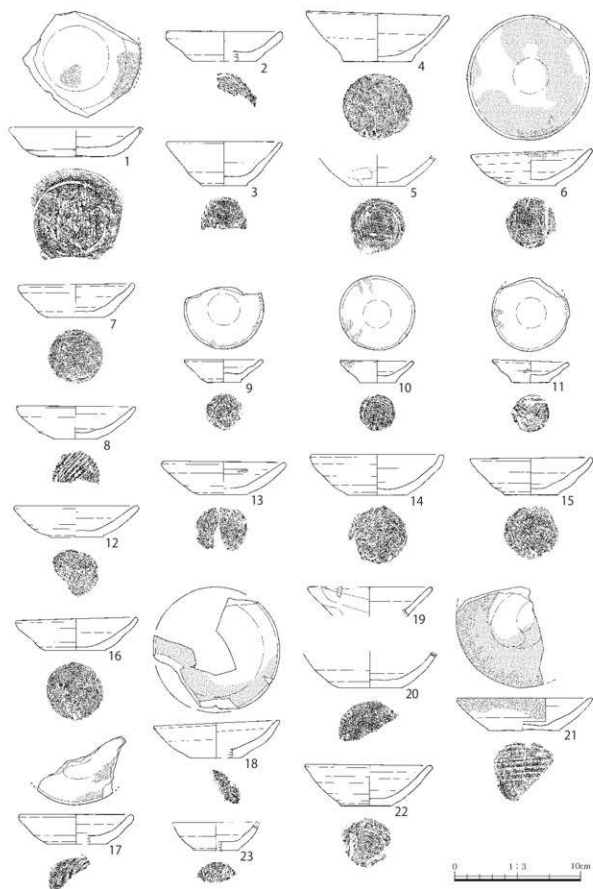
調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
1-5	SK	132	土坑	F-8	円形	0.52	0.52	0.16	-	縄文土器2点	-
1-5	SK	133	土坑	F-8	円形	0.44	0.42	0.18	-	-	-
1-5	SK	134	土坑	F-8	円形	0.44	0.36	0.17	-	-	-
1-5	SK	135	土坑	F-8	円形	0.33	0.28	0.14	-	-	-
1-5	SK	136	土坑	F-8	楕円形	0.55	0.43	0.14	-	-	-
1-5	SK	137	土坑	F-8	円形	0.3	0.28	0.08	-	-	-
1-5	SK	138	土坑	F-8	楕円形	0.31	0.22	0.21	N95°-W	-	-
1-5	SK	139	土坑	F-8	円形	0.2	0.16	0.19	-	-	-
1-5	SK	140	土坑	F-8	楕円形	0.52	0.41	0.3	-	-	-
1-5	SK	141	土坑	E-F-8	楕円形	0.54	0.54	0.21	-	-	-
1-5	SK	142	土坑	F-8	楕丸三角形	0.68	0.53	0.23	-	-	-
1-5	SK	143	土坑	F-8	楕円形	0.43	0.36	0.15	-	-	-
1-5	SK	144	土坑	E-8	楕円形	0.61	0.39	0.11	-	-	-
1-5	SK	145	土坑	E-8	楕円形	0.70	0.59	0.28	-	-	-
1-5	SK	146	土坑	E-F-E-8	不整形	0.65	0.58	0.25	-	-	-
1-5	SK	147	土坑	E-8	楕円形	0.77	0.58	0.22	-	-	-
1-5	SK	148	土坑	E-8	楕円形	0.68	0.5	0.16	-	-	-
1-5	SK	149	土坑	E-F-E-8	円形	0.59	0.54	0.17	-	-	-
1-5	SK	150	土坑	E-F-E-8	円形	0.33	0.3	0.2	-	-	-
1-5	SK	151	土坑	E-8	楕丸三角形	1.41	1.04	0.15	-	-	-
1-5	SK	152	土坑	E-8	楕円形	0.83	0.62	0.2	N-0°	-	-
1-5	SK	153	土坑	E-8	不整形	0.95	0.70	0.23	-	-	-
1-5	SK	154	土坑	E-8	不整形	0.86	0.58	0.25	-	-	-
1-5	SK	155	土坑	E-8	不整形楕円形	0.409	0.35	0.11	N-40°-W	-	-
1-5	SK	156	土坑	E-8	不整形楕円形	0.621	0.35	0.08	N-15°-E	-	-
1-5	SK	157	土坑	E-8	円形	0.41	0.38	0.17	-	-	-
1-5	SK	158	土坑	E-8	楕円形	0.87	0.61	0.2	N-3°-W	-	-
1-5	SK	159	土坑	D-7-D-8-E-8	楕丸長方形	1.44	1.01	0.19	N-40°-E	-	-
1-5	SK	160	土坑	D-8	楕円形	0.70	0.53	0.15	-	-	-
1-5	SK	161	土坑	D-8	楕円形	0.43	0.28	0.09	N-8°-E	-	-
1-5	SK	162	土坑	D-8	円形	0.21	0.18	0.22	-	-	-
1-5	SK	163	土坑	D-8	円形	0.21	0.2	0.21	-	-	-
1-5	SK	164	土坑	D-8	円形	0.2	0.17	0.16	-	-	-
1-5	SK	165	土坑	D-8	円形	0.16	0.14	0.12	-	-	-
1-5	SK	166	土坑	D-8	楕円形	0.32	0.27	0.09	-	-	-
1-5	SK	167	土坑	D-8	円形	0.18	0.16	0.1	-	-	-
1-5	SK	168	土坑	D-8	円形	0.19	0.18	0.17	-	-	-
1-5	SK	169	土坑	D-9	円形	0.23	0.19	0.27	-	-	-
1-5	SK	170	土坑	D-9	円形	0.2	0.18	0.09	-	-	-
1-5	SK	171	土坑	D-9	(楕円形)	(0.35)	(0.38)	0.14	N-90°	-	-
1-5	SK	172	土坑	D-9	(楕円形)	(0.42)	(0.45)	0.16	N-56°-W	-	-
1-5	SK	173	土坑	D-9	楕円形	0.70	0.51	0.24	N-39°-W	-	-
1-5	SK	174	土坑	E-9	楕円形	0.76	0.53	0.15	N-42°-E	-	-
1-5	SK	175	土坑	E-9	(楕丸長方形)	(0.88)	0.79	0.15	(N-22°-W)	縄文土器1点	-
1-5	SK	176	土坑	E-9	円形	(0.35)	(0.38)	0.12	-	-	-
1-5	SK	177	土坑	E-9	不整形	(0.4)	(0.44)	0.19	-	-	-
1-5	SK	178	土坑	E-9	楕円形	0.7	0.52	0.14	-	-	-
1-5	SK	179	土坑	F-9	楕円形	0.68	0.48	0.11	N-5°-E	-	-

第8表 1-6区 遺構観察表

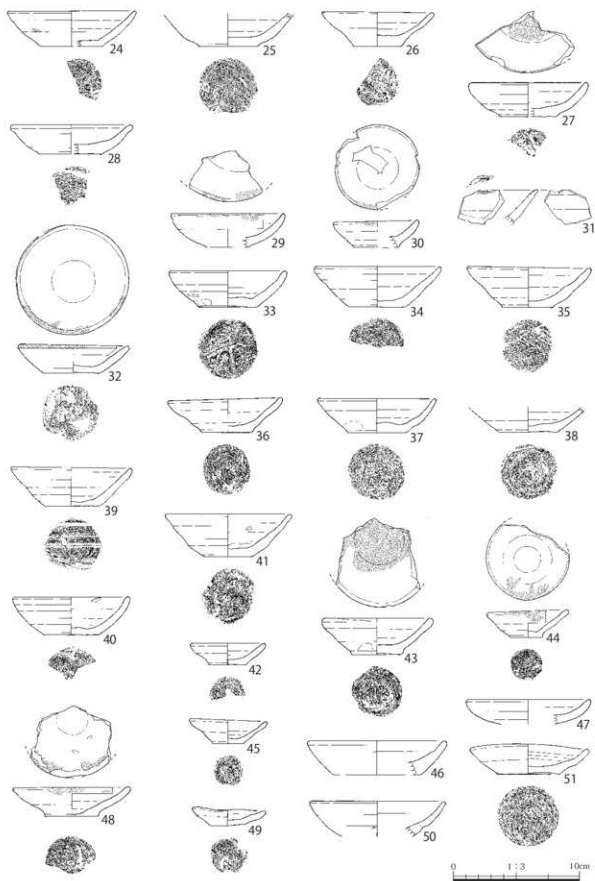
調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
1-6	SK	001	土坑	A-2-B-2	長方形	1.84	0.58	0.18	N-65°-E	-	-
1-6	SK	002	土坑	B-2	楕丸長方形	2.52	0.75	0.53	N-2°-W	-	-
1-6	SK	003	土坑	A-1	円形	0.24	0.23	0.08	-	-	-
1-6	SK	004	土坑	A-1	円形	0.21	0.2	0.13	-	-	-
1-6	SK	005	土坑	A-1	円形	0.24	0.21	0.29	-	-	-
1-6	SK	006	土坑	A-1	円形	0.2	0.19	0.18	-	-	-
1-6	SK	007	土坑	A-1	円形	0.18	0.17	0.1	-	-	-
1-6	SK	008	土坑	A-1	円形	0.2	0.15	0.43	-	-	-
1-6	SK	009	土坑	A-1	円形	0.14	0.13	0.15	-	-	-
1-6	SK	010	土坑	A-1	円形	0.16	0.14	0.19	-	-	-
1-6	SK	011	土坑	A-1	円形	0.25	0.23	0.1	-	-	-
1-6	SK	012	土坑	A-2	円形	0.17	0.15	0.18	-	-	-

第2節 確認された遺構と遺物

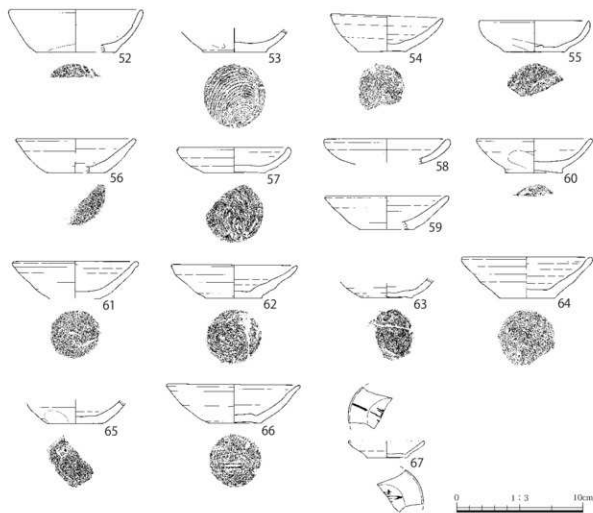
調査区	種別	遺構 No.	種類	位置	遺構形状	長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物	備考
1-6	SK	013	土坑	A-2	楕円形	0.47	0.36	0.09	-	-	-
1-6	SK	014	土坑	A-2	不整形円形	0.87	0.50	0.19	-	-	-
1-6	SK	015	土坑	A-2	円形	0.19	0.15	0.18	-	-	-
1-6	SK	016	土坑	A-2	円形	0.15	0.14	0.13	-	-	-
1-6	SK	017	土坑	A-2	円形	0.19	0.16	0.15	-	-	-
1-6	SK	018	土坑	A-2	円形	0.14	0.12	0.13	-	-	-
1-6	SK	019	土坑	A-2	楕円形	0.26	0.21	0.14	-	-	-
1-6	SK	020	土坑	A-2	円形	0.19	0.18	0.22	-	-	-
1-6	SK	021	土坑	B-2	楕円形	0.27	0.24	0.13	-	-	-
1-6	SK	022	土坑	B-1	楕円形	0.32	0.26	0.22	-	-	-
1-6	SK	023	土坑	B-1	楕円形	0.21	0.19	0.08	-	-	-
1-6	SK	024	土坑	B-2	円形	0.21	0.21	0.09	-	-	-
1-6	SK	025	土坑	B-2	円形	0.17	0.16	0.07	-	-	-
1-6	SK	026	土坑	B-2	円形	0.18	0.16	0.17	-	-	-
1-6	SK	027	土坑	B-2	円形	0.18	0.17	0.27	-	-	-
1-6	SK	028	土坑	B-2	楕円形	0.24	0.17	0.33	-	-	-
1-6	SK	029	土坑	B-2	楕円形	0.50	0.42	0.15	-	-	-
1-6	SK	030	土坑	B-2	不整形	1.14	1.04	0.17	-	-	-
1-6	SK	031	土坑	A-2	楕円形	0.58	0.52	0.15	-	-	-
1-6	SK	032	土坑	A-2	楕円形	0.39	0.32	0.12	-	-	-
1-6	SK	033	土坑	A-2	円形	0.23	0.21	0.09	-	-	-
1-6	SK	034	土坑	A-2	長楕円形	1.22	0.51	0.1	-	-	-
1-6	SK	035	土坑	A-2	円形	0.43	0.38	0.2	-	-	-
1-6	SK	036	土坑	A-2	楕円形	1.12	0.81	0.24	-	-	-
1-6	SK	037	土坑	A-2	楕円形	0.23	0.16	0.29	-	-	-
1-6	SK	038	土坑	A-2	楕円形	0.48	0.40	0.15	-	-	-
1-6	SK	039	土坑	B-2-B-3	楕円形	0.70	0.64	0.29	-	-	-
1-6	SK	040	土坑	B-2	円形	0.22	0.19	0.14	-	-	-
1-6	SK	041	土坑	B-2	楕円形	0.52	0.41	0.09	-	-	-
1-6	SK	042	土坑	A-2	楕円形	0.24	0.2	0.11	-	-	-
1-6	SK	043	土坑	A-2	楕円形	2.2	0.14	0.36	N-10° E	-	-
1-6	SK	044	土坑	A-2	楕円形	0.24	0.18	0.35	-	-	-
1-6	SK	045	土坑	A-2	楕円形	0.2	0.17	0.21	-	-	-
1-6	SK	046	土坑	A-1A-2	円形	0.29	0.23	0.12	-	-	-
1-6	SK	047	土坑	A-1A-2	円形	0.23	0.2	0.45	-	-	-
1-6	SK	048	土坑	A-1	円形	0.23	0.23	0.07	-	-	-
1-6	SK	049	土坑	B-2-B-3	不整形	(3.08)	(1.63)	0.07	-	石製品 1 点 縄文土器 2 点	一部調査区外 第 290
1-6	SK	050	土坑	B-3	不整形	(2.00)	(1.70)	0.07	-	縄文土器 4 点	一部調査区外 第 287 ~ 289, 291
1-6	SK	051	土坑	A-3	不整形	0.60	0.58	0.16	-	-	-
1-6	SK	052	土坑	B-3	楕円形	0.32	0.28	0.1	-	-	-
1-6	SK	053	土坑	B-3	楕円形	0.42	0.29	0.18	-	-	-
1-6	SK	054	土坑	B-3-B-4	楕円形	0.40	0.34	0.13	-	-	-
1-6	SK	055	土坑	B-4	楕円形	0.23	0.17	0.12	-	-	-
1-6	SK	056	土坑	B-4	円形	0.21	0.18	0.17	-	-	-
1-6	SK	057	土坑	B-4	円形	0.21	0.17	0.16	-	-	-
1-6	SK	058	土坑	B-4	円形	0.22	0.19	0.21	-	-	-
1-6	SK	059	土坑	B-4	円形	0.27	0.23	0.08	-	-	-
1-6	SK	060	土坑	B-4	円形	0.2	0.17	0.3	-	-	-
1-6	SK	061	土坑	B-4	円形	0.25	0.22	0.22	-	-	-
1-6	SK	062	土坑	B-4	円形	0.17	0.15	0.11	-	-	-
1-6	SK	063	土坑	B-4	円形	0.2	0.2	0.27	-	-	-
1-6	SK	064	土坑	B-4	円形	0.22	0.2	0.2	-	-	-
1-6	SK	065	土坑	B-4	円形	0.26	0.25	0.25	-	-	-
1-6	SK	066	土坑	B-4	円形	0.17	0.14	0.11	-	-	-
1-6	SK	067	土坑	B-4	円形	0.16	0.15	0.14	-	-	-
1-6	SK	068	土坑	B-4	円形	0.22	0.187	0.2	-	-	-
1-6	SK	069	土坑	B-4	(長方形)	(4.20)	1.10	0.27	(N-80° E)	-	一部調査区外
1-6	SK	070	土坑	B-4	円形	0.24	0.2	0.21	-	-	-
1-6	SK	071	土坑	B-4	円形	0.2	0.16	0.18	-	-	-



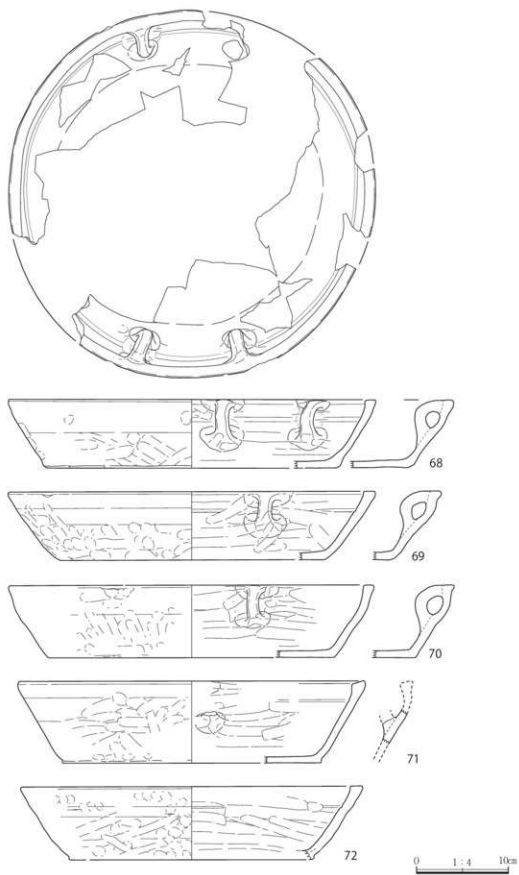
第101図 土師質土器小皿実測図(1) 1～23



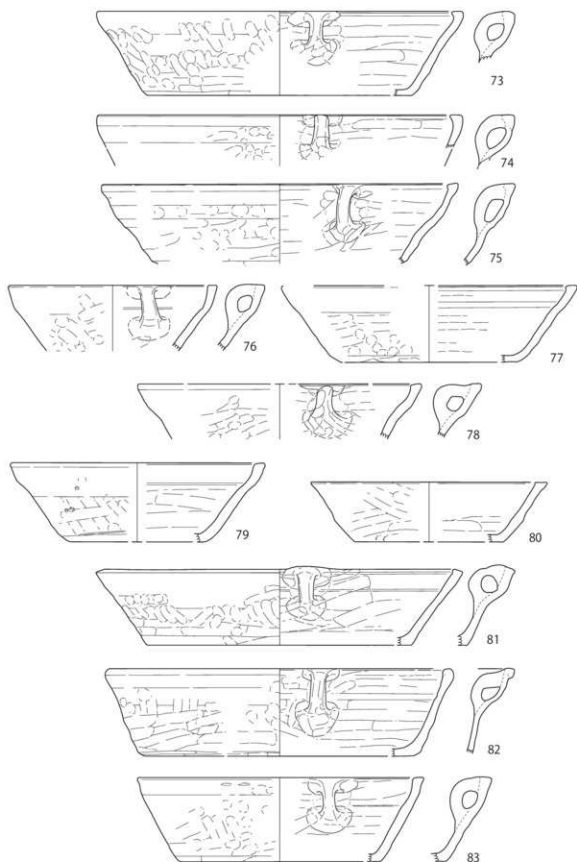
第102図 土師質土器小皿実測図(2) 24～51



第103図 土師質土器小皿実測図(3) 52～67

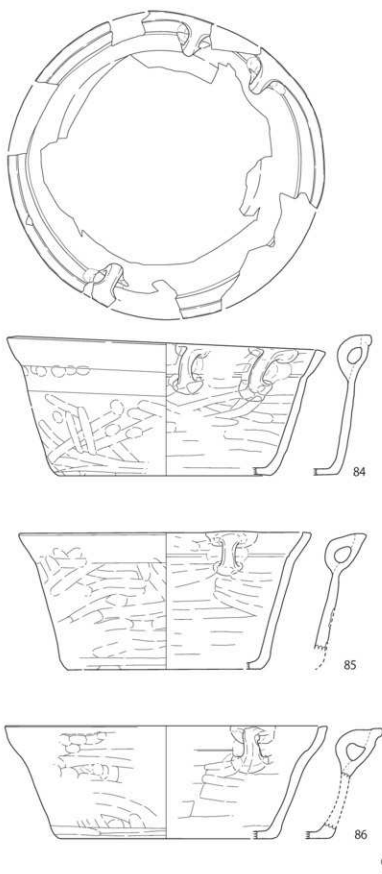


第104図 内耳土器実測図(1) 68～72

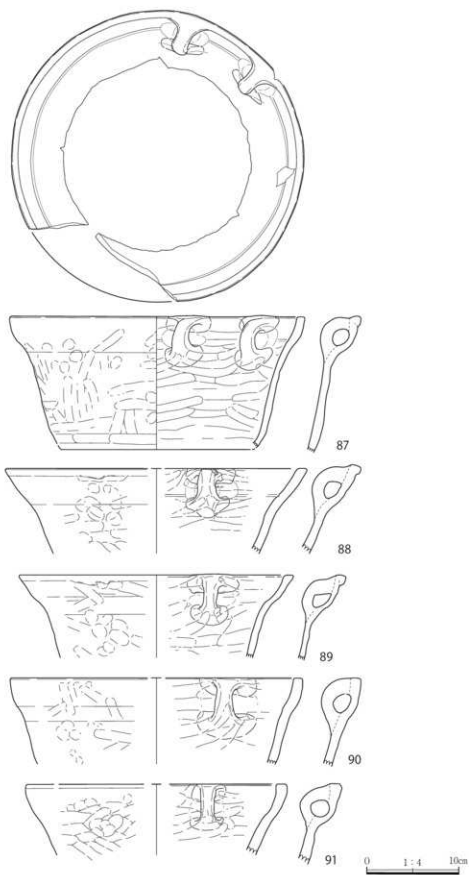


0 1:4 10cm

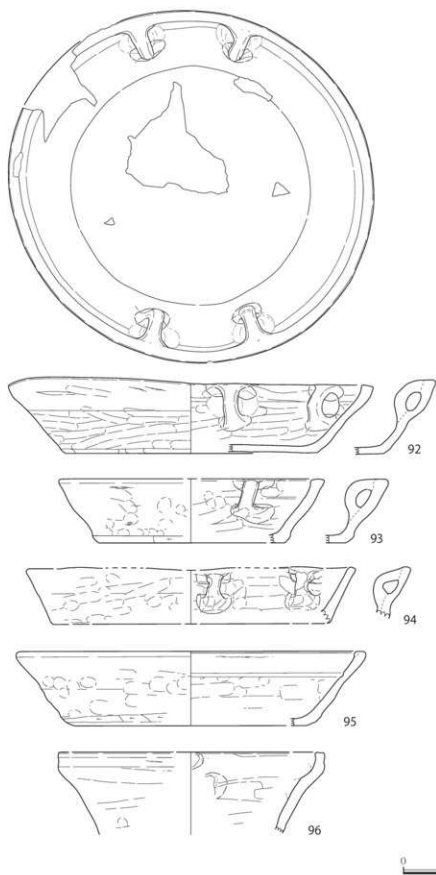
第105図 内耳土器実測図(2) 73~83



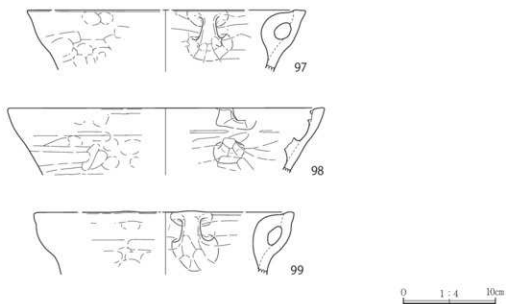
第106図 内耳土器実測図(3) 84～86



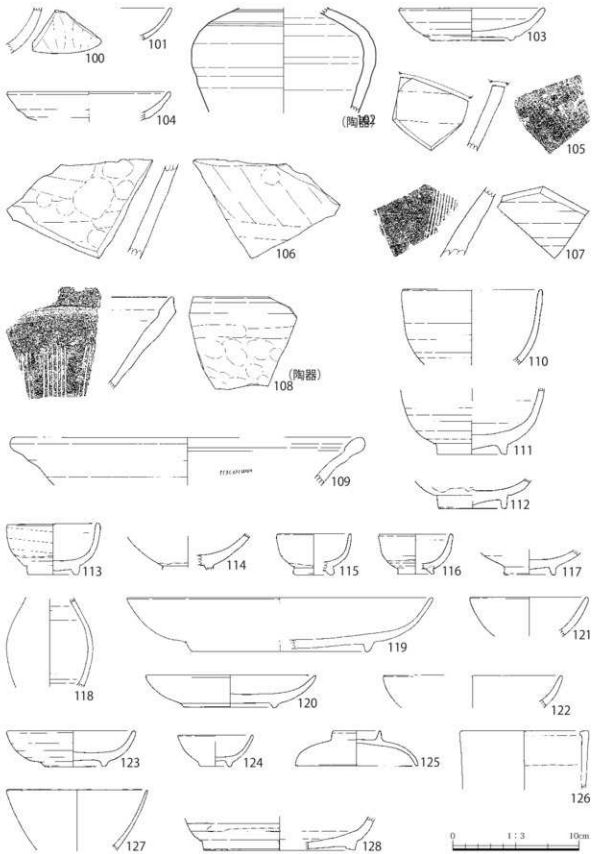
第107図 内耳土器実測図(4) 87~91



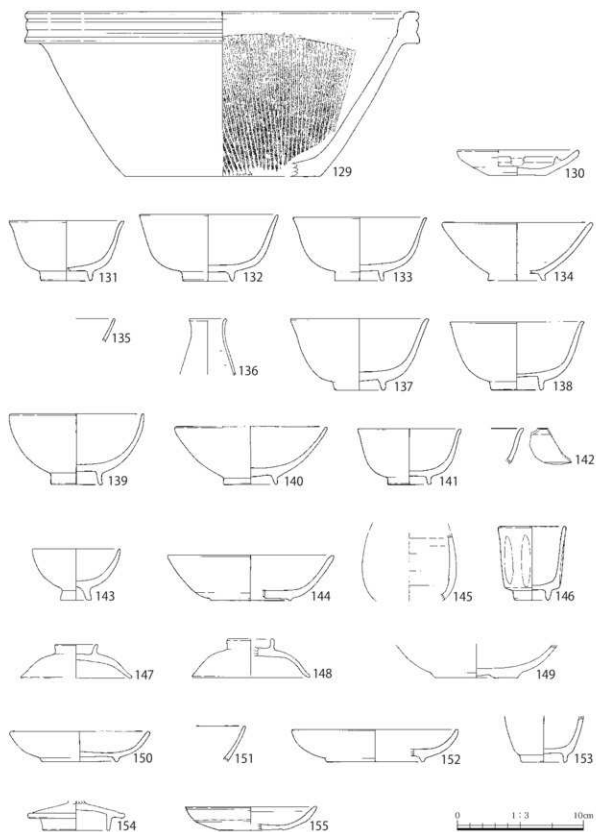
第108図 内耳土器実測図(5) 92~96



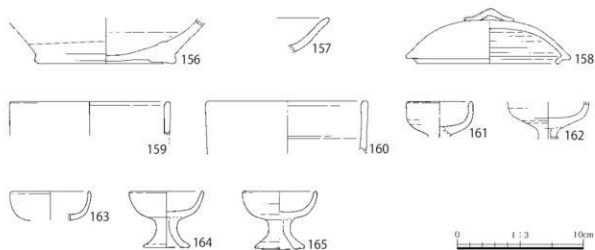
第109図 内耳土器実測図(6) 97~99



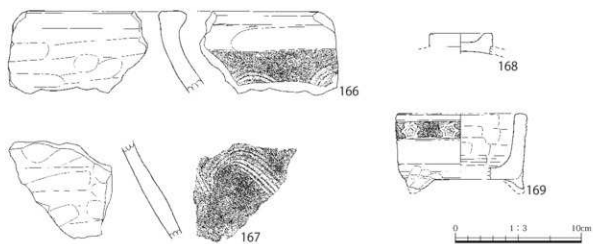
第110図 陶磁器類実測図(1) 100～128



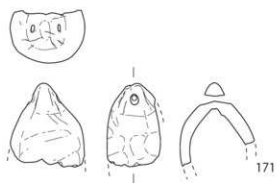
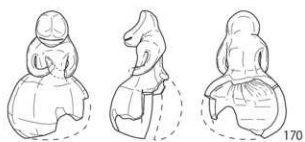
第111図 陶磁器類実測図(2) 129～155



第112図 陶磁器類実測図(3) 156～165



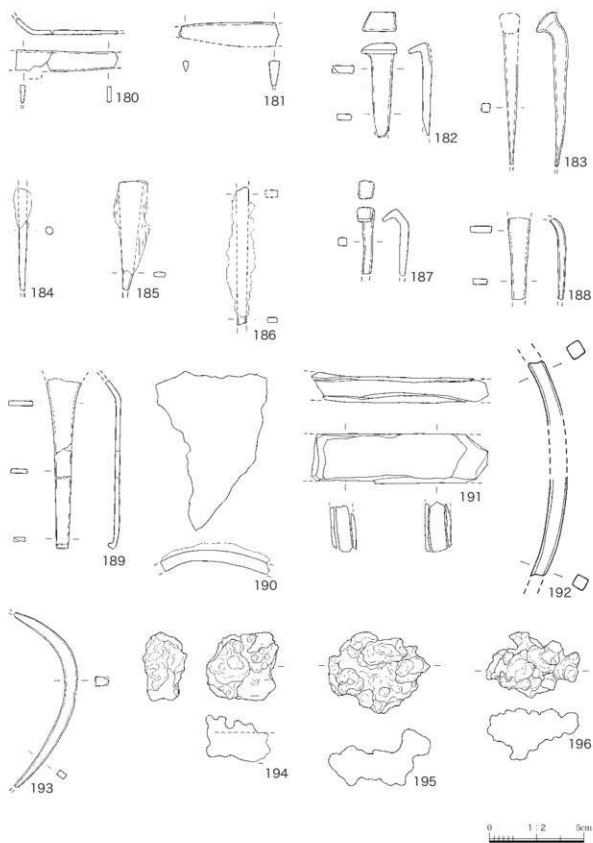
第 113 図 土器類実測図 166～169



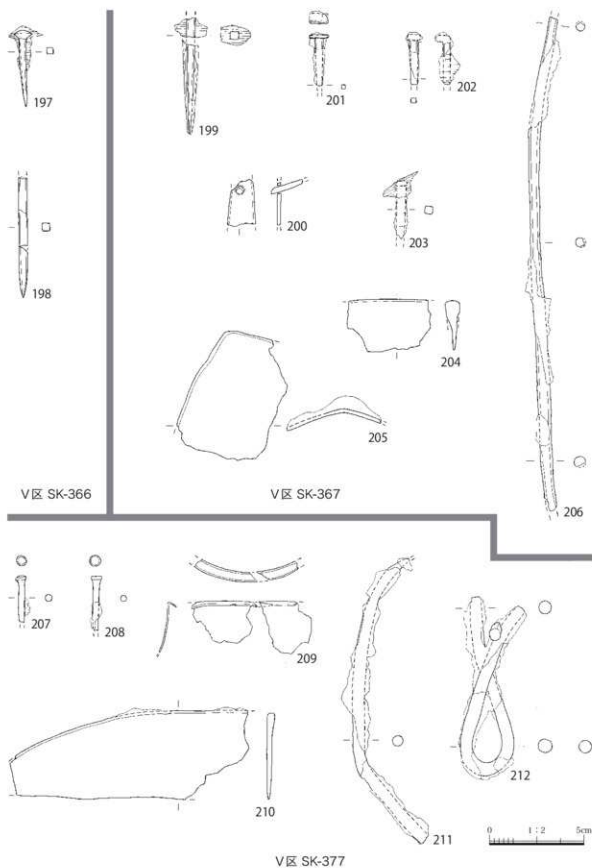
第 114 図 土製品（土鈴）実測図 170・171



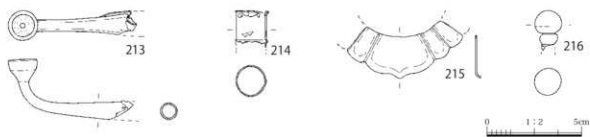
第115図 土製品（土人形）実測図 172～179



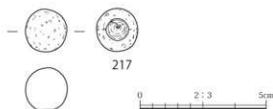
第116図 鉄製品実測図(1) 180~196



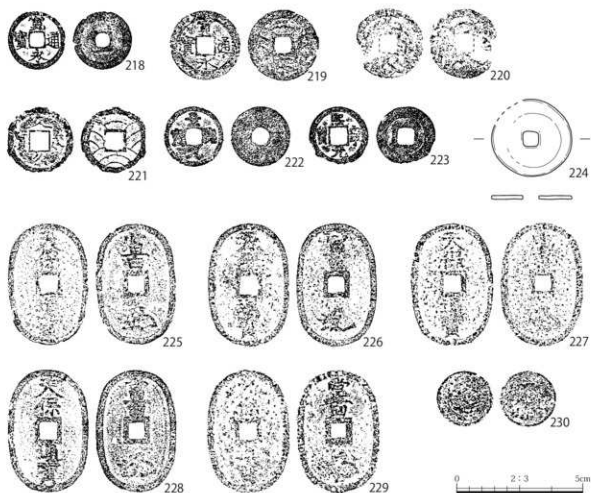
第117図 鉄製品実測図(2) 197~212



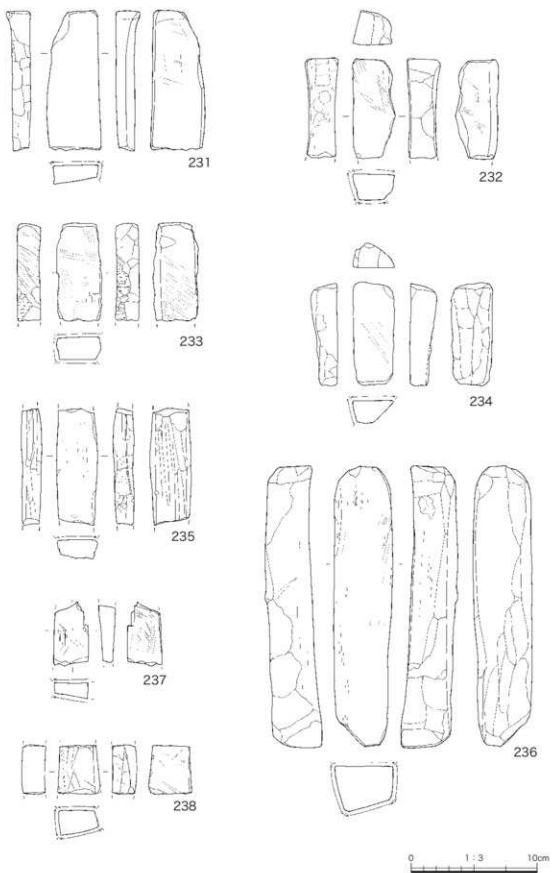
第118図 銅製品・その他金属製品実測図 213～216



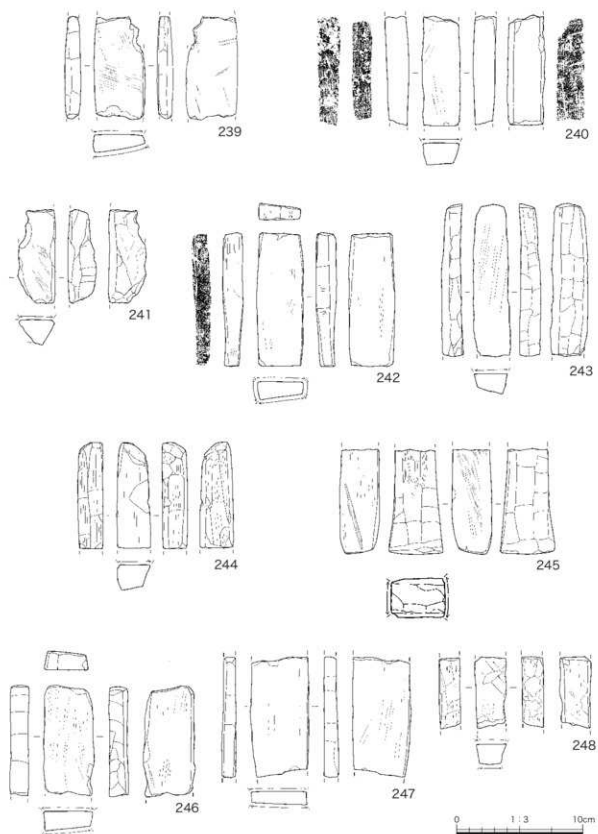
第119図 ガラス製品実測図 217



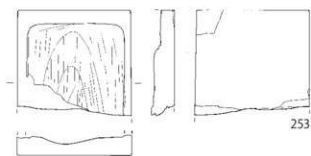
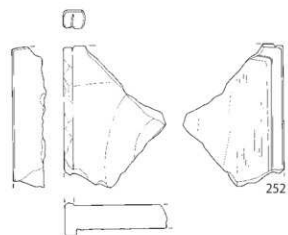
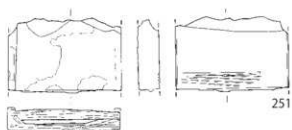
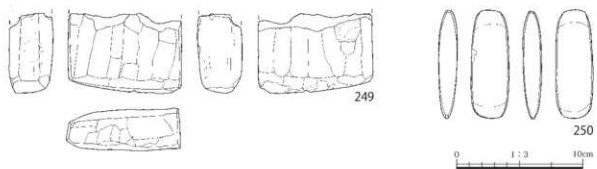
第120図 古銭実測図 218～230



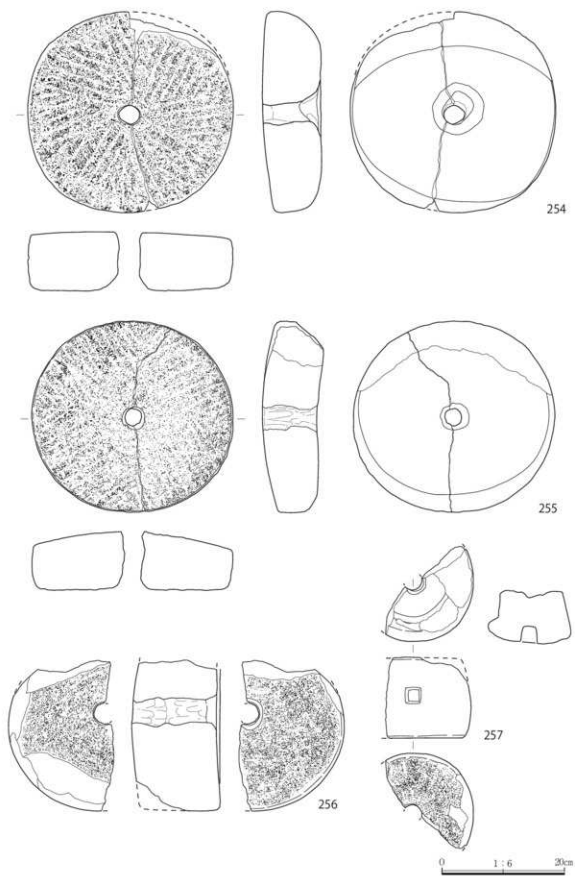
第121図 砥石実測図(1) 231～238



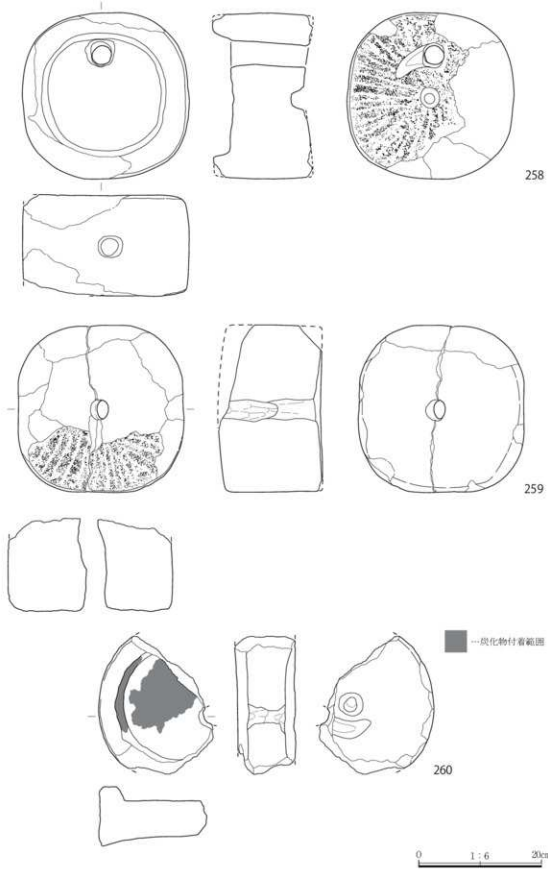
第122図 砥石実測図(2) 239～248



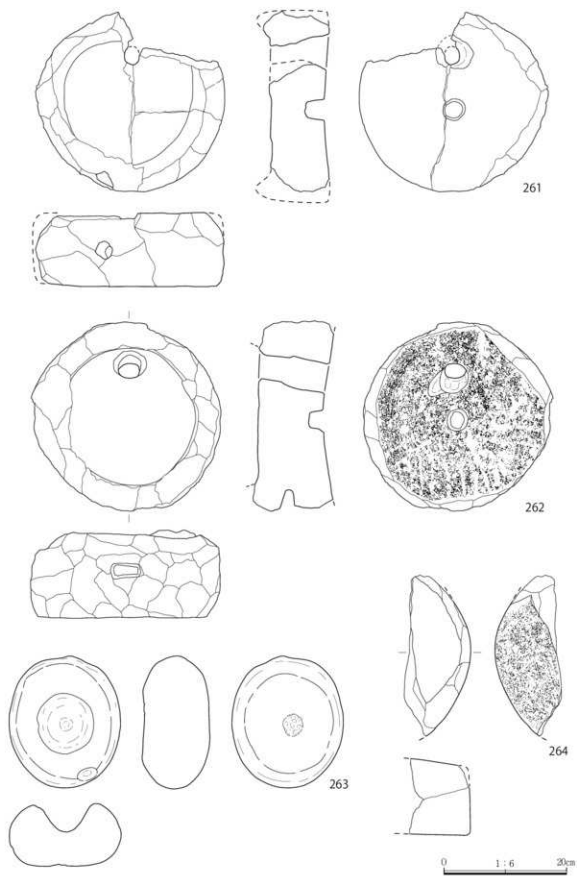
第123図 温石・硯実測図 249～253



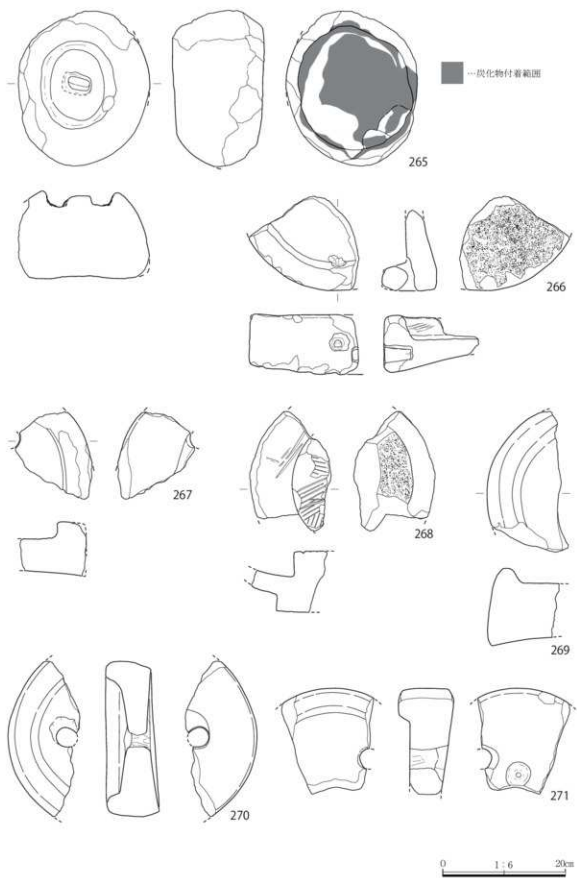
第124図 石臼実測図(1) 254～257



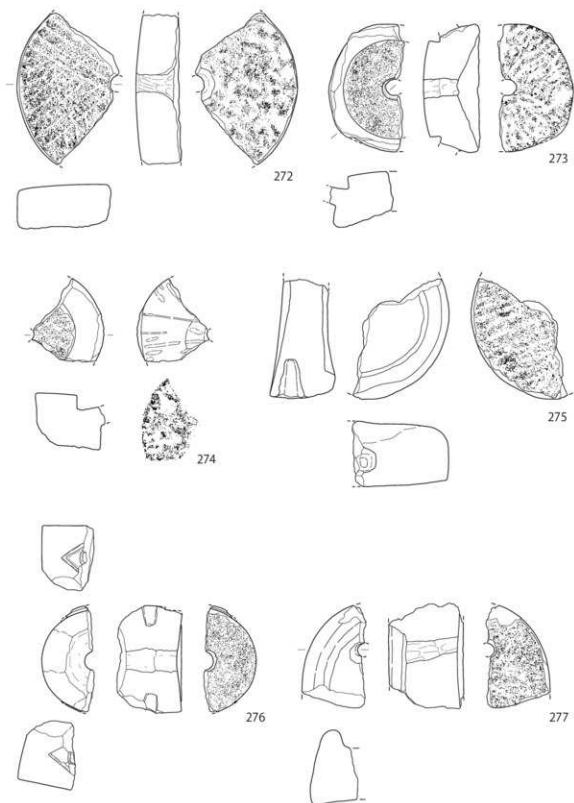
第125図 石臼実測図(2) 258～260



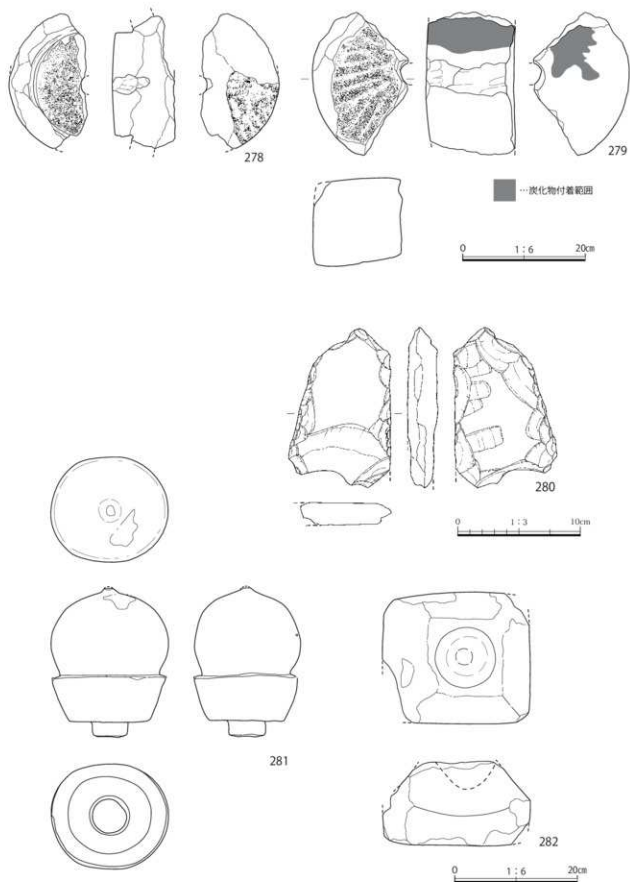
第126図 石臼・石鉢実測図 261～264



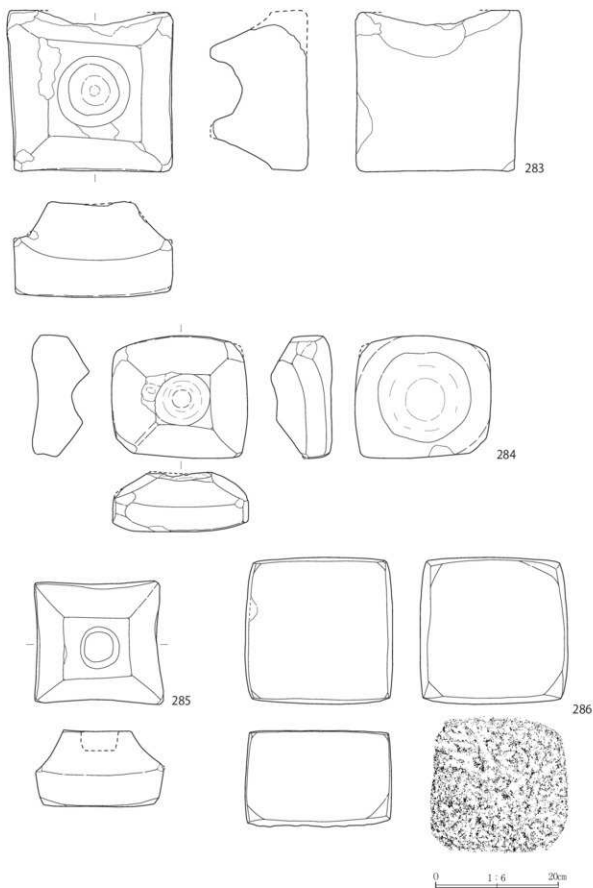
第127図 石臼・石製灯明具実測図 265～271



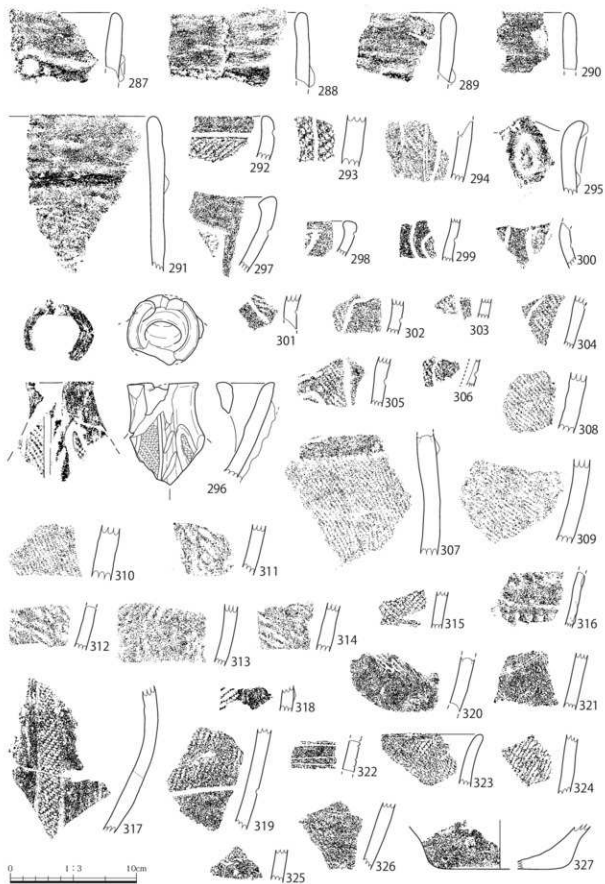
第128図 石臼実測図(3) 272~277



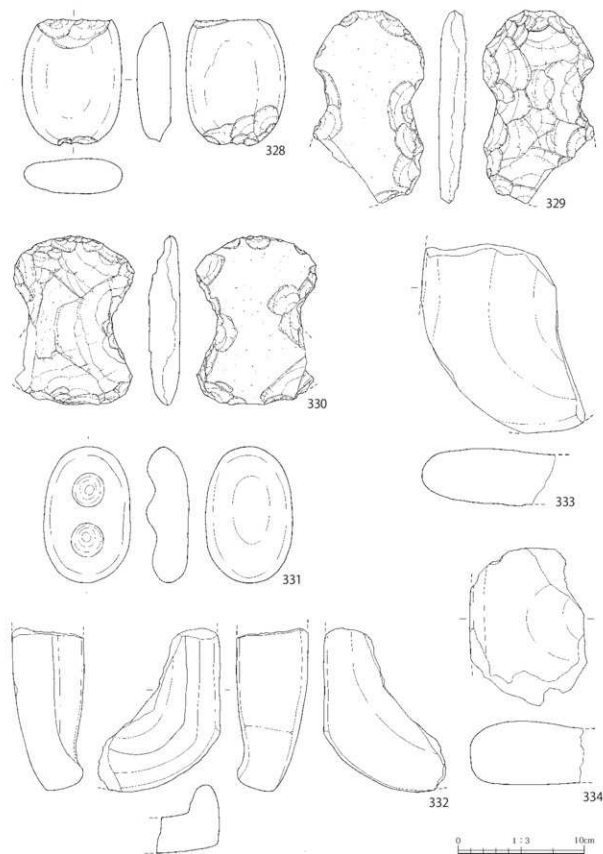
第129図 石臼・板碑・五輪塔実測図 278～282



第130図 五輪塔実測図 283～286



第131図 縄文土器実測図 287～327



第132図 縄文時代石器実測図 328～334

第9表 土師質土器小皿観察表(1)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
1	土師質土器 小皿	口 -	形態・底径が大きく器高が低い。内面の複数箇所 に粗あるいは繊維質の脱痕がみられる。内面には全体的 に薄くタール状の付着物が見られる。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りの ちヌノコ痕。	赤色・白色塵少量。 砂粒(透明粒・黒色 粒・輝石・雲母片含む) 多量。 やや粗い。	内 灰褐色	I-1区 SK-017 覆土 残口一部 体1/4 底ほぼ完存
		底 [復6.0cm]			外 橙	
		高 [寛2.4cm]			焼 やや硬質	
2	土師質土器 小皿	口 [復9.8cm]	形態・直線的に関き気味に立ち上がる。口縁端部は 若干外削ぎ状を呈する。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。	塵少量。砂粒(透明粒・ 黒色粒含む)多量。 やや粗い。	内 橙	I-1区 SK-017 覆土 残口一底1/4
		底 [復5.8cm]			外 にふい橙	
		高 2.4cm			焼 やや軟質	
3	土師質土器 小皿	口 [復9.0cm]	形態・下端部で丸みを帯びたのち、直線的に立つ。 内面のロクロ目顕著。内面に植物繊維の脱痕あり。 技法・内外面ロクロナデのち外面ナデ。底部外面回 転系切りのちヌノコ痕。	白色塵少量。砂粒(白 色粒・透明片含む) や や多量。 やや粗い。	内 黄橙	I-1区 SK-058 覆土 残口一底1/6 底3/5
		底 3.6cm			外 浅黄橙	
		高 3.5cm			焼 やや硬質	
4	土師質土器 小皿	口 11.2cm	形態・大型品。薄手で内湾気味に立ち上がる。口縁 端部が肥厚する。口縁端部に薄く黒色味を呈する箇 所が見られるが付着物がどうかは不明。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面静止系切り。他 の土器とくらべやや異質な形状を呈する。	白色塵多量。砂粒(白 色粒・透明粒・赤色粒・ 雲母片) やや多量。 やや粗い。	内 にふい橙	I-1区 SK-058 覆土 残口一底4/5 底完存
		底 5.4cm			外 橙	
		高 4.0cm			焼 やや硬質	
5	土師質土器 小皿	口 -	形態・大型品。薄手で直線的に立ち上がる。口縁端 欠損。底部内面に薄く黒色味を呈する部分があるが、 焼成時の黒焦の可能性がある。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち ヌノコ痕。やや異質な形状を呈する。	塵やや多量。砂粒(白 色粒) やや多量。 やや緻密。	内 橙	I-1区 SK-058 覆土 残体1/3 底完存
		底 4.4cm			外 明赤褐色	
		高 [寛2.5cm]			焼 硬質	
6	土師質土器 小皿	口 9.3～9.7cm	形態・ゆるやかに丸味をもって立ち上がる。器形は 楕円形に歪む。口縁端部外から内面の一部にタール 状の付着物あり。内面は全体的に黒斑あり。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち 深いヌノコ状圧痕。器面に植物繊維の脱痕が目立つ。	細砂やや少量。輝石 粒微量。 やや緻密。	内 浅黄橙	I-1区 SD-094 No.1 残口一部欠損 ほぼ完存
		底 4.0cm			外 浅黄橙	
		高 2.9cm			焼 やや硬質	
7	土師質土器 小皿	口 8.9cm	形態・体外面中央部に緩やかな門輪状の段を持つ 口縁端部に矟(あるいは矟子)圧痕か。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち 浅いヌノコ痕あり。	白色塵少量。砂粒(白 色粒・赤色粒)少量。 やや緻密。	内 浅黄色	I-1区 SE-076 No.5 ほぼ完存
		底 4.3cm			外 浅黄色	
		高 2.7cm			焼 やや硬質	
8	土師質土器 小皿	口 [復9.2cm]	形態・内湾気味に立ち上がる。口縁端部若干は直線 的に立つ。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち ヌノコ痕。	赤色・白色塵多量。 砂粒(白色粒・透明粒・ 赤色粒) やや多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	I-1区 SK-092 覆土 残口1/3 体1/3 底1/2
		底 3.5cm			外 橙	
		高 2.6cm			焼 やや軟質	
9	土師質土器 小皿	口 6.2cm	形態・小型品。直線的に立ち上がる。口縁端部は若 干内面に肥厚。口縁端部4所にタール状付着物あり。 内外面に複数の剝落箇所が見られる。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち ヌノコ痕。10・11と技法・法量がきわめて類似する。	赤色・白色塵少量。 砂粒(白色粒・透明粒・ 赤色粒) やや多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	I-1区 SE-076 覆土 残口一底2/3 底完存
		底 2.8cm			外 浅黄橙	
		高 1.8cm			焼 やや硬質	
10	土師質土器 小皿	口 5.8cm	形態・小型品。直線的に関き気味に立ち上がる。口 縁端部若干肥厚。内外面2箇所にタール状の付着物 あり。外面に軽微とされる繊維質の脱痕が複数あり。 9・11と技法・法量がきわめて類似する。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。	白色塵少量。白色粒 少量。 やや粗い。	内 灰黄褐色	調査区不明 II区一括 ほぼ完存
		底 2.9cm			外 灰黄褐色	
		高 1.87cm			焼 やや硬質	

第10表 土師質土器小皿観察表(2)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
11	土師質土器 小皿	口 6.0cm	形態・小型品。直線的に開き気味に立ち上がる。口縁端部若干肥厚。内外面2箇所にてタール状の付着物あり。外部に粉痕などの繊維質の脱色が複数見られる。9・10と技法・法量がきわめて類似する。技法・内外面口クロナデ。底部外面回転系切りのちスノコ痕。	白色礫少量。白色粒少量。 やや粗い。	内 にふい黄褐色	II区一括 ほぼ完存
		底 3.0cm			外 にふい黄褐色	
		高 1.8cm			焼 やや硬質	
12	土師質土器 小皿	口 [復9.6cm]	形態・体部下端で小さく「く」の字に曲がり、その後直線的に立ち上がる。礫の混入が多いため、体部外面沈線状の痕跡が明瞭。やや歪みあり。技法・内外面口クロナデ。底部外面回転系切り。	礫微量。砂粒多量。 やや緻密。	内 浅黄色	I2区 SE-006 覆土 残口~体3/5 底3/4
		底 4.4cm			外 浅黄色	
		高 2.4~2.9cm			焼 やや硬質	
13	土師質土器 小皿	口 9.5cm	形態・体部下端で僅かに丸味をおびたのち、直線的に立ち上がる。体部内面に糊圧痕あり。技法・内外面口クロナデ。底部外面回転系切りのちナデか。	礫少量。砂粒やや多量。 やや粗い。	内 浅黄色	I2区 SE-006 覆土 残口2/3体 3/4 底4/5
		底 4.1~4.3cm			外 浅黄色	
		高 2.5~2.6cm			焼 やや粗い	
14	土師質土器 小皿	口 [復10.4cm]	形態・体部下端及び口縁部付近で小さく「く」の字に曲がる。底部外面に糊圧痕か。技法・内外面口クロナデ。底部外面回転系切りのち一部スノコ痕あり。	細砂やや多量。黒色粒子(輝石か)微量。 やや粗い。	内 浅黄色	I2区 SE-006 覆土 残口1/3体 2/5 底4/5
		底 4.8cm			外 浅黄色	
		高 3.2cm			焼 やや硬質	
15	土師質土器 小皿	口 9.4cm	形態・口ロク目明瞭。体部中位に凹凸あり。口縁は僅かに内湾する。歪み少なく丁寧なつくり。技法・口縁部~体部内外面口クロナデ。底部外面回転系切り。	白色礫微量。砂粒(白色粒)少量。 やや緻密。	内 にふい橙	I2区 SK-025 No.2 残口一部欠損 ほぼ完存
		底 4.5cm			外 にふい橙	
		高 2.9cm			焼 やや硬質	
16	土師質土器 小皿	口 9.3cm	形態・体部中位に口ロク成形による凹凸あり。底部外面糊圧痕か。技法・口縁部~体部内外面口クロナデ。口縁部内面に輪積み痕あり。内面は細かな剥落痕あり。底部外面回転系切り。	白色礫微量。砂粒少量。 やや緻密。	内 にふい褐	I2区 SK-025 No.1 ほぼ完存
		底 4.4cm			外 にふい褐	
		高 2.4cm			焼 やや軟質	
17	土師質土器 小皿	口 [復8.9cm]	形態・やや丸味をもって立ち上がる。歪みが大きく、口径はあくまで参考値。技法・内外面口クロナデ。内面は口縁端部及び体部中位に部分的にタール状の付着物あり。外面は全体的に黒みを帯びる。底部外面回転ヘラ切りのちナデか。	細砂少量、赤色粒微量。 やや粗い。	内 褐灰	II区 SK-163 覆土 残口~体1/4 底2/5
		底 [復4.5cm]			外 褐灰	
		高 2.3cm			焼 やや軟質	
18	土師質土器 小皿	口 9.8cm	形態・体部下端は僅かに丸味をもって立ち、口縁部は直線的。内面及び外面の一部に褐色を帯びる部分あり。タール等の付着物の可能性あり。技法・内外面口クロナデ。外面ナデ。底部外面回転系切りか。底部内面付近には砂粒が集中して認められ、ザラザラしている。	赤色礫少量。砂粒(赤色粒・輝石・雲母片)やや多量。 やや粗い。	内 浅黄褐色	II区 SD-200 西端 覆土 残口~体1/2 底1/5
		底 [復3.9cm]			外 浅黄褐色	
		高 3.0cm			焼 やや軟質	
19	土師質土器 小皿	口 [復9.6cm]	形態・ほぼ直線的に立ち上がる。技法・内外面口クロナデのち外面ナデ。口縁端部外面に植物繊維の脱色あり。底部は欠損するため技法不明。	礫微量。砂粒(透明粒・輝石)多量。 やや緻密。	内 浅黄	II区 SD-200 西端部 覆土 残口~体1/3 底欠損
		底 -			外 淡黄	
		高 (残2.4cm)			焼 やや硬質	

第11表 土師質土器小皿観察表(3)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
20	土師質土器 小皿	口 -	形態・ほぼ直線的に立ち上がる。 技法・内外面ロクロナデのち外面一部ナデ。底部内面に植物繊維の痕跡あり。	礫少量。砂粒(黒色粒・輝石含む)多量。 やや緻密。	内 にふい黄橙	II区SD-200 西端部 覆土 残体~底 1/2
		底 [復5.0cm]			外 にふい黄橙	
		高 (残2.9cm)			焼 やや硬質	
21	土師質土器 小皿	口 [復10.6cm]	形態・ゆるやかに丸味をもって立ち上がる。体部外面上半から体部内面にタール状の付着物が厚く付着。上面から見るのと歪み大きく、復元径は参考値。 技法・内外面ロクロナデ。底部内面強いナデ。底部外面回転糸切り。ちスノコ圧痕。	砂粒(石英・輝石粒) やや少量。 やや粗い。	内 にふい橙	II区SD-200 覆土 残口~体 1/3 底 3/4
		底 [復5.6cm]			外 にふい橙	
		高 2.5~2.6cm			焼 やや粗い	
22	土師質土器 小皿	口 10.0cm	形態・ゆるやかに丸味をもって立ち上がる。口縁端部が僅かに外反する。口縁端部平坦面あり。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。	細砂少量。 やや緻密。	内 にふい橙	II区SD-200 覆土 残口~体 3/5 底 4/5
		底 3.9cm			外 にふい橙	
		高 3.2cm			焼 やや緻密	
23	土師質土器 小皿	口 [復6.7cm]	形態・丸味をもって立ち上がる。小型。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのちスノコ圧痕。 底部内面に部分的に砂粒が集中する。	細砂やや多量。輝石粒微量。 やや粗い。	内 灰白	II区SD-200 覆土 残体~底 2/5
		底 [復3.4cm]			外 灰白	
		高 (残1.9cm)			焼 やや軟質	
24	土師質土器 小皿	口 [復10.0cm]	形態・僅かに湾曲気味に立ち上がる。体部内外面に輝石重なり。底部内面に砂粒が集中している。 技法・口縁部~体部内外面ロクロナデ。内面は礫の移動による沈降状の痕跡が目立つ。内面は僅かな剥落痕あり。底部外面回転糸切り。	礫多量。砂粒(赤色粒・輝石含む)多量。 やや粗い。	内 にふい黄橙	II区SE-159 覆土 残口~底 1/3
		底 [復4.8cm]			外 にふい黄橙	
		高 2.8cm			焼 やや硬質	
25	土師質土器 小皿	口 -	形態・体部下端は丸味を帯び、その後直線的に立ち上がる。 技法・内外面ロクロナデ。外面ナデ。底部外面回転糸切り。	砂粒(赤色粒・輝石含む)やや多量。 緻密。	内 浅黄橙	II区SK-211 覆土 残体 3/5 底 完存
		底 4.7cm			外 にふい黄橙	
		高 (残2.6cm)			焼 やや軟質	
26	土師質土器 小皿	口 [復8.6cm]	形態・体部は僅かに丸味をもって立ち、口縁部は直線的である。 技法・内外面ロクロナデ。外面ナデ。底部外面回転糸切り。底部内面及び外面の中央部には赤色の砂粒が集中して認められる。	赤色礫少量。砂粒(赤色粒主体・輝石含む)やや少量。 やや緻密。	内 淡黄	II区SK-211 覆土 残口 1/4 体 2/5 底 2/3
		底 3.7cm			外 淡黄	
		高 2.8cm			焼 やや軟質	
27	土師質土器 小皿	口 [復9.3cm]	形態・丸味をもって立ち上がる。底部内面に炭化物、あるいはタール状の付着物あり。外面の褐色の付着物は鉄分が沈着したものか。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面は回転糸切りした可能性が高い。スノコ圧痕。	砂粒少量。(赤色粒・輝石) やや粗い。	内 にふい橙	II区SK-240 覆土 残口~体 1/3 底 1/4
		底 [復4.4cm]			外 にふい橙	
		高 2.7cm			焼 やや軟質	
28	土師質土器 小皿	口 [復9.4cm]	形態・体部は丸味をもって立ち上がる。口縁端部は肥厚し、直下に沈線あり。やや質質な土器。明褐色で胎土は緻密。 技法・内外面ロクロナデ(ロクロ目はほとんど確認できない)。底部外面回転糸切り。	白色礫やや多量。細砂(白色粒・輝石・石英)少量。 やや緻密。	内 明赤褐	II区SK-263 覆土 残 1/4
		底 [復5.2cm]			外 明赤褐	
		高 2.3cm			焼 硬質	
29	土師質土器 小皿	口 [復8.8cm]	形態・湾曲気味に立ち上がる。口縁端部内外面にタール状の付着物あり。体部内面は黒色味を帯びる。 技法・内外面ロクロナデのち内面ナデ。底部は欠損するため技法不明。	細砂やや少量。赤色粒少量。輝石・白色粒微量。 やや粗い。	内 橙	II区SK-252 覆土 残口~体 1/5 底 欠損
		底 [復3.5cm]			外 橙	
		高 2.7cm			焼 やや硬質	

第12表 土師質土器小皿観察表(4)

図版NO.	器種	大きさ	特徴	混材・胎土	色調・焼成	備考・残存
30	土師質土器 小皿	口 6.6cm	形態・僅かに湾曲しながら立ち上がる。口縁端部に1箇所タール状の付着物あり。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのちスノコ煎。	細砂多量、赤色粒少量、 輝石微量。 粗い。	内 内 灰白	II区 SK-257 覆土 残 4/5
		底 3.5cm			外 内 灰白	
		高 2.2cm			焼 やや軟質	
31	土師質土器 小皿	口 -	形態・ロクロ目明確。体部から口縁にかけて直線的に立ち上がる。口縁端部外面の剥落部分に小さな量の裏面の圧痕が認められる。 技法・内外面ロクロナデ。	砂粒多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	II区 SK-240 覆土 残 口一部
		底 -			外 浅黄橙	
		高 (残 2.8cm)			焼 やや軟質	
32	土師質土器 小皿	口 8.5cm	形態・僅かに丸味をもって立つ。器面の剥落が顕著。内～外面の黒斑は酸化炭素焼成部分が露出したものか。一部赤変する部分は二次的に被熱した可能性が高い。 技法・内外面ロクロナデ。口縁端部は焼成後に研磨され、明確な稜を持つ。底部外面回転糸切りか(磨滅のため不明瞭)。	砂粒やや多量、輝石・ 白色粒微量。 粗い。	内 灰白	II区 SK-264 No.1 底完存
		底 4.5cm			外 灰白	
		高 2.3cm			焼 軟質	
33	土師質土器 小皿	口 [復 9.2cm]	形態・口縁部は直線的に立ち上がる。内面ロクロ目顕著。破面も含めた器面全面が黒色を呈する。基本的に黒色部に光沢は無いが、底部内面及び外面の一部に光沢を帯びる部分はタールが付着したものと思われる。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面スノコ煎。	礫やや少量、砂粒(黒色粒・輝石含む)多量。 やや粗い。	内 黒褐	II区 SK-264 覆土 残 口 1/4 体 2/5 底完存
		底 4.8cm			外 黒褐	
		高 2.9cm			焼 やや軟質	
34	土師質土器 小皿	口 [復 9.7cm]	形態・底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。技法・内外面ロクロナデのち軽いナデ。底部外面回転糸切りのち軽いナデ。	白色礫やや多量。砂粒(白色粒・赤色粒)やや多量。 やや粗い。	内 内 灰白	II区 SK-264 覆土 残 口～体 2/5 底 1/2
		底 [復 4.4cm]			外 内 灰白	
		高 3.2cm			焼 やや軟質	
35	土師質土器 小皿	口 9.7cm	形態・外面のロクロ目が強く、器面に凹凸あり。口縁部外面端部に、種子と思われる円形の脱痕あり。技法・内外面ロクロナデのち軽いナデ。底部外面回転糸切りのち目の細かいスノコ煎。	礫(赤色・黒色・長石)やや少量、砂粒多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	II区 SK-264 覆土 残 口～体 3/4 底完存
		底 4.0cm			外 浅黄橙	
		高 3.1cm			焼 やや軟質	
36	土師質土器 小皿	口 [復 8.9cm]	形態・口縁で僅かに丸味をもって立ち上がる。歪みが大きく、器面に若干の凹凸あり。技法・内外面ロクロナデのち強いナデ。底部外面回転糸切りのちヘラナデか。底部外面に明確な軽圧痕あり。底部内面に砂粒が集中。	赤色細砂多量。やや緻密。	内 灰白	II区 SK-264 覆土 残 口～体 2/5 底完存
		底 3.8～ 4.0cm			外 灰白	
		高 2.8cm			焼 やや軟質	
37	土師質土器 小皿	口 9.2cm	形態・やや丸味をもって立ち上がる。指頭押圧による凹凸が顕著。全体的に雑。器厚は3～5mmとやや薄手。 技法・内外面ロクロナデのちナデ及び指頭押圧。底部外面回転糸切りのち軽いスノコ状圧痕か。底部内面に砂粒が集中。	細砂やや少量。赤色粒・輝石粒微量。 やや粗い。	内 灰白	II区 SK-264 覆土 残 口 3/5 体～底完存
		底 4.7cm			外 灰白	
		高 2.8cm			焼 やや軟質	
38	土師質土器 小皿	口 -	形態・やや反する。体部外面は硬質だが体部内面は黒化が著しい。体部外面下端から底部一部に焼成時の黒斑あり。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。	礫少量。黒色粒多量。 輝石・石英粒微量。 やや緻密。	内 内 灰白	II区 SK-264 覆土 残 体 1/3 底完存
		底 4.6cm			外 内 灰白	
		高 (残 1.8cm)			焼 やや硬質	

第13表 土師質土器小皿観察表(5)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
39	土師質土器 小皿	口 9.3cm	形態・やや内湾気味に立ち上がる。底部に糊圧痕有り。底部の亀裂には植物繊維の脱痕があり、貫通している。 技法・内外面ロクロナデ。内面には枕輪状のロクロ目あり、砂轆が動いたものか。底部内面指摺り圧及びナデ。底部外面回転系切りのちスノコ圧痕。	礫微量。細砂やや多量。 やや緻密。	内 浅黄橙	II区 SK-281 覆土 完存
		底 4.4cm			外 浅黄橙	
		高 3.1cm			焼 やや軟質	
40	土師質土器 小皿	口 [復9.0cm]	形態・丸味をもって立ち上がる。体部の内外に糊圧痕有り。内面に糊圧痕あり。口径端部の内外面に、糊圧痕または植物脱痕。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。	礫少量。砂粒(黒色・赤色)微量。 やや緻密。	内 浅黄橙	II区 SK-281 覆土 残1/4
		底 4.5cm			外 浅黄橙	
		高 3.0cm			焼 やや軟質	
41	土師質土器 小皿	口 9.7cm	形態・下端部で少し張り出したのち、直線的に立ち上がる。内面に糊圧痕あり。全体的に歪みが大きい。 技法・内外面ロクロナデのち底部内面ナデ。底部外面回転系切りのちナデ。	細砂(輝石・石英含む)多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	II区 SK-289 No1 残口3/4 体4/5 底完存
		底 3.9cm			外 浅黄橙	
		高 3.4cm			焼 やや軟質	
42	土師質土器 小皿	口 [復5.8cm]	形態・僅かに内湾気味に立ち上がる。底部に亀裂あり。使用時すでに穴が空いていた可能性が高い。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。	礫少量。砂粒多量。 やや粗い。	内 橙	II区 SK-400 覆土 残口~体1/3 底1/2
		底 [復3.0cm]			外 橙	
		高 1.7cm			焼 やや軟質	
43	土師質土器 小皿	口 8.5cm	形態・直線的に立ち上がり、口縁部が僅かに肥厚する。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面に回転系切り。体部外面下端及び、底部内面黒色の付着物あり(タール状)。	礫少量。砂粒(輝石・石英粒)多量。 やや緻密。	内 灰白	II区 SK-400 覆土 残口~体1/3 底完存
		底 4.0cm			外 灰白	
		高 2.9cm			焼 やや軟質	
44	土師質土器 小皿	口 6.2cm	形態・ほぼ直線的に立ち上がるが、口縁部が僅かに外反する。口縁部内外面の完存1/4程の範囲でタール状の付着物あり。 技法・内外面ロクロナデ。底部内外面に回転系切りのちスノコ圧痕。	礫少量。砂粒(白色粒・石英・輝石含む)やや多量。 やや緻密。	内 にぶい橙	II区 SK-400 覆土 残口~体4/5 底完存
		底 2.6cm			外 にぶい橙	
		高 2.2cm			焼 硬質	
45	土師質土器 小皿	口 5.9cm	形態・体部上半でやや外反し、口縁部に僅かに肥厚する。薄手で作りの良い小型の土器。 技法・内外面ロクロナデ・底部外面系切りのちナデまたはスノコ痕。	砂粒(白色粒・輝石)やや多量。 やや緻密。	内 にぶい橙	II区 SK-400 覆土 残口1/2 体2/3 底完存
		底 2.4cm			外 にぶい橙	
		高 2.0cm			焼 硬質	
46	土師質土器 小皿	口 [復10.8cm]	形態・湾曲気味に立ち上がる。内面のロクロ目顕著。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面調整不明。	赤色礫やや多量。砂粒(赤色粒・輝石含む)多量。 やや粗い。	内 橙	II区 P-134 覆土 残口~体1/6 底ほぼ欠損
		底 [復7.0cm]			外 橙	
		高 2.6cm			焼 やや軟質	
47	土師質土器 小皿	口 9.6cm	形態・湾曲気味に立ち上がる。器高はきわめて低い。 技法・内外面ロクロナデ。底部不明。	赤色礫(5mm前後)・白色礫少量。砂粒(白色粒・赤色粒)やや少量。 やや粗い。	内 橙	II区 SK-286 覆土 残口~体1/3 底一部
		底 [復4.4cm]			外 橙	
		高 (残1.9cm)			焼 やや軟質	
48	土師質土器 小皿	口 [復9.2cm]	形態・底径小さく、開き気味に立ち上がる。口径端部内外面にタール状の付着物あり、この部分は剥落が著しい。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのちナデか。	微砂。白色粒少量。 やや粗い。	内 橙	II区 SK-285 覆土 残口~体1/3 底1/2
		底 [復4.4cm]			外 橙	
		高 2.3cm			焼 やや軟質	

第14表 土師質土器小皿観察表(6)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
49	土師質土器 小皿	口 5.8cm	形態・体部中位で段を持つ。器高はきわめて低い。 非常に小型で、作成時の歪み著しい。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。	砂粒(輝石含む)多量。 やや粗い。	内 灰白	Ⅱ区 P-426 覆土 ほぼ完存
		底 2.8cm			外 灰白	
		高 1.5cm			焼 やや硬質	
50	土師質土器 小皿	口 [覆10.6cm]	形態・湾曲気味に立ち上がり、口縁端部で小さく外反する。内面一部に縞線の抜けた痕。 技法・内外面ロクロナデ。外面下端の粘土継接合部がやせて凹んでいる。	礫(赤色)やや多量。 砂粒(赤色粒・輝石・白色粒含む)多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	Ⅱ区 P-202 覆土 残口~体1/3 底欠損
		底 -			外 浅黄橙	
		高(残2.8cm)			焼 やや硬質	
51	土師質土器 小皿	口 9.4cm	形態・底径比較的大きく、全体的に湾曲気味に立ち上がる。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。	礫少量。砂粒(赤色粒)やや多量。 やや粗い。	内 黄橙	Ⅱ区 L-26 グリット覆土 残口2/3 体~底ほぼ完存
		底 5.0cm			外 黄橙	
		高 2.5cm			焼 やや硬質	
52	土師質土器 小皿	口 [覆10.4cm]	形態・僅かに丸味をもって立つ。器面一部に粘土の輪軸跡が顕著。内面の黒斑は酸化炭焼成部分が溶脱して露出したものか。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転へら切り(あるいは糸切り)のちスノコ飯。底部内面中央部には砂粒が集中して認められる。	礫少量。砂粒やや少量。 やや粗い。	内 黒	Ⅱ区 P-445 覆土 残口~体1/4 底1/3
		底 [覆6.2cm]			外 浅黄	
		高(残3.4cm)			焼 やや軟質	
53	土師質土器 小皿	口 -	形態・底径は小さく、湾曲気味に立ち上がる。口縁端部は直線的に立つ。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。底部内面に砂粒が集中している。	礫(赤色・白色)やや多量。砂粒(白色粒・透明粒・赤色粒含む)多量。 やや粗い。	内 暗褐	Ⅱ区 P-508 覆土 残体1/6 底完存
		底 5.0cm			外 黒褐	
		高(残1.9cm)			焼 やや硬質	
54	土師質土器 小皿	口 8.9cm	形態・底径小さく、湾曲気味に立ち上がる。口縁端部は直線的に立つ。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのちスノコ飯か。底部内面に砂粒が集中している。	礫少量。砂粒(黒色粒・透明粒・赤色粒含む)多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	Ⅱ区 L-29 グリット覆土 残口~体3/5 底完存
		底 3.8cm			外 浅黄橙	
		高 2.6~3.0cm			焼 やや硬質	
55	土師質土器 小皿	口 [覆8.6cm]	形態・小型の土器。全体的に湾曲気味に立ち上がる。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面へら切りのちナデか。	礫少量。砂粒(白色粒・透明粒・雲母片含む)やや多量。 やや緻密。	内 明黄褐	Ⅱ区 P-677 覆土 残口~体1/6 底2/5
		底 [覆4.8cm]			外 明黄褐	
		高 2.5cm			焼 やや軟質	
56	土師質土器 小皿	口 [覆9.6cm]	形態・底径は小さく、湾曲気味に立ち上がる。口縁端部は僅かに外反する。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのちスノコ飯。	礫微量。砂粒(黒色粒・透明粒含む)多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	Ⅱ区 P-761 覆土 残口~底1/3
		底 [覆4.8cm]			外 浅黄橙	
		高(残2.7cm)			焼 やや硬質	
57	土師質土器 小皿	口 8.6cm	形態・器高は低く丸味をもって立ち上がる。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。	礫少量。砂粒やや少量。白色粒・赤色粒少量。 粗い。	内 橙	Ⅱ区 L-31 グリット覆土 残口~体1/2 底2/3
		底 4.8cm			外 橙	
		高 2.0cm			焼 やや軟質	
58	土師質土器 小皿	口 [覆9.7cm]	形態・丸味をもって立つ。器高は低い。 技法・内外面ロクロナデ。体部下端から底部にかけては3mm程と薄手。底部の調整は不明。	礫(石英・輝石・白色・赤色粒)少量。 砂粒やや少量。 やや緻密。	内 明赤褐	Ⅱ区 L-31 グリット覆土 残口~体1/3 底欠損
		底 [覆5.7cm]			外 明赤褐	
		高 1.8cm			焼 やや硬質	

第15表 土師質土器小皿観察表(7)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
59	土師質土器 小皿	口 [復9.7cm]	形態・胴部中に太い凹線状のロクロ目をもつ。口縁端部は僅かに外反する。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面調整は不明。	砂粒(黒色粒・透明粒含む)多量。 やや緻密。	内 浅黄橙	Ⅱ区 P-501 覆土 残口~体1/6 底一部
		底 [復4.3cm]			外 浅黄橙	
		高 (復2.7cm)			焼 やや軟質	
60	土師質土器 小皿	口 [復9.0cm]	形態・底部は厚く段が残る。口縁部にかけ丸味をもつて立ち上がる。薄手。 技法・内外面ロクロナデ。体部外面下端ナデ。底部外面に回転系切り。	赤色粒微量。 やや緻密。	内 浅黄橙	Ⅱ区一括 残1/4
		底 [復4.4cm]			外 浅黄橙	
		高 2.7cm			焼 やや軟質	
61	土師質土器 小皿	口 [復9.6cm]	形態・体部は直線的に立ち上がる。口縁部で「くの字」に曲がり、端部が肥厚する。非常に丁寧なつくり。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのちスノコ煎。	砂粒(白色粒、石英・輝石、赤色粒含む)多量。 やや緻密。	内 にふい橙	Ⅱ区一括 残1/3
		底 4.0cm			外 にふい橙	
		高 2.9cm			焼 やや硬質	
62	土師質土器 小皿	口 10.1cm	形態・胴部中に太い凹線状のロクロ目を有し、湾曲気味に立ち上がる。口縁端部は直線的。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのちスノコ煎。	礫やや多量。砂粒(雲母片・赤色粒)やや多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	Ⅱ区一括 ほぼ完存
		底 4.5cm			外 浅黄橙	
		高 3.8cm			焼 やや軟質	
63	土師質土器 小皿	口 -	形態・体部下端丸味をもって立つ。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。	微砂粒少量。 やや緻密。	内 浅黄橙	調査区表探 残体一部 底4/5
		底 4.1cm			外 浅黄橙	
		高 (復1.4cm)			焼 やや軟質	
64	土師質土器 小皿	口 10.0cm	形態・直線的に立ち上がる。口縁端部僅かに肥厚する。 技法・内外面ロクロナデ。体部外面ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転系切りのち目の継かいスノコ煎。	礫少量。砂粒(石英・輝石含む)やや多量。 やや粗い。	内 浅黄橙	Ⅱ区表探 残口1/4 体2/3 底4/5
		底 4.4cm			外 浅黄橙	
		高 3.2cm			焼 やや硬質	
65	土師質土器 小皿	口 -	形態・直線的に立ち上がる。口縁部欠損。全体的にうすい紅色を呈する。二次的に被熱したものか。 技法・内外面ロクロナデのちナデ。底部外面回転系切り。	微砂粒少量。 やや粗い。	内 明黄褐	調査区表探 残体1/4 底1/3
		底 4.4cm			外 明黄褐	
		高 (復1.9cm)			焼 やや硬質	
66	土師質土器 小皿	口 10.6cm	形態・底径は小さく、湾曲気味に立ち上がる。口縁端部は僅かに外反する。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのちスノコ煎。	礫微量。砂粒(黒色粒・透明粒含む)多量。 やや緻密。	内 浅黄橙	Ⅴ区 SK 345 No.1 ほぼ完存
		底 4.1			外 浅黄橙	
		高 3.1cm			焼 やや軟質	
67	土師質土器 小皿	口 [復5.9cm]	形態・僅かに凹湾気味に立ち上がる。薄く小型の土器。底部外面には「壹」の墨書あり。底部内面の墨書は不明。 技法・内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ削りか。	微砂粒微量。 緻密。	内 橙	Ⅱ区 SK 367 No.10 残口1/6 体1/5 底1/3
		底 [復2.6cm]			外 橙	
		高 1.3cm			焼 硬質	

第16表 内耳土器観察表(1)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
68	内耳土器	口 [復40.0cm]	形態・内耳は4対。体部～口縁部外面スス付着。底部の破面に炭化物付着。この部分から破損したものか。 技法・口縁部外面内面ヨコナデ。口縁部外面僅かに指頭押圧ナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。体部外面下端ヘラケズリか。底部外面砂目・スノコ痕。	礫やや多量。砂粒(赤色粒・白色粒・輝石・石英)多量。 やや粗い。	内 にくい橙 外 黒褐 焼 硬質	I2区 SE-003 上層 残口～体4/5 底2/5
		底 [復31.4cm]				
		高 7.3cm				
69	内耳土器	口 [復40cm]	形態・口縁部平坦。内耳接合部分に指頭押圧あり。内面の沈線明瞭。 技法・口縁部外面内面ヨコナデ。口縁部外面部～体部外面指頭押圧及びナデ。体部～底部内面ナデ。底部外面砂目・スノコ痕。一部に段差あり。	白色・赤色礫少量。 砂粒(輝石・雲母片・石英・赤色粒)やや少量。 緻密。	内 淡赤橙 外 灰赤 焼 やや硬質	I2区 SE-003 上層 残口～体1/4 底一部
		底 [復28.6cm]				
		高 7.5cm				
70	内耳土器	口 [復40.0cm]	形態・口縁部段差なし。端部平坦。内耳細い。 技法・口縁部外面内面ヨコナデ。口縁部外面部～体部外面指頭押圧及びナデ。体部～底部内面ナデ。底部外面砂目・スノコ痕。	礫少量。砂粒(輝石・雲母片・石英粒・赤色粒)やや多量。 やや緻密。	内 橙 外 暗赤灰 焼 やや硬質	I2区 SE-003 上層 残口～底1/8
		底 [復31.2cm]				
		高 7.8cm				
71	内耳土器	口 -	形態・口縁部内面に沈線巡る。外面スス付着。 技法・口縁部外面～内面ヨコナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。底部外面砂目。体部下端(底部内端)はナデ・指頭押圧のみで、ケズリ等の成形は見られない。	白色礫少量。砂粒(赤色粒・白色粒)やや多量。 やや粗い。	内 にくい橙 外 黒褐 焼 硬質	I2区 SE-003 上層 残口～体1/4 底1/6
		底 [復28.4cm]				
		高 8.9cm				
72	内耳土器	口 [復37.4cm]	形態・口縁部僅かに内湾。口縁端部に平坦面あり。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面に沈線あり。ナデ。口縁部外面弱い指頭押圧。体部外面指頭押圧・ナデ。底部砂目か(残存少なく不明瞭)。	白色礫多量。礫微量。 砂粒(白色粒・輝石・石英粒)多量。 やや緻密。	内 にくい橙 外 黒褐 焼 硬質	I2区 SE-003 上層 残口～体1/3 底欠損
		底 [復26.8cm]				
		高 8.0cm				
73	内耳土器 浅鉢	口 [復40.0cm]	形態・口縁部平坦。端部内面が突出し縁を持つ。ススが付着するため外面黒色。 技法・口縁部外面内面ヨコナデ。内面ナデ主体。外面指頭押圧。内耳接合部指頭押圧あり。内耳の一侧面に磨減による僅かな窪みが見られる。	白色礫少量。砂粒(白色粒・輝石・石英粒含む)やや多量。 やや緻密。	内 にくい赤黒 外 赤黒 焼 硬質	II区 SD-200 覆土 残口～体2/5 底一部 (74と同一個体か)
		底 [復28.6cm]				
		高 9.2cm				
74	内耳土器	口 -	形態・口縁部平坦。内面の端部突出し縁あり。スス付着のため外面黒色。 技法・口縁部外面内面ヨコナデ。内面ナデ主体。外面指頭痕。内耳接合部指頭痕あり。内耳の一侧面に磨減による僅かな窪みが見られる。	白色礫少量。砂粒(白色粒・輝石・石英粒含む)やや多量。 やや緻密。	内 明赤褐 外 赤黒 焼 硬質	II区 SD-200 覆土 残口1/6 (73と同一個体か)
		底 -				
		高 (残5.6cm)				
75	内耳土器	口 [復39.0cm]	形態・内耳接合部分に指頭痕残る。内耳は細く大きめ。口縁部内面肥厚。外面スス付着。薄手のつくりである。 技法・口縁部外面内面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。体部下端はヘラケズリのちへラナデか。底部内面光沢帯びる。	白色礫少量。砂粒(輝石・白色粒含む)やや多量。 やや粗い。	内 灰黄褐 外 褐灰 焼 やや硬質	II区 SK-285 覆土 残口～体2/5 底欠損
		底 -				
		高 (残10.6cm)				
76	内耳土器	口 -	形態・口縁部と体部内面の境に沈線が巡る。外面スス付着。 技法・口縁部外面内面ヨコナデ。体部内面ナデか。体部外面ナデ・指頭押圧。磨減が顕著。	砂粒(赤色粒・輝石・石英含む)多量。 やや粗い。	内 橙 外 褐灰 焼 やや軟質	II区 SK-285 覆土 残口～胴1/8 底欠損
		底 -				
		高 (残7.1cm)				

第17表 内耳土器観察表(2)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
77	内耳土器	口 -	形態・口縁部内面に太めの沈線あり。外面スス付着。技法・口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデのち指頭押圧。体部外面下端のヘラケズリのちヘラナデか。底部外面スノコ痕及び砂目。外周ヘラケズリまたはヘラナデか。	白色礫微量。砂粒(輝石・長石・白色粒・赤色粒含む)やや多量。やや緻密。	内 橙	II区 SK-285 覆土 残口~胴1/8 底一部
		底 -			外 黒褐	
		高 (現10.3cm)			焼 硬質	
78	内耳土器	口 -	形態・内耳接合部分に指頭痕残る。体部外面スス全面付着。一部に厚く炭化物付着。技法・口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。	長石礫微量。砂粒(輝石・白色粒)やや多量。緻密。	内 橙	II区 SK-400 覆土 残口~体1/8
		底 -			外 暗赤灰	
		高 (現6.8cm)			焼 硬質	
79	内耳土器	口 -	形態・口縁部内面僅かに稜あり。外面スス及び炭化物付着。技法・口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ(ヨコナデか)。体部外面ナデ。指頭押圧。体部外面下端強いヘラナデか。底部外面周辺ヘラナデ。	白色礫微量。砂粒(白色粒・赤色粒含む)やや多量。やや粗い。	内 赤褐	II区 SK-400 覆土 残口~体1/8
		底 -			外 暗赤灰	
		高 8.6cm			焼 やや硬質	
80	内耳土器	口 -	形態・口縁部外面一側部上半外面スス付着。技法・口縁部内外面ヨコナデ・指頭押圧。口縁部内面ヨコナデあるいはナデ。底部内面平滑。磨滅したものか。底部外面砂目。	白色礫やや多量。砂粒(白色粒・赤色粒・輝石)やや多量。やや緻密。	内 橙	II区 SK-400 覆土 残口一部 体1/8
		底 -			外 赤灰	
		高 6.5cm			焼 硬質	
81	内耳土器	口 [復40.0cm]	形態・口縁部~体部外面スス付着。内面沈線あり。技法・口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。体部内面ナデ。体部外面下端ヘラケズリのち強いナデ。底部外面砂目。底部内面光沢あり。	白色礫微量。砂粒(白色粒・長石・石英粒含む)やや多量。やや緻密。	内 にぶい赤褐	I2区 SE-006 覆土 残口~体1/3 底一部
		底 [復29.0cm]			外 赤黒	
		高 8.7cm			焼 硬質	
82	内耳土器	口 [復38.0cm]	形態・口縁部内面に浅い沈線(段)あり。口縁部~体部外面炭化物付着。右側破面に炭化物付着。技法・口縁部内外面ヨコナデのち指頭押圧。内耳貼付けのち指頭押圧・ナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。底部外面砂目。底部内面厚風のため平滑。	白色礫少量。砂粒(白色粒・石英粒・黒色粒含む)やや多量。やや緻密。	内 灰褐	II区 SK-116 覆土 残口~体1/3 底一部
		底 [復29.0cm]			外 黒褐	
		高 9.5cm			焼 やや硬質	
83	内耳土器	口 -	形態・口縁部外面を中心にスス付着。破片断面に炭化物付着。技法・体部内面~口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。体部外面下端ヘラナデ。底部外面砂目。	礫少量。砂粒(白色粒・輝石・石英含む)多量。やや粗い。	内 にぶい橙	II区 SK-126 覆土 残1/8
		底 -			外 灰褐	
		高 9.2cm			焼 硬質	
84	内耳土器	口 32.4 ~ 34.3cm	形態・内耳は3対。口縁部内面に段を有する。技法・口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。体部外面下端ヘラケズリのちヘラナデか。底部外面砂目。	礫少量。砂粒(白色粒・輝石)多量。やや粗い。	内 橙	II区 SD-200 覆土 残口~体4/5 底一部
		底 23.0cm			外 暗褐	
		高 13.8 ~ 15.7cm			焼 硬質	
85	内耳土器	口 [復32cm]	形態・口縁部は直線的に立ち上がったのち、肥厚・内湾する。外面はススが付着し黒色を呈する。技法・口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面沈線。体部内面ナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。外面下端部ヘラナデか。底部外面砂目・スノコ痕。	白色・赤色礫やや少量。砂粒(白色粒・輝石・石英)多量。やや粗い。	内 明赤褐	II区 SD-200 覆土 残口~体2/3 底一部
		底 [復20.8cm]			外 赤黒	
		高 14.8cm			焼 やや硬質	

第18表 内耳土器観察表(3)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
86	内耳土器	口 [径34.8cm]	形態・口縁内面に沈線。口縁部丸みを帯び、外面スス付着。底部内面厚縮により光沢帯びる。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面～体部外面ナデ。指頭押圧。体部外面下端ヘラケズリあるいはヘラナデか。底部外面砂目・スノコ痕。	白色礫やや多量。砂粒(輝石・白色粒・石英粒)多量。 やや緻密。	内 明赤褐	II区 SK-413 覆土 残口～一部 底～底1/3
		底 [径23.0cm]			外 赤黒	
		高 121.3cm			焼 やや硬質	
87	内耳土器 深銅	口 31.0～31.7cm	形態・口縁部平坦。口縁部外面段あり。口縁部内面沈線あり。体部外面上半部中心に帯状にスス付着。口縁部内面中心に帯状の黒色部分ありコケカ。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。	礫少量。砂粒(白色粒・輝石含む)多量。 やや粗い。	内 橙	II区 SK-122- No.1 残口～体7/8 底欠損
		底 [径21.0cm]			外 にふい赤褐	
		高 (径14.8cm)			焼 やや硬質	
88	内耳土器 深銅	口 -	形態・口縁部内面端の沈線あり。内耳接合部分に指頭痕残り。外面炭化物(ススカ)付着。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。外面ナデ・指頭押圧。体部外面下端回転ヘラケズリか。	赤色礫やや多量。砂粒(白色粒・輝石含む)やや少量。 やや粗い。	内 橙	II区 SK-252 覆土 残口～体1/8
		底 -			外 暗赤灰	
		高 (径9.2cm)			焼 やや硬質	
89	内耳土器 深銅	口 -	形態・口縁部～体部外面スス付着。体部内面下端及び断面にコゲ付着。ヒビ割れから破損したものか。 技法・口縁部内外面ヨコナデのちナデ・指頭押圧。 内耳貼付けのちナデ。体部外面に指頭押圧・ナデ。	橙色礫少量。砂粒(白色粒・輝石含む)やや多量。 やや緻密。	内 暗赤灰	I2区 SK-052- 2層 残口～体1/8
		底 -			外 赤黒	
		高 (径9.0cm)			焼 硬質	
90	内耳土器	口 -	形態・やや厚手。口縁部は平坦。口縁部から外面全面に炭スス付着。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。内面ナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。内耳接合部の指頭押圧は少なめ。	白色・赤色礫微量。 砂粒(白色粒・石英粒・輝石含む)多量。 緻密。	内 にふい赤褐	II区 SK-122- No.1 残口～体1/8
		底 -			外 赤黒	
		高 (径9.5cm)			焼 硬質	
91	内耳土器 深銅	口 -	形態・口縁部外反したのち僅かに内湾。口縁部平坦。外面には炭化物及びススが付着する。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面内耳貼付け、ナデ。口縁部～体部外面指頭押圧及びナデ。	礫やや多量。砂粒(白色粒・石英粒・輝石含む)多量。 やや粗い。	内 橙	I2区 SE-006 覆土 残口縁部破片
		底 -			外 黒褐	
		高 (径7.7cm)			焼 硬質	
92	内耳土器	口 39.7cm	形態・楕円形に歪む。口縁部と体部の間に段差を持つ。内面には浅い沈線状の凹みが深る。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面沈線。体部～底部内面ナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。体部外面下端ヘラケズリのち一部ヘラミガキ。底部外面砂目。	白色礫多量。礫微量。 砂粒(白色粒・輝石・石英粒)多量。 やや緻密。	内 明黄褐	I2区 SE-003 覆土 ほぼ完存
		底 27.3cm			外 褐灰	
		高 8.8cm			焼 硬質	
93	内耳土器	口 -	形態・口縁部外面～体部外面スス付着。粉殻の脱殻あり。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。体部外面下端ヘラケズリ。底部外面砂目。	礫やや多量。砂粒(輝石・白色粒・赤色粒)多量。 やや粗い。	内 にふい赤褐	II区 SK-275 覆土 残口～体1/8 底一部
		底 -			外 赤黒	
		高 7.0cm			焼 硬質	
94	内耳土器	口 -	形態・口縁部は丸味を帯びる。 技法・口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面内耳貼付けのちナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。底部外面砂目か。2対の内耳の内面及び断面には、丸く磨滅した痕跡がみられる。	白色礫多量。砂粒(白色粒・石英粒・輝石含む)多量。 やや緻密。	内 にふい赤褐	IV区一括 残口～体1/8 底一部
		底 -			外 暗赤灰	
		高 (径6.5cm)			焼 硬質	

第19表 内耳土器観察表 (4)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
95	内耳土器	口 [腹38.2cm]	形態・体部立ち上りの傾斜は緩やか。外面スス付着のため黒色を帯びる。4点が接合。 技法・口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。底部内面は増減し光沢を帯びる。	礫少量。砂粒(白色粒・輝石含む)多量。 やや粗い。	内 にぶい・橙	II区SK-137 覆土 残口～体1/6 底一部
		底 [腹25.2cm]			外 黒褐	
		高 8.1cm			焼 硬質	
96	内耳土器	口 -	形態・口縁部は内湾気味に立つ。口縁端部は平坦。 技法・口縁部外内面ヨコナデ。口縁部外面～体部外面裡かに指頭押圧及びナデ。	礫少量。砂粒(石英粒・白色粒・輝石・雲母片)やや多量。 やや粗い。	内 橙	I-I区SK-058 覆土 残口～体一部
		底 -			外 橙	
		高 (残8.7cm)			焼 やや硬質	
97	内耳土器	口 -	形態・体部～口縁部外面スス付着。口縁端部平坦。 技法・口縁部外内面ヨコナデ。口縁部外面指頭押圧及びナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。	白色礫やや多量。砂粒(白色粒・輝石・雲母片含む)多量。 やや粗い。	内 にぶい・赤褐	I-I区SK-094 No.2 残口～体一部 底欠損
		底 -			外 黒	
		高 (残6.6cm)			焼 硬質	
98	内耳土器	口 [腹34.2cm]	形態・体部～口縁部外面薄くスス付着。口縁端部平坦面あり。 技法・口縁部外内面ヨコナデ。口縁部外面強い指頭押圧及びナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。	礫少量。砂粒(白色粒・輝石・石英含む)多量。 やや粗い。	内 明黄褐	II区SD-214 覆土 残口～体1/6 底欠損
		底 -			外 黒褐	
		高 (残7.0cm)			焼 やや硬質	
99	内耳土器	口 -	形態・体部～口縁部外面薄くスス付着。内耳は大きく分厚い。 技法・口縁部外内面ヨコナデ。口縁部外面強い指頭押圧及びナデ。体部外面ナデ・指頭押圧。	礫少量。砂粒(白色粒・輝石・石英含む)多量。 やや緻密。	内 橙	II区SK-410 No.1 残口～体一部 底欠損
		底 -			外 褐灰?	
		高 (残6.7cm)			焼 硬質	

第20表 陶磁器観察表(1)

図版NO.	器種	大きさ	特徴	泥和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
100	磁器 青磁碗	口 - 底 - 高 (残 4.2cm)	形態・体部下半の破片。発色悪い。 技法・筋連弁文。内外面施釉。	混入物なし。 緻密。	地 黄褐 輪 黄褐 焼 硬質	II区 SK-108 覆土 貿易陶磁器 14 c 代 残体下部破片
101	磁器 皿または碗	口 - 底 - 高 (残 2.5cm)	形態・薄手の磁器。 技法・呉須による染付け。陥入あり。	混入物なし。 やや粗い。	地 明オリーブ灰 輪 明オリーブ灰 焼 やや硬質	V区 SK-308 覆土 貿易陶磁器 15 c 末～ 16c 初頭 残口破片
102	陶器 古瀬戸 灰釉瓶子	口 [復 14.6cm] 底 - 高 (残 8.4cm)	技法・肩部3条～4条一組の沈線(カキ目か)が走る。 外面はオリーブ色の灰釉を施す。	礫少量。 やや粗い。	地 灰白 輪 オリーブ黄 焼 やや硬質	試掘トレンチ 1一括 瀬戸 14c 代 残胴上半部破片
103	陶器 志野 丸皿	口 [復 11.4cm] 底 [復 6.6cm] 高 2.6cm	技法・底部外面トトン痕。長石釉を底部外面の一部を除き厚く掛ける。	礫多量。 粗い。	地 灰白 輪 灰白 焼 軟質	I-2区 SK-O68 覆土 瀬戸・美濃産 1620 年代 残口～底 2/5
104	陶器 絵志野 皿	口 [復 12.8cm] 底 - 高 (残 2.4cm)	技法・内外面に灰白色の長石釉。内面に絵付。	混入物なし。 やや粗い。	地 灰白 輪 灰白 焼 やや軟質	II区 P-332 覆土 志野産 元辰敷京段器 (17c 初頭) 残口 1/4
105	陶器 甕	口 - 底 - 高 -	技法・外面タタキ及びナデ。内面ヘラナデ。外面薄く自然釉。破面の一边を砥石として転用。	白色礫少量。 白色粒少量。 粗い。	地 灰褐 輪 赤褐 焼 硬質	I-1区 SE-035 覆土 常滑産か 残胴部一部
106	陶器 甕	口 - 底 - 高 -	技法・輪積み成形の形。内外面ナデ指頭押痕。内面中央部を砥石に転用。	白色礫多量。 砂粒多量。 やや粗い。	地 灰黄褐 輪 赤褐 焼 良好	I-1区 SE-035 覆土 常滑産か 残胴部一部
107	陶器 播鉢	口 - 底 - 高 (残 6.6cm)	形態・内面は使用により摩滅。 技法・振り目は脚輪をあげ、疎らに施す。鉄輪は全体的に薄い。	礫多量。 白色粒多量。 やや粗い。	地 赤褐 輪 赤褐 焼 やや硬質	調査区不明 P411 美濃産 中世末～近世 初頭 残胴破片
108	陶器 播鉢	口 - 底 - 高 (残 7.3cm)	形態・口縁端部つまみ上げる。内面使用により摩滅。 技法・内面 6本一組の疎らな振り目あり。	白色礫多量。 粗い。	地 にふい赤褐 輪 にふい赤褐 焼 やや硬質	II区 SK-400 覆土 丹波産 17 c 代 残口破片
109	陶器 播鉢	口 [復 27.8cm] 底 - 高 (残 3.8cm)	形態・口縁部内向玉縁。内面は明確な線を持つ。 技法・鉄輪。振り目は 12 本単位。	白色礫少量。 砂粒やや多量。 やや粗い。	地 灰白 輪 褐 焼 やや硬質	II区 SD-410 覆土 瀬戸・美濃産 18 c 初 頭 残口 1/3
110	陶器 丸碗 (尾呂茶碗)	口 [復 11.0cm] 底 - 高 (残 6.0cm)	形態・口縁部は直線的に立ち上がる。内面茶笈の跡。 技法・内外面に鉄輪のち、内外面に「うのふ」輪。	砂粒混入。 やや粗い。	地 灰白 輪 黄褐 焼 やや硬質	II区 SD-410 覆土 瀬戸・美濃産 18 c 初 頭 残口～体 1/4
111	陶器 丸碗	口 - 底 [復 5.6cm] 高 (残 5.2cm)	技法・内外面鉄輪。底部無輪。	白色礫少量。 やや粗い。	地 明黄褐 輪 オリーブ褐 焼 やや硬質	II区 SD-410 覆土(溝 底部) 美濃産産か 17c 後葉 ～ 18 c 前葉 残底 1/2
112	陶器 丸碗 (尾呂茶碗)	口 - 底 [復 5.4cm] 高 (残 2.3cm)	形態・内面茶笈器りあり。 技法・鉄輪の尾呂茶碗。体部外面下端から底部外面無輪。	白色粒少量。 やや粗い。	地 浅黄褐 輪 黄褐 焼 やや硬質	II区 SK-400 覆土 瀬戸・美濃産 17 c 後 葉～ 18 c 前葉 残底 完存

第21表 陶磁器観察表(2)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
113	陶器小碗 (尾呂茶碗)	口 7.5cm	形態・小型の尾呂茶碗。 技法・体部外面下部から高台部無軸。	砂粒多量。 やや粗い。	地 灰黄	I - 2区 SK.061 覆土 瀬戸・美濃産 17 c 後葉 ~ 18 c 前葉 完存
		底 4.0cm			軸 オリーブ褐	
		高 4.1cm			焼 やや軟質	
114	陶器丸碗 (柳茶碗)	口 -	技法・外面鉄軸による染給付(サビ給)。高台部無軸。	礫微量。 砂粒微量。 やや粗い。	地 白黄	V区 SK.366 覆土 瀬戸・美濃産 18 c 後半 残体~底 1/4
		底 -			軸 灰白	
		高 (残 2.8cm)			焼 やや軟質	
115	陶器丸碗	口 [復 5.8cm]	形態・小型の小杯。 技法・灰軸を施す。高台部無軸。	砂粒少量。 やや緻密。	地 灰白	V区 SK.365 No.14 瀬戸・美濃産 残 1/2
		底 [復 3.0cm]			軸 灰白	
		高 3.4cm			焼 硬質	
116	陶器小杯	口 [復 5.8cm]	形態・小型の小杯。内面の一部に顔料付着。 技法・灰軸は薄く、体部下面~底部外面無軸。	礫混入。 やや粗い。	地 淡黄	V区 SK.365 No.3 瀬戸・美濃産か 17c 後葉~18 c 初 残底 1/2
		底 [復 2.8cm]			軸 淡黄	
		高 3.2cm			焼 やや軟質	
117	陶器丸碗 (腰鉋碗)	口 -	技法・内面鉄軸。外面鉄軸の掛け分けの碗。破面が 黒色。破損後被熱したものか。	混入物なし。 やや粗い。	地 浅黄	V区 SK.365 No.6 瀬戸・美濃産 18 c 末 ~ 19 c 初葉 残底 完存
		底 4.0cm			軸 暗赤褐	
		高 (残 2.0cm)			焼 やや軟質	
118	磁器 神酒徳利 (鶴徳利)	胴 [復 6.9cm]	技法・内面無軸。ロクロ目明確。外面染給付。	混入物なし。 緻密。	地 にふい・黄橙	V区 SK.365 No.4.9 肥前系か 18 c 後半 代か 残 胴 1/2
		底 -			軸 明緑灰	
		高 (残 7.1cm)			焼 硬質	
119	磁器皿	口 [復 24.2cm]	形態・中皿。 技法・内面全面に牡丹唐草の染給付。入念な造り。	混入物なし。 やや緻密。	地 灰白	V区 SK.307 フク上一括 肥前系 18 c 後半 残口~底 1/6
		底 [復 14.0cm]			軸 灰白	
		高 4.3cm			焼 硬質	
120	磁器中皿	口 [復 13.4cm]	形態・やや厚手(くらわんか手)。 技法・内面中央部にコンニャク印版。染給付。	混入物なし。 緻密。	地 明緑灰	V区 SK.365 No.17 肥前系 18 c 代後半か 残口一部 体~底 1/6
		底 [復 7.2cm]			軸 明緑灰	
		高 2.6cm			焼 硬質	
121	磁器小碗	口 [復 9.2cm]	形態・厚手(くらわんか手)。丸みを持って立ち上 がる。 技法・染め付け。呉須の発色悪い。	混入物なし。 やや緻密。	地 明オリーブ灰	V区 SK.366 覆土 肥前系 18 c 以降 残口~底 1/4
		底 -			軸 明オリーブ灰	
		高 (残 3.5cm)			焼 硬質	
122	磁器皿	口 [復 14.0cm]	形態・やや厚手(くらわんか手)。 技法・染給付により草木の文様を描く。	混入物なし。 やや緻密。	地 明緑灰	V区 SK.364 覆土 肥前系 18 c 以降 残口 1/5
		底 -			軸 明緑灰	
		高 (残 2.6cm)			焼 硬質	
123	磁器小皿	口 10.0cm	形態・厚手(くらわんか手)。5点の破片が接合。 技法・内外面に染給付。見込みにコンニャク印判。	混入物なし。 やや緻密。	地 明オリーブ灰	V区 SK.365 No.10・ 13・23 SK.364 覆土 肥前系 18 c 以降 残一部欠損
		底 4.8cm			軸 明オリーブ灰	
		高 2.8cm			焼 やや硬質	
124	陶器小杯	口 [復 5.9cm]	形態・小型で薄手。 技法・灰白色の長石釉を全面に施す。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK.364 覆土 肥前系 18 c 以降 残 1/4
		底 [復 2.4cm]			軸 灰白	
		高 2.5cm			焼 やや硬質	
125	磁器碗 (蓋)	口 9.5cm	形態・口縁部は平皿で内面に肥厚。 技法・細めの線も交えた丁寧な染給付。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK.307 覆土 肥前系 18 c 第2四半 残口~底 3/5
		底 3.7cm			軸 灰白	
		高 2.8cm			焼 硬質	
126	磁器香炉	口 [復 10.1cm]	形態・口縁部は平皿で内面に肥厚。 技法・体部内面は無軸。外面染給付(磨塔文)。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK.365 No.18 肥前系 18 c 後葉 残口 1/4
		底 -			軸 明緑灰	
		高 (残 4.5cm)			焼 硬質	

第22表 陶磁器観察表(3)

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	泥入材・胎土	色調・焼成	備考・残存
127	陶器 碗 (広東産)	口 [復11.1cm]	形態・急角度で立ち上がる。 技法・呉須による染付け。	泥入物なし。 緻密。	地 灰白 輪 明緑灰 焼 硬質	VIK SK-364 No.1 肥前系 18 c 後葉 残口~体 1/3
		底 -				
		高 (残4.8cm)				
128	陶器 德利	口 -	形態・五合徳利か。 技法・体部外面下端ヘラケズリ。底部外面まで灰輪軸。	砂粒多量。 やや緻密。	地 浅黄 輪 浅黄 焼 硬質	I 2区 SK-SK061 覆上 瀬戸・美濃産 18 c 中 葉 残底 1/5
		底 [復11.8cm]				
		高 (残2.5cm)				
129	陶器 燗鉢	口 [復31.0cm]	形態・口縁部は厚く、内外面に沈線を有する。 技法・10本一組の深い振り目を密に施す。体部下 半~底部内面は摩滅。	白色礫多量。 砂粒多量。 やや粗い。	地 橙 輪 赤褐 焼 硬質	VIK SK-369 覆上 堺・明石産 19 c 前半 残 1/5
		底 [復15.6cm]				
		高 13.1cm				
130	陶器 灯明皿 (油受皿)	口 9.4cm	形態・口縁端部で直線的に立ち上がる。 技法・受けの一端を内面から外へ切り欠く。鉄軸。 外面には火罨あり。	礫少量。 砂粒少量。 緻密。	地 暗赤褐 輪 褐 焼 硬質	VIK SK-307 覆上 瀬戸・美濃産 19 c 中 葉 完存
		底 4.4cm				
		高 2.0cm				
131	磁器 碗	口 [復9.0cm]	形態・端外碗。 技法・コバルトによる染付け。	泥入物なし。 緻密。	地 明緑灰 輪 明緑灰 焼 硬質	VIK SK-365 No.22 瀬戸・美濃産 19 c 第 2 四半 残 2/5
		底 [復4.0cm]				
		高 4.8cm				
132	磁器 碗	口 [復10.8cm]	形態・端外碗。 技法・内外面に型紙摺絵。	泥入物なし。 緻密。	地 灰白 輪 灰白 焼 硬質	VIK SK-366 No.1 美濃産 19 c 第4四半 (明治10~24) 残口一部 体~底 4/5
		底 [復3.8cm]				
		高 5.3cm				
133	磁器 碗	口 10.6cm	形態・端反碗。 技法・内外面型紙摺絵。	泥入物なし。 緻密。	地 灰白 輪 灰白 焼 硬質	VIK SK-307一括 美濃産 19 c 第4四半 (明治10~24) 残口一部 体~底 4/5
		底 3.8cm				
		高 5.0cm				
134	磁器 碗	口 [復11.6cm]	形態・口縁部は直線的に立ち上がる。 技法・型紙摺絵。	泥入物なし。 緻密。	地 明青灰 輪 明青灰 焼 硬質	II区 SK-284 覆上 美濃産 19 c 第4四半 (明治10~24) 残口~底 1/4
		底 [復4.6cm]				
		高 4.6cm				
135	磁器 碗	口 -	形態・厚さ0.2cmと薄手。 技法・型紙摺絵。	泥入物なし。 緻密。	地 白 輪 藍 焼 硬質	I 4区 SI-238 覆上 美濃産 19 c 第4四半 (明治10~24) か 残口一部
		底 -				
		高 (残2.0cm)				
136	磁器 燗德利	口 [復2.9cm]	形態・厚さ0.2cmと薄手。 技法・体部内面無軸。口縁部型紙摺絵。	泥入物なし。 緻密。	地 灰白 輪 灰白 焼 硬質	II区 SK-284 覆上 美濃産 19 c 第4四半 (明治10~24) か 残口1/5
		底 -				
		高 (残4.5cm)				
137	磁器 碗	口 10.8cm	形態・端反碗。 技法・呉須(コバルト)による染付け。	泥入物なし。 緻密。	地 灰白 輪 灰白 焼 硬質	VIK SK-307 覆上 瀬戸・美濃産 19 c 第4四半 (明治10~ 24) 残口~体 2/3
		底 3.9cm				
		高 5.7cm				
138	磁器 碗	口 10.5cm	形態・端反碗。 技法・呉須(コバルト?)による染付け。	泥入物なし。 緻密。	地 灰白 輪 灰白 焼 硬質	VIK SK-307 覆上 瀬戸・美濃産 19 c 第4四半 (明治10~ 24) 残口~底 1/2
		底 4.0cm				
		高 5.4cm				
139	磁器 碗	口 [復10.6cm]	形態・口縁は直線的に立ち上がる。 技法・コバルトによる染付け。	泥入物なし。 緻密。	地 灰白 輪 灰白 焼 硬質	VIK SK-307 覆上 瀬戸・美濃産 19 c 第4四半 (明治10~ 24) 残口~底 1/2
		底 4.0cm				
		高 5.6cm				

第23表 陶磁器観察表(4)

用載 NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
140	磁器 碗	口 [復12.0cm]	形態・口縁は内湾気味に立ち上がる。 技法・染付け	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK-307 覆土 瀬戸・美濃産 19 c 第4四半(明治10～ 24) 残口～底 1/2
		底 4.2cm			輪 明緑灰	
		高 4.6cm			焼 硬質	
141	磁器 碗	口 [復8.0cm]	形態・小型の端外碗。 技法・染付け。	混入物なし。 緻密。	地 明オリーブ灰	V区 SK-365 No.12 瀬戸・美濃産 19 c 第4四半(明治10～ 24) 残口～底 1/4
		底 [復3.2cm]			輪 明オリーブ灰	
		高 4.5cm			焼 硬質	
142	白磁 碗	口 -	形態・口縁端部小さく外反。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	II区 SE-003 覆土 中世か 残口一部
		底 -			輪 灰白	
		高 (残3.0cm)			焼 硬質	
143	磁器 小杯	口 [復6.8cm]	形態・高台は小径で厚手。 技法・染付け。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK-370 覆土 瀬戸・美濃産 19 c 第 3四半～第4四半(第 未から近代か) 残口～体 1/2
		底 2.4cm			輪 明緑灰	
		高 4.6cm			焼 硬質	
144	磁器 皿	口 [復13.0cm]	形態・蛇の目高台。 技法・染付け。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	II区 SK-284 覆土 肥前系か 19 c 第4四 半以降か 残 1/5
		底 [復6.2cm]			輪 灰白	
		高 3.6cm			焼 硬質	
145	磁器 類鉢利	口 -	形態・胴部はゆるやかな丸みをもつ。 技法・内面無釉。染絵付。	混入物なし。 やや緻密。	地 灰白	V区 SK-307 覆土 肥前系か。18 c～ 19 c代。 残胴一部
		底 -			輪 灰白	
		高 (残5.3cm)			焼 やや硬質	
146	磁器 小杯	口 [復5.2cm]	形態・体下部で屈曲し直線的に立つ。 技法・染付け。文字手書き。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK-307 覆土 瀬戸・美濃産 近代以 降 残 口～底 1/2
		底 2.6cm			輪 灰白	
		高 5.8cm			焼 硬質	
147	磁器 碗(蓋)	口 8.7cm	形態・端反碗の蓋。 技法・染絵付。天井部内面に存の文字。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK-307 覆土 肥前系 近世末(近代 まで下がるか) 残口～体 2/3
		底 3.3cm			輪 明緑灰	
		高 2.7cm			焼 硬質	
148	磁器 碗(蓋)	口 [復9.2cm]	形態・端反碗の蓋。 技法・染絵付。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK-307 覆土 肥前系 近世末(近代 まで下がるか) 残口～体 1/3
		底 [復3.5cm]			輪 灰白	
		高 3.1cm			焼 硬質	
149	磁器 皿	口 -	技法・蛇の目高台、松竹梅の本型打ち込みの染 付け。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK-307 覆土 瀬戸・美濃産か 19 c 後半 残口欠損 底 1/2
		底 [復6.4cm]			輪 灰白	
		高 (残2.7cm)			焼 硬質	
150	磁器 皿	口 10.8cm	技法・銅版転写か。青と緑の多色刷。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK-307 覆土 美濃産 明治30年以 降 残口～底 1/2
		底 6.0cm			輪 灰白	
		高 2.4cm			焼 硬質	
151	磁器 平碗	口 -	形態・薄手の平碗。 技法・手書きあるいは銅版転写か。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	V区 SK-377 No.8 近代以降か 残口一部
		底 -			輪 明緑灰	
		高 (残2.9cm)			焼 硬質	
152	磁器 皿	口 [復13.0cm]	技法・ハマグリ文様の銅版転写。	混入物なし。 やや緻密。	地 灰白	V区 SK-367 No.7 大正・昭和期か 残 1/5
		底 [復7.8cm]			輪 灰白	
		高 2.6cm			焼 硬質	

第24表 陶磁器観察表(5)

図版NO.	器種	大きさ	特徴	泥和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
153	磁器 小坏	口 -	形態・口縁は直線的に立ち上がる。 技法・染付け。	混入物なし。 やや緻密。	地 灰白	VI区 SK-307 フクス上 一括 19 c後半 残底～底1/2
		底 3.6cm			輪 灰白	
		高 (残3.7cm)			焼 やや硬質	
154	陶器 蓋	口 [直径4.7cm]	技法・天井部(上面)のみ輪軸。天井部の端部に沈 線あり。	砂粒少量。 やや粗い。	地 灰白	VI区 SK-365 No.19 19 c後半～20 c前 半 残1/2 つまみ欠損
		底 -			輪 黒褐	
		高 (残2.3cm)			焼 やや硬質	
155	陶器 灯明皿	口 [直径10.2cm]	形態・厚さ0.2cmと薄手。 技法・体部外面下半～底部無軸。	砂粒少量。 緻密。	地 にぶい赤褐	II区 SK-211 覆土 志戸呂産 19 c 覆土か 残口一部 体1/3
		底 [直径5.2cm]			輪 灰赤	
		高 1.9cm			焼 硬質	
156	陶器 控ね鉢	口 -	形態・底部内面磨り跡あり。トチン跡を削った痕跡 あり。 技法・胴部外面下半～底部外面は無軸、ヘラケズリ 成形。	砂粒少量。 やや粗い。	地 明赤褐	VI区 SK-377 No.5 産地不明(北関東か ら南東北産か) 19 c 代か 残 底完存
		底 10.8cm			輪 黄褐	
		高 (残3.6cm)			焼 やや硬質	
157	磁器 皿	口 -	形態・やや厚手、口縁端部で小さく外反する。 技法・口縁内面に赤染付けあり。	混入物なし。 やや緻密。	地 灰白	VI区 SK-377 No.4 18 c～19 c 代 残口一部
		底 -			輪 灰白	
		高 (残2.7cm)			焼 やや硬質	
158	磁器 蓋物 (蓋)	口 最大13.0cm	形態・ほぼ完形品。焼跡の痕跡あり。 技法・尻頭による下給付のち、赤・緑・紫・ピンク の上給付け。天井部にブリッジ状のツマミ。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	VI区 SK-307 覆土一 括 18 c後半～19 c 代 完存
		底 -			輪 灰白	
		高 4.4cm			焼 硬質	
159	磁器 蓋物	口 [直径12.6cm]	形態・口縁端部平坦で、無軸。 技法・赤染による下給付あり。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	VI区 SK-366 覆土一 括 18 c後半～19 c 代 残口1/6
		底 -			輪 灰白	
		高 (残2.7cm)			焼 硬質	
160	磁器 蓋物 (身)	口 [直径12.6cm]	形態・口縁端部平坦で、無軸。 技法・尻頭による下給付のち、赤染・緑の上給付け。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	VI区 SK-307 覆土一 括 18 c後半～19 c 代 残口一部
		底 -			輪 灰白	
		高 (残4.2cm)			焼 硬質	
161	陶器 仏飯具	口 [直径5.0cm]	技法・内外面ロクロナデ。無軸。脚部貼付け。	砂粒少量。 やや粗い。	地 灰白	II区 SK-284 覆土 美濃産 残 坏部1/4 脚部欠 損
		底 -			輪 灰白	
		高 (残2.7cm)			焼 やや硬質	
162	陶器 仏飯具	口 -	技法・ロクロ仕上げ。脚部貼付け。無軸。脚部中空。	砂粒少量。 やや粗い。	地 淡黄	VI区 SK-365 No.20 美濃産か 残 坏部1/2 脚部・ 口縁部欠損
		底 -			輪 淡黄	
		高 (残3.0cm)			焼 やや硬質	
163	磁器 仏飯具	口 6.2cm	技法・コバルト軸。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	I-4区 SI-238 覆土 19 c以降 残 坏部1/3 脚部・ 口縁部欠損
		底 -			輪 青	
		高 (残2.3cm)			焼 硬質	
164	磁器 仏飯具	口 5.7cm	技法・赤染のち、赤・青・黄の上給付け。	混入物なし。 緻密。	地 灰白	VI区 SK-307 覆土一 括 18 c後半～19 c 代 残 坏部～脚部1/2
		底 3.6cm			輪 灰白	
		高 4.4cm			焼 硬質	
165	磁器 仏飯具	口 [直径5.8cm]	技法・外面の花文は型紙か。	混入物なし。 やや緻密。	地 灰白	VI区 SK-307 覆土一 括 18 c後半～19 c 代 残 坏部～脚部1/2
		底 [直径3.8cm]			輪 灰白	
		高 4.6cm			焼 やや硬質	

第25表 土器類観察表

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考・残存
166	瓦質土器 甕	口 -	形態・内傾気味に立ち上がったの外へ大きく肥厚する。口縁端部は概ね平坦だが中央部が円縁状へこむ。 技法・口縁外内面コナデか。内面ナデ・指頭押圧。櫛歯状工具による波状文が見られる。	礫（長石か）多量。 砂粒多量。雲母片やや多量。 粗い。	内 橙	I-2区 SE-003 覆上下層 残口一部
		底 -			外 明赤褐	
		高（残6.5cm）			焼 やや軟質	
167	瓦質土器 甕	口 -	形態・肩部の破片。内傾気味に立ち上がる。 技法・内面ナデ・指頭押圧。外面ナデのち幅広の櫛歯状工具による波状文が施される。	礫（長石か）多量。 砂粒多量。雲母片やや多量。 粗い。	内 橙	I-2区 SE-003 覆上下層 残口一部
		底 -			外 橙	
		高（残7.7cm）			焼 やや軟質	
168	瓦質土器 蓋	口 -	形態・角断面のリング状のツمامを持つ。 技法・クロコナデのち黒色の軸を施す。	砂粒多量。 やや粗い。	内 黒褐	II区 SK-218 覆上 残ツمام部のみ残存
		ツمام径 5.0cm			外 黒	
		高（残1.7cm）			焼 やや硬質	
169	瓦質土器 香炉	口 [残10.4]	形態・直線的に立ち上がる。口縁端部は平坦。 技法・内外面口クロコナデ。内面強いヘラナデ。底面端部に脚部が付く。単位は不明。口縁に平行して走る二条の波線間に六角形のスタンプ文を施す。	白色礫少量。 砂粒（白色粒・輝石・石英含む）多量。 やや粗い。	内 灰赤	II区 SK-272 覆上 残口1/4 体～底1/2
		底 [残9.0cm]			外 灰赤	
		高（残6.4cm）			焼 やや硬質	

第26表 土製品（土鈴）観察表

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考
170	土鈴	高 5.1cm	形態・鋳は人あるいはサルを模したものか。外殻は球状。 技法・鈴口は長方形に切り込む。内面には珠を紙で包んだシワが残る。外面には褐色の顔料が一部残る。	白色礫少量。 キメ細かく緻密。	内 淡黄	II区 SE-172 覆上 残外殻部 1/2 欠損
		幅 [残3.3cm]			外 淡黄	
		厚 [残2.8cm]			やや硬質	
171	土鈴	高（残3.3cm）	形態・クルミに似た外観を持つ。つまみ（鋳）には両方向からの孔を持つ。 技法・外殻外面はナデ。内面には珠を紙で包んだシワが残る。鈴口は長方形の切り込みの一部が見られる。	白色礫少量。 白色粒やや少量。 やや粗い。	内 灰褐	II区 SK-220 覆上 残 1/2
		幅 [残2.9cm]			外 橙	
		厚 [残2.1cm]			焼 やや軟質	

第27表 土製品（土人形）観察表

掲載NO.	器種	大きさ	特徴	混和材・胎土	色調・焼成	備考
172	土人形 大黒天か	高 (残9.4cm)	形態・大黒様腹部と右側の米俵の一部が残る。 技法・型づくり。内面はナデ、指頭押圧、ヘラケズリ。下面端部はヘラケズリのちなデ。	礫少量。砂粒 (輝石・白色 粒) やや多量。 白色針状物微 量。 やや粗い。	内 橙	II区SD-410 覆土 残一部
		幅 (残4.3cm)			外 橙	
		厚 (残1.3cm)			焼 やや軟質	
173	土人形 恵比寿天か	高 (残8.1cm)	形態・腹部～脚部の前面が残る。 技法・型づくり。内面はナデ、指頭押圧、ヘラナデ。 下面端部はヘラケズリ。	礫少量。砂粒 (輝石・白色 粒) やや多量。 やや粗い。	内 にふい橙	II区SD-410 覆土 残一部
		幅 (残6.5cm)			外 橙	
		厚 (残1.7cm)			焼 やや軟質	
174	土人形 恵比寿天か	高 (残11.2cm)	形態・顔面～脚部の前面が残る。 技法・型づくり。内面はナデ、指頭押圧、ヘラナデ。	礫少量。砂粒 (白色粒・石 英・輝石) 多 量。 やや粗い。	内 にふい橙	II区SK-408 覆土 残一部
		幅 (残4.0cm)			外 にふい橙	
		厚 (残1.6cm)			焼 やや軟質	
175	土人形 大黒天か	高 (残3.9cm)	形態・胸～腹部の一部が残る。 技法・型づくり。内面は指頭押圧、ナデ。	礫少量。砂粒 (白色粒・赤 色粒) やや多 量。 やや粗い。	内 灰黄	II区SK-408 覆土 残一部
		幅 (残3.9cm)			外 橙	
		厚 (残1.2cm)			焼 やや軟質	
176	土人形 大黒天	高 (残3.4cm)	形態・俵の一部が残る。 技法・型づくり。内面は指頭押圧、ナデ。下面端部 はヘラナデか。	礫少量。砂粒 (輝石・石英・ 白色粒) やや 多量。白色針 状物微量。 やや粗い。	内 灰褐	II区SK-408 覆土 残一部
		幅 (残2.7cm)			外 にふい橙	
		厚 (残1.4cm)			焼 やや軟質	
177	土人形 不明	高 (残3.5cm)	形態・腹あるいは帽子の一部か。 技法・型づくり。唐草文風の浮線文が見られる。内 面は指頭押圧、ナデ。	礫少量。砂粒 (輝石・石英・ 白色粒) やや 多量。白色針 状物微量。 やや粗い。	内 橙	II区SK-408 覆土 残一部
		幅 (残2.8cm)			外 橙	
		厚 (残3.8cm)			焼 やや軟質	
178	土人形 大黒天か	高 (残6.4cm)	形態・肩から下の右半身と俵の一部が残る。 技法・型づくり。内面はナデ、指頭押圧、ヘラナデ。	礫少量。砂粒 (白色粒・石 英) 少量。白 色針状物微 量。 やや粗い。	内 灰褐	II区SK-408 覆土 残一部
		幅 (残4.5cm)			外 橙	
		厚 (残1.5cm)			焼 やや軟質	
179	土人形 大黒天	高 (残4.9cm)	形態・左半身の肩から下が残る。製袋と袋の一部が 見られる。 技法・型づくり。内面は指頭押圧。	礫多量。砂粒 (輝石・石英・ 白色粒) 極め て多量。 やや粗い。	内 にふい橙	II区SK-365 No.11 残一部
		幅 (残2.4cm)			外 橙	
		厚 (残1.0cm)			焼 やや硬質	

第28表 鉄製品観察表 (1)

用載 NO.	器種	大きさ	重量	特徴	備考・残存
180	刀子か	長 (残 5.4cm)	5.81g	両端部を欠損するため全形は不明。破片左側の断面形状から刀子の可能性はある。	II区 調査区内 覆土 両端部欠損
		幅 (残 1.1cm)			
		厚 (残 0.2cm)			
181	刀子か	長 (残 5.3cm)	11.98g	全体の形状は不明。断面形から刀子の可能性はある。	II区 SK 284 覆土 両端部欠損
		幅 (残 1.3cm)			
		厚 (残 0.5cm)			
182	釘	長 (残 5.0cm)	12.42g	幅広い釘。頭部をL字形に曲げている。図中左側方向に幅広く広げている。	II区 SK 284 覆土 下端部 (先端部) 一部欠損
		幅 (残 1.9cm)			
		厚 (残 0.5cm)			
183	釘	長 (残 7.9cm)	14.53g	平坦な釘の頂部を一方に曲げている。先端部一部欠損。断面正方形。	1-5区 SK 007 覆土 先端部欠損
		幅 (残 1.3cm)			
		厚 -			
184	釘か	長 (残 5.4cm)	2.52g	頂部を欠損するため、全形は不明。断面は円形に近い。	II区 P-679 No.1 頂部欠損
		幅 (残 0.4cm)			
		厚 -			
185	釘	長 (残 5.8cm)	1.3g	幅広い釘。全体的に木質が付着する (木質は釘と平行する)。	II区 P-800 覆土 先端部欠損
		幅 (残 1.3cm)			
		厚 -			
186	釘か	長 (残 7.3cm)	15.45g	断面は長方形。上下端部を欠損。	II区 P-727 覆土 上下端部を欠損
		幅 (残 0.6cm)			
		厚 -			
187	釘	長 (残 3.5cm)	3.48g	頭部平坦面を図中左側のみ広げている。断面方形か。	II区 SD 200 覆土 先端部欠損
		幅 (残 0.7cm)			
		厚 (残 0.4cm)			
188	不明 鉄製品	長 (残 4.3cm)	7.78g	図上部の幅広い部分を丸く曲げている。断面長方形の素材を用いる。	II区 SK 211 覆土 両端部を欠損
		幅 (残 1.1cm)			
		厚 (残 0.4cm)			
189	不明 鉄製品	長 (残 8.8cm)	9.02g	図上側の幅広い部分は、くの字に曲がる。下端部は鍵の手状に内側に短く曲げている。断面は薄い長方形。厚さは一定。	II区 SK 252 覆土 上半部欠損
		幅 (残 1.7cm)			
		厚 (残 0.3cm)			
190	鋳物	長 (残 8.3cm)	69.38g	6mm程の厚手の鉄製品。鋳物 (鋼等か) 口縁部の可能性がある。跡による歪み・ひび割れが顕著。	II区 P-541 覆土 口縁部一部残存
		幅 (残 5.9cm)			
		厚 (残 0.6cm)			
191	刀か	長 (残 9.2cm)	105.87g	鋳造した刀の柄部破片と考えられる。跡が進み3枚に割かれている。歪み剥落が顕著なため数値は参考。	II区 SD 200 覆土 刃部は欠損
		幅 (残 2.6cm)			
		厚 (残 1.4cm)			
192	釘か	長 (残 7.5cm)	28.34g	釘か。両端部を欠損するため全形は不明。角断面。	IV区 覆土 No.4 両端部欠損
		幅 (残 0.5cm)			
		厚 -			
193	釘か	長 (残 9.3cm)	15.35g	断面長方形とみられる製品。長軸両端は細くなる。	IV区 覆土 No.3 両端部欠損
		幅 (残 0.7cm)			
		厚 (残 5.7cm)			
194	か曜	長 (残 3.8cm)	23.73g	鉄滓の付着したか曜の破片。端部は溶解し一部発泡している。胎土には繊維 (フラ) 混入。	I1区 SK 058 覆土 一部残存
		幅 (残 3.6cm)			
		厚 (残 2.5cm)			
195	鉄滓	長 (残 5.3cm)	51.54g	椀形鏡治滓。羽口溶解のガラス質滓が上面にある軽質の小型滓。小さな破面が1か所見られる。	VI区 P 075 覆土 一部残存
		幅 (残 4.3cm)			
		厚 (残 3.0cm)			
196	鉄滓	長 (残 4.9cm)	25.49g	椀形鏡治滓。小さな破面が2か所見られる。	II区 SD 200 覆土 部分欠損
		幅 (残 3.4cm)			
		厚 (残 2.7cm)			

第29表 鉄製品観察表(2)

図版NO.	器種	大きさ	重量	特徴	備考・残存
197	釘	長 (残 4.1cm)	2.85g	先端部を一方に曲げている。頂部はやや丸みを帯びている。断面は正方形と思われる。木質部が多く付着。	V区 SK-366 覆土 ほぼ完存
		幅 (残 0.9cm)			
		厚 -			
198	釘か	長 (残 6.4cm)	7.35g	上端部を欠損するため頂部形状は不明。先端は鋭い。断面は正方形。	V区 SK-366 覆土 上端部欠損
		幅 (残 0.4cm)			
		厚 -			
199	釘	長 (残 6.1cm)	3.4g	頂部を欠損するため、全形は不明。中央部より折損。上部は垂直方向下部は水平方向の木目が見られる。断面は正方形か。	V区 SK-367 No.9 頂部欠損
		幅 (残 0.4cm)			
		厚 -			
200	不明 鉄製品	長 (残 2.4cm)	2.69g	孔を持つ板状の鉄材に、釘を斜めに打ち込んだものか。釘には木質が付着する。	V区 SK-367 覆土 一部残存
		幅 (残 1.5cm)			
		厚 (残 0.2cm)			
201	釘	長 (残 2.7cm)	11.56g	木材に対し、釘を斜めに打ち付けている。断面は正方形。先端部を欠損する。	V区 SK-367 覆土 先端部欠損
		幅 (残 1.0cm)			
		厚 -			
202	釘	長 (残 2.8cm)	1.53g	頂部はやや厚く、直角に曲げる。断面は正方形。下半部～先端部を欠損する。	V区 SK-367 覆土 1/2程度か
		幅 (残 0.8cm)			
		厚 -			
203	釘	長 (残 3.1cm)	1.13g	頂部の幅は薄く広め。ほぼ垂直に曲げている。断面は正方形。木質が付着する。先端部を欠損する。	V区 SK-367 覆土 先端部欠損
		幅 (残 0.6cm)			
		厚 -			
204	刀か	長 (残 4.3cm)	14.83g	鋼を軟鉄で挟み鍛えた刀(日本刀など)の可能性ある。	V区 SK-367 覆土 一部残存
		幅 (残 2.8cm)			
		厚 (残 0.7cm)			
205	不明 鉄製品	長 (残 6.8cm)	28.12g	厚さ2mm程の平らな板状の素材をゆるやかに「く」折り曲げている。	V区 SK-367 覆土 一部残存
		幅 (残 5.7cm)			
		厚 (残 0.2cm)			
206	火箸か	長 (残 26.0cm)	32.75g	遺存状況が悪いため、端部の状況は不明。若干曲がっている。断面形は円形と思われる。	V区 SK-367 No.9 一部欠損
		幅 (残 0.6cm)			
		厚 -			
207	釘	長 (残 2.5cm)	0.72g	細めの釘。頂部は平たく、平面形は円形を呈する。軸の断面形も円形と思われる。	V区 SK-377 覆土 先端部欠損
		幅 (残 0.5cm)			
		厚 -			
208	釘	長 (残 2.8cm)	1.07g	細めの釘。頂部は平たく、平面形は円形を呈する。軸の断面形も円形と思われる。	V区 SK-377 覆土 先端部欠損
		幅 (残 0.5cm)			
		厚 -			
209	不明 鉄製品	長 (残 5.5cm)	2.96g	厚さ1mm程と薄く、筒状あるいは容器状を呈する可能性がある。端部(口縁部)は5mm程の幅で、外側に屈曲させている。	V区 SK-377 覆土 口～体一部
		幅 (残 2.7cm)			
		厚 (残 0.1cm)			
210	鎌	長 (残 12.6cm)	43.02g	刃部は直線的に延びる。峰は緩やかなカーブを描き、断面は平坦である。	V区 SK-377 No.1 切先及び基部欠損
		幅 (残 4.7cm)			
		厚 (残 0.4cm)			
211	釘か	長 (残 15.0cm)	21.3g	2か所で大きく曲がる。径は細めだが釘(五寸釘)の可能性ある。断面は円形に近い。	V区 SK-377 覆土 両端部欠損
		幅 (残 0.5cm)			
		厚 -			
212	ハサミか	長 (残 9.4cm)	27.2g	太めの丸断面の鉄棒を素材とし、曲げて交差させている。先端部の形状は不明だが、鋏の可能性ある。	V区 SK-377 覆土 一部残存
		幅 (残 3.4cm)			
		厚 (径残 0.6cm)			

第30表 銅製品・その他の金属製品観察表

掲載NO.	器種	大きさ	重量	特徴	備考・残存
213	キセル 扉首部	長 (残6.5cm)	残7.87g	火皿内面にはタールが厚く付着する。遺の曲りは大きく、断面はやや扁平。扉部は羅字の接合付近で破断している。折り曲げ、ねじ切られたような痕跡を残す。扉部の接合面の厚さは0.45～0.55mmである。	Ⅱ区 P-056 No.1 残存不明
		幅 (火皿縁部径) 1.55cm			
		厚 0.45～0.55cm (火皿部分厚さ0.29cm)			
214	不明銅製品	長 (残1.9cm)	残1.48g	厚さ1mm以下の薄い帯板状の銅板を素材とする。上端は外に折り返している。器面には褐色および金色の付着物がみられる。メッキしたものか。下部には半円形の縁を作り出している。内面に灰が付着しており木製の軸に巻いた状態で火を受けた可能性が高い。	V区 SK-377 No.9 残存不明
		幅 (最大径1.6cm)			
		厚 0.043～0.137cm			
215	不明銅製品	長 (残6.1cm)	残4.95g	1mm程度の厚さの銅板を素材とする。縁辺を丸くしていねいに曲げている。蓮弁(?)の境目は直線的でタガネ等で打削したものか。環状を呈する飾り金具の可能性もある。	V区 SK-307 覆土 残存不明
		幅 2.2cm			
		厚 0.29cm			
216	不明金属製品 (鉛か)	長 (残2.1cm)	残5.43g	やや扁平な球が2つ重なったような形状を示す。僅かに残った基部から、断面は円形と推定できる。器面の風化が著しく、多くの気泡がある。素材の断定は難しいが重量感があり、鉛の可能性もある。色調は白色味を帯びるが一部に緑色、「す」から見える中心部は黒色を呈する。	調査区不明 残存不明
		幅 (最大径1.48cm)			
		厚 -			

第31表 ガラス製品観察表

掲載NO.	器種	径	重量	素材	特徴	備考・残存
217	ビー玉	1.64～1.7cm	6.00g	ガラス	真球ではない。気泡を多く含む緑色のガラスを素材とする。平ら面を持つが、欠けた部分か製造時の痕跡かは不明。	V区 SK-364 覆土 ほぼ完全

第32表 古銭観察表

掲載NO.	大きさ(径)	重量	素材	名称・書体	初鋳年代	備考・残存
218	2.3cm	2.4g	銅	寛永通宝	元禄十年 (1697年)	V区 SD-362 No.3 完全
219	2.8cm	3.65g	銅	寛永通宝	明和六年 (1769年)	V区 SK-367 No.4 完全
220	[復元2.8cm]	2.54g	銅	文久永宝	文久三年 (1863年)	V区 SK-367 No.7 残4/5
221	2.12cm	1.98g	銅	文久永宝	文久三年 (1863年)	V区 SK-362 No.1 残縁辺一部欠損
222	2.32cm	2.61g	銅	景德元宝	北宋・元祐元年 (1004年)	Ⅱ区 P-677 覆土 完全
223	2.37cm	1.82g	銅	熙寧元宝	北宋・熙寧元年 (1068年)	I-1区 SK-074 覆土 残縁辺一部欠損
224	3.3～3.05cm	4.81g	鉄	鉄銭	—	V区 SK-366 覆土一括 完全
225	長 4.85cm 幅 3.2cm	18.54g	銅	天保通宝	天保六年 (1835年)	V区 SK-367 No.2 完全
226	長 4.9cm 幅 3.2cm	18.31g	銅	天保通宝	天保六年 (1835年)	V区 SK-367 No.3 完全
227	長 4.92cm 幅 3.2cm	18.82g	銅	天保通宝	天保六年 (1835年)	V区 SK-367 No.5 完全
228	長 4.82cm 幅 3.22cm	14.83g	銅	天保通宝	天保六年 (1835年)	V区 SK-367 No.6 完全
229	長 5.0cm 幅 3.3cm	17.98g	銅	天保通宝	天保六年 (1835年)	V区 SK-367 No.8 完全
230	2.2cm	3.05g	銀	一銭銅貨か	大正5年 (1916年)	V区 SK-367 No.1 完全

第33表 砥石観察表(1)

図録NO.	器種	大きさ	重量	石材	特徴	備考・残存
231	砥石	長 (残10.9cm)	(残109.21g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形。中央部窪む。技法・表、裏、右側面と左側面の下端部が砥面。左側面は大部分に長軸方向のタガネ痕を残す。上端部は水平方向のタガネ痕あり。	I-1区 SE-035 覆土残 一部欠損
		幅 4.0cm				
		厚 2.0cm				
232	砥石	長 (残7.6cm)	(残89.57g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形。中央部窪む。技法・砥面は3面認められる。上面、右側面と左側面の一部に平タガネ痕あり。	I-1区 SK-058 覆土残 一部欠損
		幅 2.9cm				
		厚 2.4cm				
233	砥石	長 (残7.8cm)	(残89.05g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形。技法・砥面は3面あるが、このうち右側面は斜め方向で凹凸のある使用痕。石材は他の砥石と比べ、ややキメ細かい。	I-1区 SK-072 覆土残 一部欠損
		幅 3.6cm				
		厚 1.9cm				
234	砥石	長 7.8cm	(残66.0g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形。技法・砥面は表面及び左側面の2面。上面には垂直方向、裏面の右側面には長軸方向の平タガネ痕が見られる。	I-1区 SK-076 上層残 一部欠損
		幅 3.0cm				
		厚 2.1cm				
235	砥石	長 9.1cm	(残72.05g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形。技法・砥面は1面のみで他の3面は長軸方向の平タガネ痕が見られる。	I-1区 SK-017 覆土残 内端部欠損
		幅 2.9cm				
		厚 1.5cm				
236	砥石	長 22.2cm	598.21g	流紋岩質凝灰岩	形態・舟底形を呈する。上面を除く他の面は使用痕度が比較的に少なく、よく原形をどめているものと思われる。技法・砥面は4面。右側面及び裏面に製作時の平タガネ痕が長軸方向にみられる。上端及び下端部には垂直方向の平タガネ痕がみられる。上端及び下端部の平面形はや丸味を帯びる。	I-2区 SE-007 覆土ほぼ完存
		幅 4.6cm				
		厚 3.9cm				
237	砥石	長 (残5.1cm)	(残25.03g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形か。上下端部及び右側面は欠損。左側面は未加工の自然面と思われる。技法・表裏2面が砥面となる(その他の面は不明)。	II区 SK-126 覆土残 不明
		幅 (残2.7cm)				
		厚 1.3cm				
238	砥石	長 (残3.9cm)	(残38.39g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形か。上下端部欠損。技法・表、裏、左側面の3面が砥面。右側縁には平タガネ痕が見られる。	II区 SK-211 覆土残 不明
		幅 (残3.3cm)				
		厚 1.9cm				
239	砥石	長 (残8.2cm)	(残61.82g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形か。上下端部及び右側面一部欠損。技法・表、裏2面が砥面。両側面は長軸方向の平タガネ痕あり。	II区 SK-151 No.1 残 不明
		幅 (残4.0cm)				
		厚 1.2cm				
240	砥石	長 (残8.7cm)	(残80.78g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形。断面逆台形。上端部欠損、下端部は欠損か。技法・砥面は1面(長軸方向)。その他3面(内側面及び裏面)は長軸方向の櫛歯タガネ痕あり。	II区 SK-400 覆土残 不明
		幅 3.0cm				
		厚 1.7cm				
241	砥石	長 (残7.5cm)	(残48.2g)	流紋岩質凝灰岩	形態・平面形不明。断面形は平盤台形か。上端下部欠損、左平部も大きく欠損。裏面の広い未加工部分は自然面に見える。技法・砥面は1面(長軸方向)。右側面及び裏面には長軸方向のタガネ痕あり。	II区 SK-400 覆土残 不明
		幅 (残2.9cm)				
		厚 (残2.0cm)				
242	砥石	長 10.6cm	87.87g	流紋岩質凝灰岩	形態・平面長方形か。表裏面には長軸方向の使用痕あり。技法・砥面は上端部を除く5面が使用されている。左側面には櫛歯タガネ痕が残し、左右側面は短軸方向の使用痕がみられる。上面は垂直方向のタガネ痕がみられるが、櫛歯タガネ痕かは不明瞭。	II区 P-033 覆土ほぼ完存
		幅 3.7cm				
		厚 1.6cm				
243	砥石	長 (残12.4cm)	(残81.72g)	流紋岩質凝灰岩	形態・脚部がわずかに弧状に張り出す長方形。上端部も弧状を呈する。技法・砥面は1面(表面)のみ。その他左側面、右側面、裏面は長軸方向の平タガネ痕、上端部は短軸(垂直)方向の平タガネ痕あり。	II区 P-430 覆土残 一部欠損
		幅 2.9cm				
		厚 1.6cm				

第34表 砥石観察表(2)

掲載NO.	器種	大きさ	重量	石材	特徴	備考・残存
244	砥石	長 (残 8.4cm)	(残 70.3g)	凝灰岩	形態・平面形は先端がやや細くなる長方形。下半は欠損。断面は逆台形。 技法・砥面は1面のみ長軸方向長軸方向の平タガネ痕が両側面及び裏面に残る。上端部にも1~2か所、平タガネ痕と思われる加工痕あり。	Ⅳ区調査区内 No.2 残 1/2
		幅 2.6cm				
		厚 2.0cm				
245	砥石	長 (残 8.3cm)	(残 184.84g)	凝灰岩	形態・平面形は端部がやや細くなる長方形。 技法・幅の狭い面2面を主な砥面としている。左右両側面は長軸方向に平タガネ痕があり、下端部は垂直方向に平タガネ痕を残す。右側面の擦痕は使用痕か。	調査区内 L-30 グリッド 残 1/2
		幅 4.2cm				
		厚 3.1cm				
246	砥石	長 8.7cm	(残 89.47g)	凝灰岩	形態・平面長方形。 技法・上面は明確な加工痕なし。上面は短軸方向、左側面は長軸方向の平タガネ痕。砥面は表裏面と右側面の一部。	Ⅱ区 P-056 覆土 残 一部欠損
		幅 4.0cm				
		厚 1.2cm				
247	砥石	長 9.4cm	(残 84.81g)	凝灰岩	形態・平面長方形。 技法・左右側面は長軸方向の平タガネ痕。砥面は表裏2面認められる。	Ⅱ区 P-578 No.1 残 上下端欠損
		幅 4.6cm				
		厚 1.1cm				
248	砥石	長 5.6cm	(残 36.83g)	凝灰岩	形態・平面長方形か。 技法・砥面は表面1面のみ、斜めの深い使用痕あり。他の3面には長軸方向の平タガネ痕あり。黒色物の付着が顕著。	Ⅴ区 SK-364 覆土 残 1/2
		幅 2.4cm				
		厚 1.7cm				

第35表 温石観察表

249	温石	長 (残 6.4cm)	(残 293.71g)	凝灰岩	形態・長方形。 技法・左右の側面は砥石に転用された可能性が高い。左側面ははじめて平田で平滑だが、左側面はタガネ痕がわずかに残る。表裏面ともに基本的に長軸方向の加工痕(平タガネ痕)が残るが下端部と下面は短軸方向の加工痕がみられる。全面がコゲている。	Ⅱ区 SE-003 覆土下 層 不明
		幅 9.1cm				
		厚 3.5cm				
250	温石か	長 8.5cm	56.93g	凝灰岩	上下表裏左右の6側面全てを研磨して、定向形の磨製石斧に似た形状を作り出している。温石の可能性のある遺物としたが、断言できない。全面に黒色物付着する。	Ⅴ区 SK-377 No.2 完形
		幅 2.9cm				
		厚 1.4cm				

第36表 硯観察表

掲載NO.	最大長	重量	石材	特徴	色調	備考・残存
251	長 (残 6.0cm)	(残 48.24g)	粘板岩	形態・海部分は欠損。陸部分は源状の工具で切断されている。緑の上面は丸みを帯びる。裏面は一部擦痕があり、砥石として利用されたものか。 技法・陸部分は剥落が著しく、若干の使用痕が残るのみ。	表： 灰 裏： 赤黒	Ⅱ区 P-457 覆土 残 1/3 程か
	幅 (残 3.9cm)					
	厚 (残 1.2cm)					
252	長 (残 7.3cm)	(残 54.67g)	流紋岩質 凝灰岩質砂岩	形態・平面長方形。左側縁部の破片で陸と海の一部が残る。縁は角断面で幅 4mm 程。裏面はやや幅広(7mm 程)の縁を持ちこの面も平滑で、硯として使用された可能性がある。 技法・側面は丁寧に研磨されている。	表： 灰 裏： 灰白	Ⅴ区 SK-366 覆土 残 一部
	幅 (残 5.3cm)					
	厚 (残 1.8cm)					
253	長 (残 5.6cm)	(残 67.45g)	粘板岩	形態・平面長方形。縁の大半が剥離。陸の大部分を欠損する。陸から海にかけ、大きく凹状に窪んでいる。 長期間使用されたためか、擦痕も多く残る。 技法・裏面も丁寧に研磨されている。	表： オリーブ黒 裏： オリーブ黒	Ⅴ区 SK-365 No.16 残 1/2
	幅 (残 6.1cm)					
	厚 (残 1.2cm)					

第37表 石臼観察表(1)

図版NO.	器種	大きさ	重量	石材・石質	特徴	備考・残存
254	石臼 下白	長 33.6cm 幅 32.7cm 厚 9.6cm	(残 14.4kg)	安山岩	形態・中央部から折れた2点が接合した。 平面形はやや楕円形。上面はわずかにレンズ状を呈し、白目は8分画4～8溝式と一定していない。 芯棒孔(軸孔)は上面2.8cm～3.5cmと不整形。下面は上幅径7.5cmと狭りやや大きい。 下面はややレンズ状にふくらみを帯び、端部をゆるく面取りするような形状。 中央部から折損部分的に被熱したためコゲがある。 断面にコゲは無いため、被熱したのち折損したものと思われる。	1-2区 SE-003 No 2・5 残 9/10
255	石臼 下白	長 33.2cm 幅 27.2cm 厚 16.6cm	11.1kg	安山岩か	形態・平面形はほぼ円形。 断面形は上面がレンズ状を呈し、中央部から折損する2点が接合したものの。 白目は4分画と考えられ、溝は13～16溝ある。軸孔(芯棒孔)は下面がやや漏斗状に開く。 狭りは小さく、孔径は2.8cm×4.1cm。軸孔は上下双方から穿孔されており工具痕が残る。 底面はわずかな上げ底状。被熱による黒斑(タール状の付着物か)が見られる。	1-2区 SE-003 No 4・17 残はほぼ完存
256	石臼 下白	長 (残 24.5cm) 幅 (残 17.1cm) 厚 14.4cm	(残 5.3kg)	安山岩	形態・平面形は円形。 上面の白目は確認できない。 上面のふくみは残存部で1cm前後。 同心円状の擦痕が中心部付近に見られる。 芯棒孔は上面は径3.5cm程だが、断面では最大4.5cm程で、上下双方から穿孔される。 下面は加工痕が残るが概ね平坦で、芯棒孔の径は3.5cm程。えぐりはほとんどない。 底面の下部及び底面全面にややうすい黒色の付着物(タール状)が認められる。	1-2区 SE-003 No 13 残 2/5
257	茶臼か (上白)	長 (残 19.1cm) [復元径 19.6cm] 幅 (残 10.5cm) 厚 13.2cm	(残 2.4kg)	安山岩か	形態・平面形は円形。 断面形は胴の張る円筒形。 上面のくぼみは皿状を呈し、立ち上がりは縁を持つ。 上縁からの深さは1.7～2.1cm程である。 下面の白目はわずかに放射状の痕跡が残るのみで磨滅が著しい。 周縁部は特に磨滅が顕著。 下面のふくみは浅い漏斗状で高さ(深さ)1.4cm程である。 芯棒孔は上下双方から穿孔される。復元径約3cm。 下方から穿った部分は最大径4.5cm程の袋状を呈する。 挽き木の孔は、2.5cm四方の形で興行きは約2.5cm。 形状は小型、茶臼か。	1-2区 SE-003 No 10 残 2/5
258	石臼 (上白)	長 27.3cm 幅 27.2cm 厚 16.6cm	(残 14.5kg)	安山岩か	形態・平面図は隅丸正方形。 上面中央部は最深部で4.0cm程ある。 縁の上幅は3.5～4.0cm程。 供給孔は径4.0cm程の不整形円形で上下双方から穿孔したものが、側縁部に挽き木の打ち込み孔あり。 径3.5～4.0cmの不整形で、深さは5.5cm。 上下面のふくみは最大1.2cm程。 下面の芯棒受けは、径約3.2cmの円形を呈し、深さ2.0cm程で、ものくぼりがみられる。 白の目はやや縁で、放射型にこぼれ目が付されたようなものか。 下面は中央部(天井部)まで磨り減り、研磨されたような光沢がある。	1-2区 SE-003 No 14 残 4/5 259とセットか
259	石臼 下白	長 27.2cm 幅 27.1cm 厚 (残 16.8cm) (復 17.0cm)	(残 18.5kg)	安山岩	形態・2点が接合。 平面形は隅丸の正方形。 わずかにレンズ状を呈する上面は光沢を帯び、きわめて平滑。 白目は雑な放射状を呈し、間隔は一定ではない。 白目の断面は丸溝か。 上面が6割程度剥落している。 全体的にコゲているが剥離面には及んでおらず、被熱と破損には若干の時間差があったものと思われる。 下面の芯棒孔のえぐりは深く、わずかな上げ底状を呈する。 サイズ・形状とも258の上白と近く、これと一对である可能性が高い。	1-2区 SE-003 覆土 残 上面剥落9割程度 258とセットか

第38表 石臼観察表(2)

掲載NO.	器種	大きさ	重量	石材・石質	特徴	備考・残存
260	石臼 上臼	長 (残 23.5cm)	(残 4.4kg)	安山岩	形態・平面形は円形。 上面のくぼみの断面は凹型、縁は直線的に急角度で立つ。 くぼみの平坦面に黒色のタール状の付着物あり。 供給口の復元径は3cm程、上下双方向から穿孔されたものか。 下面は白目がなく、全体的磨滅し平滑。 浅いものおくりがみられる。 芯棒受けは、径3.5～4cm・深さ1.5cmの不整な円形。 ふくみは約1.8cmと深く、断面は凹レンズ状を呈する。	I2区 SE-003 覆上 残 2/5
		幅 (残 18.5cm)				
		厚 10.1cm				
261	石臼 上臼	長 (残 31.0cm)	(残 8.9kg)	安山岩か	形態・平面形は円形。 上面のくぼみは概ね平坦。 縁の立ち上がりは縁を持つがゆるやかである。 下面の研磨され、白目は確認できない。上臼のふくみは残存部で0.7～0.8cm。 3点の破片が接合。 石材は気泡が多く、大きさの割りに軽い。縁部分および側縁を意図的に削っている可能性がある。 芯棒受けは径3.5cm程の円形で、深さ約3cm。 供給口は上面3cm×2.5cm程の楕円形、下面は径5～6cmの漏斗状を呈し、やや斜めに穿たれている。 側面に抜き木孔に似た窪みがみられるが、人為的なものではないと思われる。	I2区 SE-003 No 3・8 残 4/5
		幅 (残 29.3cm)				
		厚 (残 12.5cm)				
262	石臼 上臼	長 (残 31.1cm)	(残 17.1kg)	安山岩	形態・上面の窪みは概ね平坦、縁は縁を有し、上端部は平坦。 上面の白目の見られない部分には同心円状の擦痕が無数に残る。 仮に5分画とすると副溝は4溝～6溝と一定しておらず、雑なつくりである。 特に周縁部は平滑で光沢を帯びる。 芯棒穴(軸孔)は、径3～3.5cmの楕円形で深さ2.5cm程。 供給口はやや斜めに穿ち、上面は径5～5.5cmの円形、下面は4cm×5cmの楕円形を呈する。 また供給口から左側にもくぼりがある。 ふくみは大きく中央部で1.5cm程。 断面は丸味を帯びた皿状である。 上縁部および側縁部のほぼ全面を意図的に細かく削っている。何らかの用途に転用したものか。	I2区 SE-003 No 6 残 4/5
		幅 (残 30.9cm)				
		厚 (残 14.4cm)				
264	石臼 下臼か	長 (残 26.4cm)	(残 2.8kg)	安山岩	形態・平面形は円形を呈するものと思われる。 同一遺構から出土した2点が接合。 上面の側縁は剥離している。 側縁に黒斑が残るが、断面には見られないため被熱後割れた(割った)ものか。 上面に白目は確認出来なかったが、側縁部の一部に研磨が見られる。 下面は浅く窪み、概ね平滑に作られている。	I2区 SE-003 No 15 残 1/6
		幅 (残 10.0cm)				
		厚 (残 12.4cm)				
266	石臼 上臼	長 (残 18.7cm) [復径 32.0cm]	(残 2.2kg)	安山岩	形態・平面形は円形。 くぼみは概ね平坦で深さは4cm程。縁は直線的に立ち上がり上面は平坦。 側面の抜き木孔は方形または長方形を呈したのものと思われる。 ふくみは3cm程深い。 下面は平滑で白目等は確認できなかった。 供給口や芯棒受けは確認できなかった。 くぼみの縁から側面にかけ貫通孔(孔径1.2cm程)がある。 用途は不明だが破損後に両面から穿孔されたものと考えられる。	I2区 SD-002 覆上 残 1/5
		幅 (残 14.0cm)				
		厚 9.7cm				
267	石臼 上臼	長 (残 20.2cm) [復径 26.5cm]	(残 1.4kg)	安山岩	形態・平面形は円形。 側面は細かく剥離しており意図的に打ち欠いたものと思われる。 上面のくぼみは概ね平坦で、縁は直線的に立ち上がる。深さ3.5cm程である。 供給口の一部が残るが径は不明。 下面は平坦だがややザラザラしていて、白目は確認できない。ものおくりの一部が認められる。最大1cm程の深さがある。ふくみは0.8cm以上。	I2区 SD-002 セクション⑤ 付近 残 1/6 程度
		幅 (残 11.1cm)				
		厚 8.9cm				

第39表 石臼観察表(3)

図版NO.	器種	大きさ	重量	石材・石質	特徴	備考・残存
268	茶臼 (下臼)	長 (残20.2cm) [上面復元径 21.0cm]	(残1.3kg)	安山岩	形態・平面形は円形。上面は緩む平坦。 白目のうち2本は著しく深く、刀子等の砥石として転用された可能性が高い。 残存部では副溝は7本(以上)認められる。 8分所で副溝は10溝程度であった可能性が高い。 細かく正確な白目で茶臼の可能性が高い。 受け皿部にも刀子等による深い傷跡が見られる。 平坦な底は、一見、白目に見える線状の加工痕が残る。 全体的につくりが良い。	I-2区SD-002 セクション③ 付近 残1/4
		幅 (残13.3cm)				
		厚 10.1cm				
269	石臼 (上臼)	長 (残23.0cm) [復元径31.6cm]	(残3.4kg)	安山岩	形態・平面形は円形か。 側面はやや丸みを持つ。 上面のくぼみはやや円凸があり、縁は斜めに立つ。 供給口及び芯棒孔は未確認である。 風化のためか、下面の白目や研磨痕等は確認できない。 ふくみは約1.5cmと深い。	II区SK-246 No.1 残1/5
		幅 (残12.1cm)				
		厚 12.4cm				
270	石臼 (上臼)	長 (残25.3cm) [復元径32.0cm]	(残2.3kg)	安山岩	形態・平面形は円形。 側面は縁端部でやや丸みを持つ。 上面のくぼみは中央に向かい、緩く傾斜している。 縁は丸みを持って立ち上がる。 供給口は径3cm程。下面は6本以上の副溝が見られるが、単位は不明。 周縁部は磨減し平滑な部分認められる。 浅いものおくりがみられる。 ふくみは約1cm程だが、側面の高さが一定しないため深く見える。	II区SK-163 覆土 残1/4
		幅 (残11.6cm)				
		厚 6.0cm				
271	石臼 (上臼)	長 (残17.3cm) [上面復元径 28.4cm]	(残2.6kg)	安山岩	形態・平面形は円形か。 上面のくぼみは平坦。縁は直線的に急角度で立つ。 供給口の復元径は3cm程。上下双方向から穿孔される。 下面は1cm以上ある幅広で浅い白目をもつが、パターンは不明。 周縁部が磨減し平滑。 芯棒受けは、径3.5～4cm・深さ1.5cmの不整な円形で、断面U字状。 含みは1.5cm程認められる。 破損後に被熱した痕跡あり。	II区SK-151 覆土 残1/4
		幅 (残14.8cm)				
		厚 9.0cm				
272	石臼 (下臼)	長 (残25.9cm)	(残4.22kg)	安山岩	形態・平面形は円形。 芯棒孔は貫通式で、下面の挟りは広く大きいため土底状態を呈する。 上面の白目は6分画6溝式か。 溝は浅く丸断面。 底面はやや上げ底気味で、削いた工具(ノミ)痕が全面的に見られる。 技法・切線土溝型の可能性もあるが、主溝及び副溝もやや粗雑で一定していないため断言できない。	II区SK-365 No.5 残1/4
		幅 (残16.7cm)				
		厚 7.4cm				
273	茶臼か (下臼)	長 (残20.8m)	(残2.1kg)	安山岩 やや緻密	形態・平面形は円形か。 上面は外周の掃り合わせ部が特に平滑である。 白目は確認できない。 ふくみの高さは1cm程(白部分の高さは2cm程)である。 変面は厚さ3cm程、端部は欠損しており形状不明。 芯木(芯棒)孔は上下双方向から穿たれたものか。 下面は線状の加工痕を明確に残し、えぐりは3cm程と高い。 底部の復元径は21cm程。技法・作りは精巧である。	II区SK-400 覆土 残本体1/2 受皿部欠損
		幅 (残12.2cm)				
		厚 9.2cm				
274	茶臼か (下臼)	長 (残13.5cm) [上面復元径 14.4cm]	(残1.3kg)	安山岩 やや緻密	形態・平面形は円形か。 上面のふくみは4cm程。断面はレンズ状である。 白目は細くやや補で、放射状を呈する。 掃り合わせ部は研磨され平滑である。 芯棒孔は上下方向から穿孔する。 受け皿部は欠損するため形状不明。 下面は芯棒孔のえぐりが大きい。太い線状のノミ痕が放射状に残る。 技法・台部の立ち上がりはほぼ垂直、あるいはオーバーハンク気味である。	II区SK-403 覆土 残1/6 受皿部欠損
		幅 (残12.0cm)				
		厚 9.0cm				

第40表 石臼観察表(4)

用紙NO.	器種	大きさ	重量	石材・石質	特徴	備考・残存
275	石臼 上臼	長 (残 24.0cm) 〔復元径 28.4cm〕	(残 1.9kg)	安山岩か	形態・平面形は円形。 上面のくぼみは平坦で、縁上面の断面は丸味を帯びる。 供給孔は、芯種孔は残っていない。 側面はわずかに丸味を帯びる。 挽き木孔は横長の長方形状と思われる、上下 3cm、深さ 6.2cm。 ふくみの高さは大きく歪んでおり一定していないが、2.5cm 程と高い。 下面は雑な目目が認められる。 パターンは 4 単位の可能性もある。 こぼれ目のあるタイプか。 底面のほぼ全面と破面にもタール状の付着物があることから、破損後に火を受けた可能性が高い。	II区 SK-400 覆土 残 1/3
		幅 (残 13.1cm)				
		厚 11.0cm				
276	茶臼か (上臼)	長 (残 17.4cm) 〔復元径 18.2cm〕	(残 2.0kg)	安山岩	形態・平面形は円形。 側面はほぼ垂直に立つ。上面の凹みはレンズ状。 堤はすべて欠損する。 下面の揺り合わせ部は特に平滑。 芯種孔は上下双方から穿孔している。 挽き木の打込孔は方形を呈していた可能性が高く、深さは約 3.0cm。 白目は磨滅が顕著で、主溝・副溝の本数・単位は不明である。 溝の細く加工はやや雑である。ふくみは 7mm 程と浅い。 側面中央部に 2 対の子持鋸が隔別され、中央には挽き木の打込孔が見られる。278 と類似しており、これと対をなすものと考えられる。	II区 SK-400 覆土 残 1/2
		幅 (残 8.6cm)				
		厚 (残 10.6cm)				
277	石臼 上臼	長 (残 16.8cm)	(残 2.4kg)	安山岩か	形態・平面形は円形か。 縁の断面は丸味を帯びる。 上面のくぼみの部分は概ね平坦。 供給孔は半分ほど残る。径 3cm 程で、上下双方から穿孔しており軸が曲がっている。 下面の上臼のふくみは 1cm 前後。 白目の残存部が少なく不明瞭だが、6 分画の可能性あり (4 分画の可能性もある)。	II区 SK-400 覆土 残 1/8
		幅 (残 10.3cm)				
		厚 12.2cm				
278	茶臼 (下臼)	長 (残 22.0cm) 〔上面復元径 17.5cm〕	(残 2.7kg)	安山岩	形態・上面はゆるやかな丸味を帯びたレンズ状 (下臼のふくみ + 4mm 程度) を呈する。 周囲 (縁辺) の揺り合わせ部は光沢を帯び、白目の磨滅が顕著である。 浅く残りが悪いが、主溝は 8 本、副溝 5 本の 8 分画 5 溝式と考えられる。 芯種孔は上下双方から穿孔されたものか。 孔径は復元径 2.9cm。 全体的にやや雑な作りである。 サイズ・形状とも 276 と類似しており、これと一対である可能性が高い。	II区 M-33 グ リット 残 1/2 受皿欠 損
		幅 (残 12.7cm)				
		厚 10.2cm				
279	石臼 下臼	長 (残 23.3cm) 〔復元径 32.8cm〕	(残 6.7kg)	安山岩	形態・上面のふくみは 1cm 程か。 白目は残存部から復元すると 8 分画 5 溝式の可能性あり、白目の幅は広いが浅く不明瞭。 揺り合わせ部が磨滅された様子はみられない。 側面はほぼ直線的である。 下面の芯種孔は上下双方から穿孔する。えぐりはやや広い。 下面の周縁部は磨滅されており、砥石として転用されたものか。破面に焼上及び黒色物 (タール状炭化物) の付着あり、破損後に被熱したものと考えられる。	調査区不明 残 1/4
		幅 (残 15.6cm)				
		厚 14.8cm				

第41表 石鉢・灯明具観察表

掲載NO.	器種	大きさ	重量	石材	特徴	備考・残存
263	石鉢	長 21.7cm	4.2kg	安山岩	形態・平面形は楕円形でやや厚みのある自然産を素材とする。 技法・上面中央部に長さ10cm・幅9cm・深さ4.5cmの凹みを作り出している。炭化物等の付着はみられない。裏面(下面)中央部に敲打による浅い窪みあり。五輪塔の水輪を転用した可能性も考えられる。	I-2区 SE-003 残 ほぼ完存
		幅 18.1cm				
		厚 11.1cm				
265	石製灯明具	長 25.3cm	(残 7.3kg)	安山岩	形態・平面形は楕円形。下面は概ね平坦。側面は割離面が顕著。技法・上面の中央部は長さ14cm・幅12cmの楕円形に窪ませ、その中央部を長方形の島状に彫り残す。遺物の長軸に対しほぼ直交してつくられており、長さ約5cm・幅3.5cm・高さ1.5cm程。全面黒色のタール状の炭化物が付着している。炭化物の厚さ最大0.4cm程。側面は割離(剥落)が顕著だが破面にも付着物が認められる。また底面はやや平滑であり研磨(転用)された可能性もある。五輪塔水輪を転用した灯明具の可能性もある。	I-2区 SE-003 残 一部欠損
		幅 21.5cm				
		厚 15.0cm				

第42表 五輪塔観察表

掲載NO.	器種	大きさ	重量	石材	特徴	備考・残存
281	五輪塔 空風輪	長 (残 24.2cm)	7.3kg	多孔質安 山岩	形態・上面から見ると楕円形を呈する。空輪は宝珠状で、高さは約14cm、やや扁平で中央部下位に最大径を持つ。頂部は小さく突出するが上端部は欠損する。 風輪の高さは約7cm、斜めに直線的に立ち上がり、風輪との境は明瞭である。柄(軸)は径5.5~6cm・高さ2.5cm程の円筒状でノミ痕が残る。	I-4区 SE-241 残 ほぼ完存
		長 空輪 19.2cm				
		径 風輪 18.6cm				
		短 空輪 17.4cm 径 風輪 16.8cm				
282	五輪塔 火輪	長 24.1cm	(残 570kg)	凝灰岩	形態・欠損部分が多いが上面から見ると長方形を呈する。 技法・軸受け部は径約9cm程の不整形で上面全面に及ぶ。深さは約4cmで断面U字状。軒部の反りは端部でやや大きくなる。下面は中央部がやや凹むが、全体的にノミ痕を残す。凹みが多いため不明瞭。	II区 SK-252 覆土 残 4/5
		幅 21.6cm				
		厚 13.8cm				
283	五輪塔 火輪	長 27.1cm	(残 13.6kg)	安山岩	形態・平面形は上面から見ると不整形な長方形で長軸27.1cm、短軸26.4cm。側面は各辺中央部で垂直もしくはやや傾斜するが、コーナー部分はオーバーハングする。四隅は欠損部が多くやや不明瞭だが反りが大きい特徴がある。空風輪の軸受け凹みは径12cm弱・深さ5.3cmで、人念につくられている。 下面は平坦。左側面の一部は研磨されている。砥石として転用された可能性もある。一辺の中央部が意図的に削られている。	I-4区一括表 土中 残 4/5
		幅 26.4cm				
		厚 (残 15.6cm)				
284	五輪塔 火輪	長 22.2cm	4.4kg	安山岩	形態・平面形は上面から見ると不整形な長方形で、平行な辺はない。断面形をみると四隅の反りは少ない。軸受けは8.3~9.2cmの楕円形で、深さ2.5cmである。軒の側面は現状を留めているため、本来の形状とは大幅に変わっていないと思われる。 上面のうち2面は研磨され平滑である。下面も70%程が研磨されており、砥石として転用された可能性もある。	I-2区 SE-006 残 ほぼ完存
		幅 20.1cm				
		厚 9.9cm				
285	五輪塔 火輪	長 21.0cm	5.95kg	安山岩	形態・ほぼ原型を留める。上面から見ると概ね正方形だが、各辺は弧状に凹む。四隅の反りは緩やか。軸受けは径6cm程・深さ3cmの円筒形。技法・下面は中央部に、円形状にノミ跡が残るが、他はよく研磨されている。	II区 SD-410 出土位置 残 ほぼ完存
		幅 20.2cm				
		厚 12.5cm				
286	五輪塔 地輪	長 24.2cm	13.35kg	安山岩か	形態・上面から見ると概ね正方形だが、各辺わずかに弧状の膨らみを持つ。 技法・8つある溝の部分すべてを斜めに面取りしているが、上面より下面の溝を大きく削っている。底面はノミ痕が顕著で凹みが目立つ。その他の面は平滑に磨き整えている。	V区 SK-330 覆土 残 ほぼ完存
		幅 23.9cm				
		厚 15.7cm				

第43表 板碑観察表

掲載NO.	器種	大きさ	重量	石材	特徴	出土位置
280	板碑	長 13.0cm	(残258.54g)	緑泥片岩	板碑の左側縁から頂部付近の破片か。表面には枠線や二条線等は確認できない。裏面は横方向からのノミ痕が明瞭に残る。破損したのち、縁辺を剝離し、形状を整えた様子が見られることから、何らかの用途で転用したものであると思われる。	Ⅱ区 SK-400 覆土 残 破片
		幅 7.1cm				
		厚 2.1cm				

第44表 縄文時代石器観察表

掲載NO.	器種	最大長	重量	石材	特徴	出土位置
328	礫器	長 9.9cm	333.26g	安山岩	扁平な礫を素材とする。上端には片面から、下端には両面から剝離を施している。	I-4区一括 No.9 完存
		幅 7.9cm				
		厚 2.7cm				
329	打製石斧	長 (残 15.1cm)	(残 347.04g)	安山岩	扁平な礫を素材とする。縁辺に剝離を施し、分銅型の平面形を作り出す。背面は全面に剝離が見られる。	I-4区 覆土 残 4/5
		幅 (残 8.7cm)				
		挟り部 6.4cm				
		厚 (残 2.1cm)				
330	打製石斧	長 13.2cm	(残 311.63g)	安山岩	扁平な礫を素材とする。縁辺に剝離を施し、分銅型の平面形を作り出す。背面はほぼ全面に剝離が見られるが、一部原礫面を残す。	I-5区 覆土 残 4/5
		幅 (残 6.5cm)				
		挟り部 6.6cm				
		厚 2.5cm				
331	凹石	長 10.7cm	374.29g	安山岩	楕円形の分厚い礫を素材とする。表面に上下2か所の円形の凹みを持つ。背面は無加工。	Ⅱ区 M-33 グリッ F覆土 完存
		幅 6.9cm				
		厚 3.4cm				
332	石皿	長 (残 15.1cm)	(残 316.84g)	安山岩	石皿の縁辺部の破片。全面を加工し形作る。側面は直線的に加工するが、底辺は弧状に丸みを持つ形状となる。下面はレンズ状に丸みを帯びる。高さ 2.5cm 程のU字状断面の縁を作り出している。	I-2区 SE-003 覆土 残 2/5
		幅 (残 7.2cm)				
		厚 (残 3.0cm)				
333	石皿	長 (残 18.2cm)	(残 1201.2g)	安山岩	石皿の縁辺部の破片。中央部が広く凹んでいる。目立って平滑な面は認められない。縁辺は火を受け剝離したもののか。	V区 SK-330 覆土 残 一部
		幅 (残 10.8cm)				
		厚 (残 5.0cm)				
334	石皿	長 (残 12.1cm)	(残 855.91g)	安山岩	石皿の縁辺部の破片。中央部が浅く凹み、平滑になっている。破損したあと火を受けている。	Ⅱ区 SE-159 覆土 残 一部
		幅 (残 9.1cm)				
		厚 (残 5.1cm)				

第4章 総括

本稿ではまず、域内にあたるⅠ区北部からⅢ区における主要な遺構の配置状況を概観し、平出城跡の空間利用について若干の検討を加えてみたい。

1 平出城の掘立柱建物跡 (第133図)

Ⅱ区の中央部の東西溝SD-200を挟み、その南北に特徴の類似した長大な建物が2棟ずつ並列し、計4棟が確認されている。以下に改めて遺構の特徴をまとめてみる。

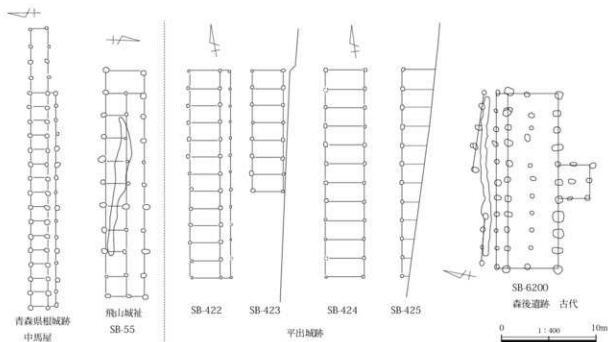
SB-422は東西溝北部の建物である。12間×1間の南北棟の建物跡で、東に幅1間の庇を持つ。桁行は22mで間尺は平均1.83mである。梁行は身舎の間尺は3.2m、庇は1.1mで、合わせて4.3mとなる。「12間×2間の建物で、東には幅1.1mの通路を持つ」とみることできる。主軸方向はN-10°-Eである。

SB-423は東西溝北部の建物でSB-422の東に平行する。7間×1間(以上)の南北棟の建物跡で、庇(通路)の有無は調査区外のため不明である。桁行は12.8mで、間尺は平均1.83mである。梁行は3.2mである。主軸方向はN-10°-Eである。南半部は削平されてしまった可能性もある。

SB-424は東西溝南部の建物である。11間×1間の南北棟の建物跡で庇(通路)を持たない。桁行22m、間尺は平均2.0m、梁行は4.1mである。主軸方向はN-8°-Eである。

SB-425は東西溝南部の建物でSB-424の東に平行している。規模・形態は425とはほぼ同一と考えられる。

これらのうち、全体の規模が判明しているSB-422とSB-424について比較してみる。共通点としては長大な建物で、2棟が並列して存在する点、規模(22m×約4m)が酷似している点などである。これに対し、庇(通路)の有無・側柱列の間尺・主軸方向について若干の違いが見られる。桁行の間尺の違いに注目すると、北部の2棟は1.83mであるのに対し南部は2.0mである。同時にこれほどの覆舎が存在したとは考えにくく、例えば溝の南北で時期差を持つ可能性は十分にあると言えよう。



第133図 平出城跡の掘立柱建物跡と馬屋との比較

・類例との比較 (第133図)

平出城跡の東4キロにある史跡飛山城趾からは、多数の掘立柱建物跡が調査されている。このうち概とされるSB-55は東西棟の長大な建物跡で、東西10間(24m)、南北2間(3.8m)の規模を有し、東に幅1間(1.8m)の通路を持つ。東端には1間(3.8m)×1間(1.8m)の部屋が付設する。中央部には東西方向の不定型な溝状の施設が伴う、これは「尿溜」の遺構と考えられる。また古代の例ではあるが、さくら市森後遺跡からも概とされる建物(SB-6200)が確認されており、参考例として図示した。

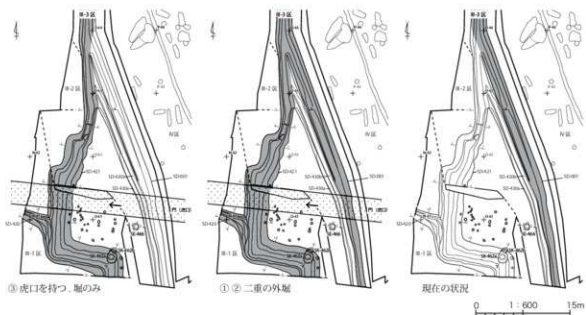
類例として青森県根城本丸跡の「中馬屋」と比較してみる。時期は16世紀末、本丸北部に設置された東西軸の厩舎で、東西15間(23m)×南北1間(3m)の規模を有する。南に幅1mほどの通路を備え、また東には東西4間(7m)、南北1間(1.8m)の部屋が付属する。各個室が狭いため、「来客用の馬止め施設」とされている。篠崎譲治氏によれば、中世の館・屋敷・城における馬小屋の在り方について「個室が連なる長大な連棟である」「通路が付く」「独立している」という特徴を示している。平出城跡の掘立柱建物跡は、この条件を満たしており、厩屋あるいは馬小屋とすることが妥当と考えられる。但し、飛山城の出土例に比べると柱が非常に華奢である点や、明確な尿溜が確認できない点などがあげられ、恒常的に厩舎として機能していたかは若干の問題点が残る。

また個室の数であるが、SB-422・423で19頭、SB-424・425では22頭分のスペースがある。この数は飛山城の馬房(9頭分)と比べ、極めて過剰な印象をうける。これらの点を考慮すると平出城跡建物の在り方については一考の余地があるものと思われる。

また屋号「馬場」とは関連深い遺構と言えるが、馬場は主に馬の調教等を行う場であり厩舎を示すものではない。篠崎氏の研究によれば、馬場には鉄分が沈着する硬化面を有することや、その範囲を区画する欄干が伴う事が特徴とされている。今回該当する遺構は確認されなかったが、今後発見される可能性もあろう。

2 その他の遺構

方形竅穴遺構:計14基が調査された。調査範囲が限定されているが、分布はI区(北部)の中央部(3基)、II区南部(7基)、II区中央部(4基)の3か所のまとまりが認められる。方形竅穴は南壁および北壁中央に



第134図 平出城跡の東門(虎口)と外堀との関係

柱を持つ南北棟の竪穴が主体を占める。SK-122では床面から内耳土器とともに焼土・炭化物が確認され、住居として使用された可能性が高い。遺構群はそれほど時間差無く作られた可能性が高い。

地下式墳：Ⅱ区中央部から南部にかけて、南北約70mの範囲に15基中13基が集中する。竪坑を持つものは少なく、円形または楕円形の平面形状を持つものが多いが、281は副室構造の地下式墳と考えられる。遺物は石臼、五輪塔・内耳土器カワラケなどが少量出土する。貯蔵用の遺構と考えたい。

井戸跡：調査区南部の1区に集中する。とくにSE-001、004、005、006、035など規模の大きな井戸が目立つ。この区域は付近に水を多用する目的があったか、あるいは井戸を掘るのに適した場所だったのだろうか。SE003からは中世の遺物が多く出土し、特に石臼の出土が多い。

3 溝（外堀：大溝）と城域内外の区画について（第134図）

平出城跡の外堀（大溝）はⅢ区（SD-421）、Ⅱ区（SD-410）、Ⅰ-4区（SD-229）の3か所で確認されている。

ここではⅢ区から検出された大溝を中心に検討を加える。SD-421は東から西へ凸字状あるいは鍵の手状に掘り込んでいる。この部分は門（虎口）の可能性が高く、大溝の内側（南側）にある土塁上から、侵入者を攻撃するための施設である。虎口は本来軍事色の強い遺構であるが、SD-421は掘り込みの奥行きも短く（10m弱）また堀幅も狭い（約4m）ことから、防御力はそれほど高く無かったと想定される。大溝付近には橋脚の設置を裏付ける明確な痕跡は見つからなかった。第134図には、門と通路が想定される範囲をドットで示した。またSD-421と現存する用水路（SD-001）との関係だが、以下のように想定してみた。

① SD-001は現在と同じような流路で、河川として存在していた。平出城築城（増築）時に北東部の大溝は河川をそのまま利用したが、中央部（虎口の北側）から城域内には新たに大溝（SD-421）を掘り、水を引き込んだ。結果的に城の東側は2重の堀を持つこととなった。廃城後、不要となった溝は徐々に埋没したのち埋め戻され、現在の姿となった。

② 平出城跡の東の堀（大溝）は、今回の調査地内で見つかったSD-421からSD-410へ続く一条の溝のみであった。この場合、虎口付近では、構造上流れが滞り越水することが多かった可能性がある。対応策としてこの部分から堀を二又に分ける工事を行ったと仮定する。これにより東側は2重の外堀を持つこととなった。

③ 平出城跡の外堀は、今回の調査地内で見つかったSD-421からSD-410へ続く大溝のみであった。廃城後も外堀は長く活用されていたが、利用価値が無くなり、埋め戻すタイミングに合わせ、東門付近から、下流の水路を新たに掘削し東へ流路を変え、現在の姿となった。

調査Ⅱ区から見つかった大溝（SD-410）は直線的に南下し、調査区外へと続き、屋号「立堀」を持つ宅地まで、まっすぐ延びると推定されている。南東コーナー推定地には2基の小さな祠が祀られている。溝は舗装道路の下を通り、Ⅰ-4区の調査区北端部でその南肩部分SD-229が確認された。SD-410覆土中からみつかった陶磁器から17世紀後葉から18世紀前葉の遺物が出土しており、この時期まで溝が開いていた可能性が高い。

SD-200は東西軸の溝で、上層からはロームブロックを多量含む「土塁の構築土」と想定される土層が見つっている。自然堆積か人為埋め戻しかは断言できないが、溝北側に土塁が存在した事が判明した。

4 まとめ（135図）

・概とみられる建物の時期

『長曾我部元親百箇條』に「掟一尺杖之事、城普請其外何によらず、本間六尺五寸間たるべき事、附田地者可爲各別各事、○中略 慶長貳年三月廿四日」盛視〔在判〕元親〔在判〕（故事類苑秤量部第1巻）とある

ことから、東西溝北側の厩 (SB-422・423) が古い時期、南側の厩 (SB-424・425) が新しい時期 (慶長期) と推測できる。類別として佐野市に所在する佐野城 (春日岡城) は築城が慶長五年 (1600) 頃、廃城が慶長十九年 (1614) と存続期間が慶長年間のみであり、その主殿の礎石の間隔が芯々で六尺五寸 (195cm) となっている。また、小金井一里塚の発掘調査で検出された日光街道も同じ六尺五寸を用いて整備されていたことから SB-424・425 は当該期に帰属する可能性がある。また、当時の尺に関しては大阪城の 16 世紀末の土層からものさしが出土しており 1 寸の目盛りが 3.1cm 前後の間隔で刻まれていることから 1 尺を 31cm として六尺五寸は 201.5cm となるため調査結果とはほぼ一致する。

・厩の設置目的

以下の機能が想定される。

① 宇都宮氏が布いた伝馬制に伴う常設の厩

大道で 30 頭、中道で 20 頭が必要とされることから付近に街道の存在を合わせ検討の必要がある。また、上面を削平されていた場合、尿溜が失われたとも考えられる。併せて周囲に存在する方形竪穴状遺構は、馬の世話をする人たちの住まいであるとの見方もできる。

② 出陣式の準備に使用される臨時の厩

出陣時に周辺から集まる馬を一時的に留置するための施設と仮定すれば、出陣の際に選ばれる方位である東にのみ「東門」という屋号が残っていることが注視される。

③ 兵馬の駐屯施設

茨城県美浦村に所在する木原城は広すぎる曲輪の形状から兵馬の駐屯地との想定がなされているが、平出城も城主の勢力から判断して、400m × 350m 四方の城域は規模が大きすぎる観は否めず、外辺の空間を駐屯地としていた可能性も残る。

・平出城の構造

平出城跡の範囲を一つの空間として捉えた場合、前述のように城域としては広すぎると思われる。屋号として残る「御城」「中城」「北城」のみを城として捉えることが妥当と思われ、「広琳寺」を宗教的空間として内包し、「馬場」周辺を駐屯地と想定、時代が下るごとに拡大傾向にあり、最終的に虎口が東側に築かれたものと推測される。「宿」をその地名から宿駅とすることも可能であるが、付近に道路が確認されたわけではなく、想像の域を出ない。宿駅とすれば交通の要衝であり、駐屯地や出陣式に伴う施設であれば軍事的な拠点として捉えることができる。宇都宮氏が鬼怒川右岸に展開する支城網の最も北に位置することからも、この城の重要性は指摘できるが、城域に対して調査面積の比率が低く、結論を導き出すまでには至っていない。今後の調査に期待することとしたい。

引用・参考文献

板橋正幸 2009『森後遺跡』1 栃木県教育委員会 (財) 栃木生涯学習文化財団

今平利幸 2006『史跡飛山城保存整備報告書』宇都宮市教育委員会

佐々木浩一・藤田俊雄・大野亨 1993『根城』青森県八戸市教育委員会

藤崎謙治 2010『馬小屋の考古学』高志書院

附 編 1 平出城跡出土遺物の石材分析

平出城跡の発掘調査で出土した中・近世の石製品（砥石、石臼、五輪塔等）や、縄文時代の石器について、肉眼による石材鑑定を荒川章一氏に依頼した。本文中の遺物観察表には石材のみを記載したが、本項では全データをまとめた表を掲載することとした。

1. 砥石の石材について

砥石の石材は、斑晶鉱物ないし岩片がほとんどが完全に溶脱しているか、残部があっても変質している。基質中にガラス質軽石とみられる楕円形～不定形の粒状部が残っており、また変質ガラスとみられる多孔質破片も含まれることから、原岩は流紋岩質凝灰岩と考えた。変朽安山岩（プロピライト）である可能性も残るが、実体顕微鏡では判定できない。また、変質ガラスや軽石に伴う淡緑色から青緑色の変質鉱物はスメクタイトとみられるが、確定はできない。原岩は変質の状況から珪長質火砕岩、または、安山岩ないし玢岩で、新生代第三紀の噴出物であると推定される。

2. 碗の石材について

図版番号 251 と 253 の黒色粘板岩は品質からみて、宮城県雄勝等のブランド品である可能性が高い。図版番号 252 の流紋岩質凝灰岩砂岩は、鉱物粒子が砕屑粒子であることから命名した。砥石と関連したグリーンタフ分布域の産地が考えられる。

3. 石臼・五輪塔の石材について

安山岩としたものは斑晶鉱物に単斜輝石または斜方輝石の一方か両方を伴う輝石安山岩および両輝石安山岩で、安山岩？とした資料は、色彩（色指数）的には玄武岩の可能性があるが判定できなかった資料で、デイサイトとした資料は溶結構造があるものに限った。いずれの資料とも原岩は鬼怒川水系には河床礫として一般的に存在し、日光火山群の噴出岩と推定される。図版番号 283 は大谷層の緑色凝灰岩に類似する。

4. 板碑の石材について

緑色片岩としたが緑泥石緑礫石片岩である。産地は三波川帯か阿武隈帯かは判定できない。

5. 石皿の石材について

いずれも両輝石安山岩で日光火山群の噴出岩と推定される。

6. 打製石斧・石皿の石材について

斑晶鉱物、流理などの特徴や、風化した表面の色調から、原岩は、宇都宮地域北西部に分布する第三紀安山岩類と思われる。類似岩は、田川や姿川の河床礫としても存在する。

番号	資料名	図版番号	岩石名	記載事項
1	砥石	231	流紋岩質凝灰岩	斑晶鉱物：正長石？（白色）、角閃石？（白色）、黒雲母？（白色）、四角形（黒色皮膜？） 溶脱・変質が進み確定できず。石基（淡青灰色）は微晶質から細粒で不定形から短柱状（大部分白色、透明粒子状あり）

番号	資料名	図版番号	岩石名	記載事項
2	砥石	232	流紋岩質凝灰岩	珪晶：正長石？（白色）？、角閃石？（黒褐色）、黒雲母（白色）長柱状珪晶中に緑灰色部と茶褐色、四角形（黒色皮膜？）溶脱して確定できず。石基（淡青灰色）は微晶質から細粒、不定形から短柱状（大部分白色、透明粒子状あり）
3	砥石	233	流紋岩質凝灰岩	珪晶の配列に方向性あり。茶褐色、繊維状に変質した角閃石？珪晶がある。
4	砥石	234	流紋岩質凝灰岩	細粒の斑状組織で、珪晶は黒褐色皮膜で覆われているものが多い。また、珪晶自体が黒褐色か。
5	砥石	235	流紋岩質凝灰岩	細粒の斑状組織で、珪晶あるいは岩片はほとんどが溶脱している。
6	砥石	236	流紋岩質凝灰岩	黒褐色皮膜 珪晶小・少量。変質ガラス、変質軽石が多い。
7	砥石	237	流紋岩質凝灰岩	黒褐色皮膜 珪晶小・少量。珪晶微晶、細粒の黒雲母、金雲母。暗赤褐色半透明鉱物あり。
8	砥石	238	流紋岩質凝灰岩	黒褐色皮膜 暗赤褐色半透明鉱物、変質軽石を含む。空隙部の一部に青緑色鉱物が成長。
9	砥石	239	流紋岩質凝灰岩	珪晶溶脱、表層部に黒褐色、茶褐色の小スポット、正長石わずかに現。
10	砥石	240	流紋岩質凝灰岩	黒褐色皮膜あり、基質は乳白色で微細粒、不定形粒子あり。自形の鉱物なし。変質軽石を含む。
11	砥石	241	流紋岩質凝灰岩	自形の珪晶が少ない。被熱？赤褐色～黄褐色の酸化部あり。青緑色の変質鉱物と変質軽石を含む。
12	砥石	242	流紋岩質凝灰岩	基質乳白色微細粒。白色の不定形粒子あり。自形の鉱物なし。変質軽石を含む。軽石の一部に青緑色の変質鉱物化が成長。
13	砥石	243	流紋岩質凝灰岩	黒褐色皮膜は 242 に似る。自形鉱物なし。変質軽石の一部に青緑色の変質鉱物化が成長。
14	砥石	244	流紋岩質凝灰岩	被熱のため表面は赤褐色に変色。石基には白色不透明から白色透明の微細結晶を含む。
15	砥石	245	流紋岩質凝灰岩	石基は白色で半透明、白色～白褐色の粒状鉱物や変質したガラス片を含む。灰緑色から緑灰色の変質鉱物がみられる。
16	砥石	246	流紋岩質凝灰岩	被熱のため表面は赤褐色に変色。珪晶溶脱部に変質鉱物や沸石類が生長。火山ガラスの変質物あり。
17	砥石	247	流紋岩質凝灰岩	溶脱した珪晶の空間に 沸石様の柱状から短柱状の透明から半透明白色鉱物が生長。変五角形板状で茶褐色結晶あり。
18	砥石	248	流紋岩質凝灰岩	橙褐色、半透明 普通輝石の珪晶か？ 黒色金属光沢皮膜～磁鉄鉱？ 断面が円形から楕円形の軽石、変質ガラス片組織。
19	砥石	249	流紋岩質凝灰岩	全体は茶褐色、石基は灰褐色不透明。微晶質。角閃石の珪晶が残存する。溶脱孔は不規則な形が多い。長径 25mm の緑灰色のレンズ状部あり。変質したガラス片、軽石が多い。
20	砥石	250	流紋岩質凝灰岩	岩質は 249 に似る。表面茶褐色で部分的に黒色の皮膜に被われる。基質は灰褐色不透明。火山ガラスの変質片をふくむ。円形から不定形の溶脱痕が多い。
21	硯	251	粘板岩	黒色粘板岩、破断面表面に茶褐色から赤褐色の変色部あり。
22	硯	252	流紋岩質凝灰質砂岩	全体が珪化している石英、斜長石、緑泥石？碎屑粒子。円形～楕円形の軽石の変質部と溶脱部あり、石基部は凝灰質で緻密である。鉱物粒子が他の砥石より明瞭である。
23	硯	253	粘板岩	黒色粘板岩 251 と同質。
24	石臼	254	安山岩	石基は発泡、斜長石の大型珪晶が点在、単斜輝石の珪晶を稀に含む。
25	石臼	255	安山岩？	被熱して変色、石基は発泡、斜長石の他形で微小な珪晶点在。
26	石臼	256	安山岩	石基は発泡、稀に斜長石の他形珪晶を含む。
27	石臼	257	安山岩？	石基は発泡、長径 12mm の球顆（玉髓？）を含む。稀に斜長石や単斜輝石の珪晶を含む。
28	石臼	258	安山岩？	石基は発泡、斜長石珪晶は細粒で他形。
29	石臼	259	安山岩	石基は発泡、斜長石の自形から他形珪晶を含み、少量の単斜輝石、磁鉄鉱の珪晶あり。
30	石臼	260	安山岩	石基は発泡、斜長石の大型自形から他形珪晶を含む。少量の単斜輝石、磁鉄鉱の珪晶あり。
31	石臼	261	安山岩？	石基は発泡、数 cm の発泡痕あり、稀に斜長石の大型自形珪晶を含む。
31	石臼	262	安山岩	石基は発泡、斜長石や磁鉄鉱の自形から他形の微細な珪晶を含む。

附 編 1 平出城跡出土遺物の石材分析

番号	資料名	図版番号	岩石名	記載事項
32	石白	263	安山岩	石基は発泡、斜長石や磁鉄鉱の自形から他形の微細な珪品を含む。稀に単斜輝石の自形珪品あり。
33	石白	264	安山岩	石基は微細な発泡痕が多い。斜長石の自形から他形珪品が多い。単斜輝石、斜方輝石、磁鉄鉱の自形珪品もみられる。
34	灯明具?	265	安山岩?	石基は発泡、斜長石、磁鉄鉱、単斜輝石の自形から他形の微細な珪品を含む。
35	石白	266	安山岩	石基は発泡、斜長石の自形から他形の珪品が多い。単斜輝石、斜方輝石、磁鉄鉱の自形から他形の珪品を少量含む。
36	石白	267	安山岩	石基は発泡、斜長石の自形から他形の珪品が多い。単斜輝石、斜方輝石、磁鉄鉱の自形から他形の珪品を少量含む。
37	石白	268	安山岩	石基は発泡、斜長石の自形から他形の珪品が多い。単斜輝石の自形珪品を少量含む。
38	石白	269	安山岩	石基は発泡、斜長石の自形から他形の微細な珪品を含む。斜方輝石の珪品あり。
39	石白	270	安山岩	石基は発泡、斜長石や単斜輝石の自形から他形の細粒な珪品を含む。
40	石白	271	安山岩	石基は発泡、珪品の量が多く、斜長石、単斜輝石、斜方輝石、磁鉄鉱の自形から他形の珪品を含む。
41	石白	272	安山岩	石基は発泡、斜長石、磁鉄鉱、単斜輝石、斜方輝石の自形から他形の珪品を含む。
42	石白	273	デイサイト	石基の発泡は少ない。流理に沿って黒色ガラスの伸長がみられる。珪品鉱物は斜長石と、少量の単斜輝石、斜方輝石である。
43	石白	274	デイサイト	石基の発泡は少ない。流理に沿って黒色ガラスの伸長がみられる。珪品鉱物は斜長石と、少量の単斜輝石、斜方輝石である。
44	石白	275	安山岩?	石基は発泡、斜長石の大型珪品が多い。自形から他形の微細な珪品を含む。
45	石白	276	安山岩	石基の発泡がほとんどない。珪品鉱物は、斜長石、単斜輝石、斜方輝石を含む。
46	石白	277	安山岩?	石基には細かな発泡があり流理がみられる。他形の斜長石珪品が多い。
47	石白	278	安山岩	石基は発泡、斜長石、磁鉄鉱、単斜輝石、斜方輝石の自形から他形の珪品を含む。
48	石白	279	安山岩	石基は発泡、斜長石、単斜輝石の自形から他形の珪品を含む。
49	板碑	280	緑色片岩	緑泥石緑礫石片岩
50	五輪塔	281	安山岩	石基は発泡、斜長石、磁鉄鉱、単斜輝石、斜方輝石の自形から半自形の珪品を含む。長径 50mm のデイサイト捕獲岩を含む。
51	五輪塔	282	緑色凝灰岩	溶脱痕の多い緑色凝灰岩、大谷層由来と思われる。
52	五輪塔	283	安山岩	石基は発泡し多孔質、比較的小粒の斜長石珪品と少量の普通輝石珪品からなる。
53	五輪塔	284	安山岩	石基は発泡、斜長石、単斜輝石、斜方輝石の自形から他形の珪品を含む。
54	五輪塔	285	安山岩	石基は発泡、斜長石、単斜輝石の自形から他形の珪品を含む。
55	五輪塔	286	安山岩?	石基は発泡、発泡は微細で多孔質、斜長石、磁鉄鉱の自形から他形の珪品を含むが量が少ない。
56	打製石斧	328	安山岩	単斜輝石と斜方輝石の珪品を含む流理の発達した両輝石安山岩で、宇都宮丘陵に分布する第三紀の安山岩が原岩と思われる。
57	打製石斧	329	安山岩	単斜輝石と斜方輝石の珪品を含む流理の発達した両輝石安山岩で、宇都宮丘陵に分布する第三紀の安山岩が原岩と思われる。
58	打製石斧	330	安山岩	単斜輝石と斜方輝石の珪品を含む流理の発達した両輝石安山岩で、宇都宮丘陵に分布する第三紀の安山岩が原岩と思われる。
59	石皿	331	安山岩	石基は発泡痕が明確であり、単斜輝石と斜方輝石の珪品を含む両輝石安山岩である。原岩は、日光火山群などの第四紀火山の噴出物で、鬼怒川水系上流部では河床礫として採取可能。
60	石皿	332	安山岩	石基は発泡痕が明確であり、単斜輝石と斜方輝石の珪品を含む両輝石安山岩である。原岩は、日光火山群などの第四紀火山の噴出物で、鬼怒川水系上流部では河床礫として採取可能。
61	石皿	333	安山岩	石基は発泡痕が明確であり、単斜輝石と斜方輝石の珪品を含む両輝石安山岩である。原岩は、日光火山群などの第四紀火山の噴出物で、鬼怒川水系上流部では河床礫として採取可能。
62	石皿	334	安山岩	石基は発泡痕が明確であり、単斜輝石と斜方輝石の珪品を含む両輝石安山岩である。原岩は、日光火山群などの第四紀火山の噴出物で、鬼怒川水系上流部では河床礫として採取可能。

附編2 平出城跡発掘調査に係るテフラ分析

1. はじめに

北関東地方に位置する宇都宮市とその周辺には、男体山をはじめとする日光火山群、浅間山、榛名山など北関東地方とその周辺に分布する火山、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（町田・新井, 1992, 2003, 2011）に収録されており、考古遺跡などで調査分析を行ってテフラ層やテフラ粒子を検出することで、火山灰編年学的に地形や地層の形成年代さらには考古学的な遺物や遺構の年代など解明できるようになっている。

宇都宮市平出城跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層が検出されたことから、1-6区東壁の低地部の標準的な土層断面であるSPA-A'セクションを対象に、地質調査とテフラ分析（テフラ検出分析・火山ガラス比分析・火山ガラスの屈折率測定）を実施して、火山灰編年学的調査分析を行った。

2. 調査分析地点の土層層序

1-6区東壁のSPA-A'セクションでは、下位より暗灰褐色土（層厚9cm以上、8層）、黒灰褐色土（層厚14cm）、白色粗粒火山灰混じり黒色土（層厚21cm、以上7層）、灰黄色凝灰質シルト層（層厚0.3cm、6層）、黒灰褐色土（層厚6cm、5層）、暗灰褐色土（層厚11cm、4層）、黒灰褐色土（層厚15cm）、やや暗い黒灰褐色土（層厚19cm、以上3層）、砂混じり暗褐色土（層厚31cm、2層）、垂円礫や黄灰色土ブロック混じり黒灰褐色土（層厚47cm、礫の最大径212mm、1層）が認められる（図1）。

3. テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

1-6区東壁セクションにおいて、基本的に厚さ5cmごとに設定され、5cmおきに採取された試料を中心とした13試料と、火山灰層の可能性が指摘された黄灰色凝灰質シルト層（6層）の合計14点を対象にテフラ検出分析を行って、試料に含まれるテフラ粒子の特徴を定性的に明らかにした。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料12gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

（2）分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。2mmより粗粒の軽石やスコリアは検出されなかったものの、試料22より上位の試料から連続的に火山ガラスを検出できた。火山ガラスは試料12で比較的多いもの、とくに顕著な濃集層厚は認められない。

火山ガラスが検出された試料のうち、試料22や試料20には、細かく発泡した白色のスポンジ状軽石型ガラスが少量認められる。このタイプの火山ガラスは、試料18より上位のいずれにも少量ずつ含まれている。試料14や試料12にわずかに含まれる灰白色のスポンジ状軽石型ガラスも、その発泡の形態が似ているこ

とから、同じテフラに由来すると考えられる。

試料 18 より上位では、試料 16 で火山ガラスが少ない傾向にあるが、全体的には淡灰色、淡褐色、褐色のスポンジ状軽石型ガラスが目立つ。試料 12 に多く含まれる火山ガラスも同じもので、火山ガラスの中には光沢をもつものが認められる。試料 2 には、ほかにごくわずかながら無色透明の中間型ガラスも含まれている。

磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物としては、試料 24 をのぞくいずれの試料でも、斜方輝石や単斜輝石のほかに角閃石が少量認められた。

4. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

灰黄色凝灰質シルト層（6層）と、特徴的な火山ガラスがほかにも検出された7層に含まれるテフラ粒子の特性に関する情報をさらに得るために、4試料を対象として定量的分析の火山ガラス比分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) テフラ検出分析済みの4試料について、分析篩を用いて1/4-1/8mmと1/8-1/16mmの粒子を篩別。
- 2) 1/4-1/8mmの250粒子を偏光顕微鏡を用いて検鏡し、火山ガラスの形態色調別含有率、軽鉱物および重鉱物の含有率を求める。

(2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイアグラムにして図2に、その内訳を表2に示す。分析対象試料中で最下位の試料22には、中間型、スポンジ状軽石型、繊維束状軽石型の火山ガラスがそれぞれ0.4%ずつ含まれていて、火山ガラスの含有率が非常に低い。軽鉱物と重鉱物の含有率は、それぞれ35.2%と5.6%である。試料20に含まれる火山ガラスも、中間型とスポンジ状軽石型がそれぞれ0.4%ずつ含まれている程度で、やはり火山ガラスの含有率が非常に低い。軽鉱物と重鉱物の含有率は、それぞれ39.6%と6.8%である。

テフラ検出分析により、淡灰色、淡褐色、褐色のスポンジ状軽石型ガラスが検出された試料18には、スポンジ状軽石型、中間型、繊維束状軽石型の火山ガラスが、順に1.6%、0.8%、0.4%含まれている。軽鉱物と重鉱物の含有率は、それぞれ41.6%と11.6%である。また、試料17には、スポンジ状軽石型や有色のバブル型ガラスが、順に5.6%と0.4%含まれている。軽鉱物と重鉱物の含有率は、それぞれ30.4%と12.0%である。

5. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析や火山ガラス比分析の対象となった試料のうち、試料22、試料18、試料17の3試料に含まれる火山ガラスの屈折率の測定を行って、指標テフラとの同定精度の向上を図った。屈折率の測定方法は温度変化型屈折率測定法（埴原, 1993）で、1/8～1/16mm粒子中の火山ガラスを対象に測定を実施した。測定には、古澤地質社製 RIMS を使用した。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を表3に示す。この表には、関東地方北部に降灰する後期更新世後半以降の代表的な指

標テフラの火山ガラスの屈折率特性も示した。

試料 22 に含まれる火山ガラス (24 粒子) の屈折率 (n) は、1.501-1.505 (平均値: 1.503) で、中程度の屈折率特性が認められる。試料 18 に含まれる火山ガラス (30 粒子) の屈折率 (n) は、1.525-1.534 (平均値: 1.529) である。また、試料 17 に含まれる火山ガラス (31 粒子) の屈折率 (n) も、1.524-1.531 (平均値: 1.527) で、試料 18 に含まれるそれと同じように高屈折率の火山ガラスである。このように、試料 18 と試料 17 に含まれる火山ガラスの屈折率 (n) は、試料 22 のそれより有意に高い。

6. 考察

(1) 指標テフラの降灰層準

8 層最上部の試料 22 に含まれる火山ガラスは、その岩相や屈折率特性から、6 世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋谷川テフラ (Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003, 2011)、あるいは 6 世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋谷川テフラ (Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003) に由来すると考えられる。灰白色の火山ガラスが含まれていることやテフラの分布と本遺跡の位置関係を考えると、前者が試料 22 に含まれていることはほぼ確実と思われる。ただし、試料 22 に含まれるこのテフラ粒子の量は少なく、層相を考慮すると、実際の Hr-FA の降灰層準については 7 層上部の黒色土の基底部付近にある可能性が高い。

試料 18 より上位の試料から検出された淡灰色、淡褐色、褐色の軽石型ガラスは、層位、火山ガラスの色調、形態、屈折率特性、さらにテフラの分布と本遺跡の位置の関係や、テフラの降灰量を考えると、1108 (弘仁 9) 年に浅間火山から噴出した浅間 B テフラ (As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979) に由来する可能性が非常に高い。このことから、As-B の降灰層準は 7 層上部の黒色土の最上部付近と考えられる。

(2) 6 層の由来について

現地において当初テフラ層の可能性が考えられた 6 層 (試料 17) には、たしかに火山ガラスなどテフラ粒子が含まれており、それは火山ガラスの色調、形態、屈折率特性などから浅間系テフラに由来すると考えられる。関東平野北部では、6 世紀の榛名系テフラより上位に複数の浅間系テフラが認められている。これらの浅間系テフラのうち、As-B は、一般に褐色系の粗粒火山灰層からなる主体部と上部の桃色細粒砂質火山灰層の組み合わせで特徴づけられる (新井, 1979)。

また、最近数十年間の考古遺跡に関係するテフラの調査で、As-B のすぐ上位に別のテフラがあり、群馬県の間間地から福島県太平洋岸にかけて遠方まで降灰していることが明らかになった。浅間川川テフラ (As-Kk, 早田, 1991, 1996, 2004) と呼ばれるこのテフラは、考古学界ではあまり知られていないようであるが、記録や足利市法界寺跡の発掘調査で検出された寺院の庭園跡 (足利市教育委員会, 1995) におけるその降灰状況などから、1128 (大治 3) 年に噴出した可能性が指摘されている (早田, 2004)。このテフラ層は、関東平野北部では青灰色砂質細粒火山灰層として認められることが多い。

このほか、1783 (天明 3) 年の噴火に由来する浅間 A 軽石 (As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979) は、分布輪がやや南よりで宇都宮市域周辺で見つかる可能性は高くないが、みつかるるとすれば灰白色砂質細粒火山灰層として認められる可能性が高い。

6 層の層相は、今のところ知られているこれらの浅間系テフラの層相上の特徴と一致しない。今後の周辺域の調査で、As-B や As-Kk に同様の特徴をもつ降下単層 (fall unit) が見つかる可能性を完全には否定しな

いが、6層の明るい色調は周辺台地部のローム層に起因することを唆しているように思われることから、ここでは、水成二次堆積物の可能性を指摘しておきたい。この堆積物に関しては、周辺の段丘崖などでの地すべりや斜面崩壊のほか、その層位から As-B 降灰以降の周辺の開発などに伴う可能性がある。したがって、今後、本調査区台地部の遺構などとの関係解明を行う必要がある。また、今後の周辺における調査の際に、とくに旧河道よりの地点などにおいて堆積物の層位や層相などに注意していただくと良い。合わせて、As-B の上位の堆積物についての詳細な観察により As-K k の一次堆積層が発見されることを期待したい。

7. まとめ

宇都宮市平出城跡 1-6 区において、地質調査とテフラ分析（テフラ検出分析・火山ガラス比分析・火山ガラスの屈折率測定）を実施した。その結果、下位より榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）に由来する可能性が高いテフラ粒子や、浅間 B テフラ（As-B, 1108 年）に由来するテフラ粒子を検出した。Hr-FA と As-B の降灰層準は、それぞれ 7 層上部の基底部と 7 層上部の最上部であると推定される。この結果、テフラの可能性が考えられた凝灰質堆積物（6 層）については、As-B より上位の As-B などのテフラ粒子を含む非火山性堆積物と考えられる。

文献

- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフラクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2」, 東京大学出版会, p.138-149.
- 荒牧重雄（1968）浅間火山の地質。地研専報, no.45, 45p.
- 足利市教育委員会（編）（1995）「法界寺跡発掘調査概要」, 265p.
- 増原 徹（1993）温度変化型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2」, 東京大学出版会, p.149-158.
- 町田 洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス—日本列島とその周辺」, 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫（2003）「新編火山灰アトラス—日本列島とその周辺」, 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス—日本列島とその周辺（第 2 刷）」, 東京大学出版会, 336p.
- 坂口 一（1986）榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉（1989）6 世紀における榛名火山の 2 回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉（1991）浅間火山の生い立ち。佐久考古通信, no.53, p.2-7.
- 早田 勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第 1 テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学考古学質量分析計業績報告書, no.7, p.256-267.
- 早田 勉（2004）火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史—とくに平安時代の噴火について—。かみつけの里博物館編「1108—浅間火山—中世への胎動」, p.45-56.
- 早田 勉（2014）渋川市有馬寺遺跡におけるテフラ分析。渋川市教育委員会編「有馬寺遺跡」, p.197-211.
- 早田 勉（2016）浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group）の層序と前橋淀川堆積物の層位。岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会編「ナイフ形石器文化の発達期と変革期—浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群」, p.6-14.

表 1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物	
		量	色調	最大径	量	形態	色調	(不透明鉱物以外)	
I-6区東壁セクション	2				(*)	pm (sp), md	淡褐, 白, 無色透明	opx, cpx, (am)	
	4				*	pm (sp)	淡褐, 白	opx, cpx, (am)	
	6				*	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 白	opx, cpx, (am)	
	8				*	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 白	opx, cpx, (am)	
	10				*	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 褐, 白	opx, cpx, (am)	
	12				**	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 白, 灰白	opx, cpx, (am)	
	14				*	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 白, 灰白	opx, cpx, (am)	
	16				(*)	pm (sp)	白, 淡灰	opx, cpx, (am)	
	17				*	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 褐, 白	opx, cpx, (am)	
	18				*	pm (sp)	淡灰, 淡褐, 褐, 白	opx, cpx, (am)	
	20				*	pm (sp)	白	opx, cpx, (am)	
	22				(*)	pm (sp)	白	opx, cpx, (am)	
	24							opx, cpx	
26							opx, cpx, (am)		

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, (*): 非常に少ない, bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, () は量が少ないことを示す。

表 2 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
I-6区東壁SPA-A'セクション	17	0	1	0	0	14	0	76	30	129	250
	18	0	0	0	2	4	1	104	29	110	250
	20	0	0	0	1	1	0	99	17	132	250
	22	0	0	0	1	1	1	88	14	145	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, 数字: 粒子数。

表 3 屈折率測定結果

地点・テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率 (平均値: n)	測定数	
平出城跡・I-6区東壁SPA-A'セクション			
試料17	1.524-1.531 (1.527)	31	本報告
試料18	1.525-1.534 (1.529)	30	本報告
試料22	1.501-1.505 (1.503)	24	本報告
北関東地方の後期更新世後半以降の代表的指標テフラ			
浅間A (As-A, 1783年)	1.507-1.512		1)
浅間柏川 (As-Kk, 1108年)	未詳		2)
浅間B (As-B, 1108年)	1.524-1.532		1)
榛名ニツ岳伊香保 (Hr-FP, 6世紀中葉)	1.501-1.504		1)
榛名ニツ岳渋川 (Hr-Fa, 6世紀初頭)	1.500-1.502		1)
	1.498-1.505		3)
浅間C (As-C, 3世紀後半)	1.514-1.520		1)
浅間D 軽石 (As-D, 約4,500年前 ^{*)})	1.513-1.516		1)
鬼界アカホヤ (K-Ah, 約7,300年前)	1.506-1.513		1)
浅間藤岡軽石 (As-Fo, 約8,200年前 ^{*)})	1.508-1.516		2), 4)
浅間総社 (As-Sj, 約1.0~1.1万年前 ^{*)})	1.501-1.518		4)
男体七本桜 (Nt-S, 約1.4~1.5万年前)	1.500-1.503		1)
男体今市 (Nt-I, 約1.4~1.5万年前)	nd		1)
浅間板鼻黄色 (As-YP, 約1.5~1.65万年前)	1.501-1.505		1)
浅間大窪沢2 (As-Ok2, 約2万年前)	1.502-1.504		1)
浅間大窪沢1 (As-Ok1, 約2万年前)	1.500-1.502		1)
浅間板鼻褐色 (群) (As-8P Group, 約2.4~2.9万年前)	上部: 1.515-1.520		1)
	中部: 1.508-1.511		1)
	下部: 1.505-1.515		1)
始良Tn (AT, 約3万年前)	1.499-1.500		1)
榛名箱田 (Hr-HA, 約3万年前 ^{*)})	nd		2)
赤城鹿沼 (Ag-KP, 約4.5万年前以前)	1.504-1.508		1)
榛名八崎 (Hr-HP, 約5万年前)	1.505-1.508		1)
大山倉吉 (DKP, 約5.5万年前以前)	1.508-1.514		1)

*1: 放射性炭素 (°C 年代) 1) 町田・新井 (2011), 2) 早田 (1996), 3) 早田 (2014), 4) 早田 (未公表), 本報告・3)・5) 温度変化型屈折率法 (塩原, 1993), 1)・2)・4) 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993)。

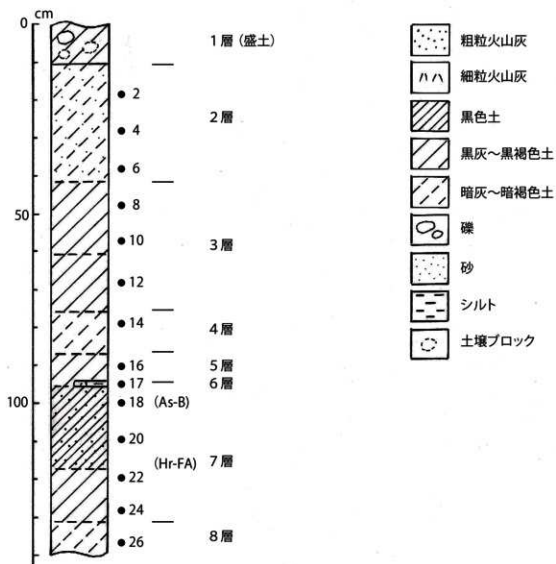


図1 I-6区東壁の土層柱状図

●：テフラ分析試料の層位。数字：テフラ分析の試料番号。

※土層は標準土PyのI～VIIIPyに対応

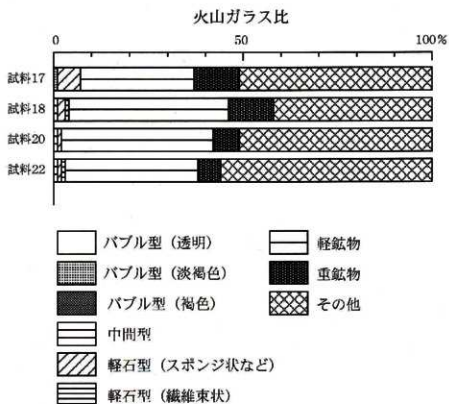


図2 I-6区東壁SPA-A'セクションの火山ガラス比ダイアグラム

平出城跡地質調査写真図版



写真1 1-6区東壁セクション
6層（黄灰色凝灰質シルト層）とその上下の土層。



写真2 1-6区東壁セクション
分析試料の採取状況。

平山城跡テフラ分析写真図版

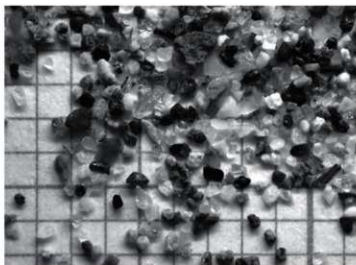


写真1 試料 17 (落射光下. 背景は 1 mm メッシュ)
中央下の黒色で扁平な角閃石の周辺に, As-B に由来する淡灰
～淡褐色のスポンジ状軽石型ガラス火山ガラスが複数認めら
れる.



写真2 試料 18 (落射光下. 背景は 1 mm メッシュ)
中央付近に, As-B に由来する淡灰～淡褐色のスポンジ状軽石
型ガラス火山ガラスが複数認められる.

写真図版



平出城跡遠景 (東上空から)



平出城跡と発掘調査範囲 (南上空から)



平出城跡モザイク写真



I-1区・II区全景(西上空から)



I-2区・I-3区全景(北西上空から)



I-1区 SE-076 遺物出土状況 (南東から)



I-1区 SE-035 セクション (東から)



I-1区 SK-071・074、SD-075 完掘 (南から)



I-1区 SK-074 完掘 (南から)



I-1区 SD-075 セクション (西から)



I-1区 SD-094 北部セクション (南東から)



I-1区 SD-094 完掘 (南東から)



I-1区 SD-094 遺物出土状況 (南から)



I-1区 SD-094 遺物出土状況(北から)



I-1区 SK-064・065・066・096・097 完堀(南から)



I-1区 SK-015～020 完堀(南から)



I-1区 SK-058・059 セクション(南から)



I-1区 SK-089 人骨出土状況(南から)



I-1区 SK-089 人骨出土状況アップ(東から)



I-1区 SK-041 炭化材出土状況(北から)



I-1区 SK-041 炭化材アップ(北東から)



I-1区 SK-049 完掘 (南から)



I-1区 SK-006 東西セクション (南から)



I-1区 SK-063 完掘 (南から)



I-1区 SK-008 完掘 (西から)



I-1区 SK-013 東西セクション (北から)



I-2区 SE-001 セクション (南から)



I-2区 SE-001 完掘 (北東から)



I-2区 SE-003 遺物出土状況 (南西から)



I-2区 SE-003 セクション(南から)



I-2区 SE-003 完掘(南西から)



I-2区 SE-006 セクション(南から)



I-2区 SE-006 完掘(南から)



I-2区 SE-007 セクション(南から)



I-2区 SE-007 完掘(北東から)



I-2区 SK-061 セクション(北から)



I-2区 SE-068 完掘(北から)



I-3区 SE-013 セクション (南から)



I-3区 SE-013 完掘 (南から)



I-3区 SD-049 セクション (東から)



I-3区 SD-050 セクション (西から)



I-3区 SK-025 遺物出土状況 (南から)



I-3区 SK-052・053 セクション (南から)



II区 SB-423 確認 (南から)



II区中央部遺構確認 (北から)



Ⅱ区全景 (北上空から)



Ⅱ区 SB-422・423 完掘 (上空から)

Ⅱ区 SB-424・425 完掘 (上空から)



II区 SD-234 完掘 (南から)



II区 SD-101・121 完掘 (北東から)



II区 SD-175 完掘 (東から)



II区 SD-218 セクション (南から)



II区 SD-218 完掘 (南東から)



II区 SD-170 完掘 (北西から)



II区 SD-410 完掘 人物入り (北から)



II区 SD-200 セクション 東部 (西から)



Ⅱ区 SD-200 中央セクション (東から)



Ⅱ区 SK-115 セクション (南西から)



Ⅱ区 SK-151 セクション (南から)



Ⅱ区 SK-252 セクションアップ (南から)



Ⅱ区 SK-252 遺物出土状況 (西から)



Ⅱ区 SK-252 遺物出土状況アップ (北から)



Ⅱ区 SK-247・248 セクション (東から)



Ⅱ区 SK-288 セクション (東から)



II区 SK-283 セクション (東から)



II区 SK-289 遺物出土状況 (北から)



II区 SK-400 セクション (東から)



II区 SK-116 セクション (南から)



II区 SK-126 セクション及び礫出土状況 (南から)



II区 SK-146 セクション (南西から)



II区 L-26 グリッド遺物出土状況 (南から)



II区 P-202 土器出土状況 (南から)



Ⅱ区 P-445 土器出土状況 (東から)



Ⅱ区 P-426 土器出土状況 (東から)



Ⅱ区 P-056 砥石出土状況 (南から)



Ⅱ区 SK-162・163 完掘 (東から)



Ⅱ区 SK-246 完掘 (東から)



Ⅱ区 SK-257 セクション (東から)



Ⅱ区 SK-272 完掘 (南から)



Ⅱ区 SK-108 完掘 (東から)



Ⅱ区 SK-281 完掘 (東から)



Ⅱ区 SK-281 セクション (南東から)



Ⅱ区 SK-281 遺物出土状況アップ (東から)



Ⅱ区 SK-122 セクション (西から)



Ⅱ区 SK-122 炭化物・遺物出土状況 (西から)



Ⅱ区 SK-122 完掘 (南から)



Ⅱ区 SK-122 遺物出土状況アップ (西から)



Ⅱ区 SK-133 東西セクション (南から)



Ⅱ区 SK-139・140 セクション (東から)



Ⅱ区 SK-134～137 完掘 (南から)



Ⅱ区 SK-134 完掘 (西から)



Ⅱ区 SK-137 完掘 (西から)



Ⅱ区 SK-137 完掘 (北から)



Ⅱ区 SK-169 遺物出土状況 (南から)



Ⅱ区 SK-241 完掘 (東から)



Ⅲ-3区 SE-466 セクション (南から)



Ⅲ-3区 SE-466 完掘 (西から)



Ⅲ区 SD-421B-B' セクション (東から)



Ⅲ区全景(北西上空から)



Ⅲ-1区 SD-421A-A' セクション(北から)



Ⅲ-1区 SD-421C-C' セクション(南から)



Ⅲ-2区 SD-420 完掘(南東から)



Ⅲ-1区 SD-420D-D' セクション(東から)



Ⅲ-2区 SD-421E-E' セクション (北から)



Ⅲ-2区 SD-421 北部 (南から)



Ⅲ-1区 SD-421 壁面・床面人物入り (北西から)



Ⅲ-1区 SD-421 完掘 (南東から)



Ⅲ-1区 SD-421 完掘人物入り (北西から)



Ⅲ-2区SD-421F-F'セクション(南から)



Ⅲ-2区SD-421G-G'セクション(北東から)



Ⅲ-3区SD-001A-A'セクション(南から)



Ⅲ-2区SD-421段差部分(南から)



Ⅲ-2・Ⅲ-3区SD-421-001 全景(南から)



Ⅲ-3区 SD-430a・430bD-D' セクション (南から)



Ⅳ区 SD-432 セクション (南から)



Ⅳ区 SD-433・SK-434 セクション (南から)



Ⅳ区 SD-433・SK-447 セクション (東から)



Ⅳ区全景 (北上空から)



IV区・V区全景(東から)



IV区 SD-433C-C セクション(東から)



IV区 SD-433D-D 東壁セクション(西から)



IV区 SD-433 完掘(東から)



V区 SD-308b セクション(南から)



IV区 SD-433 完掘 (西から)



V区 SD-349 完掘 (西から)



V区 SD-390 セクション (西から)



V区 SD-390 及び土坑群完掘 (北東から)



V区 SK-331 完掘 (南から)



V区 SK-330 完掘 (南から)



V区 SK-345 セクション (東から)



V区 SK-345 セクション・遺物出土状況 (東から)



V区 SK-345 遺物出土状況 (東から)



V区 SK-319 人骨出土状況 (東から)



V区 SK-319 人骨出土状況アップ (東から)



V区 SK-353・356・357・358 完掘 (南西から)



V区 SK-369 遺物出土状況 (南東から)



V区 SK-364 遺物出土状況 (東から)



V区 SK-364 遺物出土状況 (北西から)



V区 SK-364 北壁の状況 (南東から)



V区 SK-365 遺物出土状況 (南東から)



V区 SK-366・367 遺構確認状況 (東から)



V区 SK-364・365・366・367 断面及び遺物出土状況(東から)



V区 SK-365 遺物出土状況アップ(南東から)



V区 SK-366 セクション(南東から)



V区 SK-366 遺物出土状況(東から)



V区 SK-367 セクション(南東から)



V区 SK-364・365・366・367 作業風景 (東から)



V区 SK-367 遺物出土状況 (南東から)



V区 SK-367 天保銭出土状況アップ (南東から)



V区 SK-367 作業風景 (南東から)



V区 SK-370 セクション (南から)



I-4区・I-5区・I-6区モザイク写真



I-4区・I-5区・I-6区全景(南上空から)



I-4区SB-226完掘(南から)



I-4区SB-226 P1セクション(南から)



I-4区SB-226 P3セクション(南から)



I-4区SB-228完掘(西から)



I-4区 SB-227 完掘 (南から)



I-4区 SB-227 完掘 人物入り (南から)



I-4区 SB-227 P2 セクション (南から)



I-4区 SB-227 P9 セクション (南から)



I-4区 SB-263 完掘 (南から)



I-4区 SB-263 P4 セクション (南から)



I-4区 SB-269 完掘 (東から)



I-4区 SB-276 完掘 (東から)



I-4区 SB-270 完掘 (北から)



I-4区 SI-238 完掘 (南から)



I-4区 SB-270 P1 セクション (東から)



I-4区 SD-229 東西セクション (南東より)



I-4区 SD-229 東西セクション (南西から)



I-4区 SD-229 南北セクション (西から)



I-4区 SK-237 遺物出土状況 (東から)



I-4区SK-241完掘(東から)



I-4区縄文時代遺物包含層出土状況(南東から)



I-4区縄文時代遺物包含層アップ(南東から)



I-5区SK-007セクション(西から)



I-5区SK-007完掘(西から)



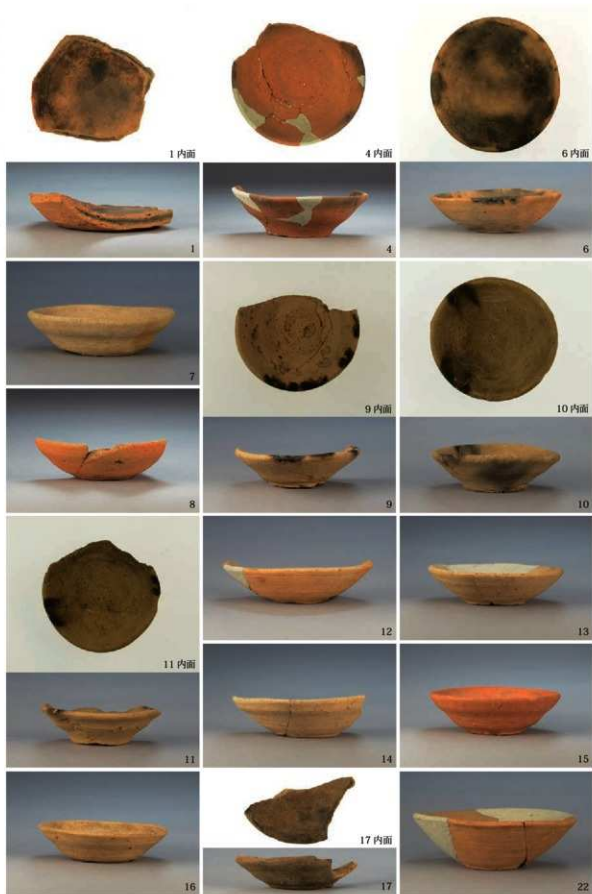
I-5区SK-009石皿出土状況(南東から)



I-6区SK-049遺物出土状況(西から)



I-6区SK-050遺物出土状況(西から)









87 内面



84 内面



87



84



88



89



90



91



85



86



86 アップ



69



70



72



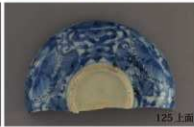
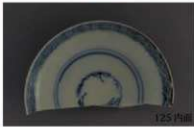
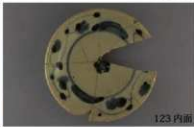
93



95







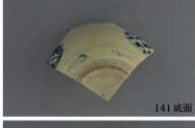


129 外面



129 内面









157 内面



158



158 内面



158 上面



159



160



161



162



163



164



165



165 内面



166



167



168



168 上面



169



169



169 底面



170



170 側面



170 裏



171



171 側面



171 裏



172



172 裏



174



174 裏



173



173 裏



175



176



177



179



179 側面



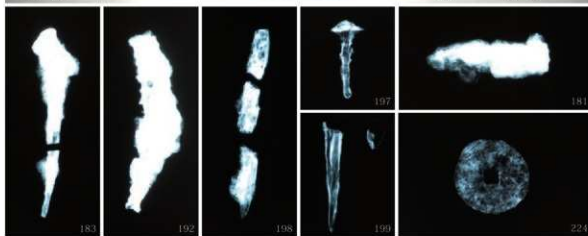
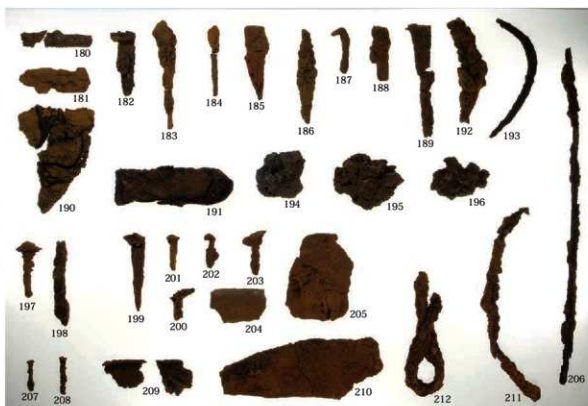
178 右側面

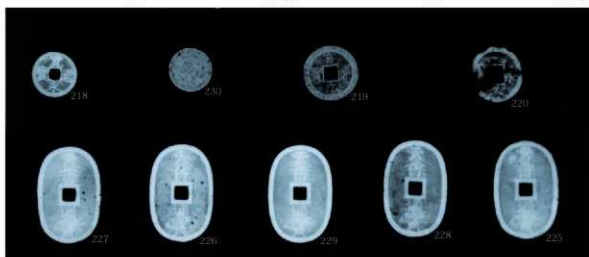


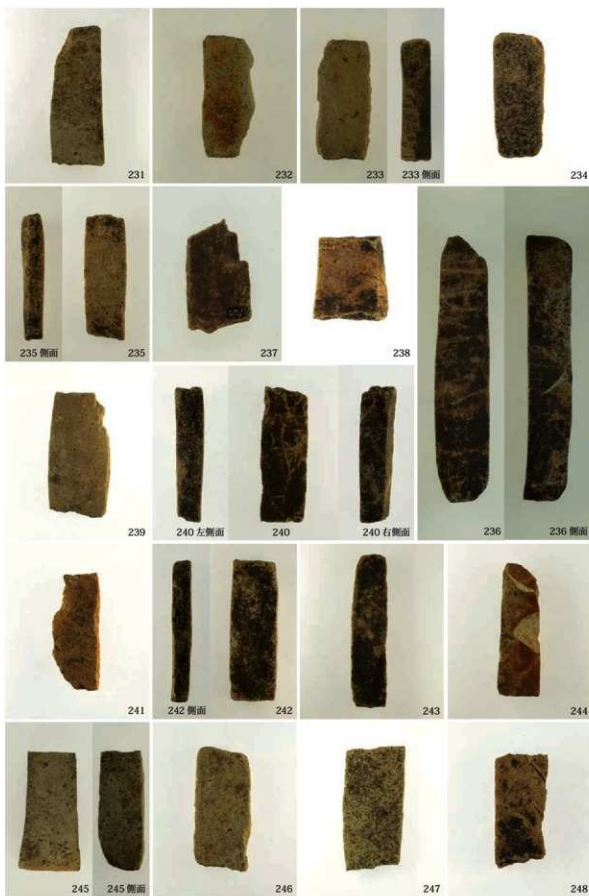
178



178 裏









249



250



250 断面



251



252



252 裏



253



254 上面



255 上面



256



254



255



257



258



259 上面



257 断面



258 下面



259



260



260 下面









328



329



329裏



331



330



330裏



332



332側面



332裏



333



334

報告書抄録

ふりがな	ひらいでじょうあと
書名	平出城跡
副書名	快適で安全な道づくり事業費(補助) 主要地方道宇都宮向田線平出坂戸工区に伴う発掘調査1
巻次	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ名	第397集
シリーズ番号	亀田幸久
編著者名	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
編集機関	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
所在地	栃木県教育委員会・公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行機関	西暦 2020年3月27日 (令和2年3月27日)
発行年月日	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
ひらいでじょうあと 平出城跡	とちぎのまち 宇都宮市 平出町	09201	3292	36° 34' 38"	139° 56' 42"	20091005 ～ 20170830	21,270 ㎡	県道改良工事

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
平出城跡	城 跡	中世～戦国 近正～近代	大溝4条 方形竪穴遺構17基 地下式竈12基 井戸11本 掘立柱建物跡12棟 土抗980基 ピット多数	土師質土器小皿・内耳土器・ 中世陶器・近世以降の陶磁器 土人形・土鈴 石臼・五輪塔・砥石 鉄釘・寛永通寶・天保通寶・ 石臼 縄文土器	中世の城跡 東と南の外堀 を確認 長大な掘立柱 建物跡は馬屋 と考えられ る。

要 約	
	<p>中世宇都宮氏の配下になる地域領主の城館跡と推定される。宇都宮氏配下の国人層には、平出に関する人名はみられず、宇都宮城との距離からみても宇都宮氏直轄領の地域領主の城館で、結城勢など東からの軍事的な防衛を担った支城と考えられる。出土した遺物から城は15世紀中葉から後葉に始まり、16世紀を盛期として、その末にはなくなるが、堀は18世紀前葉まで空いており、機能していた可能性が高い。</p>

栃木県埋蔵文化財調査報告第397集

平出城跡

—快速で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道宇都宮
高田線平出駅西工区に伴う埋蔵文化財発掘調査—

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市埴田1-1-20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8

T E L 028 (643) 1011

令和2年3月27日発行

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫474番地

T E L 0285 (44) 8441

印刷 株式会社 泰明グラフィクス
